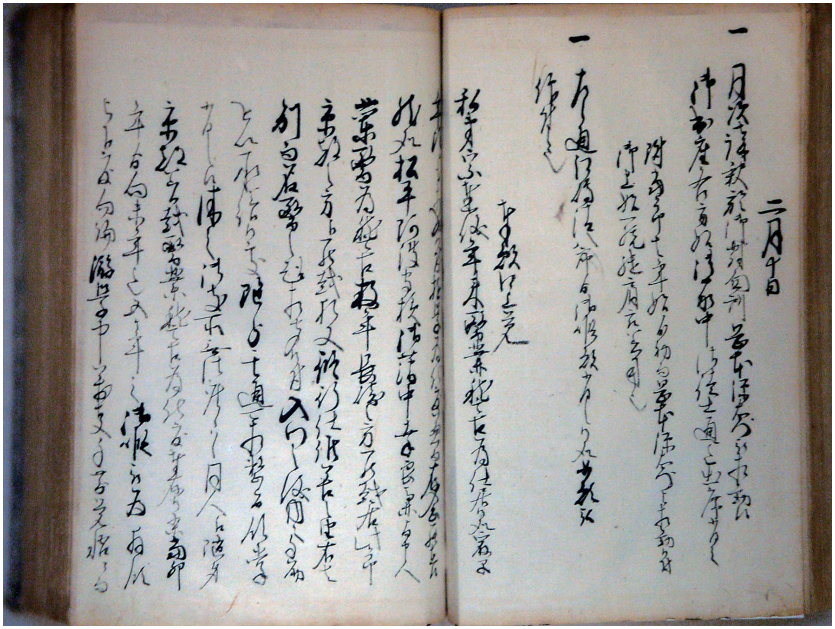
『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料〈後編〉

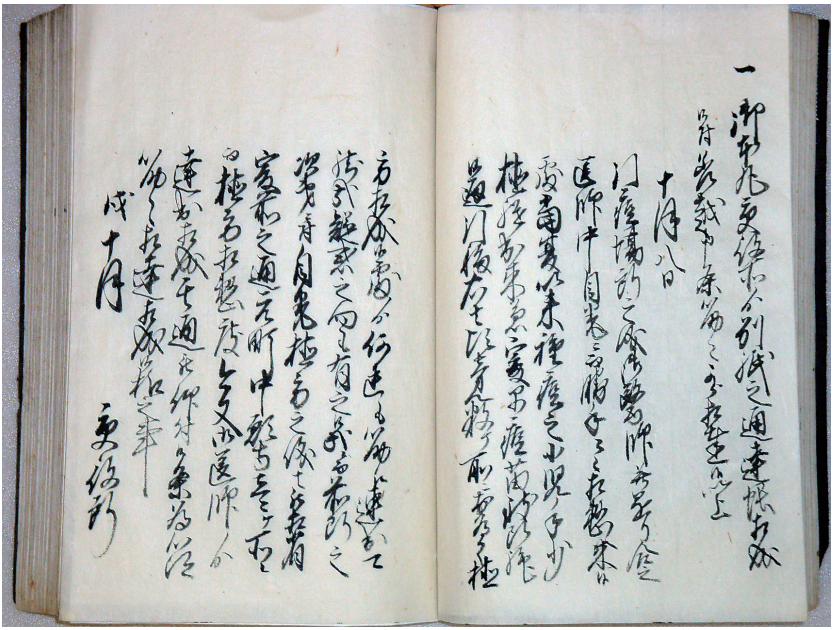
佐賀大学地域学歴史文化研究センター

『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料〈後編〉

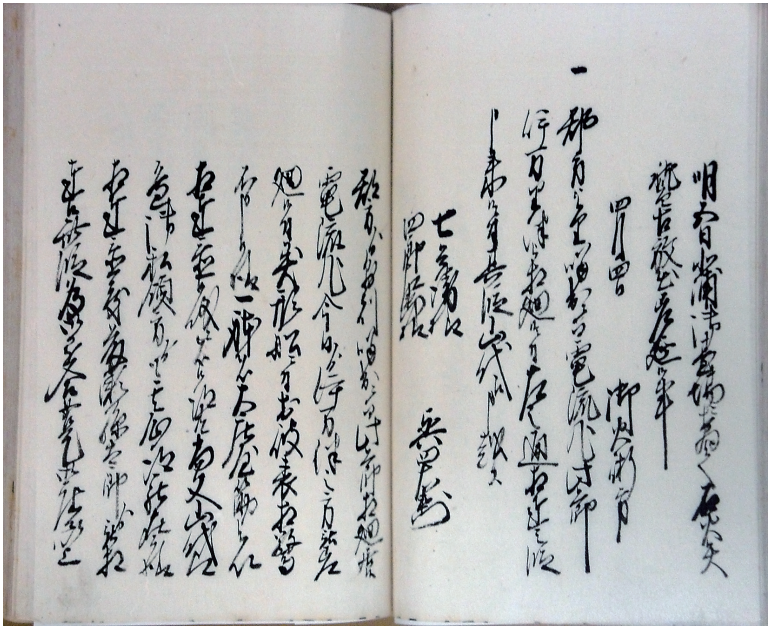
佐賀大学地域学歴史文化研究センター



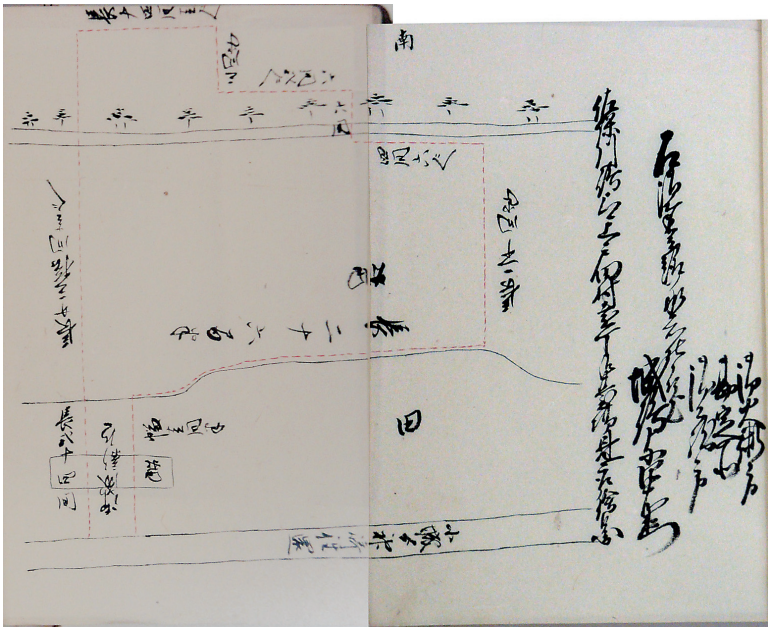
859　天保２年２月10日　江島宗達、高良斎への修業願



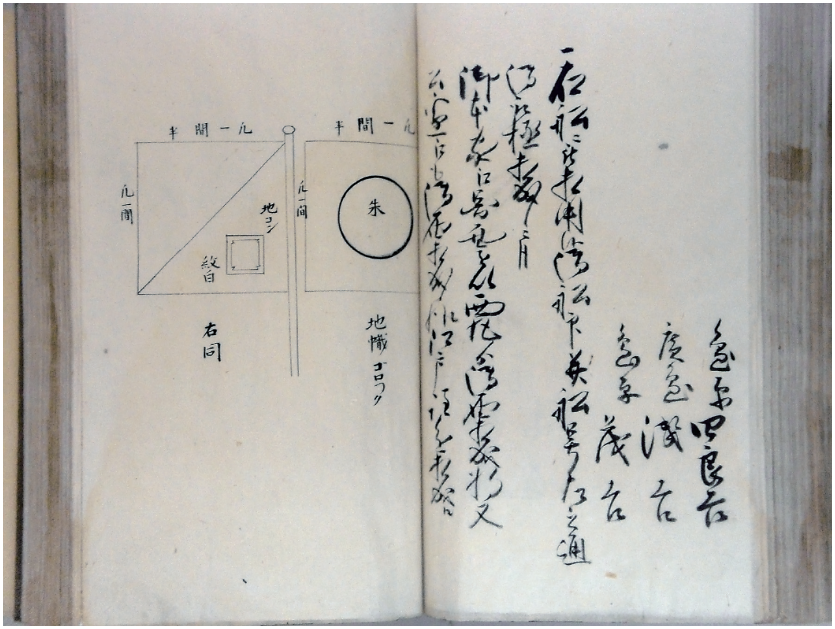
1142　嘉永３年10月９日　引痘のため相良柳沢ら呼び出しの事



1319　安政６年５月４日　電流丸航行につき驚かざる事



1401　安政６年10月６日　大久保村台場替の図



1701　慶応２年３月22日　小城藩購入大木丸船印等の事

1821　明治元年12月18日　医師束髪勝手次第の事

例　言

一　本書名は、『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料』（後編）とした。

一　本書は、佐賀大学蔵小城鍋島文庫の「小城藩日記」より、文政五年（一八二二）から明治元年（一八六八）までの医学・洋学関係記事を網羅的に翻刻したものである。前編は二〇〇九年三月に刊行した。

一　史料は原則として、所拠の体裁に従ったが、二段組みとしたため、原体を損なわぬ範囲で組み改めた所もある。

一　史料の配列は、原則として、年代順（記載順）としたが、一件ものについては、一所にまとめたものもある。

一　収録史料は、史料ごとに、史料通し番号、年月日、標題、史料本文の順に記載した。通し番号はアラビア数字を用いた。年月日の表記は以下のようにした。

　例：十年十二月二十三日。また、収録史料の年が変わるごとに、年（西暦）をゴシック体で表記し、閲覧の便を図った。

一　史料の記載は、おおむね原史料の体裁に従ったが、便宜上、読点と並列点を施し、これをすべて「、」と「・」とに統一した。また敬意を示す闕字は採用しなかった。

一　史料に用いた漢字は原則として当用漢字を用い、当用漢字のない場合は旧漢字または原字を使用した。なお、幼名での藩主名や特有の方言、難読地名には、（　）内にルビ活字で藩主名や訓読を適宜施した。

　例：喜三郎（直崇）様、部（はま）り

一　以下の場合の助詞は、小活字を用いて他と区別した。

　者（ハ）、江（ヘ）、毛・茂（モ）、而（テ）、而已（ノミ）、ニ、ニ而

一　変体仮名は地名・人名等の固有名詞にのみ残した。平仮名繰り返し記号「ゝ」はカタカナ繰り返し記号の「ヽ」を使用した。この場合、濁点記号は使用しなかった。

　例：ハヽ、ツヽ

一　文字の異同、誤脱等について編者が加えた傍注は（　）で註した。誤記については傍注（　）内に正字を入れるか、（ママ）とした。但し、性（姓）、表（俵）などは傍注を略した。

一　貼り紙、朱書、追筆のある場合は当該箇所右肩に「」で小活字で示し、本文と区別した。
一　繰り返し記号は「々」「〳〵」を使用し、同じく記号の「〃」は用いなかった。
一　脱字や虫損は文字数を□で記し、傍注で（脱）（欠）と記した。
一　慣用的に用いられる合字等はそのまま用いた。
　　例：ゟ（ヨリ）、〆（シメ）、メ（シテ）
一　助詞片仮名は、以下の場合に、小活字を用いて他と区別した。
　　例：固有名詞：吉野ヶ里、個数：一ヶ、時刻：六ッ時
一　巻末に、人名と事項の索引を可能な限り付け、検索の便を図った。項目順序は漢字の音読による表音式五十音順に並べた。同音のものは、字画順に並べた。
　人名は原則すべて採用した。同一人物、あるいは誤記と推定されるものも判定不明の場合は原書の記載通りとした。事項・地名のうち、事項は、医学・洋学・警備関連用語を中心に抄出した。地名は佐賀藩領内地名を中心に抄出した。差別につながるような表記があった場合は、そのまま掲載することを原則とした。
一　翻刻は、青木歳幸（地域学歴史文化研究センター教授）、野口朋隆（本学非常勤博士研究員）、田久保佳寛（小城市教育委員会文化課文化振興係主査）があたり、伊藤昭弘（地域学歴史文化研究センター准教授）、大塚俊司（地域学歴史文化研究センター教務補佐員）、古賀亜紀（本学大学院博士課程）が編集協力をした。

目

次

『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料（後編）　目次

口絵

例言

解題一　「小城藩日記」にみる幕末期医療　青木　歳幸……1

解題二　近世後期、小城鍋島家における軍事技術の導入　野口　朋隆……7

史料

文政　五年（一八二二）……12
文政　六年（一八二三）……19
文政　七年（一八二四）……23
文政　八年（一八二五）……28
文政　十年（一八二七）……31
文政十三年（天保元・一八三〇）……37
天保　二年（一八三一）……41
天保　三年（一八三二）……49
天保　五年（一八三四）……60
天保　六年（一八三五）……66
天保　七年（一八三六）……69
天保　八年（一八三七）……78
天保　九年（一八三八）……81
天保　十年（一八三九）……94
天保十一年（一八四〇）……104
嘉永　三年（一八五〇）……120
安政　四年（一八五七）……127
安政　六年（一八五九）……148
安政　七年（万延元・一八六〇）……208
万延　二年（文久元・一八六一）……230
文久　二年（一八六二）……242
文久　三年（一八六三）……255
元治　元年（一八六四）……266
慶応　元年（一八六五）……284
慶応　二年（一八六六）……299
慶応　三年（一八六七）……319
慶応　四年（明治元・一八六八）……330

索引（人名・地名・事項）……371

「小城藩日記」にみる幕末期医療

青木　歳幸

一　コレラの流行

我が国のコレラ流行は、文政五年（一八二二）に始まり、安政五年（一八五九）、六年、文久二年（一八六二）と三次にわたり大流行した。安政五年の小城での流行については、「小城藩日記」が欠如しているため実態が不明である。が、安政六年の三月一五日記事に、「去秋、流行病之砌、貧窮者共、救合有之候付」、医師横田養庵に米一石六斗等を褒美として与えている（史料一二六七）ので、流行があったことは間違いない。コレラは安政六年七月にも再び流行し、七月二三日に、村方より医師派遣願いが小城藩へ出され、翌二四日に、小城藩は前田文啓や堤養哲を舎人村と戸崎村へ流行病治療のため派遣している（史料一三五六）。

安政六年七月二七日には、緑ケ里横目（小城市三日月町）からは、死者二人のほか煩者七人と、流行病の猛威を訴え、医師の派遣願が出された（史料一三五八）。

一緑ヶ里、当時流行病ニ付、左之通願出候付、願通被相済候

乍恐奉願口上覚

緑ヶ里之儀、各様方兼而御存之通零落村ニ而少人数之上、流行病其外相煩居候人々左之通

当月十四日ゟ流行之末、

廿四日死去　　松永治兵衛殿

同十七日ゟ右同　　寿助子　筒次郎

同十日頃ゟ時候障　　裟裟右衛門

同子　裟裟太郎

同十九日ゟ流行病

同廿一日ゟ右同　　成富多内殿　御内儀

同十五日ゟ時候障　　西隈閑斎殿　御内儀

同廿四日ゟ流行病　　慶助

同廿二日ゟ右同　　同女房

同廿四日ゟ時候障　　次兵衛

右之通相煩居候所、御医師・駕籠舁、其外相働候人者四五人ならて無御座候所、昼夜之儀ニ付、中々以続兼、如何相成候哉難計御座候条、近頃御願申上兼候へ共、袴田ヶ里同様御医師・駕籠舁丈之儀御手助被仰付被下候道ハ有御座間敷哉、左無御座候ハ、相果候を相待居候ゟ外無之候条、此段御筋々宜敷被仰上、願之通被相済被下度、深重奉願上候、以上

未七月　　緑ヶ里横目

犬山万之允殿

右之通願出申候条、宜被仰整可被下候段、本文御座候、以上

未七月　　犬山万之允

御代官所

同日には平吉郷（小城市牛津・芦刈・三日月地域）での流行病につき転除の祈祷願が出されている。その後は、

収まったようである。

二　種痘の実施

古代からの慢性的な流行病で、江戸時代の死因一位が疱瘡（天然痘）であった。小城藩領内でも、天保三年二月三日には、福智院で五穀豊穣、疱瘡軽安祈祷が行われている（史料八八一）が、同年四月二三日には、田尻種一郎娘が昨夜疱瘡にて死去したと記録されている（史料八八六）。この年、同地に疱瘡が流行していた。そのため、九月五日には、祇園社において、領内疱瘡転除の祈祷願が出されている（史料八九七）。また、天保七年二月二四日記事には、鹿島家娘御季が疱瘡に罹ったとの知らせが載っている（史料九六九）。本史料は小城藩の公的記録であるので、疱瘡罹患者記事は、上級家臣らに限られるとしても、疱瘡は、庶民だけでなく、領主層も罹患を免れない恐ろしい病気だった。

ジェンナーが一七九六年に牛痘法を発明してから、我が国でもその輸入が待たれていた。嘉永二年六月に、佐賀藩医楢林宗建が依頼した牛痘種苗（モーニッケ苗）が到着し、佐賀城下へは八月に痘苗が到来した。藩は引痘方を設置し、領内への種痘を実施した。江戸や支藩領へも分苗し、種痘はたちまち全国の蘭方医により普及が図られた。

嘉永三年一〇月九日記事をみると、藩主直正が市中にはまだ未痘の者がいるので、種痘が連綿と続くようにしなさいとの思し召しがあったが、じつは、当時、本藩領では痘苗が絶えており、小城藩領では実施しているものがいたので、分苗の依頼が来た。一〇月三日に、相良柳沢・原口養虎・中島需安ら三人の小城藩蘭方医が相談して、岡町庄蔵娘みつ一歳と同町勘兵衛悴長次郎二歳の二名に接種し、善感した痘苗が佐賀城下へも届いた（史料一一四二）。

こうして、本藩引痘方でも種痘実施体制が再組織された。嘉永三年一〇月晦日に、小城藩領での引痘方手伝医師として、相良柳沢・佐野文仲・原口養虎・中嶋需安が命ぜられ、小城での種痘場所はそれぞれの自宅でなく福地院で実施することとなったと十一月十四日記事にある（史料一一五一）。

支藩領の種痘実施には本藩引痘方医師のほか、支藩領手伝い医師、支藩役人が立ち会う体制が整えられた。安政四年四月七日記事には、立ち会い役人二人に銀三両、芦刈・山内など遠郷への立ち会い役人には一人銀三両が支給され（史料一一七九）、同年四月一七日記事には　引痘方手伝の医師原口養碩ら一四名へ弁当料として銀四二匁などが本藩より支給された（史料一一八三）。

安政六年五月八日、小城へ自然痘が入り込み引痘願が出された（史料一三二五）。

一小城下町辺自然痘入込候ニ付、引痘之義、西丸筋を以願入相成候末、左之通申来候

与四右衛門

七兵衛様

四郎左衛門様

種痘願入之儀、頃日大坪九郎右衛門江御談之末、尚又御懸合之趣致承知候、依之先例之通、書付差出候処、

追々好生館ゟ即刻呼出ニ而石丸十作、嶋田南嶺ゟ被申聞候者、種痘御願之儀、地行之儀ニ候半者、暫相見合呉候様、当時東西御境目筋、自然痘流行ニ而、既ニ御城下市中江も荒々入込、引痘方医師中、方々出張相成、別而無人ニ有之候段被申聞候ニ付、小城町江も同様自然痘入込候ニ付、一刻も種痘相整度委細及演舌候処、左候得者無拠繰合を以、早々出張可致、就者小城市中而已ニ候哉御尋有之候ニ付、小路迚も一同無之与相済間敷及挨拶候処、成丈此節者手細ク植方相整候半而難及手候間、自然痘入込之場所々ニ防方之分相整積ニ候条、御私領方ニも其心得相成候様、惣而此節種痘之人数凡何程ニ候哉、取調子相達候様、乍其上何日出張与申儀者取極可申、且又、種取之義、来ル十六日ニ相当候条、何れ為種取好生館江誰か被差越候半而相叶間敷、旁被申聞候条、一刻も種痘人数御付出可被成候、此段御答旁如此御座候、以上

安政六年五月一四日に、引痘方手伝い医師として佐野文仲、村田道碩、原口養虎、中島需安、相良柳沢、宮崎元益、菊池宗垣ら蘭方医が登録され、同月一六日に、引痘方へ小城藩医が出張して種を取れば、五月二二日には、引痘方医師が小城へ出張して種痘を実施するとの連絡があった（史料一三二九）。

五月一六日に佐野文仲が、種取りを行い、五月二二日には、引痘方医師原田元隆が出張して、福智院で種痘を実施した（史料一三三五）。種痘は順調に継続し、五月二八日には佐賀医師石井長庵が福智院に出席し（史料一三三七）、安政六年六月一一日には、佐賀医師野口文礼が福智院へ出席し（史料一三四三）、六月一七日には、三田道筑が出張予定だったが、中野元立が福智院へ出席して、種取りと種痘を実施した（史料一三四六）。

安政六年七月一三日、流行病（コレラ）のため、医師の手が種痘にまで回らないので、山内郷からも引き続き種痘実施願が出されているが、一時中止とすることにした（史料一三五一）。しかし、急には中止できなかったので、安政六年七月一七日、佐嘉医師原田元隆が福智院へ出席し、種取りと種痘を実施している（史料一三五四）。

コレラ流行が鎮静した安政七年（一八六〇）二月五日には、種痘方より種取問い合わせがあった（史料一四三一）。安政七年二月二三日には、小城藩の西丸役所から引痘に付き、できるだけ早く種痘を広めたい、西目筋は一〇年もやっていないので気の毒である、直接、医師に伝え種痘実施の相談に来させなさいとの連絡があった（史料一四三六）。

同年年三月一五日には、好生館から呼び出しがあって、当正月に私領でも引痘をしてほしいと好生館に願い出た件が認められたので、一九日に小田大町で種を取るから、一〇人ほど子供をその場所へよこすこと、また手伝い医師の名前を書いて提出することの連絡があった（史料一四四三）。

種取り日の三月一九日に、原口養虎が小田大町まで種取に出かけることになった（史料一四四六）。同日、小城藩は好生館へ御匙医師である村田道碩、相良柳沢、宮崎元益の三人の名前を書き上げて提出した（史料一四四七）。同年三月二〇日に、原口養虎、中島需安が当分御匙御雇

として名前を出すこと、種痘方については福智院へ詰める日数もそのうち達することなどの連絡があった（史料一四四八）。このような準備がなされて、小城藩役人が好生館に呼び出され、一九日に採取した種を、同年三月二五日に種痘をすることになったこと、本来は種取り後八日目の二六日に植えるのだが、多久領へも種痘に行くため、今回だけ一日早めること、多久への出張のために牛津や名原への継ぎ立て駕籠人足の手配も頼む等の連絡が三月二二日にあった（史料一四五〇）。

種痘実施を明日に控えた三月二四日に、好生館より引痘方手伝医師として、小城藩医の村田道碩、佐野文仲、宮崎元益、菊池宗垣、原口養虎、中嶋需安ら六人の、いずれも蘭方医が命ぜられたこと、他領では手伝い医師は四人であるが、小城藩の場合は御匙医もいるので六人に増やしたこと、二四日夜に引痘方から中野元立が出張することの連絡があった（史料一四五一）。

こうして、安政七年三月二五日に、福智院にて種痘が無事実施できた（史料一四五二）。このとき、何人に種痘を実施したかは本史料では明らかではない。

小城藩領での種痘が組織的に軌道に乗り始めた。三ヶ月後の万延元年六月に、山内郷の古湯村、中原村、熊野川村三ケ所五五一人分の引痘願が出され、六月二〇日に願いが認められ、翌二一日に、福智院で引痘式をし、手伝い医師を斎藤玄周、北嶋天民、牟田甚安という手はずとなった。二一日は芦刈筋の者に植えるので、三〇粒余りもできるだろうから、山内郷用の種取り人数は式日に整えることができるだろう。しかし、もし人数が不足する場合もあるから遠くても明日（二一日）には来て、引痘方医師の松尾栄仙と相談するようにとの連絡があった（史料一四六〇）。

一山内郷引痘願有之ニ付、西丸差越
口達
山内郷引痘人数五百五拾壱人
右前方畢竟古湯村・中原村・上熊野川村三ヶ所ニ而引痘相整度、且又可相成筋ニ御座候半者、引痘手伝別紙之人々被仰付被下候様、筋々江相達致御頼候、以上
申六月　富岡九郎左衛門
斉藤玄周
北嶋天民
牟田甚安
松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿　（中略）
一山内郷引痘願済之義、左之通申来候　与四右衛門
七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様
山内郷引痘之義、御目代ゟ別紙之通達出相成候条、前方比竟（ママ）其筋達出候様、惣而別紙名前三人江手伝被仰付度、是又可然取計明後廿一日福智院引痘式日ニ付、申談之都合も可有之ニ付、早々其筋達出候様、御掛合之趣致好生館江今日別紙之通相達置、手伝医師之義も斉

藤玄周・北嶋天民・牟田甚安相達候処、其通無之而相済間敷、惣而明廿一日植方之儀、芦刈筋之者由ニ而人数何程可有之哉、三拾余も有之候得者、山内郷種取之者、又之式日ニ可相整、右人数も無之位ニ候得者、乍遠郷も明日罷下り候様、手当相成度、明日出張之医師松尾栄仙ゟ被申聞候由、何れニメも同人出張ニ付、手伝医師其外之義、尚申談可相成由ニ付、御相談可被成候、此段御否旁為御掛合如此御座候、以上

六月廿日

翌月七月一八日には、山内郷種痘手伝医師を北島天民と牟田忠安に仰せつけ、斎藤玄周は故障があって省くことにしたと連絡があった（史料一四六八）。

その後、元治元年（一八六四）二月一日は、郷中引痘式日のため、「佐嘉医師相良寛斎」が前夜より出張し、同日、無量寺で引痘した。しかし、同年二月七日には、明日二月八日に、御家中や、郷中、町中へ種痘を実施する予定であったが、種取用の痘が思わしくなかったので種痘不足に付、ひとまず、御家中への種痘実施は延期するとのことであったが（史料一五八七）、種がとれたらしいので、八日には、佐賀医師の礼雲が無量寺での引痘式のため、佐賀から出張に来た。この日は無理だったが、二月二七日には、無量寺での引痘式準備が整った（史料一五九四）。この日に無事引痘式ができたため、三月四日には、佐賀医師納富俊碩により、無量寺で種痘が行われた（史料一五九七）。

慶応元年（一八六五）六月六日の記事には、種痘の継続費用を藩士より献銀させたことが載っている。領内隅々まで、痘難よけのために種痘を行い、仁政を実施を実施するため、家老以上は正金五拾疋、着座中は正銀五匁、侍・手明鑓中は同四匁、御徒士以下平人は同四匁と定められた（史料一六七七）。

慶応二年二月三日に、城下や町、村にも種痘を広めたいので、私領の場合は、今までは、大庄屋から代官所へ引痘願を出してからでないと許可されなかったが、今より以後は、直接好生館へ引痘願を出せば、引き受けることができるようになったと通達された（史料一六八八）。

慶応二年二月一六日には、二月から三月の小城藩領での引痘日程や手伝医師名が決まった。引痘日は、二〇日、二六日、三月三日、同九日、同一五日で、引痘方手助は、村田道碩・相良柳沢・菊地宗垣・原口養和・中嶋需安が命ぜられた（史料一六九一）。二月二〇日の引痘日には、佐賀から村上俊庵、二六日には宮田魯斎、三月三日は渋谷良次、三月九日は相良寛斎、三月一五日には、松隈元甫が、無量寺へ出張してきて、種痘実施を指導した。以後も三月二一日、佐賀藩医高木玄洞、三月二七日に大中春良、四月三日、渋谷良次が小城無量寺へ出張して、種痘を実施した。このように、佐賀藩引痘方医師が私領へ出張し、私領医師らの手伝いを得て、種痘を実施する体制が好生館を中心として確立していった。

三　藩士への薬料

藩士が、長患いや公務中に怪我をした場合など、特別の事情によっては、藩から薬料が出たようである。天保三年（一八三二）正月二〇日、西丸祐筆の中原又左衛門

は、数年間、役方をしっかり勤めてきたが、今度、病気になったので、吟味の結果、薬料として銀百目を出すことになった（史料八八〇）。

一西丸祐筆中原又左衛門、数年役方堅固相勤候末、今程病気差出及大切候付、為薬料定銀百目被為拝領候、幸十太夫殿・相原四兵衛・川副又右衛門出丸中ニ付、同所ニ而吟味相成、吉田勘右衛門ニも同様出丸ニ付、同人ゟ其段一類迄相達也

同年三月一四日には、西丸使番の福山平蔵は、二月五日から大病に罹り、なかなか治らないでいる。平蔵は数十年、とくに精勤していたので、今度、養生料の援助として米九斗を出すことにした（史料八八一）。安政六年（一八五九）三月一九日には、抱男勘助なるものが、怪我をしたので付薬料として金三〇〇疋、米三斗を支給している（史料一二七三）。また、隠居の精勤手当のような意味合いの薬料もあった。天保二年五月二七日には、木下退俊が、老病で難渋していると聞いたが、先年からの勤労に対して金子三〇〇疋を拝領させていただきたいと親類から相談があった（史料八七一）。藩士が医療費を払えない場合は、制度的ではないようだが、こうした薬料支給があったことが、本史料集から見い出すことができる。

本報告は、文部科学省科研費基盤研究（B）「佐賀藩の反射炉築設・鉄製大砲鋳造技術に関する研究」の研究成果の一部である。

（地域学歴史文化研究センター教授）

近世後期、小城鍋島家における軍事技術の導入

野口　朋隆

1　はじめに

本稿では、本史料集の対象時期である、文政期から明治初年における、小城鍋島家をめぐる状況、とりわけ長崎警備を通してみた本家との関係や、軍事技術の導入といった点について、特徴的な史料をあげていきたい。

2　小城鍋島家の政治的位置

小城鍋島家は、元和三（一六一七）年に鍋島直茂の隠居領をもとに成立し、江戸においても将軍から領知朱印状を拝領しない内分分家として、佐賀藩鍋島本家の強い統制下にある「末家」であった。しかし領内においては、小城鍋島家が自身で支配を行う大配分領主であった。しかし、近世後期になると、本分家関係や小城鍋島家の存在形態にも変化があらわれる。本史料集から知ることができることとして三点ほどあげておきたい。まず第一に、文政七年五月一一日、本家当主斉直の名代として当主鍋島直堯が長崎へ赴く事態が出現していることである（史料八一一）。鍋島家以外、福岡藩黒田家においても、松平美濃守が養母看病のため、その分家である秋月黒田家が名代として、長崎へ行っている（天保一〇年九月十九日の項、史料一〇七一）。小城鍋島家では、これまでも、家臣が高島番として長崎へ出張していたが、当主までも長崎警備に組み込まれた。第二に、本家が長崎警備を強化する方針により、安政元年から幕府から課される公儀役を始め、江戸滞在も免除される、いわゆる「公務御用捨」となったことである（安政六年正月十六日の項、史料一二三二）。これは五ヶ年に限ったものであったが、同六年からも、長崎警備を条件に、一一月に参府して二月に御暇という、滞府百日が許可されている（安政六年二月二日の項、史料一二四一）。なお、この年限中は、「諸御役等も不被仰付候通御治定相成」っており（同年月日の項）、公儀役が免除された。すでに小城鍋島家と同じ家格である三家の一つ鹿島鍋島家では、嘉永元年から五ヶ年間、公務御用捨となっており、[1] 安政元年からは、残りの蓮池鍋島家とともに三家揃って公務御用捨となっている。第三に、話は前後するが、天保十一年九月三日の項には、「長崎表、自然異変之節、御留守仕組」として、小城鍋島家が佐賀城下の唐人町を警備するように命じられている（史料一一一四）。この時の佐賀藩主は鍋島直正（閑叟）であり、三家を始め大配分領主が有していた領主としての権限を縮小して中央集権体制を構築していこうとしており、小城鍋島家もまた長崎が万一の際には佐賀城下の守衛を任されることになったことは興味深い。さらに、元治元年の長州征伐の際も、幕府に対して、

末家鍋島欽八郎義、今度被仰出之旨も御座候ニ付、出府為仕候筈ニ御座候処、私義、毛利大膳御追討被仰付候ニ付而者、欽八郎義も役目人数差出、且又長崎御番方ニ付而も兼而人数差出置候上、今般末家鍋島甲斐守・同備中守御暇被下被仰渡候次第も御座候ニ付、猶又長崎御警衛向増人数等も用意仕旁ニ付、御

追討済迄在邑為致候、此段御届仕候、以上
十一月十八日　　御名
御用番
本多美濃守殿江

として、本家は追討が終わるまで、長崎を警備させたいので参勤の免除を願い出ており（史料一六四六）、実際に参勤していないことから、許可されたものと思われる。小城鍋島家は大名ではあるものの、本家の軍事統制下にある存在であることが確認できる。

3　長崎警備と小城鍋島家

小城鍋島家が高島を守衛していたことは先述したが、安政四年一月二十一日の項以降、守衛地は高島の北に位置し、長崎市街へもより近づいた伊王島へと変更になっている（史料一一五九）。さらに、安政六年四月一日の項にある本家からの伊王島詰に関する人数算用書によれば、伊王島の他、長崎湾の入り口にあたる魚見岳の守衛も、蓮池・鹿島両鍋島家とともに任されている（史料一二九五）。「異船渡来」の際に、伊王島へ出立の人数は小城鍋島家で百五五人、蓮池鍋島家が百七人、鹿島鍋島家が沖島へ四五人詰めるように指示されている（安政六年四月一五日の項、史料一三〇七）。文久三年三月一九日には、「長崎表不穏時節柄ニ付、猶又出勢相成候様、長崎御奉行所ゟ御本家并筑前江御達相成候」とあり、この時小城鍋島家は非番であったが、増詰を命じられたため小城より家臣が出動している（史料一五六九）。しかし文久三年四月二日には、「伊王島・高島御備之義、当分被御取止之旨被仰出候、就而ハ御番所并遠見所之義も右両島共被相省」るとして、伊王島・高島詰が中止となり、台場が設けられた魚見岳詰となっている（史料一五七二）。こうした長崎警備のさらなる一翼を担うことは、「公務御用捨」中だからであり、この年限が明けた元治元年二月一四日の項には、「魚見岳詰之義、打追之通候哉、御番方罷出相尋候所、右者当年ゟ公務御用捨御年限明ニ相成候ニ付、当節ゟ同所出張ニ者不相及候」として番所詰を免除されたが（史料一五九〇）、同年に再び「公務一切御用捨」となったため、魚見岳詰を本家から命じられている（元治元年三月二三日の項、史料一六〇〇）。そして、慶應三年一月二七日の項によれば、三家は「出格之訳を以、公務御用捨被仰付置候筋ニ付、先以御年限之間、神島御台場請持」を命じられ、台場のあった神ノ島へ「筒方弐拾四人、足軽七人」、及び指揮方の侍「拾五人」の派遣を指示されている（史料一七四五）。慶応四年三月二五日に佐賀藩では、太政官より引き続き長崎を警備するように命じられており（史料一七九一）、小城鍋島家でも神ノ島詰を続けている。

4　小城鍋島家における西洋軍事技術の導入

A　船舶・軍艦

本史料集では、小城鍋島家の船舶・軍艦に関する記事も収録している。まず、文政一〇年三月、当主直堯が参勤交代のため、本家から松島丸を借用したところ、筑前国地島付近にて難風のため破船してしまった。このため、本家相続方より「一刻も右之修理小城ゟ相調、伊万里乗

廻相成候様」命じられている（三月二四日の項、史料八三五）。この時、行方不明となった牛津新町の袈裟右衛門と外十の家族へは、米六斗宛を支給している（文政一〇年四月一三日の項、史料八三九）。小城鍋島家では、本家に対して、「紀伊守殿台所用拾弐反帆船壱艘、牛津おゐて新造立被差免度」という願を出しており、天保九年三月一七日、許可されている（三月一九日の項、史料一〇一二）。本船は鷹尾丸と名付けられ、同年四月七日には完成の祝儀として、家臣団へ褒美が与えられており、なかでも「榎津番匠要助」を「御出入番匠」として召し抱えている。慶応二年二月には、イギリスから帆船を購入しており大木丸と名付けている（慶応二年二月十五日の項、史料一六九〇）。購入代金一万四千両の内、半高七千両の拝借を本家へ願った結果、懸硯方より六千両を借用している。しかし、公儀役を始め、領内支配における諸費用の拝借を本家へ依頼することが常態化していた小城鍋島家が、残りの八千両という大金を自身で工面出来たとは思われない。かかる点、話は前後するが、小城鍋島家では前年九月に懸硯方より「役内御仕法銀拝借之廉々、左之通今般外向御船方江被相付、其筋返納相成候様被仰付義ニ候」として、四千両と二〇八〇両計六〇二〇両を借用し、表方にある船方へ返納するように命じられている（慶応元年一〇月朔日の項、史料一六八三）。両年とも資金の出所は懸硯方だが、慶應二年二月の分は「月五朱御益付ニメ、当寅秋ゟ五ヶ年返上、引当之儀者金高相当之石数」の証文を懸硯方へ差し出すように指示されており、それぞれ返納する役所は別であった。いずれにせよ小城側の担当者は両年とも川副増吉であり、本家の全面的支援のもと、大木丸を購入したものと思われる。大木丸は、慶応二年四月二十九日に住之江へ入港しており（慶応二年四月二九日の項、史料一七〇六）、ここを母港とした。なお、慶応二年三月二二日の項では、大木丸購入を本家から長崎奉行へ届け出た際、「受取渡之節、公役人其外乗込人数名前」の中に「英学稽古人綾部新五郎」とある。綾部は、万延元（一八六〇）年、日米修好通商条約の批准書締結にあたった幕府外国奉行新見正興とともにアメリカ船ポーハタン号に乗り渡米した小城鍋島家の家臣であり、彼が大木丸購入時、イギリス人への対応にあたって、通訳を行っていたことをうかがわせる。

安政六年四月一三日の項では、小城藩主が蒸気船を見物している（史料一三〇五）。これは、佐賀藩が購入した電流丸と思われ、翌月四日の項には、電流丸が伊万里へ廻船されるにあたって、領民に対して、「電流丸、今日ゟ伊万津之方被差廻候付、異形船ニ付、彼表相驚不申候様、一躰者大庄屋筋を以相達置候儀ニ者候得共、尚又山代郷辺御私領方ゟも其心得罷在候様相達置」かれている（史料一三一九）。

ところで、「日記」には、佐賀藩が所持していた蒸気船や帆船の動向も記されている。佐賀藩内において船舶がどの港から出航し帰港していたのかということは、佐賀領内における各港の機能や役割を考える上で重要であろう。天保九年七月五日の項では、翌日、藩主直正（閑叟）が佐賀城下の西に位置する本庄津より長崎へ行く旨が達せられている（史料一〇四九）。文久三年三月晦日の項

には、翌四月一日より直正が佐賀を発って長崎へ行き、同七日に三重津へ帰ってくる予定であることが知らされている（史料一五七〇）。慶応四年正月二三日には、藩主直大が伊万里にて蒸気船凌風丸に乗り込み、久原津にて「本船」に乗り込んでいる（慶応四年正月二六日の項、史料一七八五）。それから慶応四年八月には、蒸気船不足により佐賀藩が外国から借り入れた船が伊万里へ入港することが記されており（慶応四年八月五日の項、史料一八〇五）、九日に久原村へ入港している（同年八月一二日の項、史料一八〇八）。この船は、同年八月に佐賀藩所有の蒸気船甲子丸とともに、田尻宮内が率いる小城藩一番隊を乗せて出羽へ進軍している。

B　西洋銃

小城鍋島家では、武衛流・種ヶ島流・真田流といった従来の砲術流派からなる稽古を実施していたが（文政五年四月六日、史料七八五など）、安政四年一月二〇日には「大小銃稽古」を領内北浦台場にて行っており（同年月日の項、史料一一五八）、同年一二月七日の項では、次の達が出されている。

一銃陣調練之儀、此節左之通被仰出候ニ付、文武方并大組代中江相達候事

西洋流銃陣之儀、来ル十二日ゟ於調練場丁白夕稽古有之、年内者廿四日迄向正月十六日ゟ相始、尤先以三月中を限、進退致習熟候様、出精可有之事

但、侍・小頭・徒士拾六歳ゟ三拾九歳迄可成丈不残様致出席、四拾歳以上者可為勝手次第事

附、出席帳、其外取締向等御火術方ニ而取調子差出候事

両御側方・屯蕃等非番之節ハ分而無懈怠出席可致旨、御用人方ゟ申達候事

十二月十一日

一左之通、附役達

当一順銃陣稽古方頭取被仰付候　神代官右衛門

火術方が関与していることから、右の史料は本家から達せられたものであるが、侍・小頭・徒士までが西洋銃の調練を命じられている。安政六年二月二八日には、火術方より近々銃陣の上覧がある事を達せられている。これは、「此節之儀者、来月半頃蘭人御城下罷出候付、銃陣一覧をも被仰付義ニ付、早々ゟも稽古人出席相成候様」というものであった（史料一一五二）。その後も銃調練において佐賀藩主の上覧があったことが数多く散見される。同年六月一四日には銃陣稽古について、毎月一一日から一三日迄、三日間行うように指示しており、西洋銃の扱いや調練への関心が急速に高まっていることが分かる（史料一三四四）。もちろん、長崎警備においても西洋銃は配置されており、例えば、文久元年五月四日の項では、長崎非番方手配として、伊王島については、「トントル御筒百五拾挺、玉薬フーテイ、其外小道具共」、其他、二十四ポンド筒一挺などが配置されていた（史料一五一七）。

それから、元治元年二月には本家備立方より、「メンエ銃之義者線銃、八匁ドンドル筒之義者雷銃と相唱候様被仰付」ている。

慶応元年一月二六日の項では、本家による銃調練上覧

において小城から人数を差し出したなかに、「野戦銃役士」として、富岡三太夫、黒木又三郎など、上級家臣に位置する侍層が、銃を扱っていることは注目される。本来、馬上にあって一騎打ちによる戦いを当然としてきた侍層であっても、小城鍋島家では刀から銃へと切り替わっており、これは当然佐賀藩においても同様であったことは想像に難くない。慶応元年七月十九日には、佐賀藩備立方から、銃をエンフィールド銃に統一するように達せられており、本家の軍事体制の中で小城鍋島家も変革していった様子が分かる。

5　おわりに

幕末の政局に関与することに対して消極的だった佐賀藩が、薩長土肥と言われるまでに政治的立場を上昇させたのは、他藩に比して群を抜いた軍事力を保持していたことが大きな理由としてあげられる。[2] 一九世紀の佐賀藩は、西洋の軍事技術の導入を押し進め、慶応元年には日本で初めて実用的な蒸気船凌風丸を製造するまでに至り、藩士には火術方に入門させて西洋銃の扱いや陣形を学ばせるなど、従来の武士による馬上での一騎打ちといったような戦い方とは大きく異なる軍事体制の構築を進めていった。こうした動向は、分家大名であった小城鍋島家にも大きな影響を与えた。小城鍋島家では大木丸を保持し、家中においても、佐賀藩士同様、火術方の指導のもと、西洋銃を扱う訓練を行うなど、佐賀本藩を中心とする軍事体制に、より組み込まれていったことが本史料集から見て取ることが出来る。そして、こうした軍事面で本家に従属する小城鍋島家の在り方は、分家大名の特質を考える上でも重要と思われる。

註

（1）　拙稿「近世後期鹿島鍋島家の存在形態と本分家関係―佐賀鍋島家による吸収合併計画を素材として―」（『鹿島鍋島藩の政治と文化』国文学研究資料館、二〇〇八年）。

（2）　木原溥幸『佐賀藩と明治維新』（九州大学出版会、二〇〇九年）。

文政五年（一八二二）

777　文政五年一月十八日　紅毛人寺止宿を好まざる事

一参向之紅毛人、今日牛津駅昼休ニ付、郡方其外役々出張、惣而以前者同町正満寺ニ休泊致来候所、寺家ヲ不相好旨、長崎表ゟ申来候ニ付、此節上使屋之方被差通候、尤御居間之分者立切次之間ニ而相済下乗御式台前通路迄

一右ニ付、附副之検使前方者御奉行之家来ゟ附副来候所、文化七午年ゟ上下格之人附副故、御使者を以梅干一曲充被差送候得共、前々之とおり御奉行家来ゟ検使相勤被罷越候ニ付、御進物并御使者無之

778　文政五年一月晦日　高島番詰続の事

一西村権右衛門・大坪弾右衛門并足軽高島詰続ニ付、御切手日延願之義、頃日西丸申越置候末、年行司ゟ左之通相達之旨申来ル

西村権右衛門、其外高島御番所詰続被仰付候ニ付、年行司江御切手日延願、此元ゟ差出候様先達而御掛合ニ付、跡方畢竟を以、口達書差出置候所、作廿八日此元呼出被相達候者、西村其外日延願之儀、於彼表銘々より願出相成候ニ付、如願日数百六拾日日延被差免候段、年行司之方ゟ長崎申越相成候由、右ハ為心得被相達置候趣、扨又最前差出置候口達書ニハ相及不申由ニ而被差返候、此段及掛合候条、右様御心得可被成候、已上

正月廿九日　　犬塚与三右衛門

779　文政五年閏一月二十三日・二十五日　佐野賢亮大坂・長崎へ薬種買い入れ願の事

一大坂表江薬種為買入、佐野賢亮罷越度、左之通御暇願有之候所、願通被仰付候旨、附役ゟ申達、且又右ニ付而為心得、左之通演達相成ル

奉願口上覚

大坂薬種注文深川弥平太手筋を以相整候様願通被仰付候ニ付、薬種見調子、且又以来之儀、万端美玉屋為申談、大坂罷登度奉存候条、往来日数六拾日御暇被仰付被下度、就而者御切手をも御願請被相渡被下度、旁奉願候、此段筋々宜御執成可被下奉願候、已上

午正月　　佐野賢亮

演達

此節、医師中ゟ仕法ニ付、薬種為仕入佐野賢亮大坂罷登候付而ハ、仲ヶ間中とも申談之上ニ而ハ可有之候得共、猶又何れも致承服、一統順熟之上、右仕入物仕払、彼是之始末、得と申談之上、右之取計無之而ハ、自然違乱等有之仕法崩ニも相成、仕入向之難題共移合候而者詰り御外聞ニも相懸間敷ものニも無之候条、猶勘弁有之候様訳而被相達候

閏一月二十五日

一佐野賢亮ゟ左之通御暇願有之、尤大坂罷登候前、此度

長崎表罷越度旨、依願其通被仰付候也

奉願口上覚

薬種為仕入大坂罷越候ニ付、御暇奉願候所、願通被仰付難有奉存候、然所、長崎表唐物下直之品有之候由、飛脚到来仕候ニ付、一先彼筋罷越仕入方仕度奉存候条、日数十日余御暇被仰付被下度候、就而者往来札弐枚御拝借被仰付被下候様、旁奉願候条、筋々宜御執達可被下候、已上

閏正月　　佐野賢亮

780　文政五年二月九日　東島逸馬門弟砲術稽古の事

一今日東島逸馬門弟砲術稽古、於浜御茶屋前有之、右ニ付同所内土井ゟ御親類方初請役人何れも出席有之

一右ニ付、左之通被為拝領

一酒　三升
一生鯛　壱枚
一ぼら　壱ツ
一数の子

東島逸馬門弟中

781　文政五年三月一日　石井祐順医学稽古より帰着の事

一石井祐順為医学稽古、江戸罷登居候所、昨夜下着之段、御届有之

782　文政五年三月十一日・十四日　鹿島悌操院病に付、医師派遣の事

一左之通、鹿島聞番ゟ西丸迄為御知有之

以手紙致啓上、然者悌操院様数年御癪気之処、旧冬ゟ御外邪ニ而日増御疲労御痩脱、頃日者御面部手足御腫気被差出、不容易御容子御座候、此段為御知如此御座候、已上

三月十一日　　田沢次郎太夫

犬塚与三右衛門様

一右ニ付而者、御伺御使者、且医師被差越候筈也

三月十四日

一悌操院様御病気ニ付、御容体相伺可申上越、御家老方御申付之旨を以、御医師原口宗益被差越候也

783　文政五年三月十五日　佐野賢亮長崎滞留延期願の事

一佐野賢亮先達而御暇相願、長崎罷越居候所、日限中何分罷帰候体無之趣、左之通願継有之

奉願口上覚

私儀、薬種為仕入御暇奉願、先達而ゟ長崎罷越、御蔭を以用事相弁候故、罷帰可申奉存候所、気候ニ相障候と相見へ不図寒熟甚敷、何分ニも長途之旅行不任所存、近々罷帰候体無御座、笑止千万之参掛御座候、依之、近来略々敷恐入奉存候得共、今四十日之御暇奉願上候、勿論、少々も快方相成候得者、早々罷帰義

ニ御座候、此段筋々宜被仰達、願通被仰付可被下候、
已上
二月廿二日　佐野賢亮印
三月十六日
一佐野賢亮御暇日限中罷帰候通無之ニ付、一類中心遣不行届段、左之通御届有之
手覚
我々一類佐野賢亮儀、薬種買入として長崎表罷越候末、御暇日限不罷帰ニ付、急速如何之訳ニ而右之次第ニ候哉之段、相懸合越候得共、片便而已ニ而否之返答も不申来ニ付、甚等閑之通り奉対御上、何れも奉恐入旁ニ付、折角迎等之手配罷在候半、去ル十四日夜佐賀便を以彼地ゟ両三度之手紙一同之様ニ落手仕候処、同人義も去月半頃ゟ散々相煩、何分ニも罷帰候体無之日々と相見合居候内、御日限切ニも相成義ニ付、度々如何敷奉存候得共、前文之参懸ニ付、不得止事、別紙之通御暇日延願書付為差越旨御座候、然所、其内相頼候飛脚之者、途中ニ而少々隙取、其上帰着之上も書状相達候義及大延引、旁以不都合千万之儀共、今更重畳奉恐入義ニ而、近年難奉願候得共、何卒御憐愍之御評議を以、右願之通、日延被仰付被下度、本人同様奉願候、惣而一類としてハ事柄右体之不埒移合候亘り見張可罷在様無御座候所、畢竟去形所ゟ前断之次第甚不行届段、何れも至極奉恐入候、依之則遠慮差控罷在候、此段宜被仰達可被下候、已上
三月十六日　村田淳伯
大嶋彦次郎
川浪二兵衛
徳見仲太夫
小野源右衛門

784　文政五年三月二十六日　遠慮に及ばず事

一火矢放出方之儀ニ付、不行届儀有之、左之面々遠慮御届有之候所、不及其儀旨、則相達
文武方　小野源右衛門
飯田仁四郎
武衛流門弟　嬉野小右衛門
小師範　中尾孫兵衛

785　文政五年四月六日　武衛流放出の事

一武衛流師家亡富岡三太夫門弟中、今日於浜御茶屋前稽古、放出有之候ニ付、弟子心遣飯田仁四郎并門弟中江左之通被為拝領候、尤御親類方初請役所詰・御目付方迄同所内堤土居桟敷出張
拝領
一酒　五升　飯田仁四郎
武衛流
門弟中
一塩鯛　三枚
一富岡三太夫死去後、同流御本家御家中富岡弥一左衛門江門弟之義、心遣被呉候通、兼而御願相成候末ニ付、今日出張場被罷越候故、左之通、御当役方之首尾ニして被差送候

一酒　三升
一交肴　一折　　富岡弥一左衛門

786　文政五年四月十二日　紅毛人牛津止宿の事

一先達而江戸表罷越居候紅毛人長崎下向、今夜牛津駅止宿、郡方其外例之通出張、但此度往来共上使屋泊ニ相成候、尤御居ノ間一間ハ釘付ニして不差通候也

787　文政五年四月十五日　於篤瘧疾煩いの事

一於篤様、先達ゟ御瘧疾御煩被遊候ニ付、御内々之御見廻御使者被差出并御菓子壱箱弐斤入被進之、嬉野彦左衛門相勤之

788　文政五年四月二十一日　施薬方役人替えの事

一今般、依願御施薬方被相建候付、佐野賢亮・川久保俊台江主役被仰付難有奉存候、然所、新規之御仕組ニ御座候得者、諸手当色々手込候訳も有之候付、左之廉々御達申上儀ニ御座候条、御聞済被下度奉願候

一川久保俊台儀、先達而ゟ相煩候末、甚及危篤候付、役方被差免（朱）（御施薬方）被下候様奉願置候処、近日漸快方ニ者相成候得共、中々火急ニ出勤等仕候様無御座ニ付而者、何分主役之儀、御免許被下候様、我々ゟも願出呉候様被申聞、無拠訳合も有之、難黙止奉存候条、同人主役之儀、御免被仰付被下度候、就而者跡役之儀、原口宗益江被仰付被下度奉願候

（朱書）「附紙本文願通俊台御免、宗益江被仰付候事」

一村岡半之允儀、筆算方手伝被仰付置候処、当春已来相病、時々出勤不相叶、手伝方出来兼候、当時至而用向繁壱人ニ而も勤兼候位之半、右之次第ニ而必止と手支難渋仕候間、同人手伝之儀、御免被仰付、右代手伝南里与兵衛・川島平五左衛門両人江被仰付被下度奉願候

（朱書）「半之允御免、願出之両人ニ相心得居候様、御沙汰可有之事」

一前方御達申上置候通、和漢薬種長崎・大坂其外所々弁理之方ニ而買入相整ニ付而者、当時長崎・大坂薬種買入取組相整、猶又追々薬種取揃御医師中へも配当仕候義ニ付而者、仕入向仕切限約定通、其時々急度無遅滞相払候通、取計候半而不相叶候得共、自然薬料取納手〻行届兼候而者無余儀仕組も立兼、薬種代銀仕切不埒ニ移り合、我々役目者不及申、永々御仕法支ニも相成、且者御外聞ニも相抱候通共相成候而者、言語道断之儀奉存候間、何れ諸方薬料無疎取納、手当行届候通無之候而者、決而不相叶儀ニ御座候条、里四郷之所大庄屋江手副仕呉様相談候付、近頃如何敷奉存候得共、何卒右之趣御知掛り被成下度義者被相叶間敷哉奉伺候、其儀御聞済被成下儀ニ御座候ハ、、其旨御郡方筋御相達被成下度奉願候

（朱書）「付紙、猶又相対申談可有之候」

一薬種仕入ニ付而者、深川弥平太手筋を以買入候様、御達申上置候得共、遠方懸々ニ而行届兼候儀も御座候条、幸

野副正兵衛・足軽村山龍蔵儀、和漢薬種座願請罷在者ニ御座候付同人等ニも同様仕入名代申付儀ニ御座候、右者前方御達申上置候例ニ付御届申上候

一下目付壱人役内懸り合被仰付被下候段御達被仰付置候付而者、差付郷内諭方、且救合施薬見分等之砌立会申請度奉存候条、此段御目付方相雇候様御手数被成下度奉願候

（朱書）「附紙一躰之心遣大目附壱人掛合被仰付置候之時々立会申談可有之候」

右御願済御聞届旁之趣、御用繁中近頃恐多奉存候得共、筋々宜御執達被成下度致御願候、以上

午四月　佐野賢亮印

御医師惣代　村田順伯印

一左之通被仰付候旨、相談役被相達候

御医師中ゟ依願　原口宗益

御施薬方被仰付候　岡孫太

持役ゟ御境目方

付役被仰付候

一川久保俊台江御医師中より依願御施薬方被仰付置候処、病気ニ付、被差免被下候様、今又願之旨ニ任セ被成御免候

一村岡半之允儀、御施薬方筆算手伝之儀、最前御沙汰被置候得共、病気ニ而当春已来相勤候体無之旨ニ而、御医師中ゟ依願被差免候、右代南里與兵衛・川島平五左衛門心得候様、御沙汰有之、左之通手紙差出ス

御自分儀、御施薬方筆算御手伝御医師中ゟ示談可有之候条、得其意、手伝方相心得候様有之候、此段御沙汰被置候、以上

四月廿二日

789　文政五年五月一日　長崎療養願の事

一左之通銘々ゟ願有之候処、如願何れも被差免候

（前略）

奉願口上覚

私儀、年来湿気ニ而、大難渋仕候付、色々療養を尽候而も、絶而其詮無御座、依之長崎吉尾献策方へ療治相願度、兼而存念罷在候得共、時節柄共ニ而者、何分難任自力、折を見合罷在候処、今度十太夫殿出崎被仰付ニ付、幸折ニも有之、何卒随身罷越、養生相加度奉存候間、御同人御滞崎中御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜被仰達可被下候、以上

午四月　田代次郎右衛門印

790　文政五年五月七日　鹿島於篤へ医師派遣の事

一於篤様御事、先達而ゟ之御瘧疾者、漸去月廿六日迄御退被成候得共、御疲労強、其上御積気被御差発候趣相聞候付、御容体御伺として原口宗益被遣、且御使ニ而交御肴一折御見廻として被進候、津島女迄相談役中ゟ奉札ニ而被差出

791 文政五年七月二十七日　佐野賢亮薬種屋対談に付、出崎願の事

一御医師中ゟ左之通願有之候所、如願被仰付候
口達
当春佐野賢亮出崎之砌、薬種屋片山長右衛門江唐物薬種仕続之義、渡瀬増太郎仲人ニ相頼熟談相整、其節少々手本薬種迄ニ取出シ罷帰、右代銀等も先達而皆済仕切相整候付、跡薬差送呉候様申談越候処、先達而増太郎儀、不斗相果候由ニ而、已来之儀取締彼是不砕之廉も有之候ニ付、今一応懸り合之人ゟ罷越候ハヽ、尚又得面会申談相整候而、向々薬種仕送等無遅滞相調無如在通取合致度候由申来候、物而者当春少々買入ニ相成候薬種誠ニ手本迄之儀ニ而、御医師中ニも必止と手ヲ支治療も届合兼候位之儀ニ而、何れも甚難渋仕罷在候、就而者一刻も得熟談、薬種買入無之候而ハ不相叶候得者、於我々も少々之故障ハ差置候而も致出崎、急速薬種仕送ニ相成候通相調度奉存候、就而者賢亮儀、当春出崎之砌、一応致対談申程ニ相成居候末ニ御座候得者、又々余人罷越候而も、専向方更ニも相懸候義ニ而、永々取合之根啓融通之基ニ御座候条、無拠当節之義、賢亮致出崎、万端及熟談候方可然と何れも談合仕候条、何卒同人義、往来日数廿日之御暇被仰付被下度奉願候、勿論御日限前無相違帰郷仕候而御法を相背候儀等決而無之通、屹度相含ミ罷越義ニ御座候条、願通被仰付被下候様、宜御執達被下度、深重致御願候、以上

七月廿五日　　原口宗益
佐野賢亮印
御医師惣代
北嶋三折印

792 文政五年十一月三日・五日・七日・九日　砲術稽古の事

十一月三日
一今日四時初ニ而、両流砲術、於浜御茶屋前上覧被遊候、右ニ付門弟中江左之通御酒肴被為拝領候
一酒　弐升　種ヶ島流　野田安左衛門
一塩鯛　壱枚充
一数の子壱升　真田流　倉本外十

十一月五日
一真田流砲術村山勘右衛門門弟、今日於浜御茶屋前上覧被遊候、右ニ付、左之通御酒肴為拝領候
一酒　弐升　村山勘右衛門
一塩鯛　壱枚
一数の子壱升

十一月七日
一今日、武衛流砲術、於浜御茶屋前上覧被遊候、右ニ付、左之通御酒肴為拝領候
一酒　五升　心遣
一中塩たい　弐枚　飯田仁四郎
一数の子弐升

十一月九日
一東島逸馬門弟砲術、於浜御茶屋前上覧被遊候、右ニ付、左之通御酒肴為拝領候、尤夕方より雨天ニ付被相止メ、打残之儀者追而御日限可被仰出ニ付、御酒肴も不被差出候

793 文政五年十一月十六日　医術稽古より帰着の事

一原口宗與儀、医学稽古として江戸表罷越居候末、今日帰着有之

794 文政五年十一月十九日　山田救安・布上恕斎遊学願の事

一山田救安・布上恕斎遊学左之通被相願候処、如願被仰付候、尤一孤兵粮之儀、斉藤・原口両人江被差出置候得者、右之人罷下り候上、可被相渡候条、右丈ケニ而成丈手前ゟ相詰被申候様、付役ゟ旁申達ス

奉願口上覚

私儀、家業未熟ニ付、兼而遊学存立罷在候得共、時節柄共ニ而空敷時節を移シ居、乍然、只様押送り年齢も相更ヶ候而者、稽古方時分後レ相成、残念之至ニ付、成丈路費其外自覚悟ニ而尾州名護屋罷在候医臣浅井頼母江罷越、親炙仕度奉存候条、向五ヶ年之御暇被為拝領被下度、偖又当時就中御取締之御半、近来奉恐入儀ニ御座候得共、受業中、成丈自分覚悟にて取続候心得なから、始終之格護何分任力兼候間、斎藤玄仙・原口宗與抔之稽古人罷下り候上者、兵粮銀被差出被下度、旁奉願候、於然ハ、御蔭を以、如形取続一際相励出精稽古熟達仕向以ハ、御用之一端ニも相立候通有御座度、且者古来拙家相伝之診脈之法今更ニ者彼家ならて無之趣ニ而、是等之筋をも不相替伝授可仕、御仁沢之程、重畳難有奉存候条、格別之御憐恕を以、如願被御聞啓相済候様、支所無御座候ハヽ、筋々宜御執達可被下義、深重致御頼候、以上

午九月　　山田救安印

奉願口上覚

私儀、医術未熟ニ付、兼而遊学存立罷在候得共、時節柄共ニ而兎角押送居、然所只様時日を過シ候而ハ、最早年齢も相更、稽古時分後相成、甚残念千万奉存候ニ付、成丈無理非常之調略を以、路次之入費等自分覚悟ニ而、濃州岐阜平井周禎江罷越、随身受業仕度奉存候条、当午秋ゟ向五ヶ年之御暇被為拝領被下度、将又当御時勢御半、近来難奉願重畳恐入儀御座候得共、受業中格護方之儀、可相成丈者辛々ニも取続稽古仕度存念なから、地米小身某始終之所、何分任力兼候間、追々、斎藤玄仙・原口宗與帰国仕候上ハ、壱孤兵粮被差出被下候通り、旁奉願候、於然ハ、御蔭を以、一際出精家業熟練仕、向以ハ、御用之端ニも相立候通有御座度、御高慈之程、尚又重畳難有仕合奉存候条、彼是之趣幾重ニも御憐恕之御評議被成下、何卒願通相済候様、筋々宜御相達可被下義、深重致

御頼候、以上

午八月　　布上恕斎印

795 文政五年十一月二十四日　東島逸馬門弟砲術稽古の事

一東島逸馬門弟砲術、先日相残シ之分、今日九ツ時初ニ而被遊候上覧候、依之左之通御酒肴被為拝領候

一酒　五升
一塩たい　弐枚
一数の子　弐升

796 文政五年十二月二十三日　辻良栄より亡父拝領の扶持米拝領願の事

一辻良栄ゟ左之通願書差出候ニ付、亡父玄洞江被下置候御扶持米打追之通被為拝領候

弐人扶持　　辻良栄

奉願口上覚

亡父玄洞儀、段々蒙御厚恩候上、跡式不相替私江被仰付、重畳難有冥加至極奉存候、然上者、乍不弁丈も家業出精仕、何卒向以者御用立之通罷越度、折角内治之医術原口宗益江随身稽古罷在儀ニ者御座候得共、詰飯米其外当時柄共ニ而者、色々極難渋之筋而已多々有之旨営ニ差支、何分押部存通之稽古届合兼心外千万、去迚者残念至極奉存候、就右而者、当御時勢御半、近来難奉願重畳恐入奉存上候得共、何卒亡父江被下置候扶持米、打追之通被為拝領被下道者有御座間敷哉奉願候、於然者、御蔭を以猶又一際相励稽古出精仕向以者、御用之端ニも相立候通有御座度、猶更御厚慈之程無是上難有仕合奉存候条、何分御仁恵之御吟味被成下、願通相済候様、筋々宜御相達可被下儀、深重奉願候、以上

午八月　　辻良栄印

文政六年（一八二三）

797 文政六年二月十三日　山田救安兵粮願の事

一山田救安医学稽古として、尾州罷越候付、兵粮之儀、左之通願有之候得共、何分願通不被相叶、尤遠国難渋無拠相聞候付、半兵粮ニ弐朱丈被相増、都合弐部充詰中月々大坂ゟ被差渡候段、付役ゟ申達

奉願口上覚

私儀、医術為稽古尾州罷越度、五ヶ年之御暇奉願候所如願被仰付、尚又半兵粮被差出被下候段、御達之趣、委曲奉畏、年来之宿願相達可申、深重難有仕合奉存候、就右而者、不閣早速出立可仕之所、何共不手繰之儀而已出来仕、何分年内之出途難行届、是等専彼地罷越候上、年限中之取続、且入門之入費節季〳〵之付届等、曲形ニも御外響不相掛通ニ者是非相整候ハ而不相叶、惣而前断半兵粮之儀も定而大坂御屋敷ゟ被渡下ニ而可有御座、然所、尾州罷在、時々之御渡方為頂戴、御屋敷罷越候も数拾里之往返相掛り、至于時

進退失途之都合可有御座も難計、然者、いつれ辛々ニ
も取続之覚悟緊要之儀御座候得共、如斯之運、何分
讃談相付兼、去迚ハ寒心痛胸此義ニ止候、依之当時
之御半、今又重畳難奉願、甚恐入義ニ御座候得共、最
前御済被下置候半兵粮取加一孤兵粮之高ニ詰合候様、
時々為御取替被差出被下候様者有御座間敷哉、尤返
上納之儀者、年限相満罷下候上ニ而、年々部渡米ゟ御
取納被成下度、旁奉願上候、於然者、御蔭を以、稽古
中如形取続、一際出精医術熟練仕、向以ハ御用之一
端をも相勤候通可有御座候、尚又御厚慈之程無此上
至極難有奉存候条、幾重ニも御憐恕之御評議被成下、
如願相済候様、筋々宜御相達可被下儀、深重致御願
候、已上

午十二月　　山田救安

嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

二月十八日

一山田救安義、御切手形并御乞出、左之通

奉願口上覚

私儀、医学為稽古、尾州名護屋（ママ）罷在候浅井頼母江罷
越随身仕度御座候条、向五ヶ年限御切手被仰請可被
下候、勿論於向々無非法之儀不仕出往来共天満御屋
敷江点合罷下候節者御留守居方ゟ附状を取、右年限
中無相違罷帰、御切手同然自身持出返上可仕候、若
疎之義も御座候ハヽ、我々無調法可被仰付候、已上

未二月　　願主　山田救安

一類　犬塚市右衛門

一類　馬場文八郎

嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

紀伊守殿家中山田救安ゟ別紙之通五ヶ年限御切手相
願候条、可被指出候、於向々無作法之儀不仕出候様、
堅可申付候、若緩之儀御座候ハヽ、此方可承候、已
上

未二月　　野口十太夫

798　文政六年三月五日　辻良栄参府願

一今般、御出府ニ付而、左之人々随身願有之候所、何レも
願通被仰付候旨、付役ゟ申達

（前略）

奉願口上覚

私儀、医術未熟ニ付、折も御座候ハヽ、江戸罷越稽古
仕度、多年之宿念御座候へ共、時節柄共ニ而者、何分
自力之覚悟不任所存、空敷押送罷在候所、幸今度原
口宗益御参府御供被仰付候付、随身罷越稽古仕度奉
存候条、同人滞府中御暇被為拝領被下度奉願候、於
然者御蔭を以年来之夙志相達候而已ならす、医術熟練
仕、向以者御用之一端をも相勤候通有御座度、御高
沢之程、猶又重畳難有仕合奉存候条、幾重ニも御憐
慈之御評議被成下、如願相済候様、筋々宜御相達可
被下儀、深重奉願候、已上

未二月　　辻良栄

右両人（付衆両人）当

（後略）

799　文政六年三月十三日　川久保俊栄へ長局掛け合いの事

一川久保俊栄江長局懸合有之候様、付役ゟ申達

800　文政六年三月二十一日、四月五日・十日　高島番の事

一左之通被仰付候旨、御当役被相達候
　高島番　　遠岳源内
　依願同所筒方　　藤嶋八左衛門
　興譲館師南役　　鴨打大之進
四月五日
一当夏高島番足軽、左之通被仰付候旨、付役達
　目付兼　　足軽
　　八頭司清右衛門
　　中原忠蔵
　　野田新兵衛
四月十日
一藤嶋八左衛門ゟ左之通被相願候所、如願被仰付候
　奉願口上覚
私儀、今度高島筒方被仰付、難有奉存候、就而者兼々病身ニも御座候得者、為介抱弟良蔵召連罷越度奉願候、此段宜被仰上可被下候、以上
未四月　　藤嶋八左衛門
　嬉野又兵衛殿
　持永治兵衛殿
一当夏為高島番、左之人々今朝ゟ出立
　高島番　　遠岳源内
　同所筒方　　藤嶋八左衛門
　　足軽
　目付兼　　八頭司清右衛門
　筒方兼　　中原忠蔵
　　野田新兵衛

801　文政六年五月七日　砲術稽古に付、ご褒美の事

一武衛流砲術於新御座所、御内試被相整候、其末左之通、御酒肴被為拝領候
　一酒　四升　　飯田仁四郎
　一塩鯛　弐　　門弟中
一真田流砲術於新御座前御内試有之、右ニ付、左之通御酒肴被為拝領候
　一酒　四升　　東島逸馬
　塩鯛　弐　　門弟中
　一酒　弐升　　倉本夘十
　塩鯛　壱　　門弟中

802　文政六年六月四日　持永藤九郎高島へ出立の事

一持永藤九郎、今朝ゟ高島出立、足軽共ニも同断

803 文政六年六月十九日・二十日　長局於艶女死去の事

一長局於艶女、去ル六日頃ゟ悪寒・発熱・頭痛等有之、全時疫之様有之、早速ゟ川久保俊栄診脈・服薬療養有之候所、九日・十日頃ゟ少々瀉下有之、其末十八日其ゟ以之外稠敷相成、甚気体不相勝ニ付、猶又御祈祷立願等有之、医師中も手を尽療養有之候得共、不行届段々之差重快気難計ニ付、実家引取養生相加度、依願其通被仰付引取相成候処、終ニ養生不相叶、今夜九ツ時頃死去之段御届有之

一右之末、宿許引取候付、左之通

一駕籠
一鋏箱
一附副人数

古賀七右衛門
小池外七
松山庄助
手男
手内
下目付ゟ
足軽目付

一容体書之事

一葬式一通、実家ニ而取計有之候様被相願、右入用当として銀拾五枚被差出候、其末弔料として追々銀三枚被差出候

六月二十日

一於艶女今夕葬送ニ付而、長局掛り合古賀七右衛門葬場相立候筈之所、病所有之、其儀不相叶ニ付、被相雇今村弥七右衛門被差越候

804 文政六年八月九日　高島番の事

一高島筒方増番持永藤九郎江被仰付置候所、大延引相成候末ニ付、段々問合有之、依之左之通相原四兵衛引請用捨書付御仕組方被差出候

805 文政六年八月十三日　佐野賢亮施薬方御免の事

一佐野賢亮御施薬方被仰付置候所、御断ニ付御免被成候

806 文政六年十月一日・二日、十一月二日・二十日　高島番の事

一高島筒方増番持永藤九郎同所引払、昨夜帰着

十月二日

一高島番、左之通被仰付候旨、御当役被相達

依願　高島冬番　東島主馬之允

一高島筒方藤嶋八左衛門当冬番迄詰続被仰付候様、左之通被願越置候所、如願詰続被仰付候旨、当便ニ而付役ゟ申越

十一月二日

一左之通被仰付候旨、付役達

高島冬番　東島主馬之允与
西　勝十

十一月二十日
一当夏高島筒方増番延引之末ニ付、相原四兵衛ゟ口達書差出被置候末、御裁許御書附、二丸ゟ被相渡候、委細罰帳ニ記之、右御書付之趣、付役ゟ申達

807 文政六年十一月二十八日　松本春碩、大坂医学稽古の事

一松本春碩大坂医学稽古仕度、左之通御暇願有之候、如願被仰付候旨、一類江付役ゟ申達

願書付

私儀、家業為稽古善左衛門殿江致随身江戸罷越度御暇奉願候所、願通被仰付難有奉存候、然処御同人滞坂其末八月朔日ゟ江戸被相越候ニ付、一同罷越候心得ニ御座候所、少々病気差出、其儀不相叶、滞坂罷在候所、追々御出坂直ニ被罷下候ニ付而ハ、一同罷下候半而不相叶儀ニ御座候得共、前文之通ニ而家業稽古も出来兼甚残念之次第御座候故、此表ニ而稽古之道ハ有之間敷哉と御屋舗詰中江も申談候所、随分相応之義者出来可申振合ニ付、近来自尓之儀恐多奉存候得共、向弐ヶ年之御暇被仰付被下候ハヽ、御蔭を以稽古仕度難有奉存候、此段筋々宜御相達可被下、深重奉願候、以上

未十二月　　松本春碩

808 文政六年十二月四日・二十日・二十七日　高島出立・帰着の事

一東嶋主馬之允今朝ゟ高島被差立候

足軽　西勝十
中原忠右衛門

十二月二十日
一遠岳源内高島ゟ昨夜帰着
十二月二十七日
一高島冬番足軽、左之通被仰付之旨、付役ゟ申達

高島当冬番　　大園五郎右衛門

文政七年（一八二四）

809 文政七年二月二十四日　村川寛吉実父看病のため高島行き願の事

一東島主馬之允、於高島相煩候付、為看病村川寛吉罷越度、左之通相願ニ付、往来板札弐枚被相渡候

口上覚

一東嶋主馬允儀、高島江為御番差越被置候所、不計大病相発難気仕候段申越、如何様子御座候哉、不安心之義ニ而、就而者、間柄所を以、一刻も早々為看病罷越度御座候、依之御指支之儀無御座候ハヽ、明廿三日ゟ向三拾日之間、御内々ニ而御暇奉願義御座候条、

何卒往来札弐枚迄差出被下度、旁宜御聞啓被下候様、
此段可然様、致御願候、已上
二月廿二日　村川寛吉
嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

810　文政七年四月十日　真田流砲術内試の事

一真田流東島逸馬門弟、角前御内試有之候付、御酒拝領有之

811　文政七年五月十一日　斉直滞府に付、紀伊守名代として出崎の事

一今度、長崎御番肥州様御滞府ニ付、為御代勤、今朝七ツ時御供揃ニ而御出崎被遊候、委細左之通
（後略）
五月十八日
一長崎御番御代勤首尾能被為済、今夕七ツ時過御帰館被遊候、御手数左之通
（後略）

812　文政七年五月二十一日　高島行き願の事

一村川寛吉ゟ左之通御暇願有之候付、如願被仰付候
奉願口上覚
私実父東嶋主馬之允儀、高島番被仰付難有相詰罷在候所、先達而不斗病気差出、甚難渋罷在候処、当節向番交代時分ニ候得者、何れ之振合共ニ候哉、甚無心元、且者旅中介抱為旁、私彼地罷越度奉存候条、御支所無御座候者、日数廿日御暇被為拝領被下度奉願候、此段宜被仰達被下候、以上
五月　村川寛吉印
嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

813　文政七年五月二十七日　高島番の事

一高島向番交代相済、左之人々昨夜帰着
東嶋主馬之允
藤島八左衛門
足軽弐人

814　文政七年六月四日　斉直滞府に付、紀伊守名代として出崎を命じられる事

一今日御家老二ノ丸御用申来候付、園田主計殿御出之処、御代勤之儀、左之通書付を以、日向殿被相達候
殿様御事、此節御滞府ニ付、追々紅毛船入津之上者、長崎表御見廻之儀、為御名代紀伊守殿被相越候様被仰出候
六月十日
一昨九日、御家老二丸御用ニ付、西造酒殿呼出之所、鍋主水殿より長崎御代勤付而御書付被相渡候写左之通

今度、我等滞府付、長崎御番所見廻等之儀、其方江名代申達候、付而ハ自然彼地江黒船并相替候船来着之到来候者、早速長崎可被相越候、尤右之節、都合為心遣鍋島山城罷越候様申付置候条、万端無迦可被申談者也

文政七年五月朔日　　肥前守御判

鍋島紀伊守殿

奉書堅紙上包同紙折懸ケ

手頭

右御請書

一筆奉啓上候、向暑之砌御座候所、弥御勇健可被成御座、珍重御儀奉存候、然者、今度御滞府ニ付、長崎御番所御見廻等之儀、私江御名代被仰達候付而者、自然彼地江黒船并相替候船来着之到来候者、早速長崎罷越候様、尤右之節、都合為心遣鍋島山城罷越候通被仰付置候間、万端無迦可被申談旨、家老之者御呼出以御書付被仰達奉得其意候、此段為可申上、捧愚札候、恐惶謹言

六月十九日

肥州様

進上

815　文政七年七月四日・六日　紅毛船長崎入津の事

一去ル二日、紅毛船一艘入津之趣、跡一艘之処者追々致入津候由申達候趣、左之通西丸ゟ申来ル

二丸受役所より則刻呼出被相達候者、長崎ニおゐて去ル二日紅毛船白帆相見、則日致入津候段、注進相成候、且又跡船壱艘一両日中ニ者可致入津申出候由、旁申来候、此段為心得申達候旨、坂田半九郎ゟ被相達候、此段及御懸合候、以上

七月四日

尚々御側方江ハ別段不申越候条、御役内より被相達可被申候、以上

七月六日

一紅毛船入津ニ付而者、彼之表為御見廻、来ル十一日ゟ御発足御日取被仰出候付、右之趣二丸江達込相成候様、西丸迄申越相成候

816　文政七年七月十一日　長崎名代に付、斉直より達の事

一今度、長崎御代勤ニ付、肥州様御達之次第ニ付而者、彼表異変之節者早速御道報被差出候て不相叶候趣ニ付、御出陣御仕組方御雇左之人々被仰付候

棹役ゟ御出陣方兼　　神代次兵衛

当分御出陣方御雇　　鴨打勘左衛門

一右御達書左之通、尤造酒殿御出ニ而主水殿ゟ被相渡候

今度我等滞府ニ付、長崎御番所見廻等之儀、其方江名代達候、付而ハ、自然彼地江黒船并相替候船来着之到来候者、早速長崎可被相越候、尤右之節、都合為心遣鍋島山城罷越候様申付置候条、万端無迦可被申談者也

五月朔日　肥前守

鍋島――――殿

817 文政七年七月十九日　長崎御仕組方より異国船渡来に付、報知の事

一長崎御仕組方より異船相見へ候一件ニ付、左之通相達有之

当五月末頃、奥州本多弾正少弼様御領海辺江異国船相見、就中常州水戸様御領分江致上陸等候ニ付、向寄御領主方より御人数被指出候趣、公辺御届相成候由、将又先月十六日大隅国種子島沖江異舟渡来ニ付、浦々国之人数手配相成候処、遙ニ沖合江走出何方江乗行候哉不相分、格別子細も無之趣ニ候得共、其段長崎御奉行江御届有之候由、此御方為御心得薩州家老中より飛札を以申来候、就而者不意之義等可致出来哉も難計事候、勿論先般被仰渡置候長崎御仕組之旨、何れも承知之義ニ者候得共、猶又為心得相達候様、御頭人方御申候、已上

申七月　長崎御仕組方

七月二十一日

一長崎表万一異船等渡来之砌、御国其外御仕組帳之趣、御承知被遊度被仰出候付、御願入相成候末、御印帳之義ニ而御写取之義も容易ニ難参訳ニ付、御仕組方役石井又左衛門桜岡持参ニ而入御覧候旨相達候末、今日被罷出候、依之小松ノ間ニ而酒食等被為拝領筈之所、小松ノ間差支ニ付使者之間ニ而被差出

一立宿小原定蔵宅

一宿案内引付として足軽壱人、朝日町江差出置候事

一其末御式台ゟ被罷上候付、使者之間へ引茶・たはこ左候而御前被罷出

一御料理壱汁三菜　外ニ香物

一吸物　一　一肴弐

一取肴　一菓子

一御目録金弐百疋被為拝領、御用人達

一右挨拶十太夫殿・川副又右衛門

一供之者へも酒食出ル

一帰之節、御広間番下ノ板ノ間十太夫殿上ノ寄付御用人戸際

一今夜一宿ニ付定蔵宅ニテ酒食出ル

818 文政七年七月二十三日、八月一日　長崎御番所見廻の事

一今晩八ツ時、御供揃ニ而長崎御番所為御見廻被遊御発駕候、御手数左之通

（後略）

八月一日

一殿様益御機嫌能、長崎御番所御見廻無御滞被為済、今

昼九ツ時過御帰館被遊候、右御手数左之通
（後略）

819　文政七年八月九日　前田三省京都へ遊学願

一前田三省為遊学京都へ罷越度、左之通願出候付、願之通被仰付候

奉願口上覚

私倅三省義、医術未熟ニ付、折を以京都遊学為仕度、年来存立罷在候得共、時節柄共ニ而夙志空敷押送罷在候所、最早年頃ニも相成、只様時日を過候訳も無御座候ニ付、非常之調略を以、京都室町通罷在候山本静達江指越、親炙為仕度奉存候条、向五ヶ年も御暇被為拝領被下度道者有御座間敷哉奉願候、勿論滞京中成丈自分格護ニて辛々ニも取続御上御難題不奉掛儀ニ御座候得共、何卒山田救安・布上恕斎等追々滞年帰国仕候上ニ而、兵糧銀被差出被下度、旁奉願上候、於然者、御蔭ニ年限中取続一際差部医術如形熟練仕向以者、御用之一端をも相勤候通有御座度御厚慈之程千万難有奉存上候条、幾重ニも御憐恕之御評議被成下、如願御聞啓相成候様、支所無御座候半、、筋々宜御相達可被下義、深重致御願候、以上

申六月　　前田元節

嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

一右ニ付、五ヶ年限御切手、十太夫殿より御乞出ニ成ル

820　文政七年八月二十二日　長崎番方より呼出の事

一長崎御番方之儀ニ付、急成御用談之義御座候条、今日殿様二丸御出被遊候様申来候付、朝五ツ時御供揃ニ而佐賀御越被遊候

821　文政七年十月一日　布上恕斉より暇願の事

一布上恕斎ゟ医学為稽古参州罷越度、左之通御暇願有之候所、如願被仰付候

奉願口上覚

私儀、為医学修行御暇奉願、参州平井海蔵江罷越候而、随身仕筈候所、同人去夏ゟ長崎表蘭学為執行罷下候付、随身罷下候節角稽古仕筈候半、此節無拠致帰国候付、又々随身罷登度奉存候間、当申年ゟ向亥年迄四ヶ年之御暇被仰付被下度奉願候、於然者、御蔭ニ無恙随身罷登於又稽古方相励同様之末々者御用之端ニも相立度奉存候間、御恵恕を以、願之通被仰付被下候様、重畳奉願候、就而者、当時之御半難奉願恐怖至極奉存候得共、願之通被仰付於被下者、打追之通、兵糧丈大坂御屋敷ゟ被仰付被下度、且又深重奉願候、右旁格別之御憐恕を以、願之通相済候様、致御願候、已上

申九月　　布上恕斎

嬉野又兵衛殿
持永治兵衛殿

822 文政七年十一月二十日・二十一日　砲術稽古上覧に付、酒肴拝領の事

一於新御座敷、武衛流砲術被遊上覧候付、御酒肴被為拝領候也

酒　八升
鯛　壱枚
数のこ　五升

飯田仁四郎

十一月二十一日

一於同所、真田流砲術被遊上覧候御酒肴被為拝領候也

但出人数三拾人

酒　四升
数の子　三升

東島逸馬

823 文政七年十二月五日　山田救安より参府願の事

一山田救安ゟ左之通願越候付、願通被仰付旨、一類犬塚市右衛門迄付役ゟ申達

願口上覚

私儀、医学稽古五ヶ年之御暇相願、尾州御家医浅井頼母江随身罷在候所、江戸罷越可然名家江親炙一両年致出精候ハヽ、猶又修行可相成、同人被申勧、兼而其志願も御座候付、明春早々出府仕度奉願候条、何卒御聞済被下候様、筋々宜御相達可被下候、已上

申九月　山田救安印

嬉野又兵衛殿

持永治兵衛殿

文政八年（一八二五）

824 文政八年二月二十一日・二十六日・二十七日　砲術稽古上覧の事

一武衛流砲術、北浦堤土井ニおゐて上覧被遊候、朝五ツ時御供揃、尤御忍ニ而御出被遊候、右ニ付、門弟中へ左之通御酒肴被為拝領

一酒　壱斗
一塩鯛　二枚

二月二十六日

一真田流砲術、岡ノ前ニ而上覧有之、尤両日ニ有之

二月二十七日

一真田流砲術、北浦堤土井ニ而上覧被遊候、右ニ付、御酒肴拝領左之通

一酒　五升
一塩鯛　二枚

825 文政八年三月四日　紀伊守参勤延引の事

一今度、御参勤御延引ニ付、江戸・大坂江今日付廻ニ而態度御手飛脚大坂迄被差越候足軽古川太平次大里道中二日・中国路七日限ニメ被差越、江戸文箱ハ大坂ゟ六日限急町便ニ而被差下候様申越

一右延引之義、肥州様江以御使者被仰上候、御口上書左

之通、右御手数一通、委細御用人方日記ニ有之

口上覚

弥御勇健被成御座、珍重御儀奉存候、然者、私儀、為参勤、来ル六日出足仕心得罷在候所、近日持病之疝積差発、寒熱往来仕、気体不相勝、折角加療養候得共、何分押而も発足仕候体無御座、乍迷惑延引仕候、少も快方御座候得者、直ニ出立可仕奉存候、此段御老中迄宜被仰達可被下候、従私も御届仕儀御座候、右為可申上、使者差上候

三月四日　　御名

犬塚七郎右衛門
持永伝一
足軽三人

826 文政八年三月二十四日、四月七日・十七日　高島番の事

一当夏高島番左之通被仰付候旨、御当役被相達

当夏高島番　　犬塚七郎右衛門
同所守衛筒方役　　持永伝一

四月七日

一当夏高島番足軽、左之通被仰付候、付役達

藤嶋清左衛門組
中原忠蔵
五郎川徳兵衛組
田中八右衛門
松本弥左衛門
大家甚右衛門

役内目付兼

四月十七日

一当夏高島番被仰付置候人々、今朝より被差立候

827 文政八年四月二十三日　紀伊守参勤延引の事

一来月中御参府御延引被遊候付、肥州様江左之通御使者を以被仰上候

口上覚

弥御勇健被成御座珍重御義奉存候、然者私先頃ゟ之疝積折角療養仕候得共、今以用篇之上、腹中拘攣相加、気体不相勝、何分長途之旅行難仕、惣而今度参勤之頃合遅滞等仕候通ニ而者、公辺之御首尾合ニも可相掛亘、気之毒奉存候、依之押而も出逢仕度相心得候得共、前文之様子ニ付不任所存、最早五月中参府不相叶、迷惑奉存候、此段御老中迄宜被仰達可被下候、従私も以使者御届仕義御座候、右為可申上使者差上候、以上

四月廿三日　　御名

828 文政八年五月四日ほか　高島増番一件の事

一高島守衛方増番之義、御仕組方より左之通相達有之

当御非番御自領島々固諸家来詰方之義、跡方比競高島之義ハ則ゟ伊王島・上島者当月十五日ゟ地詰并増番入テ伊王島・高島之義、物頭壱人・筒方弐人・足軽弐拾人充、上島之義者筒方弐人・足軽五人詰方被仰付義候

条、可被得其意候、以上

酉五月三日　　御番方

五月七日

一高島増番一件ニ付、問合懸置候処、左之通懸合相成候

高島増番之義、頃日御番方ゟ調達之次第及御懸合候所、一体是迄之処、物頭壱人・筒方平士并足軽御達通ニして守衛方物頭之義者前断遠見方ゟ心遣、自然之節者指繰有之候通ニ而不苦義共ニ而無之哉、委曲御懸合之旨を以御番方内々及示談候所、前断通ニして今筒方侍壱人并足軽弐拾人被差越、物頭ハ地番より請持有之候通ニて可然、尤最前達帳通不日ニ出立有之候通有御座度、旁米倉兵太夫ゟ被申聞候、左様御心得可被成候、以上

五月七日　　犬塚與三右衛門

五月十一日

一高島守衛方増番之義、先日御番方ゟ相達之末ニ付、左之通被仰付候旨、御当役被相達

高島筒方増番　　田島七太夫

五月十四日

一当夏高島守衛方増番之義、先達而御番方ゟ相達有之候処、当時之御振合共ニ而者、多人数被差越候御手繰も出来兼、勿論場所柄之事ニ者候得共、若哉物頭之場所地番方受持ニ而相済事ニ者有之間敷哉、其筋聞繕相成候様、西丸掛合越候末、左之通返書到来ニ付、大塚七郎右衛門受持ニして足軽之義も此節拾弐人被差越、地番方被加、都合弐拾人之高ニ満合也、作略之取計相成候通、田島七太夫へ含越、惣而此度足軽弐拾弐人被差越候内、弐人前と田島主従前ハ守衛方受負銀之内ゟ如打追諸渡方有之、拾人之者江者深堀より相渡候、弐拾人前兵粮之内、作略八人分相残候米を田島引受彼表ニ而売捌菜代体之渡方取計同人帰郷之上、勘定取〆受役所納帳有之候通被仰付候

高島増番之義、此間御番方ゟ任相達之旨、例年守衛方増番足軽五人被差越来候上ニ、今又拾五人相加、都合弐拾人之高ニ被差越事ニ候条、於彼表兵粮渡方等右弐拾人前被相渡候義ニ可有之、自然間違等相成候而ハ、甚不可然、惣而遠見方足軽之分ハ兵粮、其外万事御手前渡ニ候得共、守衛方之方ハ深堀在番方より被相渡来候間、間違候義共ハ有之間敷哉、於其御方ハ右弐拾人前相渡候御心得ニ而、追々被差越事候条、右之趣御番方承合否可及御懸合旨、致承知候、右役筋承合候所、物頭壱人主従何人前歟筒方両人主従足軽弐拾人前ハ在番方より兵粮被相渡義御座候段、藤本又一郎より被申聞候、自然為何歟間違之義も候而者、近日中より同人為深堀詰罷越事ニ候得者、其通取計可申心得、是又被申聞候、此段旁為御答如此御座候、以上

五月十四日

一高島増番足軽十二人被仰付候、偖又就右、左之通書付を以相達手〆之義ハ犬塚七郎右衛門心遣有之候通仰付越ニ成ル

今般高島詰として被差越候訳者、近年異国船諸所之沖ニ漂相見、就中去秋薩州宝島ニおゐて及狼藉候付、異国御手当之義、猶又今度従公儀厳密被仰出候次第有之、旁之故候間、新敷不及沙汰候得共、自然長崎

表渡来之節ハ銘々頭物（ママ）（物頭カ）々々を以、打取候
覚悟勿論候条、一統粉骨差部必も未練之働せしめ、
御外聞を不奉穢通之心掛専要候事
一兼而御法度之条々者不及申、如睦甲冑前共、万事地番方
守衛筆頭人之指揮を受、聊も猥ヶ間敷卒忽（ママ）之振舞致間
敷候事
一喧嘩・口論堅令停止候事
附、緞令及闘論候程之意趣を含候次第有之候共、詰
中之間者相慎、帰着之上、訴出候半者、屹度御裁許可
被仰付候事
一御用辺之外、他参致間敷候事
一飲酒堅令停止候事
一詰中万端質素倹約相守、聊も緩ミ及沙汰候義、堅令停
止候事
附当時之御半共ニ而者、詰中一統格別之御当介も不被
行届候条、兼而被相定置候兵粮体之分ニ而、成丈質素
を守勤番可致事
一右之条々、堅可相守、自然背其旨候者於有之者、屹度其
咎可被仰付、猶犬塚七郎右衛門江右手締被仰付越事候
条、聊猥之義等無之様、一統可相心得候、以上
酉五月
右之趣奉畏候、以上
足軽
―
―
―

五月二十三日
一高島増番田島七太夫義、足軽拾弐人之内、拾人今朝ゟ
出立
五月二十九日
一神代善太夫義、高島為守衛方、早速出崎被仰付候旨、
御当役被相達
但守衛方物頭之義者、地番方ゟ受持可然旨、最前御
仕組方より沙汰有之居候得共、右者不案内ニ而間違相
成、全其通ニ而者不相叶ニ付、是非物頭被指越候様、
今又相達ニ付、本文之通取計ニ成ル
六月七日
一守衛方増番神代善太夫并足軽弐人、今朝より出立
一同人主従五人在番中、兵粮之儀者、深堀より相渡候付、
菜代其外諸雑費者足軽弐拾人前之内八人分作略相成候、
残米ゟ渡方有之候通、田島七太夫へ申越候也

文政十年（一八二七）

829 文政十年一月十六日・十八日　オランダ人献上物牛津通過の事

一今度紅毛人献上物牛津通路ニ付、左之通、佐嘉御蔵方
ゟ被相達候段、大木七兵衛へ被申聞候
当春阿蘭陀人献上物来ル十五日長崎仕出、此内弥十
郎其外才領ニ而御領内通路ニ付、休泊之儀ハ最前相達
置候得共、才領人数偖又人馬数等致物落候付、今又
左之通候条、筋々懇ニ可被相達候

荷物附

一献上物入長持　拾三棹
　此人足百拾人程
一同皮篭　六拾箇
　外ニ御用帳面入三箇副、此高弐拾壱疋程
一御用箪笥　弐拾
　此人足拾弐人程
一長持　六棹程
　此人足百弐拾五人程
一勘定箪笥　壱指
　此人足六人程
一打上ヶ引戸駕籠　五挺程
　大通詞
　小通詞
　触頭
　役所附

　此人足弐拾人
一引戸駕籠　五挺　勘定役
　此人足拾五人程　献上荷物方
一指駕籠　拾弐挺程
　此人足弐拾四人程
一両懸　拾壱荷程
一合羽駕籠　弐荷外ニ此竹馬副
一宿駕籠　拾五挺程
一本馬乗迄　拾三疋
一同駄荷　拾五疋程

役人附
献上物添御役所附触頭
　竹内弥十郎　内弐人
御役所附　緒方勝太夫　内弐人

　献上物附添
大通詞　末永甚左衛門　内五人
小通詞　岩瀬弥十郎　内五人
勘定元　木村宗次左衛門　内壱人
勘定役　加藤佐久助　内壱人
同　吉田卯三太　内壱人
同拾献上物方　小川善之允　内壱人
献上荷物方見習　小川要吉郎　内壱人
献上物才領人　蒲原豊八
　平野官吉
　藤井龍蔵
　瀬下豊蔵
　儀八

宿割
休　泊
正月十五日長崎出立
矢上　永昌
同十六日
大村　彼杵
同十七日
嬉野　柄崎
同十八日
牛津　佐嘉
同十九日
中原　田代
同廿日
山家　飯塚
同廿一日
木屋瀬　小倉

一月十八日
一阿蘭陀人献上物并附添之役々、今日九ツ時過頃、牛津駅参着、休内相変儀無之、同八ツ時過頃出立相済申候段、出役之中島寛兵衛より注進被申達候

830　文政十年二月十二日　御ヒ任命の事

一左之人々、左之通被仰付之旨、御当役十太夫殿被相達候、立会太田権兵衛・川副又右衛門・高木忠右衛門
（前略）
御内御ヒ被仰付候　原口宗益
御ヒ分被仰付御参府御供　原口宗与
（後略）

831　文政十年三月六日・七日　長崎代勤挨拶の事

一長崎御代勤被遊候御挨拶として、従肥州様左之通被進候
羽二重拾巻
みそ漬鯛　一桶
右者殿様江
金子　弐千疋
右者御家老中江
白銀　三拾枚
右者長崎御供懸り合役人中江
右之通被進候趣、奉札を以西丸迄御到来被成候事
三月七日
一去秋長崎御代勤被遊候ニ付、肥州様ゟ上様へ被進物并御家老其外御供中拝領物之御請、今日御年寄中江廻勤有之候
御供中惣代　造酒殿
西岡権太夫

832　文政十年三月七日　文武稽古達

一今度遊出之御書附被仰出候付、今日御家中侍・小頭・御徒士迄桜岡御呼出、寄附之間ゟ御広間ニ被召集、御

当役善左衛門殿ゟ仰出之趣被相達、附衆持永治兵衛読之立会左之通

御使者之間西頭　兵庫殿
北望列席　四郎右衛門殿
宮内殿
造酒殿
善左衛門殿
主計殿
御広間裏通之間　太田権兵衛
南御襖際う南頭　星野二右衛門
東向ニ出席　関与右衛門
学校指南役
太田小源吾
留守嘉兵衛
綾部四郎太夫
鴨打大之進

遊出之写

当時太平世録之他ニ落シ、自然と毎物奢侈ニ相流、遊惰安辺を甘シ、礼儀廉恥之心薄次第ニ士風衰行候有様ニ候、惣而家中として文武之道不鍛錬ニ而者如睦甲冑共物之用相立兼可申儀、新敷不及沙汰候得共、何れも常々其心懸勿論ニ候、尤年来勝手向不如意ゟ減石等申付置候得者、一統令困窮内製等相営候向茂有之候由無余儀事ニハ候得共、恒産なくして恒心あるもの唯士而已とも有之候得者、全衣食足満候(ママ)而之後、文武之修行心懸候訳も有之間敷、難渋辛苦之中、面々其得たる所可成筋を成丈令修行候社、誠之志共可申候所、間ニ者閑暇有之候而も時節柄を口実ニいたし、文武之稽古相惰候もの有之哉ニ而不宜事ニ候間、已来一統心得違之もの無之艱苦中なからも其志を励し、相応々々之用立候覚悟有之候様、父兄師友として不及申、寄親并組心遣・組代中ゟ申諭可致候、且不孝不弟之者ハ無之哉、或者賭之諸勝負を好、或者分外之奢をなし質素淳朴之風取失ひ候体之義者無之哉、互ニ時々糺合、其上教諭不相用者有之歟、将又格別志厚く抜群之者有之哉、両様共不閣筋々申達次第、大物頭としてハ其褒貶吃度可令吟味候、就而者明年帰邑之上、家中一統文武共組分を以相試可申候条、只今ゟ右之心得を以取締、文武之稽古可致候、尤極老・幼年・病身ニ而修行難成者、将又中年已上ニ而当時役懸り閑暇無之者ハ名元取調子、組筋并文武方ゟ可相達候、旁之旨、端々迄懇ニ申達可置者也

亥三月

833　文政十年三月八日　鍋島直堯参勤の事

一殿様明九日ゟ為御参勤被遊御発駕筈之所、御本家様ニ而御用談之筋有之趣ニ而、右御評決不相成已前御発駕被成候通ニ而者、惣御用差支と相成趣、右ニ付而今暫く御延引被成度旨、御頭役多美作殿、鍋十左衛門殿、鍋但馬殿ゟ御相談被申上、右之段ハ肥州様ニも御聞済相成居候由ニ付、無御拠、明日之所ハ差延候段被仰出候、尤御本家様ニ而右之次第ニ付、御延引被成候御唱ニ而者公辺之御都合不宜義ニ付、無是非御不快之御唱ニ而被差延

ゟ外有之間敷ニ付、左之通今日御使者を以被仰上候、
勿論右之御取計相成義ハ最前御進物方江西丸ゟ内談有
之候事
口上覚
弥御康健被成御座珍重御義奉存候、然者私儀為参勤
明九日出足仕心得罷在候所、時候相障、夜前ゟ寒熟
往来仕、頭痛強、気体不相勝、折角加療養候得共、
何分押而も発足仕候体無御座、乍迷惑延引仕候、少茂
快方御座候者、直ニ出立可仕奉存候、此段御老中迄宜
被仰達可被下候、従私茂御届仕儀御座候、右為可申
上使者差上候
三月八日　鍋島紀伊守

834　文政十年三月十三日　武雄入湯願の事

一左之人々、入湯として武雄筋罷越度、左之通御暇願有
之候所、如願相済
願口上覚
私儀、近頃持病之疝癪相発、腰痛強、甚難渋仕、色々
療養相加候得共、兎角相勝不申、只今之様子ニ而者長
途之御供等甚無覚束奉存候、依之武雄罷越浴湯仕見
度奉存候条、当時之御半難奉願御座候得共、若御支
所無御座候半ハ、明日ゟ向日数一七日御暇被為拝領
度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、已上
三月十三日　川副又右衛門
願口上覚
私儀、痛所御座候付、入湯仕度奉存候条、御支無御
座候半ハ、明十四日ゟ日数七日御暇被為拝領被下度
奉願候、已上
三月十三日　江越吉兵衛

835　文政十年三月十三日・二十四日　松島丸破却の事

一佐嘉御蔵方ゟ松島丸御船破船之義ニ付、取計向之義、
左之通被相達候段、西丸ゟ申来
今度紀伊守殿乗船松島丸拝借被差出候所、筑前領海
於地島及難船候付、右支配として彼方役々差出相成
候様取計振之儀、委細犬塚与三右衛門より達之趣御
吟味之所、御船修理其外見積之義ハ番匠・棟梁壱人
被差越、成丈解船不相成候様、夫共何分修理難相懸
何れ細船相成候半而不相叶義ニも候半ハ、早速爰元
懸合越候様、且又流失品之義ハ御船方扨又小城出張
之役々立会夫々取調子相成候通於御相続方御頭人御
聞届相〆候条、筋々懇可被相達候、已上
三月　御蔵方
三月二十四日
一佐嘉御相続方より左之通被相達候段、西丸ゟ申来
紀伊守殿参府用御借船被差出候松島丸、筑前領於地
島致難船候所、修理相加候通可有之哉、又者細船ニメ
伊万里可被差廻哉、且損物流失之品等も可有之、御
船柄彼方一手之取計難仕旨達出相成候付、流失品等
之儀者御船頭偖又小城役々立会、夫々取調子相成候
様、左候而御船之儀者成丈細船不相成候通見積被仰付、

自然修理難相懸解船相成候半而不叶儀ニも候半、早速爰元申越候様被相差越候末、伊万里乗廻之分ハ枕堅いたし候半、押々可然旨、右棟梁より申越候段達出之趣御吟味之所、一刻も右之修理小城ゟ相調、伊万里乗廻相成候様、尤棟梁之儀者大図修り手寄候迄之所、滞留罷在候而一体之義者伊万里着船之上、役々見分被仰付旨、於御相続方御頭人御聞届相〆候条、筋々可被相達候、以上

三月　　御相続方

836　文政十年三月十四日　宮崎救民母内目付女中を命じる

一宮崎救民呼出ニ而、左之通被仰付之旨、相談役達

宮崎救民　　母親

御内御目付女中

837　文政十年四月五日・十二日・十六日　松島丸乗組員遠慮之事

一御召船天山丸之儀、去月廿九日筑前地島出航之末、呼子浦滞船ニ而、天気見合有之、昨四日昼九ツ時頃山代楠久津致着岸候段、横尾唯七ゟ注進申来

四月十二日

一横尾只七より左之通御届有之

私儀、天山丸乗船ニ而一昨九日晩宿許帰着仕候、就而者今度御召船松島丸筑前地ノ島ニ而致破船候付、於私是以奉恐入候次第御座候、畢竟何角不行届儀乍今更遠慮引入儀御座候条、此段筋々御相達可被下候、以上

四月十一日　　横尾只七

四月十六日

一横尾只七儀、遠慮之所、御前様達御聴、今日被成御免候

838　文政十年四月十三日　北浦にて放出稽古願の事

一於北浦村東島逸馬弟子中放出仕度旨願有之、右ニ付、夫丸六人、賄俵四俵、小竹壱束、縄弐形被差出被下度、在方願有之候所、願之通被仰付候

839　文政十年四月十三日　松島丸着岸の事

一松島丸着岸ニ付、御蔵方、御船方、其外へ相達相成候様、西丸申越候所、則相達有之候所、見分等之儀ハ追々評議之上否為知可申由、犬塚与三右衛門ゟ返答有之

牛津新町　　袈裟右衛門

卯十

右両人御雇船子ニ而松島丸へ乗組廻船之所、筑前地島ニ而逢難風、行形不相知ニ付、右両人家内へ御合力として被下候也

840 文政十年四月十八日　北浦稽古の事

一於北浦堤土井東島逸馬門弟鉄砲遠的稽古ニ付、左之通願有之候所、願之通被差出候

一夫丸　弐人
一五寸竹　拾本
一すり縄　壱形

841 文政十年四月二十日・二十三日　異国人牛津通行の事

一異国人并附添之役々牛津駅通行之先触到来之段、大木七兵衛ゟ被相達候

松平出羽守様預所隠岐国島前海士郡海士宇津賀両村境沖相江異国人拾弐人致漂着、従公儀長崎へ被送遣候付而、明十二日雲州松江令発足候、於宿々異国人并宰領者乗馬従五疋、其外荷物附候本馬壱疋・から尻壱疋、人足四人御入用之間、遅々無之猶手合可有之候、以上

亥四月九日　　松平出羽守内御預所懸り
永井角蔵

長崎迄宿々
問屋中

追而異国人若於途中病気等ニ而宿駕籠人足等御入用等も候半ハ、手合遅滞無之様、用意可有之候、且又出立一日も相延候も難計其心得可有之候、以上

四月二十三日

一松平出羽守殿御預所隠岐国海士郡ニ漂着之朝鮮人十弐人長崎表へ被差越候付、附添之役々今日牛津休ニ付、例之通昼飯被下之候、右ハ郡方ゟ万事取計有之儀ニ付、中島寛兵衛出張有之、何之無別条通行相済候段、同氏ゟ注進有之候

842 文政十年四月二十一日　武衛流稽古の事

一浜御茶屋前ニ而武衛流砲術合図稽古打仕度、右ニ付、左之通被差出度、旁願有之候付、願之通被差出候

一夫丸四人
一縄三形
一杉木弐本

文政十三年（天保元・一八三〇）

843 文政十三年五月二日　学館にて軍書会、役人出席の事

一於学館軍書会有之、各方初役人中出席

844 文政十三年五月十二日　学館にて軍書会の事

一学館軍書会有之

845 文政十三年六月十五日　祇園会にて怪我の者を診療の事

一二瀬川村百姓幸右衛門弟久太郎と申者、挽山出夫いたし候処致怪我候付、医師被相掛候

846 文政十三年六月十六日　長崎仕組方より呼出の事

一左之通長崎御仕組方ゟ申来候
長崎御仕組被仰渡候条、明後十七日朝五時御城御出可被成候旨候、以上
六月十五日　坂部三十郎
執行玄蕃
大塚頼母
井上孫之允
西造酒様

847 文政十三年六月十六日　河鰭家製薬披露断りの事

一河鰭様家製之薬披露相成度一件ニ付、中川様ゟ公辺伺御付札左ニ
文政十二丑八月七日、水野出羽守様御勝手江御内慮伺候処、同十月十五日御書取を以、寺社奉行へ相伺候様御差図相済候付、同廿三日寺社奉行松平丹後守様江差出置候付、寅三月十五日御附札相済
一河鰭前大納言様ゟ御家製之薬国々江御家来并御用達之者被指向相対ニ御披露被成度旨ニ而、修理太夫領分江茂披差向候趣ニ付、御案内旁被仰入候、然所、領内江右御家来罷越申候而ハ種々差支之儀茂有之、一体遠国之儀ニ而堂上方より右体之儀ニ付御家来等被指向種々之儀申聞及迷惑候儀御座候旁、何卒可相成儀ニ御座候ハ、、以来不被差越候様御断申候而茂不苦儀御座候哉、右之趣相伺候様、修理太夫申付候間、此段奉伺候、以上
十月廿三日　中川修理太夫内
市浦柔助
御付札
書面河鰭様家家来并用達之者差向、家製之薬御領分村々江相対ニテ披露いたし候儀、御領主ニおゐて指支之儀茂有之候上ハ、河鰭家江被及断不苦儀候所、官家ゟ武家江直掛合者不相成筈候間、御領主ゟ可被及挨拶筋無之ニ付、右申達之趣河鰭家江通達有之候様、其筋江相達置候、以上
寅三月

848 文政十三年六月十八日　大草能登守長崎在着に付、海月進上の事

一秀島八右衛門儀、此節御在着為御使者長崎被指越候御奉行大草能登守様江海月一桶被進之、佐嘉御屋敷聞役江茂御使者被相勤候也
（中略）
一長崎表御館入中村佐五郎ゟ左之通献上有之候付、奥向

指上候
一御肴　一折
一氷砂糖　一箱

849 文政十三年六月二十三日　秀島吉右衛門より信州様通行時の掃除につき申達の事

一秀島吉右衛門江左之通付役ゟ申達
去ル四月十六日、信州様従長崎御帰城之砌、俄ニ牛津御小休相成候旨、其筋ゟ相達有之候付、徳本庄助・中島半兵衛其外掃除等万端手当方ニ頓着いたし居候半、不斗御通抜相成不存寄御無礼申上候由、依之此度其御手当被仰付儀候、惣而ハ御場所柄之儀候へハ、諸家様御通行之節、縦令御休泊不相成候共、差掛り御小休等相成間敷物ニ茂無之、且ハ兼々掃除等手当相成居候通取斗無之而不叶儀候条、是迄之仕来ハ兎茂角以来之処ハ、右之心得ニ而万端御不都（合欠カ）之儀等無之通可被相心遣候、此段相達候様有之候、以上

一右之末、同人ゟ左之通、用捨御届申上相成
口達
御達之趣奉承知、勿論御場所之儀御座候へハ、兼而御不都合無之通手当仕置候半而不相叶儀ニ御座候処、畢竟、其儀不行届処ゟ去ル四月、信州様御通行之砌、御不都合之儀を茂出来いたし、今更深重奉痛入候、依之則用捨引入申候、此段筋々宜被仰達可被下候、以上

六月廿三日　秀島吉右衛門
右御免振ハ伺之上、翌廿四日被成御免候事

850 文政十三年六月二十七日　流行病に付、宮崎救民施薬の事

一山内杉山村流行病ニ付、御施薬宮崎救民江被仰付候

851 文政十三年七月十九日　病流行に祈祷の事

一芦刈筋馬病流行ニ付、転除の御祈祷行乗坊へ被仰付候

852 文政十三年七月二十二日　病流行に祈祷の事

一杉山村流行病今以不相除候由ニ付、転除御祈祷行乗坊へ被仰付候

853 文政十三年七月二十五日　病に付、組返上の事

一今泉市之允儀、五日已前ゟ病気差出、昨今差重快気之程茂難計ニ付、被相預置候組指上候旨御届有之
一右之末、市之允病死仕候段、倅右兵衛ゟ御届申上候事

854 文政十三年七月晦日　井内伝右衛門へ従身願の事

一成富又之允・松枝大助ゟ御暇左之通相願候所、如願被仰付候旨被仰出候付、今日両人共呼出、其段付役ゟ申

達

奉願口上覚

私儀、文学方ニ付御本家家中井内伝右衛門へ折節罷越候所、同人儀、今度長崎御番所詰被罷越候由ニ而、格別之指支無之候ハ、可連越と可申聞候、然所右詰所ニおいてハ別而閑暇も有之事之趣ニ付、同人江親みいたし候ハ、、稽古方も出来、且者物馴ニ茂可相成ゆへ随身罷越度御座候条、当年中ハ暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜相達可被下候、以上

寅七月　　成富又之允

持永治兵衛殿

吉田勘右衛門殿

奉願――――――

文言同――――――

寅七月　　松枝大助〇

両人宛

855 文政十三年八月十一日　日出島二左衛門・大島覚左衛門湯治に付、暇願の事

一日出島二左衛門小瘡ニ而薬湯仕度ニ付、明十二日ゟ向日数十日御暇被為拝領度、願之通御聞済相成候

一大島覚左衛門痛所有之、明十二日ゟ日数十日、武雄入湯御暇相願候

856 文政十三年八月十三日　軍書会開始の事

一二七夜軍書御会、来ル十七日ゟ被相始候旨被仰出候付、各方始、左之通掛合ニ成ル

御親類中

御嫡子方迄

御家老中

右同

請役所詰中

番頭中

御蔵方中

郡方両人

学館指南役

文武方迄

857 文政十三年八月二十二日　流行病の節、難渋者につき早速

一今度無津呂・大串両御番所役被仰付候付而ハ、左之通被相心得候様御目付方ゟ被相達候

但し右御達書ハ御吟味〻之上、御当役方ゟ御目付方へ被相渡候也

諸御法度之儀、別紙之通兼而申達置候条、其旨を相守候哉否、念を入見聞有之、心得違之者へハ申諭、或者御法相犯候者ハ依品差押、其段可被申達候事

一遠郷之儀ニ付而ハ牢人、或者山伏・虚無僧体勧化合

力等無心申掛りヶ間敷族依有之郷内及難渋候趣相聞候条、以後右体之者一切入込不申候通心遣可被申候、左候而も不法相働候者有之節者、依品差押、早速相達可被得差図候事
一博奕、其外賭之諸勝負、兼而御法度ニ候得共、里郷ゟ不行跡者共罷登、不案内之百姓共相掛里賭之諸勝負を催、或ハ踊狂言を相勧、又者聊夫婦争論之儀も事八ヶ間敷成シ立、終ニ者百姓共難渋相移候通相企候者依有之哉相聞、決而不宜事候条、右様之筋見聞之時々制方難行届相見候半ハ、早速極内密を以、其次第可被相達事
一流行病等之節、土地之風俗ニ而打捨置、養生も不相加体之義有之、或ハ身ヲ近キ親類も無之極難貧窮之者、役筋不相聞看非命をも仕候体之儀有之候而ハ不相叶義ニ候条、夫等下々難渋之筋、見聞候次第、早速可被申達候事
一米取納役其外諸役人罷登、御上之御威光を以百姓共難儀相成候道々取計候者無之哉、扨又役内ゟ為聞合下目付共差越候節取斗振之善悪邪心、是又無疎様見聞可被申達候事
一月払之儀、両御番所江茂村役中ゟ仕候様相達置候条、取揃可被相達候事
一御上御為相成候筋ハ不及申、百姓共不為相成候筋ハ不依何事相気付次第、時々可被相達候事
以上
寅八月
誓紙

一於山内御領中、不依何事善悪見分仕候儀、無依怙贔屓厚有体御目付方へ言上可仕事
一私之宿意を以無科ものを讒、或ハ邪曲之もの藏申間敷く、且又自分之行佐をも相慎、万事就道理決断仕不苦之儀知而犯申間敷事
一御隠密之儀、当役御免之後茂他人之儀ハ不及申上、雖為親子兄弟聊口外仕間敷候事

天保二年（一八三一）

858　天保二年一月十九日　牛津に異国人泊まりの事

一昨十八日牛津駅ニ而阿蘭陀人献上物宰領之役々昼休、扨又松平周防守様領内漂着之異国人泊并隠州漂着之異国人休、何れも無滞相済候段、出張之郡方ゟ注進有之候事

859　天保二年二月十日　江島宗達医学稽古願の事

一左之通江島清八郎ゟ御暇願有之候所、如願被仰付候也
奉願口上覚
私弟宗達儀、年来医業稽古為仕居候所、最早年頃ニも相成候付遊学為仕度兼而存念罷在候、然所、松平阿波守様御藩中幸良斎（ママ）と申人蘭医為稽古数年長崎之方罷越居、此節京都之方江罷越、猶又修行仕候筈之由、右者別而名医之趣相聞候付、入門之儀内々手筋を

以承繕候処、随分其通可相整旨領掌有之候、依之御支所無御座候ハヽ、同人江随身京都差越医業稽古為仕度奉存候条、当卯年ゟ向未年迄五ヶ年之御暇被為拝領被下度、勿論遊学中万事手前覚悟ニ而少も御難題等奉願候存念ニ無御座候間、旁之趣被為聞召啓願通被仰付被下候様、筋々宜御相達致御願候、以上

卯二月　　江島清八郎

持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

860　天保二年二月二十五日　一代医師許可願について内慮伺の事

一東島市之助ゟ御内慮伺相成候処、伺之通被仰付候事

私儀、嫡子無御座候処、未老年と申ニ而も無御座候得共、多病之身ニ而日用相続之内(ママ)製も出来不仕処ゟ内證極々逼迫仕、既ニ及飢より外無御座参懸御座候、就而者御介抱米も奉願外無御座候得共、徒ニ御恩禄費罷在候上、尚又御難題之儀を奉願候通恐怖至極仕儀ニ付、可相成儀御座候ハヽ、御本方手明鑓平方利兵衛弟順碩三拾壱才罷成候を養子仕、左候而此者一代医師被差免被下度、旁奉願候心得御座候、於然者御陰を以介抱方者勿論、相続之道も押々相整向以者彼者御用之一端をも相勤候通御座候得者、無此上至極難有存候条、右者表向奉願候而も不苦筋ニ可有御座候哉、此段御内慮奉伺候、以上

卯二月　　東島市之助印

持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

861　天保二年三月二日他　軍書会の事

一二七之夜軍書御会、御発駕後今日ゟ於学校朝五ツ時ゟ四ツ時迄被相始候事

三月七日
一於学校軍書会有之

三月十二日
一於学校式日之軍書会ニ付、各方始何れも出席之事

三月十七日
一於学校各方始、例之役人中出席、軍書会有之候事

三月二十二日
一於学校式日之軍書会ニ付、各方其外出席

862　天保二年三月六日　園田善左衛門山内へ湯治願の事

一善左衛門殿、明七日ゟ山内湯治御暇願ニ付、右之段、御前様へも達御聴候事

863　天保二年三月二十日　鍋島兵庫親子山内湯治の事

一兵庫殿・邦衛殿、明廿一日ゟ向日数七日山内入湯御暇願有之候付、御内申上ニ相成候事

864 天保二年三月二十二日　主計山内湯治の事

一主計殿病所有之、今日ゟ向日数五日御暇願ニ而山内入湯被相越候、依之御前様江申上候事

865 天保二年四月五日　高橋八右衛門出奔の事

一高橋八右衛門出奔ニ付、隣国探促之儀、一類中ゟ人柄見立願出候様、年行司ゟ相達之末、左之通願出相成候付、其筋達出相成候様西丸申越

奉願口上覚

我々一類高橋八右衛門致出奔候付、隣国探促之儀、人柄見立願出候様御達之趣承知仕候、右者両人間探促方可奉願候処、何れも長病ニ而平臥罷在、何分其儀不任所存候間、一被官散分村罷在候末橋太右衛門江被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

卯四月　斎藤佐渡助印
藤山一印

持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

右之末、医師手形を以達出候様、西丸ゟ申来候付、其段相達候所、左之通出ル

斎藤佐渡助儀、当春以来ゟ類中風之症相煩、手足癱瘓筋脉拘攣等専有之、様々投剤仕候得共、于今一図薬験相見不申、拙医薬法調進仕候故、一札如是御座候、以上

卯四月　布上如斎印
藤山一儀、先達而ゟ疝続相煩寒熱往来、不食二便之歩行も不相叶、右ニ付、私治療相加申候儀相違無御座候、以上

卯四月　福地良庵印

（四）

866 天保二年三月八日　石動菅三郎高島加番御免の事

一石動菅三郎儀、当夏高島守衛方加番被仰付置候処、地来眼病気有之、当時就中不出来之由ニ而御断書差出相成候処、願向無余儀相聞候付御評議之上、願之通被仰付候段、菅三郎江相達相成候、委細相談人手控ニ有り

867 天保二年四月十五日ほか　高島夏番の事

一左之通被仰付之旨御当役十太夫殿御達

高嶋守衛方加番ゟ冬番迄詰続遠見方被仰付候

宮田文六

右者石動菅三郎江被仰付候処、眼病ニ而御断ニ付、其通被差免候段、附役ゟ御免状出、願書ハ去ル八日之所ニ記之

一西村権右衛門当夏高嶋番被仰付置候処、先達而親安右衛門死去ニ付、忌中引入之処、出張差懸物而親之忌ハ就中全ク受候通、旧冬尚又被仰出候訳も有之候得共、虎口前之御用差懸り付、無是非忌被成御免方ニ可有之

御評議之上其通被成御免候、御前様江達御聴候事
一高嶋番交代日限之儀、例年四月朔日出勢、同月十日向方江交代相成来候得共、其通ニ而者此御方三十日余勤越之姿ニ付、此御方ゟ交代も五月十日ニ有之宜敷儀ニ者有之間敷哉、久保田之方申談有之候通、西丸懸合相成候処、安永年中ゟ両度左之通達書相成候得者、日割之儀も御石高ニ割候儀ニも可有之候得者、五月十日頃ゟ被差出候儀ハ如何可有之哉と西丸ゟ気付候段申来候事
一安永九子九月十九日長崎御記録方ゟ左之通相調子可差出旨ニ而、書付被相渡候付、附紙ニメ左之通差出候事
一高島・伊王島・沖ノ島各様御家来番人被差越被相詰手数之事
附紙
高嶋罷越候番人、長崎罷着御屋敷へ釣合、其末深堀御役所江都合、夫ゟ御武具方江釣合御武具請取、御條目請取手形差出、其後高嶋罷越致交代候事
一右番人御定、主従何人之事
但従者部引詰切人数之事
附紙
但四月朔日交代、同十月朔日小番ニ交代仕候
番人主従六人鉄炮八挺持越番中詰切罷在候
一同足軽何人
附紙
足軽拾人罷在候
一大番之節、扨又小番ニ相成候節、詰人数之分り
附紙
但十月朔日交代、翌年五月十日向番交代
小番之節者主従四人・足軽四人
鉄炮四挺番中詰切罷在候
一御非番之節、右同断
一詰人数飯米上ゟ相渡候哉之事
附紙
小城ゟ相渡候事
一詰舩何艘宛相渡居候哉、御自分ゟ小舩等差出候哉之事
附紙
大番小番共番舩壱艘・舸子四人・船頭一人相渡居候、渡方等者上ゟ相渡候事
一右御非番之節、右同断
右之通御用有之候条、急度被相調子可被差出候、以上
長崎御番所　御記録方
口達覚
高嶋御番所、去ル辰年前地番夏冬人数御達仕候様被相達候付、左ニ
一侍壱人主従四十人
一足軽六人
右者四月朔日ゟ同九月迄、但遠見方兼
一侍壱人主従四人
一足軽四人
右者十月朔日ゟ翌年五月十日向番交代相整候
一辰年以来冬番之儀も大番之楯ニ無之而不相済旨、去ル未十月尚又御達之趣ニ付、当時夏冬地番差出候人数左之通、尤遠見方兼
一侍壱人主従四人

一足軽四人
一雇足軽弐人
右之通御達仕候様、在所ゟ申越候、以上
戌十月　横尾旧右衛門
原口弥左衛門殿
原口大三郎殿
右ハ文化十一年長崎御仕与にて出ス（中略）

一高嶋番西村権右衛門・東嶋市郎右衛門ゟ左之通願書相成候
奉願口上覚
私儀、当夏高嶋御番被仰付置候、付而者、追々可被差立難有仕合奉存候、然者諸遣其外近年之御畢竟を以、正銀弐〆五百目之御渡方ニ而受負ニ〆被差越儀歟と乍卒爾奉存儀御座候、然処一統之差支ニ而就中長崎表米価を始其外諸品高直之由相聞、苦々敷儀ニ付而、前役之人々江一体之儀共承合候所、現米ニ而相渡候筋も過分ニ有之、第一詰足軽飯米并御抱足軽御扶持方、将又主従飯米彼是取束、当四月ゟ同九月迄六ヶ月分之凡積ニメも米拾九石余之高ニ相及、右者高価之米ニ引直受負銀之内ゟ払出候得者、残諸遣迚ハ纔ならて無御座、其上諸物高価之趣ニ付而者、夫等之取納方甚当惑之儀御座候、依之当時御多繁之御半、難奉願恐入儀御座候得共、前々御渡方之通、何卒都合引受銀三貫目之高被仰付度、若又其儀不被相叶儀も御座候ハヽ、先年犬塚七郎右衛門・下村八郎右衛門儀被差越候砌之御振合を以、御廻米被下度、右両条之内、御憐評を以、願之通被相済被下候道者有御座間敷哉、重畳奉願儀御座候、惣而者当時之御半と申、殊ニ結構為被仰付儀御座候得者、何角御願等申上候儀不本意恐怖至極奉存候得共、乍憚御校量をも可被成下通之地行逼迫ニ付而者、支度彼是何分不行届難渋之参懸ニ付不得止事、此段深重奉願儀御座候条、幾重ニも御仁評を以、願之通被仰付被下候様、筋々宜御相達致御願候、以上
卯三月　西村権右衛門印
持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

四月十九日
一高嶋夏番被仰付置候左之人々、来ル廿四日ゟ被差立候旨、附役ゟ申達
遠見方　西村権右衛門
筒方　東嶋市郎右衛門
一高嶋詰足軽、左之通被仰付候附役達
遠岳源内組
八頭司定右衛門
右同
山口清兵衛
高嶋遠見方
守衛方受持
西原強一組
吉浦新右衛門
附足軽之儀者五人被差越候御定前候得共、外弐人者空名ニメ切手前者被相済候也

四月二十四日
一高嶋番西村権右衛門・東嶋市郎右衛門、其外今日より

被差立筈之処、御蔵方向不捌之儀有之、且者市郎右衛門色々出立方不仕廻之訳無拠依願、何れも来ル廿六日被差立候通相成候事

四月二十六日

一高嶋番西村権右衛門・東嶋市郎右衛門并足軽共、今日ゟ出立

五月五日

一高嶋増番早速出張相成候通、長崎御仕組方ゟ相達有之達帳記之

五月十三日

一左之通被仰付候旨、附役達

足軽

高島増番守衛方　（西原兵右衛門
遠見方をも相心得　原口久兵衛
相勤候様

五月二十四日

一左之人高島守衛方為増番、今日ゟ被差越候事

宮田文六

八月十五日

一高嶋ニ而御抱足軽亡樫山市五郎儀、四十ヶ年余精勤去ル七月ニ相果候、依之弔料として左之通被為拝領候段、高嶋詰西村権右衛門ゟ被相達候様、附役ゟ懸合越相成候事

弔料　亡

一鳥目弐貫文　樫山市五郎

一去ル六月廿八日蘭船入津之砌、御抱足軽左之者致精勤高嶋ゟ之註進壱番之由、依之被為御褒美左之通被為拝領候付、西村権右衛門迄右同断

御褒美　御抱足軽

一鳥目壱貫文　樫山萬太郎

右何れも十太夫殿御聞届、筋々被相達候

一当冬、高嶋御番方左之通被仰付越詰續ニ相成候

高嶋遠見方　東嶋市郎右衛門
同守衛方　宮田十右衛門
〃　〃
文六

九月二十五日

一高嶋夏番被差越置候西村権右衛門并足軽弐人、今夜帰着之段、御届有之

868　天保二年五月十七日　福地良庵診断書

一年行司ゟ藤山一御用之処、病気候段、先達而達出候末、医師手形差出候様相達候段申来候末、出浮（ママ）候付西丸差越

藤山一儀、先達而ゟ疝癪相煩、寒熱往来、不食二便之歩行も不相叶、右ニ付、私治療相加申儀相違無御座候、以上

卯五月　福地良庵

869　天保二年五月十八日　吉原宗策診断書

一牧瀬太兵衛儀、佐嘉評定所御用之所、病気于今不相調由ニ而、左之通今又達出候付、其筋達書相成候様、西丸

申越

附此末ニ付若哉病体見分等有之候共、致方無之旨をも組代ゟ相達有之候付、其段も申越ス

口達覚

我々一類牧瀬太兵衛儀、先達而ゟ御評定所御用之処、前々熱症相煩、其後瘡疾ニ相成候上、去ル十四日霍乱相起、誠ニ十死一生之参懸ニ而、時今(ママ)猶又疲労強、薬食共不相勧、既人事も不相分位御座候、当時之形勢を以ハ、迚も近々之内罷出候通之気体無御座、勿論毎々御厳達之末候も御座候故、押而はらゟも罷出候通無理柄精々取計見候得共、右之次第ニ而何分其儀出来不申候条、格別之御憐憫を以、今暫之処御猶予被仰付被下度、尚又我々ゟ奉願候、素り少々も快方相成候ハヽ、早速連出候通仕義御座候条、彼是之趣、筋々宜被仰上可被下候、以上

卯五月　　牧瀬太兵衛一類　古部久英印

右同　　陣内梅次郎

山本与三兵衛殿
藤嶋益之允殿

前条之趣、筋々宜御相達致御頼候、以上

藤嶋益之允
山本与三兵衛

持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

覚

牧瀬太兵衛儀、最初熱症之末、瘡疾ニ相成、其内霍乱相煩地来之上、労捲強、薬食共不相勧、甚危篤之症御座候、私療治仕居候付、一札如是御座候、以上

卯五月　　吉原宗策判

870 天保二年五月二十一日　松平備前守牛津通行延期の事

一松平備前守様長崎ゟ帰路牛津御通行之筈候所、川支ニ而御延引之事

871 天保二年五月二十七日　木下退俊隠居願の事

一左之通相談役達　　木下退俊

右者老病差募難渋之趣相聞候付、先年之勤労ニ被相対為薬料金子三百疋被為拝領候段、一類犬塚七郎右衛門罷出、相談役達

一左之通御届

親隠居退俊相果候付忌中御届　木下岩之允

872 天保二年五月二十八日　長崎仕組仰せ付けられる事

一長崎御仕組方ゟ左之通申来候段、西丸ゟ申来

長崎御仕組被仰渡候条、明後廿九日朝五ッ時御城御出可被成旨候、以上

五月廿七日　　執行玄蕃

鍋島隼人
大塚頼母
井上孫之允
野口十太夫様

873　天保二年八月十三日　熊川入湯願の事

一左之通御暇願ニ付、其通被差免候事
　先達而ゟ小瘡相煩候付熊川入湯仕度、今十三日ゟ向日数七日御願奉願候
　　中林彦四郎

874　天保二年九月九日　武雄入湯願の事

一犬塚与三右衛門病所有之武雄入湯罷越度ニ付、明十日ゟ向日数十五日御暇願有之候事

875　天保二年九月十一日　深堀表増番引き払いの事

一当夏入津紅毛船湊下ニ付、深堀表増番引払相成候様、二丸ゟ相達ニ付、別帳記之

876　天保二年九月二十五日　時鐘撞喜兵衛、病気の事

一時鐘撞喜兵衛病気ニ而御断申上候付、代左之者江被仰付候段、附役達
　　浦町

年四拾弐歳　七兵衛

877　天保二年十月二十三日　柄崎入湯願の事

一大木七兵衛痛所有之、柄崎入湯仕度、明廿四日ゟ向日数十日御暇願ニ付、其通被差免候事

878　天保二年十二月六日　横田平次郎乱心の事

一横田平右衛門倅平次郎疳症ニ而乱心之様有之候付、入籠御願申上置候末、引取養生仕度、左之通願出候付、出籠被仰付候事
　　奉願口上覚
　私倅平次郎儀、癇症之病気差発、手ニ不相及処ゟ去年以来奉願御居籠置被下、其上飯料等迄被為拝領、御高恩之程重畳難有奉存候、御蔭ニ安心仕、薬養等仕候所、昨今別而快御座候様見受候得者、当御半一日成共御助成不罷成候様奉存、且者引取、尚又療養相成候ハヽ、快復可仕奉存候条、何卒出籠被仰付被下度奉願候、此段御筋々宜被仰上可被下儀、深重奉願候、以上
　　十一月十日　　横田平右衛門
　　留守嘉兵衛殿
右願之趣、四郎右衛門殿江申達、遂詮議候所、別条無之候条、此旨筋々可被相達候、以上
　　留守嘉兵衛
　　持永治兵衛殿

吉田勘右衛門殿

天保三年（一八三二）

879　天保三年正月十五日　オランダ人献上物通過の事

一来ル十八日阿蘭陀献上物附副之役々通路ニ付、入用之人馬并休泊左之通申来候条、如跡方無迦相整候様、筋々可被相達候

献上物指添　溝口一郎太
御役所付触役　武井文平
御役所
右同附添
大通詞　加福新左衛門
小通詞　茂古岐治郎
勘定役元〆　島山武太夫
勘定役　加藤佐久助
同格　小川善之允
才領　西牟田菊太郎
右同　要七
豊蔵

一献上物長持六棹
一同駄荷三拾壱箇
外ニ御用帳面入三箇付合ニして
一御用箪笥壱棹
一長持五棹程
一勘定箪笥壱棹
一駕籠拾挺程
一両掛八荷程
一合羽籠弐荷
一宿駕籠八荷程
一乗掛馬拾疋程
一駄荷馬弐拾疋

休泊
正月十五日　矢上　永昌
同十六日　大村　彼杵
同十七日　嬉野　塚崎
同十八日　牛津　佐嘉
同十九日　神埼　田代

但羽根武左衛門方相除候事、以上

辰正月十二日　中島善兵衛
下村三郎左衛門
石丸東朝
執行五郎右衛門

880 **天保三年正月二十日　中原又左衛門へ薬料下賜の事**

一西丸祐筆中原又左衛門、数年役方堅固相勤候末、今般病気差出及大切候付、為薬料定銀百目被為拝領候、幸十太夫殿・相原四兵衛・川副又右衛門出丸中ニ付、同所ニ而吟味相成、吉田勘右衛門ニも同様出丸ニ付、同人ゟ其段一類迄相達也

881 **天保三年二月三日　福智院より疱瘡軽安祈祷願の事**

一左之通福智院ゟ願書有之候処、格別仰山之祭無之候ハ被相済可然ニ付、其通付役ゟ相達候事

奉願口上覚

明四日稲荷社江五穀豊穣并疱瘡為軽安初午祭相整度段、信心之衆ゟ相願申候、御支所無御座候ハ、被差免被下度奉願候、今日ニ相成日間も無御座候所、御願申上候亘り如何敷奉存候得共、信心之衆ゟ強而相願候故、不奉顧止も御願申上候条、宜御聞啓被成下、何卒被差免被下度儀、深重御願申上候、此段宜被仰整被下、願之通相済候様、偏ニ奉願候、以上

福智院印

辰二月

持永治兵衛殿

吉田勘右衛門殿

882 **天保三年三月十四日　福山平蔵薬料下賜の事**

西丸使番

福山平蔵

右之者、去ル五日ゟ不斗大病相煩、其後色々加病有之、昨今ニ至心遣之病体ニ候処、当時柄と申、彼之者丈ニ而存通之療養も届合兼、惣而右之者使前已来数十年、別而致精勤候付、此節養生料合力として米九斗被為拝領候、此旨犬塚与三右衛門ゟ達有之候様、手紙ニ而申越ス

883 **天保三年三月二十六日　馬場五郎兵衛・岩吉、病のため佐賀評定所出廷難しい事**

一馬場五郎兵衛并宇都宮牧太帳内岩吉、佐嘉評定所御用之所、何れも病気ニ而罷出候様無之旨、左之通銘々医師手形を以達出候付、其筋達込相成候様、西丸申越候

884 **天保三年四月四日　園田主計入湯願**

一主計殿病所御座候由ニ而、嬉野駅江為入湯五日ゟ日数十日之間御暇願有之事

885 **天保三年四月二十二日　直正笹湯召す事**

一肥州様御水痘之処、今廿二日御笹湯被為召候ニ付、先日之御願成就御礼并御肴一折御使者を以被進候、御肴

折之義ハ二丸へ御憑御使者ハ西丸勤ニ而相済
一左之通西丸ゟ到来

鍋島市佑
犬塚与三右衛門様　洪助右衛門
田中杢佑
伊東孫兵衛

以手紙申達候、肥州様御水痘御軽安御順使今日御酒湯御祝被成御整候、紀伊守様江右為御知、従私共可申上由被仰付如斯候、宜有御申上候、以上

四月廿二日

886 天保三年四月二十三日　田尻種一郎娘疱瘡にて死去の事

一種一郎殿御二娘疱瘡之末、昨夜死去有之候段、御付人ゟ御届有之候事

887 天保三年四月二十七日　伊王島増番、林雄民稽古の事

一五月朔日ゟ伊王島増番之儀、長崎御仕組方ゟ達帳を以相達有之、達帳記之
一林雄民ゟ左之通願出相成候処、稽古辺之儀ニ付、願通被差免追而被達御聞候事

888 天保三年五月十五日　武衛流・真田流砲術稽古の事

一武衛流・真田流砲術御書院前於射場御内試被相整候

889 天保三年六月十二日　病のため居籠願の事

一牟田官左衛門ゟ左之通願出相成候付、其通被仰付方可有之候、善左衛門殿・十太夫殿御聞届之上、御目付方ニも被相達、居籠所江被差置候、格護方番人等も手前ゟ被付置候由ニ付、其段一類留守嘉兵衛迄附役ゟ相達候、惣而綱五郎儀、病気ニ而嫡子引取相成居候人ニ付、御当役方御聞届之分ニ而御親類、其外ニも吟味ニ者不相成候也

奉願口上覚

私悴綱五郎儀、近年病症差発、折節者乱気之様罷成不都合・不所業之儀而已御座候付、是迄種々療養異見をも相加候得共相整不申候、依之嫡子為引取候段、組筋を以御達仕置候末、至近年弥差募、猶歩行不都合之儀而已仕出候付、家内居籠置候得共、難及手御座候条、暫之所御居籠所江被差置被下候様奉願候、素り手前より格護方番人等も付置義御座候、追々狂気等鎮候半ハ、則引取候様可仕、左無御座候ハ、家内ニ居籠所丈夫ニ相拵候上引取候様可仕候間、何分暫之処被差置被下候様奉願候、以上

辰六月　牟田官左衛門

持永治兵衛殿

吉田勘右衛門殿

890 天保三年六月二十二日　熊川入湯願の事

一池上市九郎ゟ左之通御暇願有之候所、願之通被仰付候
奉願口上覚
私儀、旅中ゟ時気相障候歟、惣身小瘡吹出、甚難渋仕候間、御着座脇御用ノ御半奉願候亘り、至極奉恐入候得共、熊ノ川江為入湯罷越度、依之日数二七日之御暇被為拝領被下度、勿論相愈も仕、快方次第ニハ右日限内罷帰義ニ御座候間、何卒願之通被仰付被下候様、筋々宜御相達致御頼候、以上
六月　池上市九郎
持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

七月四日
一牟田官左衛門ゟ左之通口達書を以願出相成候事
口達
私悴綱五郎儀、癇症ニ而狂気同様不都合之儀指募候処ゟ先達而御居籠所江暫被指置被下度奉願候処、御聞済ニ相成難有奉存候、其末漸気分相鎮候体相見候ニ付、先以引取、尚又療養異見等相加度奉存候条、其筋御相達被成下、引取候通深重致御頼候、以上
辰七月四日　牟田官左衛門
持永治兵衛殿
吉田勘右衛門殿

891 天保三年六月二十九日　村田淳伯出勤の事

一左之通遠慮御届有
村田淳伯
難閣急病人出来、今夜出勤差掛り御暇奉願候末、御願済之否も承知不仕不勤仕候段、今更重畳奉恐入遠慮
右者去ル丑年相原万兵衛遠慮之畢竟ニ而者、明日三日目御免ニも可相当哉之段伺相成候処、自分之義と此節之義者少々訳合も相替候哉ニ付而ハ、早速被成御免候方可有之哉、尚吟味相成候様被仰出候付、御評議之上、其通ニ而可有之相〻、今日遠慮御免被成候
右遠慮者昨夜遅目御届有之候付、今朝御聴ニ者相達候末、本文之通也
松本源太郎
役内不行届儀有之遠慮仕候
右者村田淳伯御暇願越候所、其手紙受取罷在、御留守中共不相達、又御帰館之上達御聴候通共取忘、其所不行届訳ニ付而之由也
右遠慮者即被成御免候
六月二十九日
一松本源太郎遠慮被成御免候旨ニ而御受被申上候

892 天保三年七月十日　領内にて薬保中円売買願の事

一嵯峨御所御内森舎人ゟ京都御用達辻善助迄左之通申来

候段、在坂西川寛左衛門ゟ申来候、併旅丸敷売買ハ不被相叶御国法と申、一体零落之御領中ニ而入込相成候而も、却而不都合而已可有之、殊一昨寅年河鰭中納言様御家来入込候節も不都合而已有之、殊右一件ニ付、中川様ゟハ公辺伺ニ相成候末、御付札之次第も有之候ニ付、其例を以、善助ゟ程能及返答候様、別紙相副西川迄申越ニ成ル

以手紙申入候、薄暑之砌、愈御堅固御勤珍重之御事御座候、然者当御所御領内ニ住居罷在候医師長瀬広祐前々ゟ家製保中円売弘申度旨、其御領下江巡行望之人江ハ売弘申度候、尤相売等決而不致候様申付置候間、何卒御国江御通達之儀、宜御頼可申入旨、嵯峨表役方ゟ申越候間、此段御頼申入候、仍而如是御座候、以上

四月廿四日　鍋島紀伊守様御用達嵯峨御所御内

森舎人

辻善助殿

893　天保三年八月二十三日　田尻種一郎病に付、暇願の事

一種一郎殿ゟ御附人を以、病気有之為保養山代被相越度、右ニ付来ル廿五日ゟ向日数三十日御暇被相願候所、如願被仰出候

894　天保三年八月二十五日　朝長田平牛津泊の事

一大村家中朝長田平今晩牛津泊之由申来候、実ハ御同所御嫡子之趣ニ付、万事黒田源左衛門通路之格を以御仕成相成候由也、依之御聴ニ被相達候

895　天保三年八月二十七日　医師隔番の事

一左之人々御用呼出

（中略）

御ヒ　　原口宗與

村田淳伯申談、隔番被相勤候様、付役達

896　天保三年八月二十八日　放出稽古の事

一今晩於御茶屋前、合図試いたし度段、富岡弥一左衛門ゟ被相願候付、御聴被相達候、右放出ニ付、幕壱張・夫丸弐人依願被差出候

八月二十九日

一於御茶屋前武衛流合図試之儀、今晩御差閊無之趣被仰出候付、其段飯田仁四郎迄申達候

九月二日

一真田流合図試として、今晩於御茶屋前放出伺之通相済

897　天保三年九月五日　疱瘡転除の祈祷願の事

一北之坊ゟ願出候者、御領内疫病転除之御祈祷下古賀村於祇園社執行仕度候付、去子三月被差出候御例ニ依而、御幕・台提灯拝借仕度旨ニ付、任先例願之通被差出候也、尤来ル八日ゟ九日迄執行之筈也

898 **天保三年九月九日　原口宗與娘死去の事**

一原口宗與娘儀、昨夜病死之御届、尤七才未満之由
一右同断ニ付、親宗益ゟ一日用捨御届

899 **天保三年十一月十四日　医者出勤の事**

一左之通被仰付候旨、附役達

御ヒ
村田淳伯
原口宗與

隔番出勤被仰付置候得共、依願昼間ハ日勤夜分計隔番出勤、尤不快或者差掛御暇等之節ハ相対申談不相欠様被仰付候事

900 **天保三年十一月二十四日　川久保俊台井戸仕替の事**

一川久保俊台ゟ屋敷内井戸替仕候ニ付、祇園川ゟ小石少々被石出被下度願出候ニ付、石見番江相流候様郡方江手紙差出ス

901 **天保三年閏十一月二十一日　介抱の為、薬料下賜の事**

一左之通申達候

裏町　長右衛門

鐘兼而極難者之上、永々家内病人有之及飢命候参懸ニ付、御介抱御賄薬当米三斗被下之候

902 **天保四年正月十一日　砲術師範引き譲りの事**

一武衛流・井上流砲術師範之儀、富岡弥一左衛門幼年中飯田仁四郎江引請被仰付置候所、段々弥一左衛門成人之末、修シ得被申候ニ付、此節伝巻其外同人江引譲申候由、元来蒙御達居候末ニ付、右之御届仁四郎ゟ被申上候段、文武方橋本善右衛門ゟ申達候也

903 **天保四年正月十七日　オランダ人献上物通過の事**

一阿蘭陀人献上物付副之役人明十八日牛津昼休之段申来候付、郡方其外例之通触達差出候事

904 **天保四年二月三日　砲術稽古の事**

一真田流砲術稽古打相整度旨願出相成候付、於北浦放出有之候様被仰付候

905 **天保四年二月四日　医者名替えの事**

一左之通名被為拝領之段、御届申上候

淳伯事
村田道樹

宗与事
原口養碩

906 天保四年二月九日　本家より長崎仕組を達せられる事

一長崎御番方ゟ別紙之通被相達候
当年長崎御仕組ニ付而、御印御帳御書載相成候、御家老名元例年之通書載指出相成候様
右ニ付、十太夫殿名前付出相成候、翌十日差遣候

907 天保四年二月十一日　篤誠院来訪に付、医師出勤の事

一篤誠院様去朔日ゟ御越、御逗留之末、今朝五ツ時御供揃ニ而御帰被成候、御内ゟ直ニ御帰ニ付、左之人数御玄関罷出候

日出島二左衛門
横尾内蔵助
池上市九郎
中島文蔵
小柳孫右衛門
馬渡寛四郎
江越吉兵衛
千々岩安兵衛
原口宗益
村崎卜也

908 天保四年二月十一日　道場開きに付、拝領金願の事

一武衛流砲術門弟中ゟ左之通願出相成候付、米九斗為御取替被差出取納之義ハ且而御達之手数也

口達覚

今般飯田仁四郎ゟ富岡弥一左衛門江師家引譲相成候付、道場開之出張仕度奉存候得共、当時柄何分自力難相整候間、近来御願申上兼候得共、何卒金壱両丈被指出被下候半、、御蔭を以出張相整可申候、且又不足之所ハ我々ゟ稽古中申談相整可申候条、何卒右丈之所被指出被下度偏ニ奉願候

正月

川浪善右衛門
下村八郎右衛門
中尾孫兵衛
嬉野小右衛門

橋本善右衛門殿

右文武方ゟ被相達候末、前条之通御取替被差出候

909 天保四年二月十四日　百姓へ川久保俊台施薬の事

一吉原刈百姓極難病気ニ付、川久保俊台御施薬被仰付候段、手紙ニ而申達候

910 天保四年二月十九日　芦刈村流行病の事他

一富岡弥一左衛門依願木筒被相渡候ニ付、右山出用夫丸

七人被相願候付、五人丈被差出候
一芦刈村之流行病気為転除祇園社御神体御幸願出候付、同社人日数十一日芦刈筋罷越、祓其外致執行候ニ付、左之通被下也
一正金弐百疋　御布施
御備物用
一同百疋

911　天保四年二月二十二日　武衛流砲術稽古の事他

一来ル廿五日、於岡前武衛流砲術稽古打之儀、伺相成居候所、御支無之段被仰出候ニ付、其段文武方江相達候也
一長崎御奉行牧野長門守様ゟ御返翰、徳見伝助ゟ為持越候ニ付、御用人部屋迄差上候、且又此節筑前御家老中ゟ之文箱同様到来、尤右ハ長崎御屋敷ゟ徳見伝助迄相渡候由ニ而到来

912　天保四年二月二十四日　相良柳沢老父介護願の事

一相良柳沢ゟ左之通被相願候処、願之通被仰付候
奉願口上覚
私儀、先祖以来数代奉蒙御重恩難有仕合奉存候、乍去格別御用弁をも不仕、殊不束丈ニ而、最早年頃ニも罷成候得共、未家業方不熟之儀ニ而奉恐入参懸御座候処、此節実父四兵衛儀、江戸御供被仰付於私も難有仕合と存候得共、老年之儀ニ而漸々相衰、甚無覚束次第御座候、依之為介抱随従仕度、惣而者彼御地ニ而相応之人も御座候半、、家業稽古をも仕、往々ハ奉報御厚恩度御座候条、同人滞府中何卒御暇被為拝領被下度、深重奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
巳二月　相良柳沢
持永治兵衛殿
中島文蔵殿

913　天保四年三月二日　三平御ヒを仰せ付ける事

一左之通被仰付候
三平様御ヒ兼　村田道樹

914　天保四年三月六日　杉山村流行病転除の祈祷の事

一杉山村流行病気転除、城満坊江被仰付候段、相達候

915　天保四年三月十日　於深堀、鉄砲稽古願の事

一横田平右衛門ゟ左之通願出候所、願通被仰付候
奉願口上覚
私義、鉄砲打立家業被仰付難有奉存候、就而者忰義、右家業方稽古一際出精為致可申奉存佐嘉師匠方江稽古之儀相談仕候処、幸只今深堀ゟ大小之鉄砲百挺打立願有之、近日ゟ彼地罷越筈御座候、其御地指支無之候　半、、深堀致同伴稽古有之候様、取計可申由申聞候条、何卒当年中御暇被為拝領被下候半、、御

陰稽古為仕可申難有奉存候、此段御筋々宜被仰上可被下儀、深重奉願候、以上

巳三月八日　横田平右衛門

持永治兵衛殿

中島文蔵殿

916　天保四年三月二十六日　川久保俊台御供の事

一明廿七日朝五ツ時、御供揃ニ而三平様丹坂大日江御参詣被遊候旨被仰出候、此節村田道樹不快ニ而御断ニ付、昨日一類川久保俊台江御供被仰付候

917　天保四年四月五日　火事に付、治療代差し出す事

一先日高原ヶ里出火ニ付、左之者相働候所、致軽我（マヽ）候ニ付、右療治用として致壱貫文被下也

裏町　長右衛門

一右ニ付、小城・岡両町ゟ相働候人数五拾人充江左之通被下候

一銭壱貫文　小城町江

一同壱貫文　岡町江

918　天保四年四月九日　武衛流石火矢試打の事

一近々於北浦、武衛流石火矢試打相整度旨、文武方ゟ伺相成御当役御聞届之上相済

919　天保四年四月十五日　山内郷流行病の事

一山内郷流行病気ニ付、左之人数江療治方被仰付候旨、手紙ニ而申遣候

北嶋文郁

牟田察淳

一大村丹後守様明十六日牛津御通路ニ付、跡方之通御使者被差出候、尤御使者番勤

920　天保四年四月二十一日　高島番仰せ付ける事

一左之通被仰付候

足軽

八頭司定右衛門

八頭司平兵衛

山口清兵衛

高島遠見方付守衛方之儀茂心得相勤候様

足軽

江里口源兵衛

川副幸助

追々高島増番之節守衛方付遠見方之儀も心得相勤候様

921　天保四年四月二十二日　布上玄格母死去の事

一左之通御届有之

千々岩安兵衛
妹長病之末、今昼相果候付、忌中引入候旨、御届
布上玄格
母親長病之末、今昼相果候段、御届

922　天保四年四月二十六日　高島番出立の事

一高島番として左之人数今日出立
遠見方　石丸杢
主従四人
筒方　永石作右衛門
主従三人
遠見方付　八頭司定右衛門
筒方付兼　八頭司平兵衛
山口清兵衛
足軽五人之内、右之外
弐人者御工免ニ而御切
手乞出ニ成

923　天保四年五月八日　高島・伊王島詰を仰せ付ける事

当御非番御自領高島・伊王島固諸家来詰之儀、地詰并増番人数入テ筒方弐人充足軽五人ツ、前より詰方被仰付義候条、可被得其意旨候、以上
巳五月　御番方也
吉井普三郎

924　天保四年五月十四日　永田村等流行病の事

一永田村之儀、流行病ニ付、右転除御祈祷被仰付被下度、願出之末、其通被仰付候、依之山伏善福寺呼出、其段相達ス
一牛津本町右同断ニ付、城満坊・行乗坊江被仰付候
一松平美濃守様長崎御越度、牛津昼休御使者其外御構無

925　天保四年六月十四日　長崎仕組に付、家老呼出の事

一長崎御仕組ニ付、御家老壱人二丸御用之段申来候ニ付、鉄之助殿被罷越候

926　天保四年七月五日　長崎番所受取の事

江戸表ゟ左之通申来候
写
以手紙致啓達候、今年長崎当御番所松平備前守様就眼病、依御願御名代御同氏美濃守様被仰付候間、御渡被成御非番之処者肥州様被成御勤、御番所其外御請取渡之儀可為如前々御奉書被成御到来候ニ付、先月十一日御番所其外御請取無御滞被為済候、紀伊守様江右為御知、従私宜申上由被仰付越候、以上
六月　小山平五左衛門
相原四兵衛様

桜田御年寄中ゟ別紙写之通、長崎御番所御引渡相済候段、奉札を以為御知有之候ニ付、肥州様・桂翁様江御悦御使者被差出候通可被御取計、此段為御懸合如此御座候、恐々謹言

六月　　松本弥左衛門

園田半十郎殿

川副又右衛門殿

日出島二左衛門殿

猶以、肥州様江者為御知御挨拶をも相勤候様相成候、以上

右之通ニ付、御祝儀并肥州様江為御知御挨拶、西丸ゟ御使者被相勤候様懸合越候事

927　天保四年八月十二日　山内湯治願の事

一兵庫殿儀、為山内御湯治被相越候ニ付、一七日御暇願有之

一江戸ゟ左之通写を以奉札到来ニ付、右御歓、且御挨拶、西丸ゟ相勤候様申越ス

相原四兵衛様　　小山平五左衛門

写

以手紙致啓達候、於長崎去六日未上刻紅毛船一艘入津、例之商売船ニ而別条無之、私かひたん乗渡不申候、当年之船数一艘ニ而跡船者無之由御座候、紀伊守様江右為御知、従私宜申上由、肥州様被仰付越候、以上

六月廿四日　　小山平五左衛門

相原四兵衛様

928　天保四年八月二十八日　大村伊織・弾正牛津通行の事

一大村丹後守様御嫡子伊織様并御二男弾正様御出府ニ付、牛津御通路相成候、尤前例之通御使者等者不被差出候得共、郡方ニ者出役相成候也

929　天保四年九月二十八日　宮崎元益稽古修行願の事

一宮崎救民ゟ左之通悖元益御暇願次有之候処、御願被仰付方可有之哉之旨、今日之文箱便ニ而伺越ニ成ル

附本文御暇願出之義、去ル丑年菊地宗垣願次之節者願主之義ニ付一先罷下、其末願次候通被仰出、其通相成被相済候得共、此節之義者親救民ゟ相願候事柄ニ付、本人不罷下候共被相済候方可有之旨、御吟味相〆本文之通伺越ニ成ル

奉願口上覚

私悖元益義、去ル丑年ゟ五ヶ年御暇奉願医業為稽古京都差越、小石元瑞老江随身仕、御蔭折角稽古仕罷在候処、当年迄年限相満候付而者罷下候半而不相家候処、未熟之儀ニ付、今暫在京稽古為仕度、於然者猶又一際打部稽古仕向(マヽ)向者御用之端ニ茂相立候通有御座度奉存候付、相成儀ニ御座候半者、今又当年ゟ向三ヶ年之御暇被為拝領被下度、左候而当時之御半、近来難奉願奉存候得共、受業中打追之通、一孤兵粮被指

出被下候様、旁重畳奉願候、此段筋々宜御相達致御願候、已上
六月　宮崎救民印
持永治兵衛殿
中島文蔵殿

930　天保四年九月晦日　高島番より帰着の事

一石丸杢儀、高島ゟ昨夜致帰着候段、罷出被申達候

931　天保四年十二月十四日　宮崎元益稽古許可の事

一宮崎救民悴元益医学為稽古京都罷越居候処、当年迄御暇年限相満ニ付、今又三ヶ年願次相成候処、願之通被仰付候旨、江戸ゟ申来候付、其趣今日救民呼出相達候
一右ニ付、一孤兵粮詰中被相渡候様、大坂へ達越相成候

天保五年（一八三四）

932　天保五年一月十一日　紅毛人牛津通行の事

一今度参府之紅毛人、明十二日牛津昼休之段申来候、跡方之通り郡方其外出役相成候通り筋々触達相整候

933　天保五年一月十六日　山内郷流行病に付、施薬の事

一山代郷流行病気ニ付、御施薬願出候ニ付、為見分下目付被差越候、尤御施薬之義者川久保俊台弟子江口文礼と申者へ被仰付候旨、付役ゟ手紙相認、下目付迄相渡候也

934　天保五年一月二十日　原口宗益役方断りの事

一左之人、役方御断申上有之
御内御ヒ
原口宗益
先比ゟ之病気、近日差募候末、快方難計体罷成候ニ付、役方御断申上候段、書取を以申上有之
一月二十二日
一左之通御届有之
今日病死之趣、孫養虎ゟ御届有之

935　天保五年一月二十五日　御ヒ仰せ付ける事

一左之通被仰付候、相談役達
御請未済
村田道樹
持役ゟ当分御前様御ヒ兼被仰付候
二月十九日御受済

936　天保五年二月十二日　軍学稽古の為諫早行き願の事

一左之通御届有之
今泉兵之進

今十二日ゟ軍学為稽古諫早罷越候之旨御届

937　天保五年二月十三日　砲術内試に付、酒拝領の事

一左之流儀砲術御内試於御書院前被相整候、右ニ付如書載御酒被為拝領候也

真田流砲術東嶋逸馬
門弟中

一酒五升
一するめ弐宛

938　天保五年二月十九日　村田道樹兼役御請済みの事

一村田道樹兼役御受済

939　天保五年三月十七日　真田流砲術稽古願の事

一真田流師家東嶋逸馬ゟ於北浦門弟稽古火矢打度依願被差免候、右ニ付、幕・夫丸等依願左之通被差出候

一野分幕　壱張串共
一山幕　壱張
一夫丸五人　諸遣方

三月十八日

一昨日願有之候末、真田流稽古火矢打之義、俄ニ降雨有之、皆以相済兼候ニ付、打残之分今日放出致度旨願有之、其通り相済

940　天保五年三月二十三日　御前様武雄入湯の事

一御前様先日ゟ武雄為御湯治御越被遊候ニ付、為御機嫌伺中嶋文蔵今廿三日ゟ罷越候

941　天保五年三月晦日　中嶋需安稽古料拝領願の事

一左之通願有之候所、如願御暇被仰付、壱孤兵糧之儀者当所米壱石八斗ニ差出、以後之義者稽古之振ニ随御吟味可被相付旨、需安呼出達之

奉願口上覚

私儀、亡父需斎方へ養子罷越候付者、猶更差部家業之外科道稽古可仕筈之所、需安義も永々之大病ニ而打臥罷有候故、押立稽古仕候義も出来兼候付、原口亡宗益江近年迄随身仕罷有候、然ル所、需安義も旧年死去仕候故、今更ニ者家業稽古仕候術無御座、途方ニ暮罷有候、右ニ付、土佐殿御医師嶋本良淳(ママ)へ随身仕度御座候間、当年ゟ向三ヶ年之間御暇被仰付被下度、将又就右者当時御半近来難奉願恐入奉存候得共、小身之某稽古中取続、何分任自力兼候条、何卒随身中一孤兵糧被為拝領被下度、旁奉願候、於然者、御蔭を以、成丈差部脩行仕、向以御用之一端ニも相立候通有御座度、難有仕合奉存候間、彼是之趣御座候、宜被仰達可被下候、以上

午三月　　中嶋需安

持永治兵衛殿
中嶋文蔵殿

942 天保五年四月二十一日　伊王・高島両島詰増番の事

一左之通長崎御仕組方ゟ相達有之候段、西丸ゟ申来
伊王・高嶋固諸家来増番之義、去年御非番人数御引取之節相減被置候得共、近々旬季差向候付、一昨年畢竟地詰并増番人数入テ伊王・高嶋江筒方弐人宛・足軽五人宛沖嶋へ平士弐人・足軽五人来月朔日ゟ詰方被仰付義候条、可被得其意候、以上
午四月　高木権兵衛
長森八郎左衛門

長崎表遠見方之儀、近年白帆注進之度毎公儀ゟ壱番注進有之、此御方相渡(ヲク)レ候付、打追之御楯与ニ而者以来壱番注進之程無覚束、其通ニ而者従来被入御念候詮も相立不申、惣而者遠見方之義、以前ゟ堂山天堤と元遠見弐筋相建被成候、然所白帆船之儀、前方者多ク薩州甑之島辺ゟ野母遠見所後江南手江乗渡入津之比者初秋勝ニ而沖目も快晴之折ニ付、高山程見付宜専天堤ゟ壱番ニ見取候、然ニ近年者以前ゟ相替入津之時分必者梅雨後土用頃ニ而雲霧(カ)深ク目鏡通り兼、右様之節者低之場所見通宜、殊ニ白帆乗筋近年者西ニ乗出、野母遠見所真当ニ付、同所より之見取早ク堂山者内目ニ引入居候丈見取及遅々由、依之当時香焼詰ゟ堂山江被相寄置候一与之もの共高嶋江致出張、堂山・高嶋弐筋元遠見ニ〆、両三年御試相成義ニ候条、白帆方其外来月朔日ゟ左ニ書載之通被仰付義ニ候条、夫々相願候様、尤爰元ゟ被差立候足軽之義者急速名前差出相成候様、且又高嶋之義、是迄諸家来ゟ遠見方をも請持来候得共、前断御試ニ付而者、其手当不相及候条、旁之趣其筋々懇ニ可被相達候、以上

香焼部
一足軽壱人
一助見壱人
一賄壱人

鳴崎部、尤堂山・高嶋請見壱人ツ、
一足軽弐人
一助見壱人

助見兼
一賄壱人

堂山
一足軽三人
一御雇目鏡見壱人
一助見壱人
一賄壱人

高嶋部
一足軽弐人
一御雇目鏡見壱人
一助見壱人

此内壱人助見兼
一賄弐人

長崎御屋敷、尤走り番壱人入テ

一足軽三人
一賄壱人
一白帆注進方諸与心遣役壱人
一同手元役壱人
一同注進役弐人
一同使番弐人
一八丁立船壱艘　役者壱人
　　舵子八人
一六丁立同壱艘
内
　御手舵子壱人
　舵子五人
以上
午四月　　高木権兵衛
　　長森八郎左衛門

943　天保五年五月十日　光野外左衛門出崎の事

一光野外左衛門長崎ゟ内々罷帰居候末、今十日ゟ出崎、尤此節高嶋守衛方出番之義も心遣罷越候

944　天保五年五月十五日　刃傷に付、医師見立ての事

一江戸ゟ油紙包御用翰壱封到来、此節去月廿三日暁、石丸龍吉義、牟田口英太夫と及刃傷、其刀ニ而致自害候段、注進申来候、双方一類共呼出、右之次第申聞候、右ニ付、於江戸一通取調子相成候、手続左之通

態と急便を以致啓達候、然者昨廿三日晩八ツ半時比ニ而も可有之哉、石丸龍吉儀、牟田口英太夫を及殺害、自身も疵付、漸息者絶不申分ニ有之候由、同七時比筋々ゟ達出相成候ニ付、早速御目付見分有之候様、相調候所、別紙写之通見分之次第并組合同居之人々口書をも御目付方ゟ取調子被差出、勿論龍吉義も無程絶命致候、惣而前辺兼々不和ニ而も有之候哉、又者争論等為致義者無之哉、承繕候得共、一向右様之儀も無之、残置候書付等も不相見訳合不相分、就而者狂気ニ而も致候哉、言語同断之変事出来、気之毒千万之義ニ御座候、依之両人死体者昨夜北津村森厳寺へ葬送致候通相調申候、先此段為注進如此御座候、恐々謹言

四月廿四日　　松本弥左衛門判
　　園田半十郎判

川副又右衛門殿
日出島二左衛門殿
星野二右衛門殿
西川寛左衛門殿

一四月廿三日暁、左之通筋々達出候

石丸竜吉儀、近日気体悪敷様御座候所、昨晩暮前比ゟ何角不都合之咄等仕候ニ付、弥不気体之様子と相見へ候故、九時比迄気を付罷在候所、漸々相休候様子ニ相見候得共、無心元御座候ニ付、大嶋久蔵相付置候所、空腹罷成候而粥を給度由申候故、右拵として台所之方罷出候跡ニ而八半時ニ而も御座候哉、高声仕候ニ付、早速罷出見候得者、牟田口英太夫を及刃傷、

自身ニも疵請候様相見候、委敷儀ハ一向不相分候得
共、右之次第御座候ニ付、先以此段申上候、以上
四月廿三日　森新助

一同朝御目付見分、疵口左之通
石丸竜吉儀、牟田口英太夫を及刃傷候ニ付、罷越相
改候所、左之通

牟田口英太夫
疵口

一左之目鼻ゟ耳ニ懸切疵　長六寸位　深四寸位
一同髻耳之後ニ懸切疵　竪三寸五部位　幅弐寸位　深三寸位
一右之頬下首ニ懸切疵　長三寸位　深壱寸位
一右之頬ゟ腮ニ懸、後江襟左之方江、且襟有之方江切
下ヶ切疵　長八寸位　深壱寸位

疵四ヶ所

一初南枕ニ臥居候様子ニ候処、起返り候を猶又切付
候と相見へ、左右ニ疵請今いつむき西枕ニ相果居
申候

石丸竜吉
疵口

一首右之方ゟ突疵　疵口三寸位　深左之方へ通り候疵口　長壱寸五部位
一腮下疵口　長壱寸位　深壱部位
一同　長壱寸位　深壱部位
一右之方腮下疵口　長七部位　深壱部位

疵口五ヶ所

一石丸龍吉自身之刀ニ而牟田口英太夫を及刃傷、其
身も其刀ニ而疵付候と相見候
一石丸龍吉同間最前休息致居候場所ニ而疵付候尽今
晩迄罷在候由之所、今南之間へ這行居候
一牟田口英太夫疵口相改候内迄ハ竜吉義息絶不申様
聞請居候処、改之節ニ至候而者最早絶命罷在候
右之通御座候、以上
四月廿三日　秀嶋八右衛門　馬渡利兵衛　牧瀬尉右衛門　志波半蔵

一組合并同居之人々手願左之通

私共組合牟田口英太夫を今暁石丸竜吉及刃傷候ニ付、兼而相気付候義者無之哉、御尋之次第承知仕候、然処兼々於我々も相気付候義も無御座、勿論同居被不仕義ニ候得者、猶又相心得不申候、此段申上候、以上

四月廿三日　　江頭定左衛門判
　　牧瀬彦之進判

御目付殿

今暁私共組合石丸竜吉義、牟田口英太夫を及刃傷候ニ付、兼而相気付候義ハ無之哉、御尋之次第承知仕候、然処兼而於我々も相気付候義も無御座、勿論同居も被不仕候得者、猶更相心得不申候、此段申上候、以上

四月廿三日　　岡百助判
　　池田光太郎判

御目付殿

今暁石丸龍吉義、牟田口英太夫を及刃傷候ニ付、前辺ゟ何角不審等敷義者無之哉、御尋之趣承知仕候、然処前辺ゟ相気付候義も無御座、且又私義者不快引入中ニ而猶更一向相心得不申候、此段申上候、以上

四月廿三日　　三上次兵衛判

御目付殿

今暁石丸龍吉義、牟田口英太夫を及刃傷候次第ニ付、同居之義ニ候得者、前辺ゟ不知、又者不審之義等ハ無之哉、被仰向承知仕候、今朝書付を以御届申上候通、龍吉義、近日気体悪敷様御届候所、昨晩暮前頃ゟ何歟不都合之咄等仕候外、兼而不和等敷義一向相気付不申候、此段御尋ニ付申上候、以上、

四月廿三日　　納富儀左衛門判
　　森新助判

御目付殿

今暁石丸龍吉殿、牟田口英太夫を被及刃傷候ニ付、何角相気付候義者無之哉、御尋ニ付奉申上候、前辺ゟ何角相気付候義も無御座候得共、近日不気体之様ニ而御座候処、昨夜前後不都合之咄等被致不審等敷義御座候ニ付、気を付罷立、漸々被相休候ニ付、私ニ者側之方へ相伏居候処、八半時頃ニも御座候哉、同人被申聞候ハ、空腹罷成候ニ付、粥を拵参呉候様被申候ニ付、右拵として台所之方へ罷出候跡ニ而高声仕候ニ付、早速罷出見候処、英太夫殿を被及刃傷、自身ニ者疵を請、一向本心者無之様子御座候、此段申上候、以上

四月廿三日　　足軽
　　大嶋久蔵判

御目付中殿

今暁石丸竜吉殿義、牟田口英太夫殿を被及刃傷候義ニ付、前辺ゟ何そ相気付候義ハ無之哉、被仰向奉畏候、兼而不審等敷義、一向相気付不申候、此段御尋ニ付、奉申上候、以上

四月廿三日　　御台所男
　　儀兵衛判
　　右同

伊兵衛判
右同
重蔵判

御目付殿

五月十六日
一於江戸刃傷一件ニ付、左之人数ゟ遠慮御届
石丸吉十
実兄ニ付
遠慮不及段相達
石井卯助
実弟
右同断
江越官助
五月二十一日
一石丸吉十遠慮被成御免候

945　天保五年五月二十一日　前田元節届の事

一前田元節妾を妻ニ奉願置候得共、致不縁候段、御届有之
一右同人病死御届、尤嫡子無之ニ付、存生内印封願差出置候段、申達候

946　天保五年六月三日　高島より帰省届の事

一左之人数高島より昨夜帰着之段、御届申上候
永石作右衛門
庄善五郎

947　天保五年六月九日　長崎仕組仰せ付けられる事

一長崎御仕組方ゟ十太夫殿呼出申来候所、差懸り御不快ニ付、雅楽助殿被相越候

天保六年（一八三五）

948　天保六年五月四日　高島出立の事

一左之通、附役ゟ相達ス
大坪弾右衛門
高島加番被仰付置候所来ル七日ゟ被差立候

949　天保六年五月十八日　男子出生に付、養育米支給の事

一左之通御目附方迄村役之ものゟ達出候由
金田刈百姓政十
女房
今十八日暁、男子三人出生堅固罷在候由
右三人之内、弐人前養育米（ママ）ととして近例之通、米壱石八斗被差出候也

950　天保六年七月十七日　中院家より丸薬売り込みの事

一西丸ゟ左之通申来候付、御私領客屋々々江参着落着之上ニ而者、手間取可申間、兼而其心得罷在候通、郡方筋を以牛津・小城町、其外之客屋共江被相含候

善右衛門

治兵衛様

文蔵様

三御丸受役所ゟ呼出申来罷出候処、此節京都中ノ院様御家臣安藤伊勢と申人、同御殿ニ而御制作之丸薬間売弘罷越、蓮池町客屋江致参着、役々ゟ茂立入売弘行届候様ニと御同所ゟ之御付状等持参相願候由、御屋敷手数茂不相揃真偽茂不相分、第一御領中之儀、地薬種座を茂数軒被差免候節、旅薬一切御禁止之兼而御大法ニ付、御間柄ニ者候得共御断被成候段、町方役筋を以被相達置候、然処、右伊勢儀、外ニ御三家并諫早江茂同様御付状申請居候段、客屋迄申咄候由、就而者其御地江差向、今又罷越候儀も難計候、其節者勿論御法之旨を以差付御追立ニ相成候様可被相整旨被申達候、尤迚茂御本方御聞啓申間敷由、客屋限申答置候趣ニ者候得共、前断之次第、押而罷越候儀茂難計ニ付、尚心得被相達候旨ニ付、此段及御掛合候以上

七月十七日

951　天保六年七月二十四日　主一郎殿熊野川湯治願の事

一主一郎殿熊野川為湯治被罷越度、明廿五日ゟ向日数二七日御暇被相願候

952　天保六年七月二十五日　野口十太夫湯ノ原御暇の事

一十太夫殿明廿六日ゟ日数七日御暇願有之、御前様被達御聴、其通被仰出候、湯ノ原之方被罷越候由也

953　天保六年閏七月二十日　本家より長崎表阿蘭陀船について幕府へ報告の事

一桜田御屋鋪頭人ゟ左之通奉札到来之旨申来候付、西丸ニ而御挨拶御使者相勤候様申越候

以手紙啓達候、先月廿八日午中刻、於長崎阿蘭陀船一艘例之商売船ニ而、無別条新かひたん乗渡不申候、尤当年之船数一艘ニ而跡船無之由候、依之右之趣公辺江以御飛札被仰上候、紀伊守様江右為御知、私ゟ宜申上由、肥州様被仰付越候、以上

七月十四日

954　天保六年八月一日　武衛流小筒稽古の事

一武衛流ゟ小筒ニ而、合図試打候平井畠永岡裏辺ニ而、相整度段願之所、其通被相済候

955 天保六年八月二十日　佐野文仲暇願の事

一佐野文仲ゟ左之通御暇願有之候処、如願被仰付候

奉願口上覚

私儀医業為稽古佐嘉御家中福地道林江随身罷在候処、当九月肥州様御参府之御供被仰付候ニ付、可相成者連越度申聞候、於私ニ茂是迄之師家と申、稽古方且者物馴之ためニ茂御座候付、格別之御支無之御座候ハヽ、随身罷越度奉願候条、同人在府中御暇之間、拝領被下度奉願候、勿論稽古中自分覚悟ニ而聊茂御助成ヶ間敷義等奉願候存念更ニ無御座候条、彼是之趣何分御聞済被下候様、筋々宜御相達深重致御頼候、以上

未閏七月　　佐野文仲判

持永治兵衛殿

中嶋文蔵殿

956 天保六年八月二十六日・二十九日　武衛流砲術稽古願の事

一武衛流砲術門弟中ゟ今夜於平井畑合図三放試打仕度願ニ付、其段御前様江茂上候

八月二十九日

一武衛流砲術門弟中ゟ合図稽古打、今夕夜於岡下放出仕候段被相達候付、御前様江茂被達御聴候上、願之通被相済候

957 天保六年九月七日　深堀詰番引払の事

一長崎御番方ゟ別紙之通被相達候、左ニ

当御非番旬季中、深堀遠見所増番、偖又島之固増番人数等被差出置候処、当夏入津之阿蘭陀船追々湊下致候上、右増番詰等之儀、一昨年御非番之節、被相減候比竟左之通被仰付候条、深堀詰役々引払、一同不目立通ニメ引払相成候様、筋々懇可被相達候

一遠見方増番、偖又孫六郎殿家来白帆方注進役等并西浜注進船之儀茂被相省候事

一高島之儀、筒方弐人・足軽五人被差出置候得共、筒方壱人詰方相成、其外之人数被相減儀候、尤足軽之儀者地行御番所ゟ兼々相勤候様之事

一伊王島之儀、筒方弐人・足軽五人之内、筒方壱人・足軽弐人詰方相成、其外者前條同断候、以上

未九月　　御番方

958 天保六年九月二十一日　朝鮮人牛津通行の事

一長崎漂着之朝鮮人、牛津昼休

959 天保六年九月二十三日・二十四日　真田流稽古の事

一倉本夘十真田流門弟中石火矢稽古打、於北浦放出有之候

九月二十四日

一倉本外十真田流門弟中石火矢昨日之時残シ、今日茂於北浦放出有之候

960　天保六年十二月十六日　石田伝次養子一代医業願の事

一石田伝次ゟ左之通願出候処、如願被仰付候段、於請役所御当役被相達候　　石田伝次

願書付

私儀、嫡子無御座候処、兼而多病ニ而今日之相続茂存分不相叶処ゟ極々及困窮、既飢寒迫候参掛御座候、右ニ付而者御介抱等奉願ゟ外無御座候得共、御用ニ茂不相立身分御難題迄相成候而者不本意奉存候、依之諫豊前殿侍塚本次兵衛弟道斎三拾八才相成候を惣領ニ養子仕度、左候而此もの一代医業被差免被下度、旁奉願候、其通被仰付於被下者、多病弱身之私介抱者勿論、相続之道茂押々相整可申、彼是難有奉存候、此段筋々宜被仰上可被下候、以上

未八月　　石田伝次判

園田半十郎殿

右願之趣、四郎右衛門殿江相達遂評議候所、相違無之候条、此段筋々可被相達候、以上

園田半十郎

持永治兵衛殿

中嶋文蔵殿

諫豊前殿家来塚本次郎兵衛弟道斎儀、養子願之通被仰付、道斎一生医業被差免候、右之末、相談役ゟ左之通被相達候

養子道斎儀、一生医師之席被仰付候

右者文化五年辰五月中島四兵衛願畢竟を以被相済候

961　天保六年十二月十八日　原口養碩御免の事

一原口養碩逼塞被仰付置候所、昨十七日迄満候付、今朝被成御免候

天保七年（一八三六）

962　天保七年一月十九日　本家請役所より大坂への薬種問い合わせの事

一佐嘉受役所ゟ西丸迄被相達候由ニ而、此節於大坂御奉行所ゟ御領内ゟ大坂表積登セ相成候薬種石数何程候哉、尤先年も同様御本末共ニ達出候通、御奉行所ゟ被相達候節者、御国用之外、別段被差登候余計無之旨御届相成、此節迚茂同様之義とハ被相考候得共、兎角打合御届相成候通無之而不相叶候条、有無達出候様有之候趣申来候付、積登セ相成候薬種無之段、受役所達込相成候様、今日西丸申越候

963　天保七年一月二十三日　原口養碩遠慮引入御免の事

一今朝四ツ時頃、原口養碩宅台所ゟ出火、早鐘撞出候付、

各方始、御家中荒々御機嫌伺被申上候、尤上ニ焼上り不申内、疾ク取消シ相成候得共、右之通早鐘迄撞出候付、養碩儀奉恐入、遠慮引入候段、被成御免候

964　天保七年二月四日　布上玄格被官除きの事

一左之通御届有之候

口達覚

上久須刈文蔵義、私被官之義ニ御座候得共、不所行者ニ付、此節被官差除申候、此段御達申上候

申正月　　布上玄格

持永治兵衛殿

中島文蔵殿

右之趣、御当役御聞届、郡方筋へも相達候事

965　天保七年二月十一日　武衛流内試に付、酒拝領の事

一武衛流砲術於御書院前御内試有之、御酒拝領左之通

一弐升樽二

一数ノ子

966　天保七年二月十九日　真田流内試に付、酒拝領の事

一真田流砲術御内試於御書院前被相整候、御酒拝領左之通

一弐升樽二

一数ノ子

967　天保七年二月二十日　武衛流放出稽古願の事

一今日於北浦武衛流ゟ石火矢放出仕度段願出候末、願之通被仰付候、依之御前様御聴ニ達候

968　天保七年二月二十日　武雄入湯願の事

一左之通御暇願有之候所、願之通被仰付候

痛所御座候ニ付武雄入湯此度候間、明廿一日ゟ向日数十日御暇奉願候

川副定太夫

969　天保七年二月二十四日　鹿島家御季疱瘡の事

一鹿島聞番ゟ左之通西丸迄申来候由ニ而到来

以手紙致啓上候、然者於季様御事、頃日発熱之末、御疱瘡相究候付、此段為御知、如此御座候、以上

二月廿四日　　山口橋右衛門

橋本善右衛門様

970　天保七年三月四日　牟田口英太夫家名再興の事

一左之通江戸ゟ申来候

亡牟田口英太夫儀、去ル午十一月苗跡被召潰置候処、格別之思召被為在、且今度義天院様三十三回御忌被対御法事元切米ニ而苗跡被相立之旨被仰出候条、血

筋之人柄等之儀、前方畢竟を以彼是宜敷御取計可被成候、此段及御掛合候、恐々謹言

二月八日　　西造酒

野口十太夫殿

971　天保七年三月八日・九日　伊東玄朴弟子堤柳翠暇願の事

一堤柳翠ゟ左之通願有之候所、御当役御聞届之上、願之通被仰付候

但右者先達而御当役限ニ而相済候ニ付、其段江戸注進相成居候

奉願口上覚

私儀、医業之儀茂如願被差免置難有仕合、御蔭を以、土佐殿家中嶋本龍嘯江随身稽古罷在候、然処此節同人同心之由ニ而江戸表下谷和泉橋住居罷在候御本家御家中伊東元(ママ)卜と申人、当時可然門弟茂無之、反的手支居候趣を以、誰差越呉候様、右龍嘯迄申越、幸之折柄ニ御座候故、此御方御支無之候ハヽ、彼地罷登稽古仕間敷哉、爰切同人相勤申候ニ付、可相成義御座候ハヽ、何卒出府随身仕度、且家業方之儀も師家々相尋稽古仕度御座候条、当節ゟ向五ヶ年之間御暇被為拝領被下度奉願候、勿論往来之路費、其外自覚悟ニ而聊茂御上奉掛御難題候儀者無御座候条、彼是之趣何分御仁恕之御吟味被成下如願被為聞召啓被下候様、筋々宜御相達深重奉頼候、以上

申正月　　堤柳翠

持永治兵衛殿

中島文蔵殿

三月九日

一堤柳翠ゟ左之通書付差出候所、御当役御聞届相済、佐嘉表江御切手乞受相成ル

奉願口上覚

私儀、為医学稽古江戸下谷和泉橋住居被罷在候御本家御家中伊東元(ママ)卜と申人江随身稽古仕度御座候条、当申年ゟ向子ノ年迄五ヶ年限御切手被仰請被下度奉願候、勿論、於向々無作法之義不仕出、彼地罷着候ハヽ、桜田御屋敷江点合罷帰候節ハ、御留守居方ゟ付状を取、右年限内罷帰御切手同前自身指出返上可仕候、若緩之儀茂候ハヽ、我々可被承候、此段筋々御相達致御頼候、以上

申三月　　一類　安本源太左衛門判

願主　堤柳翠

持永治兵衛殿

中嶋文蔵殿

972　天保七年三月二十六日　倉本夘十惣髪願の事

一倉本夘十ゟ左之通願出候所、御当役御聞届之上、御親類方其外御吟味相成、此節江戸伺越相成ル

奉願口上覚

私義、若年ゟ不随之病ニ而病勝有之、先年以来月代仕候得者、直ニ吹出物仕、爰切難渋相過候処、両三年跡より猶更差募り、何分月代出来不申、乍心外長髪ニ而彼是保養相加候得共、一向快方不相成、至老年最早養生難届、去迚ハ唯今之容体ニ而者外出難計、素り御用等承候様無御座恐怖此時ニ奉存候、右ニ付、私一生惣髪被仰付被下度奉願候、右被相済於被下者、御蔭を以、外勤等を茂仕難有奉存候条、御支所無御座候ハヽ、其通被仰付被下度重畳奉願候、此段筋々宜被仰上被下度奉頼義御座候、以上

申二月　倉本外十

深江杢之助殿

辻左馬丞殿

右願之趣、四郎右衛門殿江相達候上御吟味之所、相違無御座候条、被遂披露候様被相整可被下候、以上

辻左馬之丞

深江杢之助

持永治兵衛殿

中島文蔵殿

973 天保七年三月二十九日　長崎御屋敷普請の事

一長崎御屋敷普請ニ付、別紙之通徳見伝助ゟ願書差出自身茂罷越願立候次第無余義訳ニ付、左之通演達書取を以相達ス

演達

今般御屋敷家作被相整候付、竹木願之趣無余義次第相聞候、併当時竹木払底彼是ニ而、運之道難相付何れ追々代銀を以、成丈可被相済候条、可被得其意候

右之通ニ付、役ゟ相達候

974 天保七年四月四日　砲術稽古願の事

一明五日、富岡弥一右衛門門弟砲術於北浦村稽古打之義、文武方ゟ伺相成候所、御聞届相済

975 天保七年四月六日　牟田口英太夫家名再興一件

一先達而相達置候亡牟田口英太夫一類伊東武兵衛ゟ左之通口達書差出候

奉伺口上覚

私一類牟田口亡英太夫苗跡御取潰相成候子孫を此節付出候様御達之趣奉畏候、然所右倅者勿論牟田口家筋ニ而身近キ一類迚者無御座候得共、英太夫実弟を養方妹是迄養育罷在候梅吉と申もの当年八才ニ相成候を付出候而被苦間敷哉、奉伺候、此段御筋々宜奉願候、以上

申四月　亡牟田口英太夫一類

伊東武兵衛

城島茂助殿

中島文蔵殿

976 天保七年四月十八日　本庄新八郎医学稽古願の事

一左之通願出相成候所、願之通被仰付候ニ付、其段一類呼出相達ス

願書付

私弟新八郎儀、年来病身ニ而文武之稽古等茂存分出来兼罷在候ニ付、医業方稽古存立長崎表医師楢林栄斎江随身仕度奉願候条、当申四月ゟ明而三月迄御暇被為拝領被下度奉願候、勿論往来之路費其外手前ゟ相整聊御上御助成等奉願候儀ニ而ハ無御座候間、何卒願通御暇被為拝領被下度、深重奉願候条、彼是之趣宜筋々御相達被下度、深々致御頼候、以上

本庄四郎左衛門

申四月

城島茂助殿

中島文蔵殿

977 天保七年四月十九日　松隈亨安長崎行願の事

一左之通願書有之候所、願通被仰付候

奉願口上覚

今般、少将様長崎御越被遊候ニ付、私一類松隈甫庵此節御供ニ而彼地罷越ニ付、為物馴同人江致随身罷越度御座候条、来ル廿一日ゟ日数二七日御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜御相達可被下候、以上

松隈亨安

申四月

城島茂助殿

中島文蔵殿

978 天保七年四月二十日　砲術稽古願の事

一明廿一日真田流砲術東島逸馬門弟、於北浦村稽古打相整度段願之趣、文武方ゟ達出御当役御聞届相済候付、文武方江相達、且右ニ付拝借物願等有之候付被差出候

979 天保七年四月二十二日　牟田口英太夫家名再興一件

一左之通御達有之、御当役達例之通り列席

義天院様御法事被相対、格別之思召を以亡牟田口英太夫名跡被相立、元切米五石為拝領候

梅吉

980 天保七年四月二十八日　伊王・高島両番増の事

一佐嘉ゟ左之通申来候

追々旬季差向候付、島之固諸家来増番之儀、一昨年畢竟地詰人数入而伊王島・高島江、筒方弐人充・足軽五人充沖島江平士弐人・足軽五人充来月朔日ゟ詰方被仰付義候条、可得其意候、以上

御番方

申四月

右之趣奉承知候、以上

981 天保七年五月二日　武衛流砲術稽古願の事

一武衛流砲術稽古打、明三日於北浦村相整度段願有之、

御当役御聞届、其通相済申候、右ニ付、御幕其外願有之候、御前様御聞ニも相立候事

982 **天保七年五月十一日　長崎仕組仰せ付けられる事**

一長崎御仕組所ゟ此御方御家老名前跡方之通被差出候様相達候末、四兵衛殿名前可被相達旨、西丸掛合越ス

983 **天保七年五月十七日　佐野文仲帰着の事他**

一佐野文仲儀、去未九月肥州様御参勤之節、御医師福地道林江致随身江戸罷越度、同人滞府中御暇願有之候末、願通被仰付出府仕、此節帰着致候段御届申上候、尤着後不快ニ而御礼罷出候義延引之旨、御断申上有之

一松隈亨安儀、肥州様御出崎ニ付、御医師松隈甫安江致随従長崎罷越度旨ニ而御暇願有之候所、其通被仰付候末、帰着仕候段、御届申上有之

984 **天保七年五月十九日　紅毛人付添役人牛津泊の事**

一紅毛人付添之役人牛津泊ニ付、郡方出張有之

985 **天保七年五月晦日　倉本夘十惣髪願の事**

一倉本夘十ゟ左之通願出相成候処、願之通被仰付候旨、頃日江戸ゟ御聞済相成来候ニ付、本人呼出、附役ゟ相達ス

奉願口上覚

私儀、若年ゟ不随之症ニ而痛勝有之、先年以来月代仕候得者、直ニ吹出物仕、爰切難渋打過候所、両三年跡ゟ猶又差募り、何分月代出来不申、乍心外長髪ニ而彼是保養相加候得共、一向快方不相成置、老年最早養生難届、去迚者只今之容体ニ而ハ、外出難叶、素り御用等承り候様無御座恐怖此時ニ奉存候、右ニ付、私一生惣髪被仰付被下度奉願候、右被相済於被下者、御蔭ニ外勤等を茂仕難有奉存候条、御支所無御座候ハ、、其通被仰付被下度重畳奉願候、此段筋々宜被仰上被下度奉頼義ニ御座候、以上

申二月　倉本夘十判

深江杢之助殿

辻左馬之允殿

右願之後、四郎右衛門殿江相達候上、御吟味之所、相違無御座候条被遂披露候様、被相整可被下候、以上

辻左馬之允判

深江杢之助判

持永治兵衛殿

中島文蔵殿

986 **天保七年六月十九日・二十日・二十一日　千々岩梅右衛門娘一件**

一神代源兵衛組ゟ願候ニ付、左之通被相達候

口達覚

私娘八歳ニ相成候を去ル十五日挽山見物ニ罷出候末、

同晩罷帰居候途中、五條刈宿西往還ニおゐて岡孫太殿怜ゟ無故三ヶ所手疵を請候ニ付、即刻ゟ療養仕居候得共、未生死之程茂難計御座候条、此段筋々宜御相達可被下候、以上

申六月十八日　　千々岩梅右衛門

与代

北村次郎右衛門殿

与年寄

古賀貞右衛門殿

堤平次殿

右之通達出申候条、御筋々宜被仰上被下候断(ママ)、本文御座候、以上

申六月十八日　　与年寄

堤伊平次〇

古賀貞右衛門

与代

北村次郎右衛門〇

神代源兵衛殿

前書之通達出候条、筋々可被相達候、以上

申六月十九日　　神代源兵衛〇

城島茂助殿

中島文蔵殿

六月二十日

一左之通組筋を以御届有之

私怜、当年拾三才相成候虎三郎儀、去ル十五日祇園社参詣仕、同夜五ツ時比罷帰候途中、五條ヶ里宿西往還ニ而足軽千々岩梅右衛門娘江手疵を負セ候ニ付、如何之訳候哉、回答候所、怪敷物ニ行懸り、狐之化物と存、恐敷侭切懸候段申出候、依之即刻より療治相加居申候、惣而者右之段、早速御達可仕之処、療治彼是取紛延引仕候亘り、甚奉恐入候、此段筋々宜被仰達可被下候、以上

申六月廿日　　岡孫太

甘木甚右衛門殿

右之通達出相成申候条、筋々宜御相達可被下候

甘木甚右衛門

城島茂助殿

中島文蔵殿

六月二十一日

一昨日御届ニ付、左之通

倅虎次郎儀、足軽梅右衛門娘ニ手疵を為負候ニ付、遠慮引入候旨御届　　岡孫太

987　天保七年六月二十日　倉本夘十門弟稽古願の事

一左之通達出相成候ニ付、達御聴其通相済候ニ付、文武方江相達候

口達覚

今夕方ゟ夜ニ掛り五百目木筒ニ而祇園山後ニ而合図及放稽古放出相整度奉存候条、其通被仰付被下度奉頼候、以上

六月廿日　　倉本夘十

門弟中

神代源兵衛殿

988 天保七年六月二十三日　病にて供間に合わず処罰の事

一去ル十九日佐賀御越之節、御供不懸合ニ付、御修理方江取調子相成候所、銘々左之通申出候

手覚

雇御陸尺
土生刈
義兵衛
無点合
二俣刈
万助
甘木刈
佐助

母親相痛居候ニ付、看病方取紛、御刻限迦相成、漸津野村ニ而御供申上候亘り、甚恐入候旨、申上候

裏町
伊三郎

昨夜八ツ半時比、腹痛仕候故、津野村棒頭宅罷出、相断候得共、御刻限差懸り候故、押而相勤候様申聞候ニ付、気分相繕、漸賀瀬町ゟ御供申上候亘り、甚奉恐入候旨、申上候事

989 天保七年六月二十四日　医師手形の事

一左之通達出候ニ付、西丸差越ス

口達覚

私義、御評定所御用之義有之候ニ付罷出候様被仰達奉畏候、就而者早速其筋罷出候半而不相叶候得共、比日より持病之疝積ニ而、何分罷出候気体無御座候、為其医師手形相副差出候条、筋々可然御相達可被下候、以上

六月廿二日　東島兵右衛門
永石作右衛門

前出之通、願出ニ相成候条、筋々宜敷御相達可被下候、以上

永石作右衛門
城島茂助殿
中島文蔵殿

覚

東島兵右衛門義、先達而ゟ持病之疝積差起、其上時疫相煩、節角治療仕居候所、近日者別而疝積差募、近々快気仕候義不相見候、依之私治療仕候付、一紙如是御座候、以上

六月　村田道樹

990 天保七年七月四日　本庄新八郎帰着の事

一本庄四郎左衛門弟新八郎儀、当四月頃御暇済之上、長崎楢林江医業為稽古罷越候所、不快有之候付、一先帰宅仕候段御届有之、依之達御聴候

991 **天保七年七月十六日　山内湯治願の事**

一川副又右衛門ゟ左之通御暇願有之候末、願之通被仰付候

口上覚

私儀、近年持病之疝積毎々指発、甚難渋仕候付、色々養生相加候得共、病気柄ニ而其験も無御座、依之山内罷越湯治仕見度御座候間、何卒来十九日ゟ向日数十日御暇被為拝領度奉願上候、此段筋々可然御相達致御頼候、以上

申七月十六日　　川副又右衛門

992 **天保七年七月十七日　原口養碩忌中の事**

一左之通銘々御届申上候

下川助之進

親利兵衛今夕相果候付、忌中引入申候

右者隠居体ニ付、折を以達御聴

原口養碩

右利兵衛儀ハ実父之続ニ付忌中

黒木又四郎

納富義左衛門

右祖父之続ニ付、同断

993 **天保七年七月十八日　川久保俊台御ヒ兼の事**

一左之通、当分兼役被仰付候、相談役達

川久保俊台

原口養碩忌中引入中御部屋御ヒ兼

994 **天保七年七月二十六日　富岡弥一左衛門より願の事**

一富岡弥一左衛門より門弟稽古木筒相損候ニ付、五尺廻之松木壱本、右取寄用夫丸七人被差出度、文武方筋を以頼相成、其通ニ差出候

995 **天保七年八月十日　富岡弥一左衛門御役御免の事**

一左之人々、役方御免

富岡弥一左衛門

黒木又四郎

川久保俊策

岡百助

鹿伝右衛門

山田治兵衛

996 **天保七年八月十一日　川久保俊台御役の事**

一左之通相談役達

川久保俊台

持役ゟ御内御ヒ兼則御請御内之方重ニ被相勤候様、附役ゟ相達ス
右ニ付、出勤場所之儀、伺相成候所、御内江出勤有之候様、左候而外方出勤者印形ニ不及旨相達ス

天保八年（一八三七）

997　天保八年八月二十七日　佐野文仲暇願の事

一佐野文仲ゟ左之通御暇願出候所、願之通被仰付候
口達
私儀、御本家御家中福地道林江随身罷在候処、今般肥州様御参府ニ付、同人御供被仰付被罷越義ニ御座候、依之私ニも随従罷越呉候様被致相談、師弟之間何分難申断無拠罷越候半て不相叶、殊ニ稽古方出精も仕度奉存候条、毎々難奉願御座候得共、支所無御座候半者、右人滞府中御暇被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達奉願候、以上
酉八月　佐野文仲印
成富文七郎殿
城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿

998　天保八年九月七日　川久保俊台忌中の事

一左之通御届有之
川久保俊台
於多久実母昨六日相果候、依之忌中引入候段御届

999　天保八年九月十二日　高島詰を命じる事

一高嶋詰之儀、左之通被仰付候段、注進申越候
高島冬番　下川助之進
守衛方　田嶋七郎左衛門

1000　天保八年九月十五日　三平風邪に付、暇乞に行けず

一三平様ゟ肥州様江御暇乞御口上、左之通
弥御勇健被成御座珍重御儀奉存候、然者今般御発駕ニ付、為御暇乞参上可仕之処、近日風邪気罷在、何分其儀難相叶候、此段以使者申上候

1001　天保八年九月十六日　松隈享庵暇願の事

一松隈享安ゟ左之通願出候末、願之通被仰付候
奉願口上覚
私儀、御本家御家中松隈甫庵江家業方稽古として随身罷在候処、今般肥州様御参府ニ付、同人御供被仰付被罷越義ニ御座候、依之私ニ茂随従罷越呉候様被致相談、師弟之間、何分難申断、殊ニ稽古方ニ茂相成、猶又出精仕度奉存候条、指懸り難奉願御座候得共、御支所無御座候半者、同人滞府中御暇被仰出被下度奉願候、此段筋々宜御相達致被頼候、以上

酉九月　　松隈享安
城島茂助殿
其外殿

1002　天保八年十月三日　道辺刈流行病に付、祈祷願の事

一道辺刈流行病ニ付、御祈祷願出候ニ付、其通被仰付候

1003　天保八年十月十一日　長崎出陣の面々へ酒拝領の事

一左之通、御当役ゟ監物殿相達有之
一先般異国船相見候ニ付、長崎表自然之節早速被召出候御人数御手前様御組内ゟ支度有之居候様被相達置候末、当時半如形用意相調候由、就而者内輪難渋之向も可有之候得共、最前も被相達候通、夫々御助力体之儀不被御断候由候付、於御組方相達被置候人々江別紙之通乍聊為御酒料被為拝領候条、於御組方夫々御達可被成候

1004　天保八年十月二十七日、十一月九日・十五日　普門院より大般若執行願の事

一普門院ゟ左之通願出候付、御吟味之上、無拠訳相聞候付、願之通被仰付候段、同庵呼出付役ゟ相達ス

奉願口上覚

私儀、兼而内證差支、極々難渋之儀改而不能申上、専人施当ニ而辛々日用相弁罷在候処、当春以来既ニ家内之者共及飢候行形ニ御座候得共、難有御介抱米拝領、御蔭ニ眷属共露命相繁、誠ニ以御厚恩冥加至極難有仕合難尽筆紙奉存候、惣而者責而寸分之御報恩申上度偖奉愚考候得共、差当考付茂無御座、勿論御上御武運御長久之儀者兼而職分ニ而、日夜抽丹誠相勤罷在儀ニ候得共、今般御領中五穀豊穣・風雨順時并人馬疫病為転除、一七日之間大般若執行於拙坊執行仕度奉存候条、村々ゟ参詣仕候様被仰達可被下奉願候、於就者御札守等銘々相授可申奉存候、誠ニ格別ニ被仰付置候難有家筋ニ付而ハ、何分貧苦差迫り候共、軒向相立見苦敷行作等仕候訳無御座、前文之通被仰達被下候ハ、、猶又懲誠心相祈可申兼而之存念も相届、且者外郷ニ而も規模之至ニ而、郷村ゟ之信仰も可有御座、重畳御厚恩千万難有仕合奉存候条、自他格別之御憐評を以、願之通被仰付可被下奉願候、此段御筋々宜被仰達被下度奉頼上候、以上

九月七日　　普門院
寺社御奉行

十一月九日
一普門院ゟ最前願出候末、左之通達出候ニ付、郡方筋ゟ郷内江参詣有之候様相達候

口達

先般被仰達候御祈祷之儀、来ル十五日ゟ廿一日迄一七日之間、修法相勤申儀御座候、此段御達仕候、以上

酉十一月　　普門院
十一月十五日

一左之通願出之末、被差出候
覚　　壱張
一御紋付御幕　　弐張
一御紋付台提灯
右之通来ル十五日ゟ廿一日迄郷内御祈祷ニ付被差出被下度、重々奉願候、以上
十一月十六日　　普門院
一左之通被仰付候

1005　天保八年十二月一日・十三日　山内・山代郷にて配薬仕り度事

一深川定左衛門ゟ別紙左之通願出候
乍恐奉願口上覚
某儀、先祖以来数代御用金并御薬種御用被仰付、御蔭を以家名連続仕来、御高恩之程、重々難有仕合奉存候、然処、近年御時勢ニつれ渡世方衰微仕、打追相続之儀難相叶処ゟ色々内職をも相営家筋所を以信助名目ニ而丸散商売仕、薬種等自余ニ抽上品を相撰製方仕候半者、望之人も段々相増、乍此上尚又手（後文欠）
十二月十三日
一深川定左衛門ゟ左之通願出候末、郷方吟味書之旨を以、願通被仰付候
某儀、先祖以来数代御用金并御薬種御用被仰付、御蔭を以家名連続仕来、御高恩之程、重々難有仕合奉存候、然処、近年御時勢ニ連渡世方衰微仕、打追取続候儀難相叶処ゟ色々内職をも相営家筋所を以、悴信助名目ニ而丸散商売仕、薬種等自余抽上品を相撰製方仕候故、望之人も段々相増、乍此上尚又手広売弘候得者、相続之一助共相成可申候、就而者御領内端々ニ者旅方薬売等抜々徘徊仕、其内ニ者紛等敷者も相見、乍憚村方風俗ニも相拘可申歟と奉存候条、右之代り某方ニ而格別吟味を加相抜候丸散等村方役々を始、最寄〳〵江配置申度、勿論至而極難之面々江者施薬をも可仕、就中山内・山代遠郷所医師も手少キ場所者、救急之備ニ茂相成候様、都而念を入製薬仕、殊山内住居之面々者、山林多故歟、怪我人も間ニ有御座候哉ニ承知仕候得者、大坂そけぬき之妙方、幸某方伝来仕候ニ付、右薬を茂相添配薬可仕奉存候条、旁之趣宜御聞済被下置度奉願上候、於然者御陰を以家名相続仕、幾々御用之端ニも相成候通出精可仕、弥有御仁思之程猶更難有奉存候、此段御筋々宜被仰上可被下候義、深重奉願候、以上
酉十一月　　深川定左衛門
右附紙
本文願之次第、村々役々ニ茂問合見候所、一体困窮百姓而已ニ而急病等之節者医も未相用候儀不相叶、就中山内郷・山城郷遠郷之場所者何分薬用間ニ合不申候、兼而難儀仕居候処、右配薬相成候ニ付而者、的難之節、大ニ相助り、将又薬品も相撰製薬相成候由ニ御座候得者、当時間ニ者売買有之薬種と者直段合等之儀も下

直相当候哉有之、一統大ニ帰依仕候趣御座候、就而者右於被差免者、実ニ御救民之筋ニも相成候哉と奉存候条、猶宜被遂御評議候、以上

酉十一月　　郷方

配薬目録

一柴金錠　二錠包百弐拾文
　十粒同四拾文
一十補円　練薬八拾匁入　一調経湯　血道一切一貼
　六百弐拾文　　ニ付、振り薬
　四拾匁入　　八拾文
　三百弐拾文
一五積散　風引一切一貼　一薄荷円　気付一具ニ
　振り薬弐拾四文　　付四拾文
一肥児丸　小児一切　一木香丸　弐拾粒包
　四拾粒包四拾文　　弐拾文
一速康散　一貼ニ付　一指薬　一具ニ付
　弐拾四文　　四拾文
一鵞胡蘭丸　火癪一切　一目薬　右同
　二十粒包　　拾弐文
　弐拾四文
一目洗薬　一貼ニ付　一和蘭万能膏　一具ニ付
　拾弐文　　拾弐文
一和蘭吸出膏　一具ニ付　一和蘭散シ膏　右同
　拾弐文　　拾弐文
一右同御切紙　一袋ニ付
　八文

右吟味書之通、此節被仰付候段、深川定左衛門呼出相達候、扨又江戸江も流達相整候

1006　天保八年十二月七日　砲術稽古願の事

一左之通被相達候ニ付、則被相済候

明八日、於北浦私門弟火矢抱打為仕度奉存候条、御支所無御座候ハヽ、右場所被相済被下度奉願候、以上

十二月七日　　富岡弥一左衛門

文武方

天保九年（一八三八）

1007　天保九年一月十四日　東山田村流行病に付、祈祷の事

一東山田村流行病入込候ニ付、右伝除御祈祷相願候末、普門院江被仰付候段、呼出相達ス

1008　天保九年一月二十五日　原口養虎暇願の事

一左之通御暇願有之候処、何れ茂願之通被相済候、尤原口養虎願之儀者先便伺越相成居候得共、去春相済シ被置候末ニも有之候ニ付、前方畢竟被仰済江戸申越ニ者此通取計候段、御当役ゟ申越相成

奉願口上覚

我々一類原口養虎儀、仙台御藩中桑原隆朝江随身為仕候ニ付、去春御参府之節、親養碩召連度含ニ而御暇奉願候所、其節不計病所有之長途之旅行不任所存候ニ付、其段申上候所被御聞置被下候末、最早痛所茂全快仕候ニ付、当戌暮より向寅年迄御暇被為拝領被下度段、今又江戸ゟ願越候処、当時江戸御伺越中之段奉承知候、然所養虎儀、初而之旅行ニ付、誰か同伴之人無之而ハ道中無心元奉存候処、幸中林四郎兵衛儀出府被仰付、当二月頃より出立有之候趣ニ付、同人江道中之処為致随従度心得御座候処、此節四郎兵衛急出府被仰付発足有之趣承知仕候、惣而者我々ゟ難奉願奉存候得共、此後可然同伴之人も可有之候哉難計、幸之折柄ニ付、同人随従為仕差登度奉存候間、可相成者当節ゟ右之年限中御暇被為拝領、願之通被仰付被下度奉願候、初而之道中ニ付、誰か同伴ニ而罷越候様兼々養碩より我々迄申越置候得者、何卒前断之通、当節四郎兵衛一同為差登度、我々より深重奉願候、此段筋々宜御相達被下度致御頼候、以上

戌正月　　藤嶋清左衛門
　　黒木六左衛門

城島茂助殿
中嶋文蔵殿

1009　天保九年一月二十九日　宮崎壽斎暇願の事

一宮崎壽斎ゟ去十一月頃、願書を以忰元益江戸遊学被仰付置候得共、壽斎儀、病気勝ニ而何分家業茂難立行ニ付、御暇被相願候末、江戸伺越相成候処、一先御暇可被差出旨、仰出之次第此節申来候ニ付、右一類松崎五右衛門江其段相達ス、尤元益ニ者於江戸御達可相成候旨旁申来候也

1010　天保九年二月二十二日　伊東伝蔵治療の事

一佐保川島郷大庄屋ゟ左之通致注進候段、郡方ゟ達出相成

注進

某掛佐保川島郷池上村罷在候小城足軽伊東伝蔵と申者江八戸村御厨儀七妹そのと申者致縁付参居候所、去ル十三日早朝ゟ伝蔵儀何方可罷出と支度仕、昼食之用意可仕と包丁取扱居候半、その儀起出何歟相卒無体ニ伝蔵江取付、両人共不計相倒レ、右包丁ニ而その儀疵相付候由ニ而、互ニ相驚、伝蔵儀者早速医師迎として罷越、養生ニ相懸り候由之末、去ル十九日夜療養不相叶相果申候段、昨夜同村役々ゟ相達候ニ付、此段御達仕候、以上

戌二月廿二日　　中原忠蔵

秋野利右衛門様
水尾小十郎様

1011　天保九年三月一日ほか　砲術内試の事

一井上流・武衛流砲術角前御内試、於御書院前有之筈之処、今日雨天ニ付被差延、来ル四日被相整候段、富岡弥

一左衛門江相達、尤同日雨天ニ候得者、五日ニ可被相整候段、旁相達ス

三月四日

一井上流・武衛流砲術角前御内試、於御書院前被相整候、門弟中江左之通御酒拝領有之

一酒六升

一肴

三月七日

一真田流砲術角前御内試今日可被相整之所、一昨日ゟ之雨天ニ付、一先被差延候

三月八日

一真田流御内試雨天ニ付、今又被差延、日限之儀者追而可被相達旨相達ス

三月十五日

一真田流砲術角前御内試被差延置候末、今日於御書院前有之候、依之跡方之通門弟中へ御酒拝領左之通、但惣人数凡五拾人

一酒五升

一ひしこ

1012 天保九年三月十九日　造船許可の事

一左之通三丸受役所ゟ達帳相成候段、西丸ゟ到来

紀伊守殿台所用拾弐反帆船壱艘、牛津おゐて新造立被差免度、彼家来ゟ願之段、御当役御聞届、如願被差免候条、此段筋々可被相達候、以上

戌三月十七日　三丸　受役所

三月二十二日

一三平様、今四ツ時御供揃ニ而、此節新造之御船為御見物被遊御出候

1013 天保九年三月十九日　庄屋吉蔵医者手当の事

一山代川内野村庄屋吉蔵、評定所於居籠所熱症相煩候ニ付、早速医者手当之儀其筋ゟ相達相成候ニ付、川久保俊台手紙を以弟子見脈有之候様懸合候事、附針・あんま町医才悦ニ茂吉蔵ゟ依願療治方申付候

1014 天保九年三月二十七日　百姓千蔵妹むめ病の事

一左之通郡方ゟ相達相成

注進

某掛北郷蓮寺村江白石平屋村百姓千蔵妹むめと申女致徘徊、昨廿六日参掛病気相煩、一向歩行不相叶候ニ付、村方ゟ色々介抱仕候所、一円快無之、一刻茂在所罷帰度旨相詫候ニ付、宿継郷継ニメ、今廿七日早々差送申候、此段為御存御達仕候、以上

戌三月廿七日　大庄屋　犬山万之允

秋野利右衛門様

1015 天保九年四月七日　武雄湯治に御供召し連れの事

一長局ゟ左之通被相達候

於瀧女

此節、御前様為御湯治武雄於瀧女被遊御越候ニ付、御供ニ被召連候旨被仰出候故、御供ニ而罷越候段、御届申上候

1016 天保九年四月七日　長崎御屋敷類焼の事

一去ル四日夜五ツ時頃、長崎小川町ゟ出火、同五日暁築町御屋敷之儀も致類焼候段、徳見郡四郎出崎中ニ付、早速彼地出立、今日到着有之、右之御届有之候

1017 天保九年四月七日　鷹尾丸造立に付、褒美の事

一鷹尾丸御造立成就ニ付、右之通被仰付候、侍通者御当役達、小頭通ハ相談役達、足軽其外ハ付役達

定金七百疋　園田半十郎
同　弐百疋　相原万兵衛
同百疋充　蒲原兵太夫
香月七郎右衛門
伊東茂兵衛
神代与兵衛
馬渡寛四郎
岡千兵衛
大嶋覚右衛門
南里兵左衛門
江里口弥右衛門
留守勘兵衛

御酒拝領

定金三百疋
同弐百疋充

同百疋充　本村治兵衛
松田次兵衛
小頭目付中
足軽目付部り
坂井千左衛門
古川杢兵衛

御酒拝領

定金弐百疋
別段三百疋

一代着到者ニ被召成、金子千疋被下候

右者御船方達

兼而御蔵方御用向粉骨、今般御船造立方調達之義申上旁致太儀候ニ付、一生ヶ間三人扶持被下之

綿屋六蔵

御船手舸子之内、番匠手少候ニ付、御出入番匠ニ被仰付候事

榎津番匠
要助

右者御船方達

1018 天保九年四月十一日　長崎仕組仰せ付けられる事

一三丸長崎御仕組方御家老名前被相達候様申来候ニ付、左之通被相達候

長崎御仕組方ニ付御家老
園田善左衛門

1019 天保九年四月二十二日・二十三日　火矢稽古の事

一真田流ゟ明廿三日於北浦火矢稽古相願有之候段、文武

方ゟ達出相成候末被相済候
四月二十三日
一真田流放出、今日於北浦可相整筈之所、一先延引之旨
御届有之候

1020　天保九年四月二十九日・閏四月朔日　御前様武雄入湯の事

一御前様御事、御病所被為在、武雄為御入湯、今朝六時
御供揃ニ而多久通被遊御越候、尤多久御昼休円通寺被
成御堂参、其末馬上越御越御忍御行列也
閏四月朔日
一御前様一昨日武雄御越、夕七ツ時同所御茶屋御着座被
成候段、神代源兵衛注進有之候ニ付、三平様被達御聴、
御当役方江茂相達候

1021　天保九年閏四月二日　松隈享安帰着の事

一松隈享安江戸ゟ帰着之御届有之候

1022　天保九年閏四月三日　流行病煩の事

一科代夫部左之者共流行病相煩候ニ付、一順一類御預宿
被差返候
遠江刈　庄兵衛
石木刈　貞次郎

1023　天保九年閏四月五日　布上恕斎評定所より呼出の事

一左之人評定所御用有之、明六日朝五ツ時被罷出候様相
達相成候段、西丸ゟ到来
布上恕斎

1024　天保九年閏四月七日　紅毛人付添役人牛津泊まりの事

一紅毛人長崎帰路附副之役々牛津駅泊ニ付、郡方ゟ例之
通出張取計有之候

1025　天保九年閏四月九日　園田善左衛門武雄入湯願の事

一善左衛門殿持病気ニ付、武雄表為湯治罷越候ニ付、向日
数十日御暇願有之候ニ付、各方迄廻札差出候

1026　天保九年閏四月十二日　田尻監物塚崎入湯願の事

一監物殿御附人ゟ左之通被相願候所、御当役江相達、願
通被仰付候段、吉田勘右衛門付役ゟ相達ス
手覚□（中脱）
監物殿痛所ニ付、塚崎入湯被相越度ニ付、明十三日ゟ
向日数二七日御暇被相願候、筋々宜御相達致御頼候、
以上

閏四月十二日　　吉田勘右衛門

1027　天保九年閏四月十三日　里田郷疫病に付、祈祷の事

一里田郷之儀、近年流行病ニ付、右為転除普門院江村々祈祷先達而被仰付、佐保川島郷入込祈祷有之居候得共、果散江不申、依之平吉郷之所を今又行乗坊江被仰付、早速ゟ入込祈祷有之候様相達ス

1028　天保九年閏四月十五日　宮崎元益帰着の事

一宮崎元益昨夜江戸ゟ致帰着候旨御届有之候、同便ニ而江戸・大坂御用翰持越相成候

1029　天保九年閏四月十五日　疫病の村々へ祈祷の事

一左之村々疫病流行ニ付、右転除御祈祷願有之候ニ付、行乗坊江被仰付、早速ゟ廻村有之候様相達ス

下無津呂村　　古湯村　　大串村

〆

1030　天保九年閏四月十七日　佐野文仲帰着延期の事

一佐野文仲儀、佐嘉御家中福地道林江随身仕居候内、同人御供立ニ而被罷登候ニ付、最前御暇相願、同人詰中出府有之候末、此節肥州様御下国ニ而廿二日御着致候処、道中ゟ風邪気ニ而着懸ゟ平臥罷在、何分近来之内御機嫌伺罷上候儀出来兼候段、一類中ゟ御届有之候

1031　天保九年閏四月十八日　宮崎元益へ仰せの事

一宮崎元益江仰聞、城島茂助宅暮時御用ニ而、同人ゟ御書付読聞候、委細罰帳ニ有之

1032　天保九年閏四月二十五日　田尻監物帰着の事

一監物殿痛所有之武雄入湯ニ付御暇最前相願被置候所、昨日御帰宅有之候段、御届有之候

1033　天保九年閏四月二十五日　御前様病に付、医者へ療養を命じる事

一左之通相談役達

山田元壽
村田道樹

御前様御不例ニ付、川久保俊台申談御療養被申上候様

1034　天保九年閏四月二十五日　高島番を命じる事

一左之通付役達

高島加番付被仰付候　　足軽　諸泉太平次

1035 **天保九年五月五日　長崎仕組に付、仰せ付けられる事**

一長崎御仕組所ゟ新御仕与被相立候段、達帳を以被相達候由、西丸ゟ申来、委細触達帳ニ有り

1036 **天保九年五月五日　長崎奉行へ使者の事**

一左之通相談役達　　石丸杢

此節御在着ニ付、長崎御奉行江御使者被仰付候

五月七日

一長崎御奉行江為御使者石丸杢昨朝ゟ出立有之候、御進物海月壱桶

1037 **天保九年五月十二日　山田元寿忌中の事**

一犬塚市之助親市右衛門長病之末相果候段御届申上候

一山田元壽ゟ右ニ付忌中御届有之

1038 **天保九年五月十三日　石丸杢帰着の事**

一石丸杢長崎御使者相勤、昨夜帰着之旨御届有之

1039 **天保九年五月十五日　長崎公訴一件に付、報知の事**

一左之通、従長崎注進有之

石丸杢帰便ニ而致啓達候、然者高島守衛方筒方加番として昨日同所致出島御番方并深堀在番方其外手数相整、下川助之進・田島七郎左衛門面会申談相整申候長崎公訴一件ニ付、内々両人江其訳申談置、今日長崎迄一先引取申候、尤川久保交代之砌ハ又々出島仕儀御座候、此段筋々御相達可被下致御頼候、以上

五月十一日　　覚右衛門

茂助様

文蔵様

1040 **天保九年五月十六日　長崎奉行からの書状到来の事**

一長崎御奉行ゟ之御状壱封徳見伝助迄被相渡候由ニ而、大嶋覚右衛門出崎中ニ付、同人より為持差越候を御状方迄差上候也

1041 **天保九年六月二日・三日　大調練の服装の事**

一御本方大調練ニ付、服之儀御問合之処、左之通申来候

御本方追々大調練ニ付、侍・手明鑓衣服差別有之候哉、御申越致承知候、尚又承繕候処、手明迄ハ一統半纏股引、御徒士以下ハ平常之服ニ而股引と申規定之由ニ而、侍と手明鑓ハ服之差別無之旨ニ御座候条、

左様御承知可被成候、以上

六月二日　橋本善右衛門

城嶋茂助様

中嶋文蔵様

六月三日

一一番手組中調練学校南勢屯ニ而被遊御内覧候、右付組中江御酒被為拝領候、惣人数凡三百六拾人、酒三斗升御台所整

1042　天保九年六月三日　原口養碩暇願失念の事

一左之通御届有之候

宮地鉄之丞

原口養碩御暇願被相頼置候所、失念ニ付遠慮右者早速御免

原口養碩

昨二日御暇願之儀宮地鉄之丞江相願置候所、同人失念不申上所、心済ニ而出勤不仕亘、甚奉恐入、遠慮右者翌日御免

1043　天保九年六月四日　借銀方御用に付、長崎滞留の事

一大嶋覚右衛門長崎ゟ左之通致注進候

足軽諸泉太平次高島帰便を以致啓上候、然者高島交代之儀、去月廿八日無滞相済申候、私ニ者御借銀方御用ニ付長崎相滞居申候、此段筋々御相達致御頼候、以上

六月二日　大嶋覚右衛門

城嶋茂助様

中嶋文蔵様

1044　天保九年六月六日　高島番帰着の事

一左之人々高島番被差越置候所、去月廿八日久保田家来と交代相整、昨夜致帰着候段御届有之、右ニ付、例之通、御家老座ニ而御当役造酒殿御面談有之、但去月為加番被差越候大嶋覚右衛門儀者、御借銀方御用ニ而長崎江滞相成

下川助之進

田嶋七郎左衛門

足軽三人

1045　天保九年六月二十五日　原口養碩忌中の事

一馬渡寛四郎儀、昨廿四日相果候段、組筋より御届有之候

原口養碩

伯父之続ニ付忌中御届

1046　天保九年六月二十八日　円通寺より病人に付、願の事

一左之通、円通寺ゟ被相達候ニ付、則郡方より手当相成候様申遣候

口達
岩蔵村祐助と申者、病気ニ而、廿五日晩ゟ当山大方丈床之下江倒伏罷在候、実子等も有之候由ニ付、度々懸合、尚又庄屋元江も申達候へ共、引取不申候、最早四五日ニも相成候得者、生死之程も難計、第一新立之堂内ニおいて相果候而ハ甚難渋存候間、早速引取候様、御申付被下度奉願候、以上
戌六月廿八日　円通寺
役僧
寺社方
御役所

1047 天保九年六月晦日　熊川入湯願の事

一左之通願出有之候ニ付、達御聴候処、願通相済
私儀、先立ゟ痔疾相煩、甚難渋罷在候ニ付、為入湯熊川村罷越度御座候間、明朔日ゟ向日数十日御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜御相達奉頼候、以上
戌六月晦日　田中貞右衛門

1048 天保九年七月朔日　高島より帰着御礼の事

一当日御礼被為受候一統相済候後、余時御礼有之候
高島ゟ帰着之御礼　田嶋七郎左衛門
長崎ゟ帰着之御礼　大嶋覚右衛門

1049 天保九年七月五日　直正長崎行きの事

一左之通西丸ゟ申来候
肥州様明六日七時御供揃ニ而本庄郷より御乗船、長崎被遊御越候由御座候、此段御心得迄為御懸合如是御座候、以上
七月五日　犬塚与三左衛門
吉田寛左衛門
城嶋茂助様
中嶋文蔵様

1050 天保九年七月五日　武衛流稽古願の事

一富岡弥一左衛門門弟中ゟ武衛流相図稽古打、於岡前昼夜相整度旨被相願候ニ付、伺之上被相済候

1051 天保九年七月十一日・十四日　長崎奉行より書状到来の事

一長崎御奉行久世伊勢守様ゟ御状弐封到来ニ付、御状方江差上候
七月十四日
一長崎御奉行久世伊勢守様ゟ御状御到来ニ付、御状方迄差上候

1052 天保九年七月二十日　山内仕組書・心得書達の事

（前略）
一捨子并産流候儀者御法度候処、間ニ者心得違之者も有之哉相聞候、以来右体之儀有之於顕然者、吃度其〆申付候事
附、二子を産候者於有之者、早速筋々可相達、郷村端々ニ而二子致出産候儀、其母恥辱之様相心得候者も有之由、甚間違之儀ニ候、昔ゟ二子産候儀多々有之、至而目出度事候条、筋々可相達、依趣壱人者御上ゟ養育可被仰付候事
（後略）

1053 天保九年七月二十一日　佐保川島郷へ薬代差出の事

一佐保川島郷近年痢病以之外流行ニ付、御薬願出候ニ付、御調合七拾八服御手元ゟ被差出候ニ付、御蔵方江相渡、同所ゟ郷方江相達相成候様、尤同役所江郷中ゟ願出候ハヽ、其時々被相渡候様、御蔵方ゟ申談相成候

1054 天保九年七月二十二日、八月四日・六日　相図稽古に付、竹等拝領願の事

一左之通、口達を以願出相成候ニ付、御修理方より被差出候也
口達覚
来ル廿八日相図稽古出張仕度御座候、就而者筒輪相損居候ニ付、輪替相整度御座候条、六寸竹弐拾本被差出被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
七月廿二日　富岡弥一左衛門
文武方
八月四日
一左之通伺相成候処、被達御聴候処、伺之通被仰出候
口上覚
明五日稽古出張相図放出仕度御座候間、御支所無御座候ハヽ、場所之儀者岡之前ニ被相済可被下、此段筋々宜奉願候、以上
八月四日　富岡弥一左衛門
文武方
右伺之通被仰出候付、其段文武方江相達ス
右出張ニ付、左之通拝借願
一夫丸　五人
一幕　三張
一くし　弐拾四本
一楮木　六本
一なわ　壱束
一薄へり　拾枚
右之通拝借奉願候、以上
八月四日　富岡弥一左衛門
右之通願済相成居候処、少々差支之儀有之、略々敷奉存候へ共、明後五日ニ出張相整度段、今又願出相成候ニ付、伺之処、伺之通被仰出候

八月六日
一富岡弥一左衛門門弟中、相図放出今夕ゟ夜迄於岡前願之通有之候也

1055　天保九年七月二十四日　長崎代官へ書状差出の事

一長崎御代官高木作右衛門様御父子江御状差出候ニ付、足軽飛脚池田大助今朝ゟ長崎差越候

1056　天保九年八月二十三日　原口養碩役仰せ付ける事

一左之通役方被仰付候段、御当役造酒殿被相達候
（前略）
此人相談役達兼役ニ付而也　原口養碩
持役ゟ三平様御ヒ長局懸り

1057　天保九年九月三日・八日　村田道樹役仰せ付ける事

一左之通御当役御達　村田道樹
御ヒ被仰付、明春御参府御供被召連候
九月八日
一左之通申上候　村田道樹
御参府御供之処、御請ハ今暫御猶予奉願候、尤御ヒ之儀ハ御受申上候

1058　天保九年九月十七日　深堀詰家来減番の事

一御番方ゟ西丸呼出ニ而左之通被相達候旨申来
当御番中、御自領深堀嶋々固諸家来之儀、追々御減番之上、左ニ書載之通諸方被仰付候、増番人数被相減儀ニ候条、引払相成候様、筋々懇ニ可被相達候
高島　筒方壱人
但、足軽之儀ハ同所御番所請より兼ニ相勤候様
伊王島　筒方壱人
足軽弐人

1059　天保九年九月二十三日　田尻清記山代滞留願の事

一清記殿為保養山代引越候末、今暫御滞留ニ付、左之通吉田勘右衛門ゟ御届仕候末、御当役御聞届被達御聴候処、最初被相越候節、御届茂無之亘り、御沙汰被遊候由ニ而、秀嶋八右衛門ゟ尚又問合有之候、右者最初勘右衛門承込居御届可申上候処、同人間落為致不行届奉恐入候段申上候末、八右衛門ゟ尚又被申上候所、無何事相済候事
清記殿病所為保養、知行所山代郷里村へ被引越居候末、今暫滞留被致度被存候、此段致御達候、以上
戌九月　吉田勘右衛門

1060 天保九年十月二日　相図稽古願の事

一東島逸馬ゟ左之通被相願候処、願之通相済
口達
私門弟明四日、於岡前相図稽古打為被仕度奉願候、右場所御支所無御座候半、願通被相済可被下候、此段筋々御相達致御頼候、以上
十月三日　東島逸馬
文武方

1061 天保九年十月十四日　長崎より書状受け取るも日付無い事

一左之通口達書を以、田嶋七郎左衛門ゟ被差出候
口達
私儀、為高島詰罷越、去ル六月二日彼地出立罷帰候ニ付、長崎御聞番方之付状受取相納置候所、右付状面ニ日付無之、何之訳候哉御問合之趣承知仕候、右者其砌別而出立差急見調子大形ニ而受取候侭相納置候処、右之次第不気付之亘り、今更深畳奉恐入候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
戌十月　田嶋七郎左衛門
城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
吉田勘右衛門殿
一高島番足軽ゟ右同様口達書指出候
我々儀、為高島詰罷越、去ル六月二日彼地出立罷帰候付、長崎御屋敷ゟ御付状受取相納置候所、右付状面ニ日付無之、何之訳ニ而候哉御問合被成下候趣奉承知候、右者其砌別而出立差急見調子大形ニ而受取候侭相納置候処、右之次第不気付之亘り、今更深畳奉恐入候、此段筋々宜御相達致可被下奉頼上候、以上
戌十月　田中梅吉
武藤勘三郎
副島千右衛門
古賀文左衛門
城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
吉田勘右衛門殿

1062 天保九年十月十五日　高島詰切手返納一件の事

一年行司ゟ左之通被相達候旨、西丸ゟ申来
仰渡　紀伊守殿家来
田嶋七郎左衛門
其方義、為高島詰罷越居候末、先般罷帰切手致返納候所、長崎ゟ手印ニ日附無之、尤其砌出立差急見調子不行届由ニ者候得共、畢竟不念之処ゟ右之次第無調法者ニ候、依之科代夫三人相懸候也
戌十月十三日　年行司
右仰渡之趣、承届候、科代夫銀壱匁五分早速相納候様相達可申候、以上
橋本善右衛門

紀伊守殿足軽
田中梅吉
武藤勘三郎
副嶋千右衛門
古賀文左衛門

其方共義、為高島詰罷越居候末、先般罷帰切手致返納候処、長崎ゟ之手印ニ日附無之、尤其砌出立差急見調子不行届由候得共、畢竟不念之処ゟ右之次第不調法者共候、依之科代夫三人充相懸候也

戌十月十三日　年行司

右仰渡之趣、承届候、科代夫銀六匁早速相納候様相達可申候、以上

橋本善右衛門

1063　天保九年十一月二十六日　松隈享安暇願の事

一左之通願有之候所、願之通被仰付候

奉願口上覚

私儀、先年来為医業稽古佐嘉罷在候同家松隈甫庵宅罷出居、家伝一通之処ハ伝来仕候得共、尚又脇方手広稽古仕度存居候半、同人倅安竹儀為稽古参居候京都眼科寺嶋栄作儀、眼科本道共相応出来候人之由候得者、私ニ茂此節彼方罷越、猶又稽古仕度者奉存候得共、年来逼迫之末、何分難任自力、当時之御半近来恐多奉存候得共、壱孤兵糧丈頂戴被仰付於被下者、御蔭を以存分稽古仕度奉存候、惣而者自余小身之面々と相変、大禄頂戴同列上席ニも被仰付置候得者、脇並見合稽古料等奉願訳も無御座奉存候得共、父意仙病身故、当節ニ而者家業も退転之様成行申候処、自然と勝手向も逼迫聊之儀も不任所存、夫迚茂最早年齢ニも相成稽古出来不仕候而者未以御奉公之儀も不相叶心外千万不本意奉存候間、何卒右願通被仰付於被下者、向五ヶ年之処御暇被下候半者、眼科本道共成丈相励度、伏而奉願候、御支処無御座候半者、此段筋々御相達可被下候、以上

戌十一月　松隈享安

城嶋茂助殿

其外

1064　天保九年十二月一日　鹿島隠居・家督願書の事

一御本丸受役所ゟ此御方御家老呼出、相談人鍋島隼人ゟ別紙之通被相達候

丹波守殿病気ニ付隠居、織部殿家督如願被仰出候ニ付、御先格之通隠居家督之御願此節被仰越候

鍋島丹波守儀、去々年以来痔疾腰弱一円不相勝、余症も差発難儀仕、中々急ニ可相整様子無御座候付、去々冬隠居相願度内々申聞候得共、未壮年之儀ニも候間、今暫者御奉公為仕度、是迄加療養候得共、快腹(ママ)無之段者、月々御届申上候通御座候、然所痔疾腰痛之上、先達而より之疝積猶亦差募、寒熱往来、関節之痛半身攣急、両脚関脱長病之末ニ而、疲労強、眩暈甚

敷起居不自由罷成、迚茂御奉公仕候体無御座候付、隠居之儀任家格私迄相願候、右之通候得者、最早全難相整体御座候間、隠居申付度奉願候、願之通被仰付候者、倅織部江如家格私領地ニ而内分家督之儀存念之通申付候上、出府為仕丹波守勤来之通被仰付、御目見茂仕候様奉願候、以上

月日　　御名

1065　天保九年十二月六日　川久保俊台へ役仰せ付ける事

一左之通銘々相達

（前略）

御ヒ之儀者被成御免、御前様御ヒ一篇ニ被仰付候　　川久保俊台

1066　天保九年十二月十五日　村田道樹御供の事

一村田道樹御参府御供御受申上候事

天保十年（一八三九）

1067　天保十年九月二日　鹿島鍋島織部病の事

一鹿島聞番方ゟ左之通奉札を以、為御知有之候

以手紙致啓上候、然者織部様御旅中無御滞去廿一日伏見御着有之候段申来候、此段為御知如斯御座候、以上

八月廿九日　　酒見太平太

橋本善右衛門様

以手紙致啓上候、然者織部様御疝癪気有之候得共、先月廿九日押而御発足被成、於船中御療養御加被成、漸々御快方ニ而、去ル十九日大坂川口御着船、翌廿日伏見川御座御乗船之処、同晩不計胸痛御差発、其末段々御差募、何分御旅行無御叶、同廿一日伏見駅御逗留御療養被成候段申来候、此段為御知如此御座候、以上

八月廿九日　　酒見太平太

橋本善右衛門様

右之通為御知有之候ニ付、御内々御見舞御使者鹿島江中嶋文蔵被差越候

一鹿島御家老西丸迄被罷出、別紙手覚書を以被申述候段申来候

手覚

秋冷相成候処、弥御安全可被成御勤珍重思召候、然者織部様地来御疝癪気ニ候得共、七月廿九日為御参府押而被成御発足候処、先月廿日、伏見川御座御乗移船行之処、同晩不図御胸痛被差越候末、漸々御差募御療養御手を被尽候得共、快方無之、段々差重御急快之程無覚束、参府茂不被任御所存、迷惑至極思召候、随而八公辺御首尾合之儀御案被成候付、御養子被成置度、就而者先丹波守様御実娘・御養父御実娘本腹之女子両人之内、似合之人柄肥州様以御賢慮被仰出被下度御願被差出候、惣而ハ、前以御相談被成

筈ニ候得共、御在府中往復之日間茂相懸候事故、無拠差付御願被成候、此段以御使者被仰進候

織部様御使者
田中源右衛門

右一件ニ付、西丸ゟ左之通申来候

織部様ゟ此元迄御家老御使者を以、別紙手覚書之通被仰進候ニ付差越申候、惣而者其御地罷越御家老方江面会、猶又御直話等仕筈之処、一件ニ付而者御本丸其外色々手数向等も有之、何分其儀不行届ニ付、乍略儀此許迄相勤候間、江戸表御申越相成候節者、矢張御在所之方江相勤候都合ニ取繕候様ニと被申聞候、此段為御懸合如是御座候、以上

善右衛門

九月三日

茂助様
其外様

1068 天保十年九月十三日　深堀詰減番の事

一御番方ゟ左之通触達有之

当御非番旬季中、深堀遠見所増番、偖又島々固増番人数等被差出置候所、当夏入津之阿蘭陀船追々湊下致候上ハ、増番詰等之儀跡方御非番之節被相減候、比竟左之通被仰付儀候条、深堀詰役之引払一同不目立通ニメ引払相成候様、筋々懇ニ可被相達候

一遠見方増番、偖又孫六郎殿家来白帆方注進役等并西浜注進船之儀被相省候事

一高島之儀、筒方弐人・足軽五人被差出度候へ共、筒方壱人詰方相成、其外人数被相減儀候、尤足軽之儀者地行御番所詰ゟ兼々相勤候様之事

一伊王島之儀、筒方弐人・足軽五人之内、筒方壱人・足軽弐人詰方相成、其外前条同断

以上

亥九月十二日

御番方

1069 天保十年九月十三日　野口十太夫娘胎毒にて死去の事

一十太夫殿ゟ左之通御届有之

先達而出生之女子胎毒ニ而養生不相叶、今夕致死去候、此段致御届候、以上

九月十三日

追而拙者雅楽助用捨日数何日ニ可然哉、宜御取計致御頼候、以上

城嶋茂助様
中嶋文蔵様
吉田勘右衛門様

野口十太夫

1070 天保十年九月十七日　石火矢稽古願の事

一東島逸馬ゟ左之通口達書差出相成候

私門弟中、荒々申談、明十八日、於北浦石火矢稽古打為被仕度奉存候条、御支所無御座候半者、右場所被相済被下度、筋々御相達致御頼候、以上

亥九月十七日

東島逸馬

但直当
一夫丸　拾人
一五寸竹　壱束
一七寸竹　五本
一縄　五形
一薄縁　五枚
一幕　壱張
右之通奉願候、以上
亥九月十七日　東島逸馬
文武方

1071 天保十年九月十九日　本家より長崎警備の黒田甲斐守へ心付を命じられる事

一御本丸御年寄中ゟ左之通申来候
以手紙申達候、松平美濃守様今年長崎表御当番之処、御養母様為御看病御勝手次第御参府可有之被仰出候ニ付、為御名代黒田甲斐守様被仰付候間、此御方御参府迄之間、諸事御心附被成候様被仰出、尤御参府之儀者先達而被相達候通、当秋異国船帰帆以後御参府候様、御奉書御到来被成候、紀伊守様江右為御知従私共宜申上由、肥州様被仰付如是候、可有御申上候、以上
九月十七日　鍋島市佑
橋本善右衛門様　鍋島隼人
小山平五左衛門

1072 天保十年九月二十一日　直正参府報知の事

一御年寄中ゟ奉札を以左之通為御知有之
以手紙申達候、於長崎阿蘭陀船一艘、例年之通昨廿日致帰帆候旨被聞召、依之肥州様御事最前被任御奉書之旨為御参府、明後廿三日御発駕可被遊と被思召候段、公儀江御飛札を以被仰上儀候、紀伊守様之御内方様・三平様江右為御知、従私共可申上由、被仰付如此候、宜有御申上候、以上
九月廿一日　鍋島市佑
橋本善右衛門様　鍋島隼人
小山平五左衛門
一右御挨拶西丸ゟ勤相成候様申越ス

1073 天保十年九月二十二日　高島番仰せ付ける事

一高島冬番庄次郎太夫・伊東茂兵衛江被仰付候ニ付、左之通申越
当冬高島番左之通被仰付候条、可被得其意由候、且又足軽之儀茂守衛方両人足軽目付之儀松山庄助罷越候由、尤右者来月半頃ゟ罷越候旨御座候
御番所詰　庄次郎太夫
守衛方　伊東茂兵衛
足軽　中嶋茂左衛門

古賀文右衛門
足軽目付
松山庄助
御抱足軽
両人

右之通候条、中嶋茂左衛門・古賀文右衛門両人江者貴様方ゟ可被相達候、自然之節者松山庄助・御抱足軽両人ニ而五人相詰候訳ニ御座候、物而武左衛門其外之御切手実ハ取替相成候半而不相叶候得共、茂左衛門其外一括之御切手人数五人丈詰続之御心得可被成候、三百日之御切手ニ而者明五月迄ニ者日数亘り合不申候得共、右者貴様方御切手同様前方次郎太夫殿御承知之通、其表ニ而日延被相願儀と存候、此段及御懸合候、以上

九月廿三日

城嶋茂助
中嶋文蔵
吉田勘右衛門

庄次郎太夫様
伊東茂兵衛様

一高島番筒方一人阿蘭陀船湊下之上引取相成候様、御番方ゟ相達之儀も小野助左衛門其外江申遣候

1074 天保十年十月一日　岡宗右衛門が東島逸馬へ入門の事

一御本家御家中岡宗右衛門儀、東島逸馬江町見方入門仕候段、逸馬ゟ御届申上候

1075 天保十年十月七日　高島番より帰着の事

一小野助左衛門高島交代仕、昨夜帰着仕候段、罷出御届申上候

1076 天保十年十月十五日　藪家より薬売り広め願の事

右者京都方江申達候

一藪中将殿内中村求馬ゟ御家老方江左之通書状到来

以手紙得御意候、秋冷之砌、弥御安康御座被成珍重御儀奉存候、然者今度当家々来文殊要人、右之者家之従古来伝来候勅法御薬、是迄所々為諸人病難手助被為弘来候儀、今度又々九州表江被差向罷出候、其御地ニも可罷出候間、其砌宜御取成被相頼度候、尤則御本家佐嘉江茂御達被申入候、此段可申入旨、則中将殿被申付候各方迄宜敷御頼被申入候、此段従中将殿被相頼候、仍而如此御座候、以上

九月

藪中将家
中村求馬

鍋島紀伊守様
御家老中

右書状中村求馬家来池上善司客屋江罷越居候ニ付、左之通書取を以、客屋徳七より申達候

古来ゟ御伝来之御薬、今度九州筋江為御売弘被差越候間、爰元江茂可被相越、其節者宜執成可申旨、中村求馬殿ゟ家老共迄御紙面之趣致承知候、御間柄様之

儀ニ付而者、御世話致遣候ハ而不相叶訳と存候得共、此方ニハ本家持之儀ニ而、右様之儀等一手之取計不相叶、殊ニ先年川鰭様ゟ右様之御相談有之候節、公辺江相伺候所、一体官家ゟ武家江右様其筋御頼と御座候而も、直之御取合不相成旨御付札を以被仰達候儀有之候、然而者此節之儀茂御間柄とハ乍申、何分御世話難相成候間、乍気之毒及御断候条、早々御引取有御座度存候、猶中村殿江之御返書者追々大坂表蔵屋敷ゟ差越候様可致候、以上

日出嶋二左衛門様
星野二右衛門様
川副又右衛門様

以手紙致啓上候、織部様御事、先達而ゟ御病気之処、御養生被成御加候得共、御快方無之、去ル五日夜亥刻大坂於御屋敷御死去被成候段申来候、此段貴様方迄可得御意旨被仰付、如是御座候、以上

十月十七日　　並木六郎右衛門

1077　天保十年十月十七日　鹿島鍋島織部死去の事

一鹿島聞番ゟ左之通申来候ニ付、江戸申上越ニ成ル

以手紙致啓上候、織部様病気ニ而伏見駅御滞留相成候得共、諸事之手当不行届候故、大坂御屋敷御引戻相成度、公辺御伺被成候処、御用番様ゟ御聞済之趣去朔日御差図ニ付、同四日大坂御屋敷江御引戻相成候段申来候、此段為御知如是御座候、以上

十月十六日　　酒見太平太

橋本善右衛門様

一鹿島

以手紙致啓上候、織部様伏見駅ニ而御病気之処、為御養生大坂蔵屋敷江去四日御引戻、其末段々被御差重、同五日朝ニ相成御大切被為見候段申来候、右為御知被仰懸候、此段貴様方迄可得御意旨被仰付如斯御座候、以上

十月十六日　　並木六郎右衛門書判

日出嶋二左衛門様
星野二右衛門様
川副又右衛門様

右返書

御紙面致拝見候、織部様伏見駅ニ而御病気之処、為御養生大坂御蔵屋敷江去ル四日御引戻、其末段々被御差重、同五日朝ニ相成御大切被為見候段申来候、右為御知被仰進候段、為仰御紙面之趣致承知、於江府紀伊守様御承知御座候通申越儀御座候、此段為御報如是御座候、以上

十月十八日　　星野二右衛門書判
日出嶋二左衛門同
川副又右衛門同

並木六郎右衛門様

御紙面致拝見候、織部様御事、先達而ゟ御病気之所、色々御養生被成御加候得共、御快方無御座、去ル五日夜亥刻大坂於屋敷被成御逝去候段申来候、右為仰付御紙面之趣致承知候、被為絶言語驚入奉存候、於江府紀伊守様御承知御座候通申越儀御座候、此段為

御報如是御座候、以上

十月十八日　　星野二右衛門書判
日出嶋二左衛門同
川副又右衛門同

並木六郎右衛門様

十月十八日

一左之通江戸ゟ注進ニ成ル

織部様御事、御参勤御旅中、於伏見駅於病気之段者最前及御懸合置候通候、然末此節別紙写之通、従御本家御用番脇坂中務太夫様江御内慮伺相成候末、御附札を以御差図相済候段、今日桜田御屋敷ゟ龍土御留守居呼出被相達候旨、納富度右衛門罷出為御知被申上候、惣而爰許者未御病中之振を以、右之通御手数向も有之事候得共、於御国元者御手数向も有之事候得共、於御国元者最早御死去之御発ニも相成居可申哉之旨相聞、旁ニ付而者追々御遺骸御下国ニも可相成事と被相考候間、就右者御仕成向等前方畢竟万端無物落様御取計可被成候、此段為御見合如斯御座候、恐々謹言

九月廿四日　　太田左治馬
横尾旧右衛門

川副又右衛門殿
日出嶋二左衛門殿
服部嘉右衛門殿
星野二右衛門殿
園田半十郎殿

追而本文之趣、別段御当役方江不申越候間可然様可被相達候、以上

別紙

肥前守末家鍋島織部儀、今般参府之旅中伏見ニ而病気候付、種々加療養候得共、一円快方無御座、依之大坂蔵屋敷者最寄之場所御座候付、彼地罷越度、於然者医師其外諸事之手当も行届可申候間、依様子右之通仕、猶又養生仕儀御座候由申越候段ハ、去ル十一日申上置候、此後若不得快気死去仕候者、右遺骸之儀、在所肥前国鹿島江相送候様仕候而不苦儀可有御座哉、尤肥前守末家之儀者諸家様御末家之御振合と者異候訳有之候付、享保十二未年末家鍋嶋刑部少輔於在所死去仕候節、別紙之通本家故丹後守ゟ其節之御用番松平伊賀守様江御届仕并家格之儀家来之者ゟ以書付伊賀守様御用人迄差出申候、然所今度者旅中ニ而之儀ニ付、此段御内慮奉伺候、以上

九月廿二日　　松平肥前守内
羽室平左衛門

御付札

書面織部儀、若死去候ハヽ、遺骸国元江差遣不苦候事

一江戸ゟ左之通申来候

別紙写之通、志摩殿ゟ御手ニ被為入候、右ハ表向御達相成候と申事ニ者無之、勿論其御表ニ者最早表向御達相成居候と者存候得共、為御存及御懸合候、以上

九月十四日　　太田左治馬
横尾旧右衛門

川副又右衛門殿

日出嶋二左衛門殿
服部嘉右衛門殿
星野二右衛門殿
園田半十郎殿

松平肥前守

其方儀、長崎表之御用被相勤候付、御手伝被仰付候儀者無之候得共、近来御手伝御用繁ニ有之、諸席共度々御用被仰付候、西丸御普請者莫太之御用途候処、御人少ニも有之、且者格別之御場所柄旁御三家江茂御手伝被仰出候様之事ニ付、此度ニ限御手伝被仰付候、尤長崎表之御用被相勤候故、並ゟハ手軽之御用被仰付儀候間、可被得其意候

1078 天保十年十月二十八日　金井八郎、牛津通行の事

一高木作右衛門様手代金井八郎、今晩牛津通行、尤筑後三池ゟ長崎被罷越候由

1079 天保十年十一月二十三日　瀧安産の事

一今晩寅ノ中刻、長局於瀧女安産、御男子様御出生被遊候旨、石井六郎右衛門ゟ御達申上候

1080 天保十年十一月二十八日　黒田甲斐守牛津通行の事

一黒田甲斐守様長崎為御代勤、今夜牛津泊りニ而御通行ニ付、前方御仕成取調子左之通御使者被差出候、尤被進物無之候

御使者
留守権之助

一右御使者為御挨拶、出張之郡方迄、左之人ゟ被申述候由

黒田甲斐守使者
名越仙左衛門

1081 天保十年十二月三日　江口兵右衛門養生願の事

一江口兵右衛門ゟ左之通口達書差出候

口上覚

私儀、明年四月中出府被仰付難有仕合奉存候、然所、去年大病之末、今以全快不仕、平日痰咳ニ而声曇、其上発病之節之通、右之胸ゟ脊ニ懸ヶ無何時相痛、一体右之方半身者手足之筋迄引釣脳歩行も甚不自由御座候、依之去年来引続佐嘉西岡梅叟之薬于今不絶相用候得共、格別之際茂相見江不申、却而去々月末ゟ去月中者右之病所強相痛、又々再発可仕哉と甚相案、爰限服薬等仕候処、漸々病脳相薄候得共、兎角ニ元気無御座、只今之姿ニ而者何分旅勤之儀無覚束、明春迄も同篇ニも御座候得者、罷登候而茂御用難相立御難題引出候通移行可申ニ付、乍心外御断を茂申上候外有御座間敷哉と誠以案痛仕儀ニ御座候、乍去明年四月迄ハ余程日間も御座候得者、其内成丈養生仕罷登

候通可仕奉存候ニ付、先以御請者申上候、此段宜御聞被置被下度、筋々宜被仰上可被下奉願候、以上

亥十二月　　江口兵右衛門

1082　天保十年十二月三日　筒打稽古願の事

一富岡弥一左衛門門弟、於北浦村百目・三拾目御筒ニ而町打相整度段、文武方迄相願候旨相達ニ付、御当役御聞届之上、願之通被相済候段、文武方江相達候

1083　天保十年十二月四日　本家へ師家名前提出の事

一西丸ゟ左之通申来候付、左之通諸師家附差越相成ル以手紙致啓達候、然者此節知音之人爰許罷出、此御方御家中当時学館教授・指南役并武芸師家元之人等何某ニて候哉、名前・住所・流儀付等委敷聞合之儀、何方ゟ極密ニ被相頼候由申聞候、右者爰元限委細ニ者相分兼候旨及挨拶候処、至而急成儀ニ付、明夕亘り又々相尋可申候ニ付、明日迄得度調子合呉候様、訳而相談有之候条、委細ニ御書取、明昼迄之内被仰知度御座候、此段為御懸合如此御座候

十二月二日

追而右同人ゟ当節之御手伝金此御方ニ而者御親類方始、御家中下々迄御割付相成儀候哉、又者御蔵方ゟ御立替を以被相払候哉、此儀御承知仕度由申聞候、併右者未御内輪いつれ共相決居候訳ニ無之、折角御讃談半、余り御延引相成候而ハ如何と先以彼千俵丈非常之御取計ニ而被相納候御内定相成居候旨有内之処、さつと相答置候、此儀ハ御含迄得御意候、已上

致別啓候、別紙御懸合仕候通御座候間、何卒急ニ御答御知セ被下度、惣而ハ弓術ハ勿論、柔術迄之師家之人々名前・居所付・流儀〳〵をも相知候通申事ニ御座候、已上

興譲館掛役人

文武方指南役兼

指南役

（薬王寺九八郎
西村権右衛門）

（徳見郡四郎
鴨打大之進
右近形次郎）

（関左伝次
黒木又四郎
下村彦一郎）

寮頭

諸流師家

神願流釵術　西小路
兵庫殿

天真流釵術棒組打　兵庫殿

平野村
留守勘兵衛

戸田流釵術

根岸流長刀

真乱流組打　西川宿
納富五郎太夫

真乱流二刀釼術
愛洲神願流　蔭
宝蔵院流槍術
鎌宝蔵院流右同
願ノ流槍術
鎌宝蔵院流槍術
起例流柔術
扱心流
大蔵流弓術

納富五郎太夫
岩蔵村
田崎官左衛門
北小路
五郎川大四郎
中小路
田中九十九
西小路
小野助左衛門
東小路
四郎右衛門殿
中小路
日出嶋二左衛門
下村
溝口権之允
八段原
神代与兵衛

竹林流弓術
井上流
武衛流　砲術
真田流砲術
清水流町見
真田流砲術
高麗流八條家馬術
大坪当流馬術
小笠原流礼客
山鹿流教兵算木術

中小路
城嶋茂助
新小路
富岡弥一左衛門
布施刈
東嶋逸馬
赤司刈
倉本夘十
中小路
遠岳源内
東小路
監物殿
北小路
南里退蔵
南小路
石丸杢
監物殿

山藤流兵術　北小路
神代次兵衛
越後流軍学　永岡小路
西岡美濃丞
北条流兵法　南小路
今泉兵之進
以上

1084 天保十年十二月八日　黒田甲斐守牛津宿泊の事

一黒田甲斐守様長崎御帰路、牛津御泊り御通行ニ付、御使者左之通

松本源太郎
郡方
大木七兵衛

1085 天保十年十二月十一日　医者へ殿様急病の節は罷り出る事を命じる

一左之通手紙ニ而相達ス

上々様自然御急病等之節、其筋ゟ御用申来候ハヽ、不限夜白早速罷出、御様体御伺可被成候、万一之節、御延引等有之候而者不相叶儀候条、兼而其御心得可被居候、此段及御懸合候様有之、如此御座候、以上

十二月十一日

城嶋茂助
中嶋文蔵
吉田勘右衛門
山田元壽様
村田道壽様
菊地宗垣様

1086 天保十年十二月十七日・二十八日　病にて役方断りの事

一服部嘉右衛門病所有之帰府御猶予奉願候処、不被相叶、書付差返相成候末、役方御断書被差出候得共、是以被差免候、又候左之通願書被差出候、役方御断願書之儀者諸願帳ニ記之

願書付

私儀、別紙之通、無拠参懸候而奉願候所、願書御差返相成当惑失途之参懸此時ニ御座候、一体虚病ニ而も相構自尓仕度存念共ニ而、右様御役御免奉願候様ニも相移候而者不本意、此上者致方も無御座、虚病之処御役人御立会痛所御改被下度奉願候、以上

亥十二月　服部嘉右衛門
城嶋茂助殿
其外

一右之末、今又別紙之通、嘉右衛門ゟ書付、左之通被差出候ニ付、江戸注進有之候

口達書

私儀、近々ゟ出立仕候様御達之趣奉畏候、早速出立

可仕之処、先月初旬ゟ痔疾相起候末、穴ゟ陰曩辺梅毒相発、近来殊之外厳敷相成、起居不自由歩行不相叶、何分近々ゟ出立可仕様無御座、少々も快御座候ハ、、押而茂出立可仕候、此段御届申上候、以上

亥十二月　　服部嘉右衛門

城嶋茂助殿

其外

十二月二十八日

一左之通服部嘉右衛門方ゟ口達書差出相成ル

口達書

私儀、先達而申上候通、痛所折角療養仕候得共、同篇ニ而何分近々ゟ出立仕候儀不相叶、当惑千万奉存候、就而ハ猶又療養相加、少々も快御座候半者、正月半頃ゟ押而も出立可仕奉存候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

亥十二月　　服部嘉右衛門

城嶋茂助殿

其外

1087　天保十年十二月十九日　長崎奉行より書状到来

一長崎御奉行戸川播磨守様、高木作右衛門様、高木健三郎様ゟ御状三通到来

天保十一年（一八四〇）

1088　天保十一年六月三日　小柳逸水帰着の事

一左之通御届有之

浜崎ゟ昨夜帰着　　武藤弥一右衛門

昨夜江戸ゟ帰着并忌中御届　　小柳逸水

1089　天保十一年六月四日　初御目見中止に付、願書返却の事

一当御下着差懸り初而御目見願左之通有之候得共、当節御穏便中ニ付無之通御吟味相決シ、銘々願書被差返候

市左衛門孫　小田村国三郎

秀右衛門倅　三浦右吉郎

吉兵衛倅　吉本弾右衛門

新吾倅　中嶋新之助

川浪兵太夫

藤四郎倅　嬉野兵之進

川浪平助

七左衛門倅

平石忠太夫
藤太孫
八十嶋辰之助
玄仙倅
斉藤玄周
宗策倅
吉原文吾

右何れも御格之通、銘々書付を以、奉願候、以上

一初而御目見亥二月諸願之内

逸平倅
富岡壽治

一子二月諸願之内

泰助倅
永橋助一
大丞倅
馬場文八郎
大四郎倅
五郎川磋久磨
十兵衛倅
松井久次郎
七郎右衛門倅
香月小八郎
文蔵孫(ママ)
中嶋馬五郎
亡兵衛倅
大木門吉郎
半兵衛倅
志波治吉郎
僚淳倅
牟田忠安

右何れも御穏便中ニ付、初而御目見江此節無之

1090 天保十一年六月六日　佐野文仲兵糧扶助願の事

一左之通願出相成候

奉願口上覚

私儀、医業為稽古京都罷越、山本静達江随身仕度宿志御座候得共、年来之逼迫誠当年柄共ニ而者、何分難任自力空敷時日押送罷在候処、最早年齢ニも相成、只様時節後ニも相成、末以御奉公も出来不仕通ニ而者心外千万不本意至極奉存候条、当子年ゟ向三ヶ年之間御暇被為拝領被下度奉願候、勿論右静達江随身稽古者仕候得とも、最寄之諸名家ニも相尋、猶々受業仕度奉存候、将又当御半近頃難奉願甚恐入儀御座候へ共、右受業中何卒壱孤兵粮被差出被下度旁奉願候、於然者御陰を以稽古中如形取続、猶又一際相励候ハヽ、末々御用之一端をも相勤候通有御座度、御高恩重畳難有仕合奉存候条、格別之御憐評を以、如願御聞済被下候様、筋々宜御相達可被下深重致御頼候、以上

子五月　佐野文仲

城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿

吉田勘右衛門殿

1091

天保十一年六月七日　高島守衛方兵糧米差廻の事

一高島守衛方兵粮御手前ゟ被差廻候付、深堀詰ゟ手数者左之通持帰候由ニて、伊東茂兵衛持出被申候ニ付、御蔵方相達候

覚

外数白米六石壱斗五升六合相渡候様御点合可被差出候、但紀伊守殿家来伊東茂兵衛主従三人高島為守衛方詰被差越候処、同所之儀波高之場所ニ而、時々深堀渡海及難渋候ニ付、詰飯米之儀者自分ゟ廻米相整、左候而被渡下候飯米之儀者返上引合被仰付由ニ付、亥十月朔日ゟ当子五月廿一日迄日数弐百弐拾八日分入切前渡方用申乞儀御座候、乍去亥十月ゟ当九月迄我々役内目安相立払方相整儀御座候、以上

子六月　　古川太左衛門
　　久保三左衛門

大木主計殿
成松万兵衛殿
中村彦之允殿

右乞筈前之儀致存候、以上

吉岡武右衛門

1092

天保十一年六月十五日　初御目見の事

一右畢而（当日御礼）左之人々初而御目見申上候、尤独礼ニ而何之何某初而御礼と名披露有之

永橋助一
馬場文八郎
五郎川磋久磨
松井久次郎
香月小八郎
富岡壽治　　不快
中嶋馬五郎
大木門吉郎
志波治吉郎
原祐平　　不快
牟田忠安

1093

天保十一年六月十七日　長崎仕組触達の事

一左之通長崎御仕組方ゟ触達有之

長崎表自然異変之節、猶又火急為響合御領中端々寺社末庵迄、石火矢放出聞次第、一時ニ早鐘撞立候通被仰付儀候条、諸組渡、其外夫丸早速駆付候様、筋々懇ニ可被相達旨候、以上

子六月　　御番方

右者郡方ゟ手当相成ル

1094

天保十一年六月十七日　番医牛津出立の事

一郡方ゟ左之通注進有之

平戸下向御番医中村永琢様、昨十七日昼六ツ半時頃

牛津御着御泊之上、今朝七ツ半時頃無別条御出立相済候段、同駅人馬方出張之役々ゟ只今注進仕候、此段為御存如此御座候、以上

六月十八日　　大木七兵衛
　　松田健三郎

川副又右衛門殿
日出嶋二左衛門殿
星野二右衛門殿
園田半十郎殿

1095　天保十一年六月二十五日　砲術は無放出願の事

一文武方ゟ左之通口達書出ル

於致人堂以組分諸武芸被相試候処、砲術之儀手前之分ニ而者熟不熟不相分候ニ付、右之節至無放出御支所無御座候ハ、被差免被下度、此段奉願候、以上

六月廿五日　　文武方

1096　天保十一年七月十日　常次郎手当の医師へ御礼の事

一浦町(々々)常次郎唐津表ニ而刃傷ニ逢候末、一類中ゟ懸医其外江挨拶之儀伺出候通御本丸受役所ゟ被相達候ニ付、左之通西丸ゟ書付差出候処、其通可然吟味メ相成候由

口達

小城裏町常次郎儀、先達而唐津呼子表ニおゐて刃傷ニ逢候節、懸り医師其外江謝礼金之儀、本人并一類共江相達候処、何れも兼而困窮者勝ニ而何分不行届別紙之通ニ而も可然哉伺出候、此段御達仕候様在所ゟ申越候、以上

子七月　　橋本善右衛門
　　受役所当
　　覚

一金子千五百疋舫　　町医
　　道順
　　道益

一同三百疋　　宿主
　　紙屋縫蔵
　　看病人中

一同五百疋

右之員数位ニ而も宜有御座哉奉伺候、以上

子七月　　裏町
　　常次郎
　　一類中

一右之末ニ付、金子者一先御蔵方ゟ為替ニメ西丸江仕送

1097　天保十一年七月十五日、八月四日　古湯村湯治願の事

一川副又右衛門ゟ左之通御暇願有之候処、願之通御聞済相成候

口上覚

私儀、持病之疝癪ニ而常々難渋仕候故、前辺ゟ毎々古湯村罷越浴湯仕候処、殊之外致相応大抵相治居候処、近来之炎暑故歟、又々再発之機シニ而難渋仕候ニ付、此節同所罷越湯治仕度奉存候間、何卒日数二七日之

間御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜御相達之
程致御頼候、以上
七月　　川副又右衛門

八月四日
一川副又右衛門御暇之末、昨夜山内ゟ罷帰候段、御届有之

1098　天保十一年七月十五日　肥州様、牛津通行の事

一肥州様今日四ツ時、長崎御帰路牛津御通行被成候段、出張之郡方大木七兵衛ゟ注進有之

1099　天保十一年七月二十三日　田尻監物御暇願の事

一左之通、監物殿ゟ御暇願有之候付、御当役御聞届之上、達御聴候処、願通被相済候
監物殿儀、於暉殿急病之由申来候ニ付、為看病在所山代江被相越度ニ付、今日ゟ日数七日御暇被相願候、此段筋々宜御相達可被下候、以上
七月廿三日　　吉田勘右衛門

1100　天保十一年七月二十四日　哲仙院殿死去の事

一左之通、諫豊前殿用人ゟ為御知有之候由、昨夜西丸ゟ申来候
以手紙致啓達候、然者哲仙殿院殿事、頃日以来病気ニ付而、段々療養被致儀候へ共、一図快無御座次第ニ被差重被及大切候、此旨為御知、如此御座候、以上
七月廿二日　　杉野音人　片田江金左衛門

橋本善右衛門様
以手紙致啓達候、然者哲仙院殿大病之末、養生不被相叶、今日午上刻死去被致候、此段為御知、如是御座候、以上
七月廿三日　　杉野音人　片田江金左衛門

橋本善右衛門様

1101　天保十一年七月二十八日　長崎情報伝達の事

一牛津本町太平ゟ左之通願出候ニ付、其通御聞届相成候
奉願口上覚
某儀、釘作為稽古、長崎桶屋町次郎兵衛宅江罷越度御座候条、日数三百五拾日限之御切手壱紙被仰受可被下候、彼地罷着候得者、早速御屋敷江罷出、其段御達申上置、自然彼地逗留中白帆御注進、扨又異変之節者勿論、唐商為取締御出張、且市中出火等之砌者、遠近ニ不拘早速駆付御差図を受、其向相部粉骨差部可申候、其外平常御用筋之儀ハ不依何事被仰付次第可奉畏候、尤於　向々無作法之儀不仕出、日限無相違罷帰可申候、惣而罷帰候節ハ御附状申受、御切手同様自身持出御役所江相納可申上候、若疎之儀も御座候ハヽ、御法之通可被仰付候、為後日連印如此御座候、以上

子七月　　牛津本町
　　太平
一類
　　源蔵
組合
　　儀右衛門
　　甚蔵
　　平三郎
　　庄兵衛

別当
　　森永仁左衛門殿
右之通奉願候条、御支所無御座候ハヽ、御本方筋被差出度奉願候間、宜被為遂御吟味可被下候段、前書御座候、已上
子七月　　牛津本町別当
　　森永仁左衛門
大木七兵衛殿
松田健三郎殿

1102 天保十一年七月二十九日　病に付、役方免除願の事

一江頭治右衛門ゟ左之通口達書出ル
口上
私儀、此節江戸御納戸役被仰付之旨御達之趣難有仕合奉存候、就而者其覚悟仕御受申上候儀当然御座候処、近年病気差発居、専ら浮下之症ニ而難儀仕候処ゟ去秋以来ハ猶又加養罷在候得共、追々向秋冷差募ハ仕間敷哉と掛り医師ゟも申聞、何分長途之旅行不任心底、御用弁難仕残念至極奉存候へ共、何卒御役儀被差免被下度奉願候、此段宜御取成之程、偏ニ致御頼候、以上
子七月　　江頭治右衛門
　　城嶋茂助殿
　　中嶋文蔵殿
　　吉田勘右衛門殿
右願之趣、御聴済相成候ニ付、江頭源五左衛門呼出相達ス

1103 天保十一年七月二十九日　原口養碩永蟄居の事

一左之通、書付を以、養碩一類江被相達候
　　藤嶋清左衛門
　　下川惣右衛門
右者原口養碩思召を以永蟄居被仰付置候付而ハ、近縁之外面会不相叶、勿論病人出入等も一向差留、無油断被心遣候様相達被置候処、追々不取〆之儀等ハ無之哉相聞如何之事候、尤事実ニハ有之間敷候得共、畢竟策果処ゟ右等之聞も有之事候条、尚又心遣可有之旨可相達由候
七月
右者原口養碩一類江付役ゟ申達、然末左之通遠慮御届申上有之候付、筋々御達申上相成候末、二日目被成御免之旨ニ付手紙差出ス、右者八月朔日ニ御届有之候所、最前之手続ニ付、此所ニ記之

原口養碩御手当之末、猶又此節御達之旨承知仕、於我々茂甚奉痛入候、以上

八月朔日　藤嶋清左衛門
下川惣右衛門

1104 天保十一年八月二日　病に付、役方免除願の事

一左之通吉田勘右衛門ゟ口達書出ル

今般私儀、御蔵方ゟ大坂御留守居被仰付候段、御達之趣難有奉承知候、然処私儀生来虚弱ニ而、乍尾籠三十年以来遺精之病有之聞之伝医師相頼養生仕候得共、一円快方無御座、其上弐十年以前長崎出張同所ニ而血症相発、其後も切々差発シ、夫故唯様血虚憔悴仕健忘差副、寒冷ニ向候ヘハ熱気も不叶様相成残念千万奉存候、然処大坂表之儀者大切之御場所柄、不束之儀等仕出候而ハ御公務之御駆引ニも相懸り候儀ニ而、如何御用弁可仕哉、甚以案痛至極仕候、就而者御留守居役之儀者御断をも申上度奉存候得共、就中奉蒙御重恩候私、御断等申上候儀不本意之儀奉存候ニ付、不顧前後、一先御受申上儀ニ者御座候得共、右病難之状ハ乍恐兼而宜被為御聞置被下度深々奉願候、以上

子八月　吉田勘右衛門

右者御当役御聞届被置、折を以被達御聴之旨、本人江申達候様有之候

1105 天保十一年八月四日　古湯湯治願の事

一左之通牟田助四郎ゟ御暇願有之候所、願済相成ル

口達覚

私儀、久敷小瘡相煩甚難渋仕候付、古湯村之方為湯治罷越度御座候間、何卒明五日ゟ十八日迄日数十四日之御暇被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達奉頼候、以上

八月四日　牟田助四郎

1106 天保十一年八月五日　広間番を命じる事

一左之通相談役達

持役ゟ御広間番兼　小柳逸水

1107 天保十一年八月六日　古湯入湯願の事

一左之通納富儀左衛門ゟ御暇願有之候所、願済相成ル

口達覚

私儀、痔疾気ニ而甚難渋仕候、依之古湯村江為入湯罷越度御座候間、明七日ゟ日数十日御暇被為拝領度奉願候、此段筋々宜御相達奉頼候、以上

八月六日　納富儀左衛門

1108 天保十一年八月七日　病に付、兼役免除願の事

一左之通川副又右衛門方ゟ口達書差出相成ル

口上覚

今般、私儀、持役ゟ三平様御用人兼ニ被仰付難有仕合奉存候、就而者則御受可申上之処、従来生質愚鈍之上、段々老衰仕、就中至近来候而者不聞不明之上、健忘之症差添、一向記憶も無之物忘而已仕候而、実以是迄勤懸之儀も御用弁出来兼、何等之御不興等引当可申哉も難計、夫而已恐怖至極達存候、依之乍残念先達而も書面を以御断申上候処、御無人ニ付、願通不被相叶押而も相勤候様奉蒙御達難有内当惑之参懸奉存候、併右之通御達之上又々同様自儘之儀而已可申上様無御座候故、乍心外成丈努力仕、責而当分之処ニ而も打追相勤候外有御座間敷覚悟仕、其段御受為申上儀ニ御座候、然処、又候右様被仰付、尚又恐入儀ニ奉存候、殊ニ御幼年様御附之儀者聊も大切之御事ニ而、専依御輔翼之振乍恐御生涯御明暗之筋ニも相拘候勤柄歟と奉存候所、右様之為体ニ而者中々御用立候儀不任心底、何分ニも於此儀者御受難申上奉存候、依之一旦被仰出候儀ニ者御座候得共、不得止乍恐御断申上候条、何卒右之次第格別之御憐恕を以、兼役之儀者被差免被下度、深重奉願候、此段筋々可然様願御執達度、重畳致御頼候、以上

八月　　川副又右衛門

1109 天保十一年八月二十一日・二十三日　医業稽古願の事

一四郎右衛門殿家来村岡慶蔵ゟ左之通願書差出候所、願之通被相済

奉願口上覚

私儀、為医業稽古於長崎三原寿三宅罷越、同人江随身仕度御座候付、去亥八月往来日数三百五拾日限御切手奉願、是迄修行仕難有仕合奉存候、此節罷帰候付、右御切手返上仕候、然ル所、未熟之儀御座候間、猶又同人江随身修行仕度奉存候条、近来自侭千万之儀恐多難奉願上候得共、今又往来日数三百五拾日限御切手被仰受可被下候、於然者御蔭熟達可仕重畳難有仕合奉存候、勿論、於向々無作法之儀不仕出、彼地参着仕候ハヽ、早速御屋敷江点呂罷帰候節者、付状を取、右日限内罷帰、御切手自身持出差上可仕候、自然彼地出火之節者急速駆付御屋敷江御点合可仕候、若疎之儀御座候ハヽ、無調法可被仰付候、以上

子八月　　一類　山田岩右衛門

願主　村岡慶蔵

辻利助殿

前書之通奉願候条、何卒如願相済候様、筋々宜御相達可被下候、以上

子八月　　辻利助

城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
松崎小右衛門殿

右願相済候付、御切手自身持出相納、且引替之儀も自身相整候様相達

右御切手乞出、左之通

覚

紀伊守殿親類鍋島四郎右衛門内村岡慶蔵より別紙之通往来日数三百五拾日限御切手相願候条、可被差出候、於向々無作法之儀不仕出様堅可申付候、若緩之儀御座候ハヽ、此方可承候、以上

子八月　西造酒

犬塚三郎兵衛殿
戸田孫兵衛殿

八月二十三日

一西丸ゟ左之通申来

四郎右衛門殿家来村岡慶蔵御切手相済候付、差越申候条、御受取可被成候、以上

八月廿三日

右ニ付、本人呼出御切手相渡之

1110　天保十一年八月二十六日　病に付、罷り出る事叶わず

一今泉左馬助ゟ左之通、口達書指出

口達

私儀、盆前ゟ不計持病之疝積差発、其末腰ゟ膝節ニ懸引釣痛強立居不自由ニ而歩行不相叶、然半御用御座候付罷出候様連々御達之処、其儀不相叶御断申上候末、是迄色々療養相加候得共、一円快方無御座、只今之模様ニ而者何分急ニ罷出候体無御座、数日引入御用支候相成候亘り、甚以恐入義奉存候、乍然前断之次第御座候間、此段可然様筋々宜御相達可被下致御頼候、以上

八月　今泉左馬助

城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
松崎五右衛門殿

1111　天保十一年八月二十九日　古湯村湯番願の事

一高木又兵衛ゟ先達而左之通願出候処、当時御仕法相立居候付、願之趣不被相叶段、受役付ゟ相達願書差返ス

奉願口上覚

私儀、当春車挽御加勢之節、不計怪我仕、中々急快之儀等不覚束御座候処、御上ゟ厚御心副被成下薬用其外早速届合候付、段々快方仕、当時者平生之儀ニ罷成候儀、全以一命拝領仕候道理千万難有仕合、御高恩之程奉恐入候、併最早表向ハ相整候得共、不時ニ胸膈等相痛、或時者寒熱之気味御座候付、猶又医者江申談見候処、乍此上緩々湯治仕候ゟ外有之間敷旨申聞候得共、地行逼迫之上、前件之次第ニ付、物入打重り、何分日数長ク入湯仕候儀難任自力、乍去此侭差置再発等仕候而者、節角之御高恩も失脚仕候様相移

旁当惑仕候付、近来自尓難奉願御座候得共、以前綾部小右衛門奉願候例を以、古湯村湯番被仰付被下候儀者被為叶間敷哉と偏奉願儀御座候、於然ハ療養相加全快可仕、弥ヶ上重畳難有仕合奉存候条、御問処無御座候ハ、、何卒御憐憫之御評議を以、願通被仰付可被下、伏而奉願候、此段御筋々宜被仰達可被下儀深重致御頼候、以上

子七月　　高木又兵衛

城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
松崎五右衛門殿

1112　天保十一年八月晦日　取引内済願の事

一園田半十郎被官ゟ左之通、願出候

乍恐奉願口上覚

当春高柳ヶ里亡勘兵衛取引筋ニ而御訴訟奉申上候処、早速御取調子被仰付難有仕合御座候、然ル末辻良栄様ゟ右取引一件何卒内々ニ而相済呉候様中入之人を以被仰聞、素不相好儀ニ御座候得者、幸之儀と相心得、双方熟談之上、内済之申談仕候条、何卒最前奉願置候御訴訟被御下被下度偏ニ奉願上候、此段御筋々宜被仰上被下度深重奉願上候、以上

子八月　　森永外助

園田半十郎殿

前書之通、私被官ゟ内済仕度奉願候義御座候条、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

園田半十郎

城嶋茂助殿
中嶋文蔵殿
松崎五右衛門殿

1113　天保十一年九月二日　相図稽古願の事

一富岡弥一左衛門ゟ左之通願有之候処、願之通相済

口達

明三日於御茶屋前相図稽古打相整度御座候条、御支所無御座候ハ、、右場所之儀被相済被下度奉願候、以上

九月二日　　富岡弥一左衛門

1114　天保十一年九月三日　唐人町固仰せ付けられる事

一左之通被仰付候旨、相談役達

長崎表自然異変之節、御留守仕組ニ付、唐人町口固被仰付候、就而者副士并組足軽之内拾人可被召連候、行粧之儀ハ其節可被相達旨候

太田半右衛門
副士
嬉野六兵衛
足軽拾人

長崎表
多布施口

重松権兵衛
副士
深川惣右衛門
足軽拾人

1115 天保十一年九月五日　深堀詰減番は指示を待つ事

一西丸ゟ左之通手紙到来
受役所其外ゟ此元呼出ニ而別紙之通被相達候付、差越申候、以上
（中略）
御自領深堀・高島・伊王島詰筒方其外御減番ニ而引払相成候得共、色々相聞候次第有之、御差図迄之間者打追滞留罷在候様被仰付旨、御当役御申候、以上
子九月　百武次郎兵衛
長森八郎左衛門
朝倉徳太郎

茂助様
文蔵様
五右衛門様

1116 天保十一年九月八日　砲術稽古願の事

一東嶋逸馬ゟ左之通願有之候処、願之通相済
口達覚
私門弟之内壱両人、来ル十日於北浦村町打試為被仕度奉存候条、御支所無御座候ハヽ、右場所被相済被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
子九月八日　東嶋逸馬
代土井清左衛門判

文武方
右ニ付、夫丸壱人・御幕半張願有之

1117 天保十一年九月十日・十二日　鉄砲打届の事

一学校内於調練場、明十一日調練被遊御覧候付、今日馴し相調申候、就而者殊ニ依候得者、鉄砲打候儀も可有之ニ付、伺相成候所、伺相済　監物殿ゟ伺相成候也
附以来共、於同所調練相調候節ハ、其段御届申上、若鉄砲打候節ハ伺相成候様、吟味相メ、其趣申上相成候
九月十二日
一今日四時、御供揃ニ而又新館御立寄、左之組々入交調練被遊御覧候

1118 天保十一年九月十四日　内試日程の事

一文武方ゟ左之通伺相成候所、伺之通相済
覚
一文武方一手ニ而文武被相試候を御内試と被相唱度事
一各様方始、諸役人列席ニ而被相試候を御会試と被相唱度事
一以来毎月八ノ日御会試定日之事

以上
子九月

御会試日割

鑓術三流　九月十八日
愛洲神陰流
真乱流二刀　同月廿八日
文学
戸田流釼術　十月八日
御流兵法　同月十八日
天真流棹釼術　同月廿八日
文学
医学　十一月八日
弓術両流　同月十八日
起倒流　同月廿八日
扱心流柔術
文学　十二月八日
真田流砲術　同月十八日
真乱流組打　正月十八日
井上流
武衛流砲術　正月廿八日
真田流砲術　但倉本
文学　二月八日
軍学
礼客　同月十八日
町見
馬術両流　同月廿八日

以上
子九月

一左之通大組代中呼出相達

番頭中
物頭中
馬乗以上中
但嫡子迄

右之通明十五日御用有之候条、御触内無洩可被相達由候、以上

九月十四日　請役付三人名

別段演達ニ而明日御礼後可被相達候間、相滞被居候様可被心得候

1119 天保十一年九月十五日　文武方に付達の事

一遊出御書付、左之通被差出候付、今日於小松之間御親類中・御家老中列席、御当役善左衛門殿ゟ被相達、御用人太田左治馬読達之

一大御目付・相談役・御目付・請役付同所御縁側列席

小松之間弐ノ間罷出　番頭中

同所三ノ間罷出

物頭中
馬乗以上中嫡子迄

文武之儀、当時相止候と申迄ニ者有之間敷候へ共、一般不如意之時節を口実之様いたし、厚心懸候者も無之趣相聞、無是非次第ニ候、尤武芸之儀、間ニ者一果出精之面々も有之由候得とも、一流之名聞而已ニ頓着

いたし、却而他流之批判等者不相憚様移行、士道研究之本意無之、宿習とは乍申、畢劣之事ニ候、且又夫迄ニも至兼、全文武共心掛無之輩も有之間敷とも難申、左候得者、則農工生業ニ怠り候訳と同編ニハ相成間敷哉、定而内心ニ者愧入可申事歟と存候、当時ハ佐嘉表ニ而も他流仕合之業をも被相試并稽古之儀一流ニ不拘数流相兼不苦旨触達相成候由候得者、此儀大身としてハ尚更相心得、其身之心懸ハ不及申、末々にても自他之無差別誠実ニ勧合有之、猶又当時勤役之面々とても勤隙ニ者心掛、一同信義ニ基キ無油断相励候通申談相成度候

子九月

一右畢而御当役ゟ之書付左之通付役読達之

御家中文武修行之儀ハ、連々被仰出候次第も有之、勿論士職之常ニ而其心掛有内之儀候得共、追年御減、右之末と申、畢竟拙者共指揮不行届処ゟ諸稽古方凌責ニ至り此節遊出之趣、誠ニ以奉恐入儀候、惣而御増右ニも相成候上ならて、押立文武之修行ハ不相成事之様ニ移行候ニ而者無之哉、左候而者右御増右取計候人才出来之部有之間敷歟、余り世禄之御恩沢ニより文武之修行ハ相怠候而も士職者相済候事之様、何となく心得違候通共ニ而者、全士道之本意を取失候根元ニ候、一体御経済向不被御立行、上様ニも御公務を始、万端御不如意被為在、御家中之儀も斯之通衰弊ニおよひ候儀、当時重職并勤役之面々者不及申、専御家中一統之身分ニ相懸り候責ニ候、左候得者、縦令艱難中なからも各可成丈之力を尽し忠義之志を励し、抽御奉公、御家政向御立直しニ相成、第一ニ者上様奉休御思慮、次ニ者御家中を始、下々迄其職々々家業ニ落着候様無之而不相叶、其根本専文武之修行ゟ相始候儀、新敷不及沙汰候得者、拙者共始、各方ニも此節仰出之旨を得と相心得、互ニ示合令憤発候通致度候、尤老年、又者勤柄之人々ニ者一統之士風を引立候心得肝要ニ而、強テ其身々々之修行鍛錬を外見ニ致候訳ニ者有之間敷、専若手之面々寝忘を起し、軍書古実之物語ニも義気を張り候様、於組内猶又申談可有之候、右ニ付、生立之人々修行之勤怠相試候ため、以来毎月八ノ日於学館文武之会試相整候条、兼而其心得可有之候也

月日

一右遊出相談役中・御目付中ハ於御役所拝見有之

1120 天保十一年九月二十九日　相図稽古願の事

一富岡弥一左衛門弟子中、今日於御茶屋所合図稽古打相整度、場所願有之候所、願通被仰付候

1121 天保十一年十月一日　布上玄格惣髪願の事

一布上玄格ゟ先達而左之通願出候処、願之通被仰付候、本人呼出、其段相談役川副又右衛門ゟ相達

願書付

私儀、年来小瘡相煩、立之療養相加候処、惣身ハ少々快方相成候得共、只今ニ者頭中ニ吹出、月代仕候義不

相叶候条、惣髪ニ被仰付被下度奉願候、此段筋々被仰達可被下候、以上

子八月　　布上玄格

水田右兵衛殿

釘本和兵衛殿

右願之趣、四郎右衛門殿江相達候上、御吟味之処、相違無御座候条、被遂御披露候様、相整可被下候、以上

釘本和兵衛

水田右兵衛

城嶋茂助殿

中嶋文蔵殿

松崎五右衛門殿

1122　天保十一年十月三日　三平保養の為丹坂御出の事

一今日四ツ時、御供揃ニ而、三平様為御保養、丹坂筋被遊御出候

一右之通御届申上候

御徒士

倉本庄之進

親列十病気之末、昨夜相果申候

1123　天保十一年十月十四日　田尻監物祖母死去の事

一今夕、監物殿御附人ゟ左之通罷来

城嶋茂助殿　　吉富市郎右衛門

中嶋文蔵殿

松崎五右衛門殿

監物殿御祖母鳳章院殿御病気之処、被御差重候、此段致御達候条、筋々御相達致御頼候、以上

十月十四日

一右ニ付、早速為御尋御使被指出候、平士勤、小柳逸水勤之、継肩衣

一御前様ゟも御同様御使被指出候、平士勤、庄藤兵衛勤之、継肩衣

一右御使被指出候付、則御一類野口新治左衛門殿を以御請申上有之

一右之末、養生不被相叶、今暮六半時死去有之候段、御附人を以御届有之

一右ニ付、左之通御届有之

（鳳章院殿死去之所叔母之　兵庫殿

続ニ付、定式之忌服請申候

右同断之所、母方祖母之　進之允

続ニ付、右同断

（右同断之所、従弟半之　造酒殿

続ニ付、今日一日用捨仕候

一右ニ付、左之通惣触指出、且山内・山代江も相達

監物殿御祖母鳳章院殿病気之処、養生不被相叶、今夜死去有之候、右ニ付、則ゟ来ル十六日迄日数三日御領中穏便被仰付候条、謡・乱舞・鳴物等相止候様、尤作事者不苦候、此段端々迄無洩急速可被相達由候、以上

十月十四日

一右死去ニ付、左之通御笑止之御使被差出候、御使者番勤、留守権之助勤之、麻上下
御前様ゟも御同様御附頭勤ニ候得共、支合候付、御使者番黒木又四郎勤之、麻上下

監物殿
清記殿
兵庫殿

一右御使被遣候付、則御一類野口新治左衛門殿を以、先御請申上有之、兵庫殿ゟ者御附人を以右同断
一右鳳章院殿、監物殿祖母之続ニ候得共、実者御母ニ付、定式之忌服御請有之候段、御附人を以御届有之

1124 天保十一年十月十六日　調練に付、無鉄砲願の事

一四郎右衛門殿ゟ左之通伺相成候所、伺之通相済
明十七日調練仕候付、依趣玉無鉄砲をも及相度、此段奉伺候

1125 天保十一年十月二十一日　石火矢稽古願の事

一左之通願有之候所、願之通相済
口達
今日於北浦村町打并火矢稽古出張仕度御座候間、御支無御座候ハヽ、右場所被指免被下度奉願候、以上
十月廿一日　富岡弥一左衛門
文武方

1126 天保十一年十月二十六日　神代次郎兵衛殿中にて倒れる事

一大御目付神代次郎兵衛今夕於殿中寒之気味ニ而、気絶及三度、其度々呼返し、追々医師も両三人罷出、漸々快方ニ付、御境目方ニ而休息、今夜同所ニ而加養、翌朝宿元引取相成

1127 天保十一年十月二十九日　長崎番所より達の事

一西丸ゟ左之通手紙到来　善右衛門

茂助殿
其外様

御番方ゟ之達帳写別紙差越申候、以上
十月廿八日
長崎両御番所其外江御減番後一順滞勤被仰付置候御石火矢役并足軽嶋々諸家来且増御繁船之儀、追々内代御番手一同引払相成候様被仰付旨候、以上
子十月　御番方

1128 天保十一年十一月一日　火矢稽古願の事

一富岡弥一左衛門ゟ左之通願出相成候処、願之通被相済候
口達

今日於北浦火矢并町打稽古仕度御座候間、御支無御座候ハヽ、右場所被差免被下度奉願候、以上

十一月朔日　富岡弥一左衛門

文武方

1129 天保十一年十一月八日　文学・医学会試の事

一今朝始ニ而於学校文学并医学之御会試有之

1130 天保十一年十一月二十日　野口新治左衛門玉無鉄砲放出の事

一新治左衛門殿、左之通伺相成候所、伺之通御聞啓相成二番手調練相調申候、就而者都合次第玉無鉄砲放出も仕度、此段奉伺候

十一月廿日

1131 天保十一年十一月二十五日　川久保俊台羽織着用伺いの事

一川久保俊台ゟ左之通御目附迄相伺候

御前様ゟ御里ノ方御紋付縮緬御羽織拝領仕候処、着服仕候而も可然哉奉伺候

子十一月　川久保俊台

御目附方

右者着用仕候而も可然吟味相〻申上ニも相成、着用不苦旨、御目附方迄相達候

1132 天保十一年十一月二十七日、十二月七日　高島へ御暇願の事

一川浪善右衛門ゟ左之通御暇奉願候処、願之通被仰付候私儀、去ル天保六未年高島守衛方被仰付、同所在勤中、従御本家様ゟ御渡方乞筈之内、少々間違之儀有之候付、深堀在番藤瀬六左衛門江面会仕候半而不相分筋御座候ニ付、同所罷越度奉存候条、明後廿九日ゟ日数廿日御暇被為拝領度奉願候条、此段筋々宜被仰上可被下候、以上

十一月廿七日　川浪善右衛門

城嶋茂助殿

中嶋文蔵殿

松崎五右衛門殿

十二月七日

一川浪善右衛門先達而御暇奉願、深堀罷越居候所、昨夜帰着仕候段、御届有之候

1133 天保十一年十二月一日　松本源太郎風邪の事

一今朝、奏者控野副伝相勤候様伺之上相達相成筈候処、松本源太郎風邪ニ而咳有之相勤兼候由ニ付、伝奏者相勤源太郎儀者控相勤候事、尤其段申上相成候

1134 天保十一年十二月十二日　病に付、役方御免の事

一井上忠左衛門病気ニ付、被成御免、且左之通被為拝領候段、注進有之

井上忠左衛門

病気ニ付役方御免

右ニ付被下置候御加米三石、一生之間被為拝領、物而緩々保養相加候様

1135 天保十一年十二月二十二日　原口養碩永蟄居御免の事

一原口養碩儀、永蟄居被成御免候付、一類藤嶋清左衛門呼出相達候、但左之通書取を以請役附ゟ相達候

原口養碩

永蟄居御免被成候

右ニ付、早速為御請罷出候処、病気ニ付、名代を以御請申上候段、藤島清左衛門罷出候

1136 天保十一年十二月二十八日　吉原文吾初御目見の事

一十一月諸願之内、左之面々初而御目見申上候

美濃丞倅

西岡虎次郎

次郎太夫倅

庄嶋之助

宗策倅

吉原文吾

嘉永三年（一八五〇）

1137 嘉永三年十月三日　水町蔵人裁許の事

一今日七ツ半時昼時付を以、水町蔵人佐嘉評定所ニおいて御裁許仰渡ニ付、御用之旨左之通申来候付、則大組代庄次郎太夫江相達候処、追々病気ニ而何分明日之御用罷出候体無之段、次郎太夫を以達出相成候処、深受之儀ニ付不快達書并医師手形等も間ニ合不申候段、右相達延引ニ而者猶更不都合ニ相成候ニ付、一先演達ニ而断相成、都合猶又申越ニ相成候様、七ツ半時頃返書旁懸合越候

一御本丸受役所ゟ則刻呼出ニ而、岡本小平太ゟ被相達候者、水町蔵人儀、明四日評定所おゐて御裁許仰渡有之候条、四日四時一類同輩付ニメ刻限前無間違同所被罷出候様、筋々可相達旨演達有之候条、明朝未明ゟ被罷出候様御取計可被成候、為此段御懸合如是御座候、以上

十月三日　半右衛門

兵右衛門様

四郎左衛門様

別啓、及御懸合候水町蔵人、明日御裁許之儀、役々相揃ニ評定出張相成義而者、是非不被罷出候而不相叶候条、縦令当病たり共、押而被罷出候様無之而不相済候段、懇ニ相達有之居候条、左様御心得可被成候、以上

十月四日

一水町蔵人御用之儀、今晩懸合置候末、左之通今又申来候ニ付、則大組代并一類江相達候

水町蔵人、今日評定所御用ニ付被罷出段御懸合被置候処、同人俄ニ霍乱相煩、何分今日罷出候儀不相叶段、大組代ゟ達出相成候付、評定所之方江右不快之段者爰元ゟ達出候様、惣而者不快口達書差出不申候而不相叶訳ニ候半者、押返し及御懸合候様御紙面之趣、今朝六ツ半時頃参着ニ付、先以不取敢前断之次第演舌を以達出可有之申合、大坪九郎右衛門則御城罷出、受役所泊番案文方田中喜十郎面会、其段申達候処、右御裁許仰渡之儀ハ一旦手為相成儀候得共、是非其当日無之而不相叶御規則前之由、就而者霍乱之儀ニ候得者、最早罷出候様ニも相整可申候間、刻限遅刻之儀者筋々相達置可申候条、夕刻迄之内無理ニも押而罷出候様、早急ニ可及御懸合旨被申達候間、無間違夕刻迄之内被罷出候様可被相達候、夫共九死一生之病体ニ而其儀不相叶都合ニも候半ハ、其段口達書并医師手形共被相副、押返極早走を以可被仰越候、且又病体書被差出候訳ニ候ハバ、本人ゟ差出候方ニ而可然哉、一類ゟ押取指出方ニ而可有之哉之亘り者内々承合可差出候条、本人と一類中ゟと両様御認御差越可被成候、此段旁早走を以為御懸合如是御座候、以上

十月四日　　半右衛門

兵右衛門様

四郎左衛門様

追而本文九死一生之病気ニ而罷出候儀不相叶訳ニ候者、如何可相成候哉、喜十郎江九郎右衛門ゟ内々相尋候処、御城下ニ候得者、其宅々江出張被仰渡儀ニ而被差延と申儀無之、是非其当日仰渡有之候御手数向之由、尤遠在之儀者其運相付兼候ニ付、駕籠ゟ看病人等相付候而も罷出被申候様、懇ニ被申聞候条、左様御承知可被成候、以上

一水町蔵人病気ニ而仰渡被召出候通無之由、御懸合之末、受役所達込候処、泊番田中喜十郎ゟ被申聞次第、別紙可及御掛合相認候半、五半時昼今又同所ゟ即刻呼出ニ而最前も相達置候通、一応諸方御手配相成居候得者、縦令何分之病気たり共、早速被罷出候様無之而御規則不相立旨ニ而、猶又早走を以申越候様、且又最前内々申聞候儀を以凌成取計相整候半而不相叶ニ付、屹度得其意精々被申聞候条、此飛脚到着次第、聊無延引被罷出候様無之而不相済都合ニ御座候、此段今又為御掛合如斯御座候、以上

十月四日　　半右衛門

兵右衛門様

四郎左衛門様

追而此表到着之上、直ニ評定所被罷出儀候哉、又ハ何れ之場所江歟暫時屯有之儀候哉旨、其已前此方相知レ候様可被成候、此許ゟも為心遣誰か罷出候通り可取計儀御座候条、左様御含可被成候、以上

一右之末、古賀七右衛門昼八半時頃、早走ニ而桜岡罷出、水町蔵人儀、是非不被罷出候而ハ不相叶、今日不被罷出候通どもニ而ハ御規則不相立旨ニ而、御当役始滞座相成居、今夕七ツ時限罷出相成候様、西丸ゟ判突を以受合候様相成候間、早速ゟ罷出候様旁相含罷越候処、最

前之懸合ニ而折角罷越候通取計相成居候得共、猶又右之次第早速相達ニ付、則ゟ罷越相成候也

十月五日

一大組代庄次郎太夫ゟ昨夜佐嘉評定所おゐて水町蔵人江左之通御裁許相成候段相達ス

仰渡　加賀守殿家来

水町蔵人

其方儀、高島御番所詰仰付被置候処、不埒之次第相聞、依之牢人申付者也

戌十月四日　御目付

早田外右衛門

受役付

井上定左衛門

一左之通遠慮御届有之候事

組内水町蔵人儀、佐嘉於評定所、昨夜被仰渡候次第ニ付而者、於拙者も重畳痛入候、依之遠慮致御届候、以上

十月五日　水町舎人

右者則被成御免候

木下岩之丞

伊東茂兵衛

甥水町蔵人昨夜佐嘉於評定所御裁許被仰渡候ニ付、遠慮御届申上候

十月五日

木下与左衛門

城戸助作

古部休甫

右同人従弟ニ付、遠慮御届申上候、以上

新左衛門親隠居

黒木幽管

右同人ニ付、遠慮御届申候、以上

十月五日

一今暮時、牢人水町蔵人一類木下岩之丞一類同組付ニ而蔵人寄親水町舎人殿於宅左之通被仰渡候、惣御目付富岡弥一左衛門ゟ相達ス、読人平士東島兵左衛門勤之

水町蔵人一類

木下岩之丞

其方一類水町蔵人儀、高島御番所詰中不埒之次第相聞、御本方ゟ牢人被仰付候、依之別段不被及御沙汰者也

十月十二日

一左之人々、昨日迄遠慮満日ニ付、今日退出後、被成御免候事

木下岩之丞

木下与左衛門

伊東茂兵衛

城戸助作

黒木幽管

北村三左衛門

古部休甫

1138　嘉永三年十月三日　東道免村にて流行病の事

一左之通、郷方ゟ達出相成候ニ付、常円坊・行乗坊転除

祈祷被仰付之旨、附役ゟ相達ス
手覚

東道免村

一人数四拾弐人
内
三人　死去
四人　快気
右之通り、流行之痢病相煩打伏居候段達出候

1139　嘉永三年十月四日　藤嶋養哲医学稽古延長願の事

一於受役所、左之通御当役達
（前略）
奉願口上覚
一私弟養哲儀、医業為稽古御暇如願被下置、於江戸表執行仕難有仕合奉存候、惣而者満年ニ付、追々ニ者帰郷可仕儀ニ御座候処、師家竹内玄道ゟ申聞候者、此侭引取候而者、甚残念ニ相心得候間、今暫滞府一際稽古有之候様、爰限申勧有之、養哲自分ニ茂稽古之儀畢竟不束処ゟ未果敢候儀も無御座候、其上写本等致懸居候処、是以一向手寄不申旁只今之侭ニ而者甚残念之仕合ニ御座候間、何卒今又向三ヶ年御暇被為拝領被下候ハバ、猶又打部り一際出精仕奉存候旨申越候間、毎々自侭ヶ間敷甚奉恐入儀ニ御座候得共、今又向丑年迄三ヶ年之御暇被為拝領被下度重畳奉願候条、筋々宜御相達致御頼候、以上
戌九月　藤嶋清左衛門

田中兵右衛門殿
本庄四郎左衛門殿

1140　嘉永三年十月五日　深堀元〆方へ取替金の事

一富岡惣八高島番中、深堀元〆方へ御取替之儀ニ付、左之通申来候ニ付、富岡九郎左衛門迄相達ス
一富岡惣八高島在番中、深堀元〆方ゟ別紙之通御取替相成居候処、仕寄ニ而差支候由ニ而、此節態と下役水町忠蔵ゟ申来候条、右納銀来十日迄之内無間違被相納候様、其筋御手当可被成候、自然不承知之筋ニも被存候ハバ、早速出丸相成、右忠蔵面会有之候ハバ、差分可申候条、旁被相達度候、此段為御懸合如是御座候、以上
十月五日　半右衛門
兵右衛門様
四郎左衛門様
追而本文下役之者、来ル十日頃深堀罷帰り由候条、左様御心得可被成候、以上
富岡惣八
其外

一正銀拾八匁四分六也
右者宿賃銀、但十月已後取替前
一同拾七匁三分
右者増六丁立御雇舸子賃銀十月已後渡取替前
〆正銀三拾五匁七分六也
右者高島詰之節、御取替相成居ニ付、急ニ相納銀可被成

候

深堀
元〆方

1141 嘉永三年十月六日　石火矢稽古願の事

一東島五郎助門弟、明七日於北浦村石火矢稽古打ニ付、場所願有之処、御差支無之旨、文武方江相達ス

1142 嘉永三年十月九日　引痘の種不足に付、小児連出の事

一昨夜引痘方ニ付、左之通西丸ゟ申来候ニ付、早速相良柳沢・原口養虎・中嶋需安呼出、両人程引痘種小児差越相成候様相達候処、手前限ニ而罷越候義難渋之趣ニ付、郡方ゟ左ニ名前之旨申達之上、路費金壱歩被差出候也、且又引痘ニ付達帳之儀も左之通申来候付、惣触差出ス

一御進物方今夜則刻呼出ニ而、本嶋藤太夫ゟ被相達候者、引痘方之儀、近来御城下筋種相絶、勿論市中郷村共種痘不致もの未数多有之由ニ而、此節少将様、猶又被為御心遣連綿いたし候様被思召候得共、当時種無之、然処御私領内ニ者不相替引痘有之候由、此御方医師ゟ御本家御医師亘りへ相響居候趣ニ而、植種有之哉ニ相聞、就而者御医師等申合候分ニ而者遠在之儀、何分届合申間敷ニ付、其筋ゟ早速御手当相成種宜敷方両人程明晩亘りゟも入込、元町中願寺江罷出候様御取計相成度、尤右立宿之儀者、元町旅人宿秀屋と申所江手当相成居、自然右宿故障も有之節ハ彼最前宿取相成居候由、物而参着懸ヶ当時八幡小路住宅御家中佐野文仲へ釣合候様、左候得者、御医師等江之通合相成候手筈之由、旁懇ニ被申達候条、其筋被相達無間違罷越、先以文仲宅釣合、同人得差図候様、早速御手当可被成候、此段態と為御懸合如斯御座候、以上

十月八日

追而、本文連越候次第ハ此方江茂相知候様御取計可被成候、以上

附啓

引痘種々人、明晩ゟ入込ニ付而者、最前佐野文仲宅釣合候様、別紙及御懸合候処、自然文仲在宅も難計相達候通ニ而ハ不相叶候条、先参着懸此方点合候様御取計可被下候、以上

一御本丸受役所ゟ別紙之通達帳相成候付、差越申候条、筋々可被相達候、以上

十月八日

引痘場所之儀、御医師并懸り合之医師中自宅ニ而勝手々々相整へ来候処、当夏以来、種痘之小児手少植継出来兼、最早痘苗致断絶候通引移、右者比竟（マヽ）数ヶ所ニおゐて植方相成候処ゟ何れも筋江連出可然哉疑惑之向も有之候哉ニ而、前断之次第ニ付、自宅植方之儀者被相省、最前之通、元町中願寺壱ヶ所ニ而植方相整度、今又御医師ゟ達出相成、其通被仰付候条、為心得筋々相達相成候様之事

戌十月　　受役所
十月三日種痘　　岡町
一　一才　左三ツ全感　　庄蔵娘
右三ツ内弐ツ感　　みつ
一　二歳　左四ツ全感　　同町
右五ツ全感　　勘兵衛倅
長次郎
右之両人、苗種ニ宜御座候、以上
引痘方
一左之通罷越候処、向方ニ而左之通仕成有之候段達出候
原口養碩弟子
養順
岡町　庄蔵
同女房
同所　勘兵衛
女房
右之人数元町秀屋清蔵宅ニ而
酒　肴　一品　煮〆　茶漬
外ニ医師方ゟ箱入菓子弐箱

1143 嘉永三年十月九日　水町玄道一代医師召し出しの事

一左便ニ而左之通注進相成候
去月廿八日、左之通被仰付之旨被仰出候
蔵人弟
水町玄道
医業ニ付、一代被召出三人扶持被為拝領候
右之通ニ間、同人御呼出、宜可被相達候、此段及注進候、
恐々謹言
十月九日　　水町舎人
西造酒丞
星野二右衛門殿
猶以、玄道儀、是迄之通、伊東玄卜江随身罷在候共、
外宅いたし共、勝手ニ相心得候様被仰出候、此段可
被相達候、以上

1144 嘉永三年十月十日　石火矢稽古願の事

一左之通り、場所願有之候処、御聴済相成ル
口達
私門弟、明十一日北浦村御台場并薬師谷矢落ニメ石
火矢稽古打相整度御座候条、右場所御支無御座候ハ
バ被相済度奉願候、此段筋々宜敷御相達被下度致御
頼候、已上　　富岡弥一左衛門
十月十日
文武方
右願、雨天之節ハ日送り之段も御聴済相成候

1145 嘉永三年十月十日　腹痛に付、役目遅滞の事

一左之通、遠慮御届有之候処、前方畢竟則被成御免候
私儀、今九日御広間順番罷在候処、途中ニ而腹痛差起
候ニ付、引返し養生相加候得共、一円快無御座、役預

仕候内、刻限遅目相成候所ゟ不勤仕候、依之則遠慮
引入申候、此段御届仕候
村川八右衛門

1146

嘉永三年十月十二日　富岡弥一右衛門兼役の事

一左之通、書取ニ而御当役西造酒丞殿御達
持役ゟ小路方学館懸り　黒木新左衛門
持役ゟ御紙面方御能方兼　富岡弥一左衛門

1147

嘉永三年十月十八日　石火矢稽古願の事

一東島五郎助門弟中、明十九日於北浦村石火矢稽古打ニ付、場所願有之候処、願之通御聴済相成ル

1148

嘉永三年十月二十四日　西隈順古子死去の事

一左之通御届申上候
西隈順古
小児病死仕候処、七才未満ニ付、用捨引入候段、御届申上候

1149

嘉永三年十月二十九日　石火矢稽古願の事

一富岡弥一左衛門ゟ左之通願出相成候処、御聞済相成候
口達
明晦日、於北浦門弟石火矢稽古放出仕度御座候間、御支無御座候ハバ、右場所被差免被下度奉願候、此段　筋々宜敷御相達致御頼候、以上
富岡弥一左衛門
十月廿九日
文武方

1150

嘉永三年十一月三日　手明鑓西村源蔵跡目の事

一六左衛門組内中村彦之允組手明鑓西村源蔵儀、当六月病気差出、快気不定之体ニ罷成候ニ付、自然不得快気候半者、跡式之儀、男女子共実子無之ニ付、追而一類中ゟ血筋相当之者可奉願旨、存生中願之通被仰付置候、依之其御方歩行橋本和助実子藤一郎当年九歳罷成候ニ付、右之者江不相替相続被仰付被下度、内證双方申談願出相成、惣而実娘罷在候得共、生来服毒之症相煩、色々養生相加へ候得共、一円薬験無之、弥差募、至近頃瘡毒相発、只今之様子ニ而者、中々向以得清快、嫁娘いたし候体無之、専難治之症之由、医師ゟも被申聞候由、尤和助妻ハ源蔵実姉ニ而右藤一郎実甥之縁有之候ニ付、御支所等無之哉及御問合候条、否御答御申可被聞候、已上
秀嶋千右衛門
十月廿日
太田半右衛門様

1151

嘉永三年十一月十四日　福智院にて種痘の事

一引痘方ゟ左之通懸合相成候段、西丸ゟ申来候付、相良柳沢其外江相達ス

別紙之通引痘方ゟ致到来ニ付差越候旨、筋々御相達可被成候、惣而ハ佐野文仲召呼引痘方江罷出承知有之候様相談候処、右者、先達而及御掛合置候請役所ゟ達帳を以相達有之候義と存候由、就而ハ其御地之儀、自宅々々ニ而有之末ニと福智院ニ而最前之通種痘有之居候御方可然、尤右之場所ニ而も不相叶、是非中願寺ニ而有之節者、其節ニ至り可相願、先者右之通ニ而可相治哉、旁文仲被申聞候間、引痘方之人々江も右之趣御通達可被成候、就委細之義者、文仲罷越候節可相達存候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十一月十三日　　半右衛門

兵右衛門様

一其御方御家来相良柳沢・佐野文仲・原口養虎・中嶋需安儀、引痘方懸り合被仰付置候処、今般自宅種方被相省、最前之通中願寺一ヶ所ニ而種方相整候様被相達候条、委細之儀者役筋ゟ可被成御承知有之候通、御通達可被成候、以上

十月晦日　　引痘方

1152　嘉永三年十一月十七日　高島諸遣銀乞筈の事

一高島諸遣銀納帳一件、左之通御納戸ゟ願出相成候付、御吟味之上、其通被仰付候

高島諸遣銀乞筈之儀、御納戸納帳取繕来候処、右納帳内帳合不念、其外不調子合之廉有之候、科銀御納戸江相掛り難渋之儀ニ御座候間、以来銀蔵方納帳之内ニ有之候諸通方納帳同様高島銀方之人江科代相掛候通有御座度候事

戌十一月

1153　嘉永三年十一月十八日　石火矢稽古の事

一今朝五ツ半時過御供揃ニ而御乗馬ニ而、富岡弥一左衛門門弟石火矢為上覧、北浦村御台場被遊御出候事

1154　嘉永三年十一月二十一日　石火矢稽古願の事

一明廿二日、私門弟北浦御台場ゟ薬師谷上矢落ニメ石火矢稽古打相整度御座候条、御支所無御座候半ハ相済被下度奉願候、此段筋々宜御相達被下度御願仕候、以上

戌十一月廿一日　　東島五郎助

文武方

安政四年（一八五七）

1155　安政四年一月六日・十一日・二十六日　星野猶人御暇願の事

一星野猶人御暇願之儀、左之通御内慮伺出相成候処、表向別段願出ニ不相及、則御暇被差出候事

私共一類星野猶人、伊王島勤番被仰付置候処、親善兵衛不計大病差発候付、御場所柄在勤中近来奉伺候儀も奉恐入候得共、可相成儀ニ候半者介抱為仕度、私共存念ニ御座候間、何れとか御運之道も御座候半者、

御暇被為拝領被下候様奉願候而も不苦筋ニ可有御座
哉、此段御内慮奉伺候、以上
巳正月　　日出嶋源兵衛
　　中尾次郎右衛門

一月十一日
一左之人、去ル九日長崎出立之末、今朝帰着仕候段、御
届申上候事　　星野猶人

一月二十六日
一左之通星野善兵衛殿被相願候
　　願口上覚
私儀、六十五歳罷成、弥□(虫損)及老衰、既ニ去秋申上通ニ
而、其上早春ゟ猶更相募、唯今ニ者人事も忘失之体罷
成候間、職分之儀ニも有之、片時も此侭ニ者難罷在候
ニ付、隠居被差免、家督倅猶人江被為拝領度奉願候、
此段宜頼披露候、以上
巳正月　　星野善兵衛
　　西造酒丞殿
　　野口新之允殿
一右之末、左之通善兵衛殿江御書取を以被相達筈之所、
御同人不快中ニ付、日出嶋源兵衛江一類所を以、御当役
被相達候、列席例之通也
　　御手前隠居被相願候ニ付相伺候所、願之通被仰出、
　家督之儀、猶人江無相違被仰付之旨被仰出候
一星野猶人名代中尾次郎右衛門江左之通御書付を以、於
　小松間御当役被相達候、列席例之通
星野猶人儀、親父善兵衛隠居如願差免、家督無相違
申付候条、可申聞者也
巳正月

1156　安政四年一月十三日　武雄入湯願の事

一左之通御暇願出候所、願通相済
　　願書付
私儀、旧冬ゟ持病之疝癪差発快方無御座ニ付、為養生
武雄入湯罷越度御座候条、明十四日ゟ日数十日御暇被
為拝領度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
正月十三日　　中嶋寛兵衛
　　附役当

1157　安政四年一月十七日　牛津休泊の事

一会所ゟ左之通達出相成候
明十八日、紅毛人献上物并付副之役々、左之休泊ニ而
牛津昼休之段申来候事
正月十五日
一長崎出立、矢上休　諫早泊
同十六日
一大村休　彼杵泊
同十七日
一嬉野休　柄崎泊
同十八日
一牛津泊　神埼泊
同十九日

一田代休　山家泊
以上
正月十七日　　会所

1158 **安政四年一月二十日　大小銃稽古の事**

一月次五日北浦御台場大小銃稽古打被差延置候末、今日被相整候ニ付、何れ茂別勤

1159 **安政四年一月二十一日　富岡弥一左衛門伊王島詰の事**

一左之通、於請役所内、御当役被相達候、列席例之通
持役ニ而伊王島詰被仰付候　富岡弥一左衛門
一左之通、附役ゟ手紙差出
持役之内伊王島詰之分被成御免候　星野猶人

1160 **安政四年一月二十八日　白帆注進の事**

一白帆注進之儀、今朝左之通申来候
一筆致啓達候、今廿七日夕、白帆船壱艘相見候旨、深堀遠見所ゟ合図之麾移来、其末合図筒をも打方有之候、此段為御知如此御座候、恐惶謹言
正月廿七日　平石常十郎
綾部四郎太夫様
本庄四郎左衛門様
一白帆注進、今又左之通申来候
一筆致啓上候、最前申越置候注進之白帆船壱艘、今廿七日申上刻香焼遠見所ゟ申酉之間里数凡三拾里余相見候旨、深堀御家来ゟ相達来候、尚追々着湊之上可申越候、此段為御知如此御座候、恐惶謹言
正月廿七日　平石常十郎
綾部四郎太夫様
本庄四郎左衛門様

1161 **安政四年一月二十八日　富岡弥一左衛門出崎の事**

一左之通御届申上候　富岡弥一左衛門
明後朔日ゟ出崎仕候段、御届申上候事　中西新左衛門
右同断

1162 **安政四年一月二十八日　星野猶人役御免願の事**

一左之通星野猶人・松崎牧太・調女ゟ役方被成御免度願出之末、御両殿様御聴済相成候ニ付、其段以手紙相達、調女ニ者一類中尾次郎右衛門江相達
口達覚
私儀、数ヶ年御身辺被召仕候末、去冬ゟ転役伊王島詰被仰付旁、難有仕合奉存候、然処、此節親善兵衛不計大病差発候付、看病等為仕度、一類共ゟ先以奉伺御内慮候処、場所柄在勤中迚、御暇被為拝領御陰を以、則ゟ罷帰相傍看病等仕難有奉存候、惣而者右途

中ゟ不快罷在、是迄療養相加候得共、何分急快仕兼、打追時日相送候亘、不本意千万恐入儀奉存候条、役方御免被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

已正月　　星野猶人

小田村市左衛門殿
本庄四郎左衛門殿
持永治兵衛殿

口達覚

私儀、不奉存寄大殿様御身辺被召仕難有仕合奉存候、惣而ハ当月初ゟ不快ニ而引入罷在候処、今以全快相成兼、何分急ニ出勤仕かたく、右ニ付而者勤柄其侭ニ而時日打延候亘恐入儀ニ奉存候条、役方御免被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

已正月　　松崎牧太

小田村市左衛門殿
本庄四郎左衛門殿
持永治兵衛殿

御暇奉願候　　しらへ

右者永々不快ニ而引入罷在、引入中ニも厚御手を被付、弥ヶ上御難題罷成、至極奉恐入候、惣而者爰切療養仕候而も急快之期難計ニ付、何卒御暇被為拝領度旨、一類中尾次郎右衛門演達有之候事

1163　安政四年二月一日　売船入津の事

一売船入湊之義、左之通申来候

阿蘭陀船壱船、今廿九日戌上刻致入津候、例之商売船ニ而別条無之、新かひたん乗渡不申、右者昨年於伴中致破船候代りとして渡来之旨、阿蘭陀人共申立候、江戸へ之注進者明日申上候、右之趣、御国元へ御申越可有之候

正月廿九日

左之通平石常十郎ゟ例之付状を以申来候

一足軽犬山六右衛門江北島勝右衛門伊王島詰中、浜御門番差次被仰付候

1164　安政四年二月十一日　幕府役人牛津通行の事

一左之人々、左之休泊ニ而牛津通行之段、会所ゟ申達候

天文方渋川助左衛門殿手付手伝　福岡金吾
江川太郎左衛門殿御鉄砲方付手代　岩島源八郎
散薬方与力次席　浦賀奉行組同心　岩田平作

右之人帰着左之休泊ニ而牛津通路之段、同所別当ゟ先触を以相達申来候

休　泊

二月九日
矢上　大村
同十日
彼杵　嬉の
同十一日
柄崎　佐嘉
同十二日
神埼　田代
同十三日
山家　内野
以上
已二月十日

1165 安政四年二月十一日　石火矢稽古の事

一今朝四ツ時、御供揃、北浦石火矢稽古為御打被遊御出之旨被仰出候事

1166 安政四年二月十四日　乱気にて死去の事

一会所ゟ左之通達出相成候
口達
某掛山内郷麻名古村二兵衛娘ゆゐて、兼而狂気之体有之候所、家中之者気を付罷在、然所不計近日差募逃去、何方江罷出候哉探促仕居候半、於浦山締死仕候を、一昨十二日夕七ツ時頃一類之者見当候ニ付、早速番人等相附置候段、村役之者ゟ相達候ニ付、此段御達仕候、以上
已二月十三日　山口弥兵衛
相原治右衛門様
右近形右衛門様

1167 安政四年二月十八日・十九日　白帆注進の事

一白帆船注進、平石ゟ左之通申来候
一筆致啓上候、今十六日朝白帆船壱艘相見候、深堀遠見所ゟ麾移注進有之、其末相図筒をも打方有之候、此段為御知如是御座候、以上
二月十八日
一白帆船相見候ニ付、明日肥州様清水御出之義被遊御延引之旨申来候ニ付、則上々様へ申上相成
二月十九日
一白帆船注進、今又左之通平石ゟ申来候
先紙御注進申越候白帆船壱艘、今十六日夘中刻沖島遠見所ゟ里数凡四拾里余相見候段、深堀御家来ゟ申来候、此段為御知如是御座候、以上
二月十八日
追而唐船壱艘相見候旨、今朝注進有之候

1168 安政四年二月二十二日　伊王島詰暇願の事

一左之通願出之所、願之通被相決候
奉願口上覚
私倅有七之助儀、伊王島詰被仰下置難有仕合奉存候、

然処、妻大病相煩、快気之程も難計旨医師ゟも申聞、甚心配罷在候、惣而者私も数年病気ニ而平臥罷在候へ者、看病方之差引等も出来不申、旁当惑之参懸ニ付、倅義御場所柄勤番中難奉願御座候得共、前断之次第ニ付、御暇被為拝領被下候道者有御座間敷哉、深重奉願候条、此段筋々宜敷御相達致御頼候、以上

已二月　　西川弥七右衛門

付役当

一左之通御届申上候、以上

西川弥七右衛門

妻病気之末、養生不相叶、昨夜相果候段、御届申上候、以上

1169 安政四年二月二十三日・二十七日　伊王島詰仰せ付ける事

三浦政次郎

伊王島詰被仰付候

二月二十七日

一三浦政次郎明廿八日ゟ出崎仕候段、御届申上候事

1170 安政四年二月二十七日　白帆注進の事

一白帆船注進、平石ゟ左之通申来候

一筆致啓上候、今廿七日昼頃白帆船壱艘相見候、深堀遠見所ゟ合図之麾移注進有之、其末合図筒をも打方有之候、此段為御知如是御座候、以上

二月廿七日

1171 安政四年二月二十八日　代々医業を命じる

一水町玄道へ左之通被仰付之旨、一類木下与左衛門へ御当役被相達候、列席例之通也

水町玄道

先年遊学中医業致進達候ニ付、一代御扶持方被下置、其後間も無義ニ者候得共、猶又相心掛、兼々御恩報之志夫となく相顕候様被聞召、此節従大殿様分而被仰進候御旨も有之候ニ付、別段之訳を以、代々医業之家筋ニ被仰付、三人扶持被為拝領候

1172 安政四年二月晦日　白帆注進の事

一白帆船段々注進之末、今又平石ゟ帆影見隠候段申来候

1173 安政四年三月十三日　牛津置物見分の事

一牛津置物見分之義、左之通申来候

長崎御仕組ニ付、宿々用意物、且深堀・矢上・諫早御用地諸手陣場等為見分、百武作右衛門、物書役兵動忠右衛門、来ル十六日ゟ出立、左ニ書載之通被差越義候条、如跡方懇ニ役々其場出役、旅宿等之義手当相成居候様、将又御室之品々不足等有之而者不相済義候条、夫々急度相備居候通、旁可被相達候事

三月十六日　泊　同十七日
一牛津　一小田　一成瀬
泊　同十八日　泊
一塩田　一浜　一多々良
同十九日　泊　同廿日
一湯江　一永昌　一矢上
一長崎　一深堀
右永昌之義、諸手陣場等之杭木建既ニ相成候趣、雨天之節者難相整ニ付、矢上被差越候日積之義者於向々作右衛門ゟ其筋可被相達候
以上
已三月　長崎御仕組方

1174　安政四年三月十七日　馬渡仁庵肥後遊学願の事

一馬渡仁庵肥後遊学願出候処、願通被相済候段、本人呼出相達、委細諸願帳ニ有之

1175　安政四年三月二十二日　蘭船注進の事

一蘭船出帆之義、例之通平石ゟ注進申来候

1176　安政四年三月二十三日・二十五日　直正大久保台場御出の事

一明後廿五日、肥州様大久保村御台場御出ニ而角ためし有之候ニ付、堤土井当一順角立被相整候段、御相談之義、左之通申来候
付役当　西丸聞番
御火術方ゟ今夕即刻呼出ニ而、大久保村於御台場、明後廿五日少将様同所御越之上、角ためし被相整筈ニ候、就而者是迄之角立場所不具和敷ニ付、手前へ引取宜敷場所有之義ニ候得共、当今麦からし時ニ而踏あらし候而者百姓難渋可相及、且四丁程之町数ニいたし候而者、今一ヶ所有之義候へ共、人家近ク有之、当節放出相成候玉者向ニ而割レ破候様相成義ニ而、万一怪我人等出来いたし候而者不叶、且又不可然、然所同所へ堤御堀方相成居候堤土之処有之、右等之差支無之場所ニ付、当一順其所へ角立被相整度候、右者前を以御相談ニ可相及候処、為差懸義ニ付、其懸り庄屋元へ者爰許迄及御相談置候旨を以、早速ゟ相談、右之運可相整義候条、一刻も其筋ゟ相響候通可取計旨、宮田新五左衛門ゟ被申達候、此段為御懸合如是御座候
三月廿三日
一明後廿五日、肥州様石火矢為御覧大久保村御台場被遊御越候段、郡方ゟ達相成候段、例之通申来候
三月二十五日
一今朝六時、御供揃御乗馬ニ而大久保村御台場へ被遊御越候、此節肥州様ニも御出有之、暫時御面談有之候由
一於調練場弐番手調練被相整候、殿様ニ者大久保御出ニ付、上覧無之

1177 安政四年四月一日　伊王島番所交代に付達の事

一伊王島御番所蓮池と交代之儀、十月朔日ニ候処、当年閏月有之ニ付、九月十五日此御方と交代相整度旨、蓮池聞番方ゟ相談之処、此御方差支無之ニ付、其旨通達有之候様西丸申越

1178 安政四年四月五日　医師免札渡の事

一医師免札并試業之儀、左之通相達相成候段申来候

茂助

市左衛門様
四郎左衛門様
治兵衛様

弘道館ゟ呼出ニ而、別紙之通相達相成候ニ付、差越申候、以上

四月五日

来ル十日、左ニ書載之人免札被相渡儀候条、期日時医学寮被罷出候様可被相達候、以上

加賀守殿家来
佐野文仲
弘道館

已四月五日

来ル十日、左ニ書載之人々試業扨又入学式被相整儀候条、明六ツ時医学寮被罷出候様可被相達候、右ニ付廉々左ニ

一入学式ニ付而者礼服着用之事
一入学願出相成候様之事
一右ニ付、白麻料銭壱匁五分ツ、被相納候様之事
一試業発題暁七ツ時差出相成儀ニ候事

加賀守殿家来
辻元策
堤養哲
弘道館

已四月四日

1179 安政四年四月七日　引痘方へ酒料拝領の事

一去春以来、引痘方致太儀候ニ付、為御酒料左之通被為拝領候

会所附役
銀三両
（江里口弥右衛門
川副安左衛門）

一右同断、芦刈・山内遠郷辺ニ立会、其外別而被致太儀候ニ付、左之通被為拝領候

会所附役見習
銀三両
久本孫之允

1180 安政四年四月十二日　大殿武雄行の事

一大殿様今十二日九ツ時、御供揃武雄被遊御越候段、南小路ゟ申来候事

1181 安政四年四月一四日　於操様御安産の事

一於操様今暁寅ノ中刻、御安産之段、不取敢御使者為御知被仰進候事

一於操様御安産ニ付、相良柳沢則ゟ蓮池被差越、宮崎元益ニ者武雄御供罷在候ニ付、右両人之内、壱人罷帰候迄之処、左之人、上々様御匙之心得を以御用之節斗罷出候様被仰付候段、手紙を以相達

村田有心

1182 安政四年四月一七日　弘道館より医師免許について達の事

一弘道館ゟ左之通相達之段、西丸ゟ申来候ニ付、頭取ゟ屹度相達相成候様申達

茂助

市左衛門様
四郎左衛門様
治兵衛様

弘道館ゟ呼出ニ而被相達候者、御私領医師御試之上免札被相渡候処、右之外免札不被相渡人も有之へく、右者是迄之処者医学館御仕組はしめ、差付難渋之人も可有之ニ付、匙留相成罷不申候へ共、此節、御領中一般御試其外渡合相成候ニ付、無札之人以来屹度匙留被仰付儀候条、心得違之人無之様、御取計可被成旨御座候、惣而者、御私領中医師惣計御取調子、其内免札被相渡候人ニ者書載を以、来ル廿日迄之内被相達候様、廿一日試業有之筈ニ付、其已前無間違相達候様申事御座候、一体者山田元寿頃日爰許出浮之時分、御匙之人ゟ被相達置候由候へ共、尚又聞番方及相達候旨御座候、追々請役所ゟも相達相成筈歟ニ被申聞候、左様御承知可被成候、此段為御懸合如此御座候、以上

四月十六日

1183 安政四年四月十七日　引痘方手伝の人へ弁当料渡の事

一引痘方手伝被仰付置候人々江弁当被相渡候段、左之通申来候ニ付、則本人々々江相渡候事

茂助

市左衛門様
四郎左衛門様
治兵衛様

弘道館ゟ呼出ニ而、左之通引痘方手伝出席相成居候ニ付、弁当料として別紙衛府紙之通被差出旨ニ付、請取差越申候条、宜御取計可成候、以上

四月十六日

覚

一銀四拾弐匁　原口養碩
一同弐拾八匁　石動玄友
一同四拾弐匁　宮崎元益
一同弐拾四匁　斉藤玄周
一同五拾弐匁　中島需安

一同八匁　北島天民
一同拾四匁　村田有之
一同四拾六匁　村田有正
一同弐拾匁　石井範治
一同五拾八匁　原口養乎
一同五拾弐匁　菊池宗垣
一同拾六匁　藤嶋春斎
一同三拾匁　相良柳沢
一同拾六匁　牟田仲安

1184　安政四年四月十八日　弘道館より医師免札渡しの事

一弘道館御私領医師惣斗附出候様、最前相達相成居候末、左之通ニ〆、今日西丸差越

免札被相渡候人

頭取　村田道樹
山田元寿
宮崎元益
松隈玄洞
村田有心
斉藤玄仙
相良柳沢
佐野文仲
北島天民
布上玄春
菊池宗垣
川久保俊庵
福地良庵
馬渡仁庵
原口養碩
原口養乎
林雄民
中島需安
前田文啓
城島文敬
松本寿円
中島元隆
石田道済
横田養庵
村田有之
藤島俊斎
石動玄友
石井範治

死亡

田尻監物被官　北原範治

郷医　中貞　友仙

御試ニ者相成免札不被相渡人

牟田忠庵
辻元策
堤養哲
川副仙齢
田代松齢
田嶋養純

田尻監物被官　山下三省
未御試ニも不罷出人
病身　牟田素友
高間元策
江戸詰　水町玄道
船津元仲

以上

1185　安政四年四月十八日　於繰様容体の事

一蓮池ゟ左之通申来候ニ付、則相良柳沢罷越候、薬王寺久弥ニも一同罷出候

薬王寺久弥様　志田多内

以手紙致啓上候、然者於操様御産後御順ニ被成御座候処、去ル十六日暁頃ゟ御震付、御熱気御発し被成、其後兎角御出来不出来等被為在、格別之御事ニ而も無御座候得共、其御許様御医師被差越御容子相伺候様被仰付候通、御取計相成度奉存候、此段宜得御意旨被仰付如此御座候、以上

四月十八日

1186　安政四年四月二十一日　伊王島詰家臣・医師罷出候事

一左之通、於小松間御当役被相達候、列席例之通

伊王嶋詰被仰付候　松田定

伊王島銀方被仰付候
伊王島詰被仰付
伊王島銀方付役被仰付

小柳隼平
秀島八助
甘木伝八
村崎六郎
江頭増太郎
松枝万太郎
田島久左衛門
土井貞次郎
水田仁九郎
松崎平太郎
大木吉太郎
宮田半八郎
伊東宅助
小林利三郎
山口伴作
城戸助作
寺川助一
稲増平太夫
藤戸八三郎
志波岩人
三厨兵左衛門
石井森三郎
佐野一郎左衛門
深江外吉郎
三笠勝太郎
原口養虎
光野甚吾

1187

安政四年四月二十一日　直正大久保御出の事

一肥州様大久保御出之儀、左之通到来之段、会所ゟ達出相成候事

明廿二日朝六ツ時、御供揃ニ而大久保御越、御火術稽古石火矢放出御出懸之御姿ニ而被遊御覧候段申来候条、道筋掃除其外万端跡方之通、無迦様相整候通相達可申候、以上

御道繰

北ノ御門、中小路、多布施、同土井、植木村、蛎久

幡性院御小休、原野御渡川、立石、中極町、大久保

御帰路准右

已四月　郡方

1188

安政四年四月二十二日　直正大久保御出の事

一肥州様、今日大久保被遊御出候ニ付、道留足軽等例之通、取斗相成候事

1189

安政四年四月二十四日　番方より呼出の事

一長崎御仕組ニ付、御家老名前附出候様、御番方ゟ相達之段、左之通申来候ニ付、西造酒丞殿名前被差出候段、返書差出ス

市左衛門様

四郎左衛門様　茂助

治兵衛様

御番方ゟ此許呼出ニ而長崎御仕組ニ付、御家老名書急ニ差出候様、成丈明日出勤中相達候様被申達候条、宜御取計可被成候、此段御懸合として如此御座候、以上

四月廿三日

1190

安政四年四月二十七日　伊王島詰御免の事

一秀嶋八助、伊王嶋詰被仰付被置候処、御用有之此節之処ハ同所詰之儀被御免候事

一右代人左之人江被仰付候、於小松ノ間、例之通御当役被相達候

馬場市弥太

1191

安政四年四月二十八日　伊王島交代の事

一松田定其外、明日ゟ伊王島詰交代として出立仕候段、御届申上候事

1192

安政四年四月二十九日　月次放出延期の事

一来月五日、月次放出之儀、同日七日ニ差延候、御火術方ゟ達出有之

1193 安政四年九月一日　伊王島詰を命じる事

一左之通、於小松間御当役被相達候、列席例之通
伊王島御番所詰被仰付候　　野口袈裟一郎
深江藤右衛門
志波太郎右衛門
釘本一郎左衛門
香田伝左衛門
安住岩之助
水町作之進
吉崎要左衛門
安本源之助
山本権市

1194 安政四年九月五日　北浦台場、式日の事

一北浦御台場出張、式日ニ付、何れも別勤

1195 安政四年九月五日　白帆注進の事

一今暁、白帆注進左之通申来候　　平石常十郎
綾部四郎太夫様
本庄四郎左衛門様
今四日、白帆船壱艘相見候旨、深堀遠見所ゟ合図之
麾移来ニ付、則御奉行所江御注進相成申候、猶里数方
角等者追々可申越候、此段為御報如此御座候、以上
九月四日
一右之末、今夕左之通申来候
先刻為御報申越候注進之白帆船壱艘、今四日未申刻、
沖之島遠見所ゟ午未之方里数凡四拾里余相見候旨、
深堀ゟ申来候ニ付、則御奉行所江御届相成申候、此段
為御報如此御座候、以上　　平石常十郎
九月四日
綾部四郎太夫様
本庄四郎左衛門様

1196 安政四年九月八日　御前様武雄入湯の事

一御前様、当月中旬ゟ為御入湯武雄被遊御越之旨被仰出
候事

1197 安政四年九月八日　白帆注進の事

一平石ゟ左之通注進有之　　平石常十郎
綾部四郎太夫様
本庄四郎左衛門様
一筆致啓上候、一昨四日注進之白帆船壱艘段々乗寄、
今六日当湊致入津候付、久米次左衛門殿御奉行所被
罷出被相伺候処、別紙之通御書付を以被相達候付、
写差越申候、且又御条約御取結相成候国之船渡来之
節、仕切船開方之儀ニ付、別紙之通今日御奉行所ゟ
被相達候付、是又写差越申候、此段為御知如此御座

候、以上
九月六日
阿蘭陀船壱艘今六日午上刻致入津候付相紛候処、商売船ニ而別条無之、尤跡船無之旨、阿蘭陀人共申立候、江戸江之注進者明日申上候、右之趣御国元江御申越可有之候
巳九月六日
条約取結候国之船渡来之節者、高鉾島裏手碇卸ニ不及段、右国ニ被相達候付、以来常例之繁場江直ニ乗込可申候間、旗印見極次第、直様仕切船相開可申事
巳九月

1198　安政四年九月八日　大殿様足痛の事

一大殿様御足痛ニ付、明九日御礼不被為請之旨、申来候事

1199　安政四年九月九日　伊王島詰仰せ付ける事

一左之通、於小松間御当役被相達候、列席例之通
伊王島御番所詰被仰付候　山本権市

1200　安政四年九月十一日　御前様武雄入湯の事

一御前様当月中旬ゟ為御入湯、塚崎被遊御越之旨、被仰出候事

1201　安政四年九月十一日　伊王島詰出立の事

一伊王島御番所為詰、左之人々明十二日ゟ出立仕候段、御届申上候事
野口袈裟一郎
深江藤右衛門
志波太郎右衛門
釘本市郎左衛門
香田伝左衛門
安住岩之助
水町作之進
吉崎要左衛門
安本源之助
山本権市

1202　安政四年九月十一日　蒸気船代品取調方より素麺を納めるように命じられる事

一蒸気船代品取調方ゟ御私領素麺之儀、左之通申来候
市左衛門様
四郎左衛門様　茂助
治兵衛様
蒸気船代品取調方ゟ即刻呼出ニ而、別紙書載之素麺急成御用有之候条、来ル十六日迄、上中ニ而五拾箱丈相納候様、右者職方之者ゟ先以見本品早速同役場持出候様旁被申達候条、急速御手当可被成候、此段為

御懸合御座候、以上
九月十一日
追而神埼ニも同様申付為相成由申事御座候、物而蒸気船代品并御国産之品蝋燭又者尾崎焼躰之品等も様々御用相成居候振合ニ御座候、此段者御心得迄及御懸合候、以上
覚
但上中ニ而
素麺弐拾五斤入五拾箱
右之通、御手当可被成候、以上
巳九月十一日　蒸気船代品取調方

1203 安政四年九月十二日　長崎より注進の事

一、平石ゟ左之通、注進申来候
綾部四郎太夫様　平石常十郎
本庄四郎左衛門様
去月廿四日渡来之魯西亜船壱艘、今十日朝、碇を揚、当湊致出帆候、其末御奉行所ゟ別紙之通御書付を以被相達候付写差越申候、此段為御知、如此御座候、以上
九月十日
去月廿四日渡来之魯西亜船壱艘、今日当湊致出帆候、尤江戸江之注進ハ追而申上候、右之段、御国元江御申越可有之候
九月十日

1204 安政四年九月十三日　北浦台場屯前所・玉薬小屋焼失

一会所ゟ左之通達出有之
北浦御台場屯前所并玉薬小屋、今十三日七時比致焼失候段、役々ゟ達出候事
九月十三日　会所

1205 安政四年九月十七日　伊王島詰仰せ付ける事

一左之通、於小松間御当役被相達候、列席例之通
伊王島詰被仰付候
富岡三太夫
諸隈徳一郎
高橋伊与吉
葉寿一郎
川浪龍右衛門
川頭形左衛門
嬉野市左衛門
永松要一郎
成富源吉
野口虎之進
神代新九郎
中嶋甚左衛門
松田源右衛門
藤嶋利吉郎
大島彦右衛門

深町治部左衛門
渋川文吉郎
村川藤右衛門
森夘兵衛
石井兵之進
稲増弥三郎

1206 安政四年九月十九日　長崎より注進の事

一左之通、蘭船出帆之儀、平石ゟ申来候
一筆致啓上候、渡来之阿蘭陀船壱艘、昨十六日朝、当湊致出帆候、其末、今日御奉行所ゟ久米殿御呼出ニ而、別紙之通御書付を以、被相達候ニ付、写差越申候、右為御知如斯御座候、恐惶謹言
九月十七日　平石常十郎
綾部殿
本庄殿
当年入津之阿蘭陀弐番船壱艘、商売相仕舞、明日当湊致出帆候、尤江戸江之注進ハ追而申上候、右之段、御国許へ御申越可有之候

1207 安政四年九月十九日　伊王島番交代困難の事

一伊王島御番方所組頭薬王寺久弥、御番方ゟ之手数無之ニ付、交代難被相整御番方ゟ被申聞候ニ付、早速手数有之候様申来候ニ付、早速西丸懸合候処、左之通申来、且御番方ゟ之附状致到来、明朝ゟ為持飛脚差出申候

市左衛門様
四郎左衛門様　茂助
治兵衛様

薬王寺久弥伊王島御内輪詰之末、御番所組頭仰付越相成ニ付、其段御番方之方達込候様御懸合被置候ニ付、其段ハ彼地御番方へ掛合越為相成候義と相心得居候所、昨夜別紙之通、薬王寺久弥ゟ懸合越相成候付、物落等いたし居候訳共ニ者無之哉、内談之上、早速懸合越ニも相成候通取計候様、委細御掛合之趣致承知候、然処、右者去ル十三日足軽両人不足之次第御贈答之末達込之節、右組頭之義も及演達候処、書取ニ而相達候様有之、尤同日ニ者最早退去刻限相成候ニ付、翌日持出候様被申聞置候ニ付、其通可取計之処、全失念ニ而其侭差置たる義ニ御座候、依之早速其筋遂内談候処、差図之次第も有之、無余儀別紙之通ニメ書取ニ差出候様相成候付、其通取計候処、早速、諸岡伴之進江之附状被相渡候、一体右之次第、彼役内ゟ直ニ懸合ニも可相成候得共、近日中便宜之見渡も無之、殊ニ附状之訳ニ候得者、彼方ニ而久弥ゟ持出可然之条、爰元江右附状相渡候段をも被申聞候、惣而彼地より注進之次第、伴之進厚勘弁之上、取斗之都合等切々相咄候処、右者全内分之義ニ而候得者、伴之進ゟ者表向いつれ之通懸合相成候哉、難計ニ付、表向者矢張等交代も出来不致都合ニメ可然旨をも被申聞候、此段御答旁為御懸合如此御座候、以上
九月十九日
口達

伊王崎御番所詰、此節蓮池交代相整候ニ付、同所組頭之儀、内輪惣心遣として、兼而差越居候薬王寺久弥江申付越相成義ニ御座候、右者最前御達可仕之処、全致物落ニ付、乍延引此段御達仕候、以上

城島茂助

巳九月

牟田口兵之允殿

其外

1208 安政四年九月二十二日　幕府役人牛津止宿の事

一、左之通、牛津通路之段申来候

手覚

松本良順殿

蕃書調所出役

設楽莞示殿

荒井光太郎殿

河野栄次郎殿

右之人々左之休泊ニ而、明廿三日牛津通路之段、申来候事

休泊

廿一日　田代

廿二日　佐嘉

廿三日　塚崎

以上

九月廿三日　会所

1209 安政四年九月二十四日　伊王島銀の事

一左之人々、今暮時、於評定所、左之通仰渡有之、委細罰帳ニ有之故ニ略之

飯盛忠右衛門

牧瀬尉右衛門

御叱捨

一右者最前左之通、勘定所江達出相成候事也

口達

伊王嶋銀方、去ル卯五月以後、私方へ送り銀高三貫八百五拾七匁五分弐厘弐毛五掛ニメ納帳相整置候処、新方ニハ銀弐貫七拾三匁余之受高ニ而納帳古来違目銀、別紙之通、壱貫七百八拾三貫余之高ニ御座候訳者、送り銀高三貫八百五拾七匁余之内、無拠訳ニ而御取替等差出置ニ付、新方ニ者現銀弐貫七拾三匁を受方相成候、納帳為相成義ニ御座候、就而者右御取替等差出置候銀、夫々返納之手筈相附、成丈急ニ相済、其筋返納別へいたし候得者相済候事と而已一図ニ相心得、受送り等之儀ニ不心付、只々、調金之筋々心懸、乍延引漸為相整儀ニ候得共、猶又、得と勘弁仕候得者、前断之通、納帳受払致相違居候者、何連之筋へ返納可仕様無御座義を考当、畢竟不束故と者乍申、御事柄不調法之段、今更重畳恐入義ニ御座候、依之、右残銀之義者御役内へ差上候間、筋々宜御相達被下度致御頼候、以上

飯盛忠右衛門

牧瀬尉右衛門

巳九月

伊東又右衛門

久本金右衛門殿

覚

一銀三貫八百五拾七貫五分弐厘弐毛五掛
右者外五月以後新方へ送り銀前　牧瀬尉右衛門
其外送り銀高

内

銀弐貫七拾四匁四分九厘
右者外五月ゟ同十月迄納帳目安受高　飯盛忠右衛門
其外銀受高

残銀壱貫七百八拾三貫三厘弐毛五掛
一右ニ付左之通遠慮御届申上候　牧瀬尉右衛門

今夜被仰渡之旨承知仕、重畳奉痛入遠慮引入候段、御届申上候事

藤嶋利吉郎
大嶋彦右衛門
深町治部右衛門
渋川文吉郎
中嶋甚左衛門
松田源右衛門
村川藤右衛門
森外兵衛
石井兵之進
稲増弥三郎

1210　安政四年九月二十六日　伊王島銀方交代の事

一三笠勝太郎忌被成御免候、但伊王島銀方之儀、甘木清八江為交代罷越候ニ付而也

富岡三太夫
諸隈徳一郎
高橋伊予吉
葉寿一郎
川浪龍右衛門
川頭形左衛門
嬉野市左衛門
永松要一郎
成富源吉
野口虎之進
神代新九郎

1211　安政四年九月二十八日　伊王島詰出立の事

一左之人々明廿九日より伊王島江出立仕候段、御届、且伺御機嫌申上候事

弥右衛門

1212　安政四年十月朔日　幕府役人牛津通行の事

一左之通通路済之段、会所ゟ達書有之

治右衛門様
形右衛門様
従牛津啓上仕候、然者下向天文方手付手伝海老原伝次郎殿、天文方手付下役岸本惣次郎殿、今朔日昼四ツ半頃、当駅無別条通路相済申候、此段為御存知如斯御座候、以上

竹野次郎助
土井貞次郎
水田仁九郎
御厨兵左衛門
川浪辰之助
川頭増太郎
三浦政一
梅崎源太郎
横尾兵左衛門
秀島大七
稲増平太夫
小田村大次郎
原口養虎

1213 安政四年十月二日　公役人牛津通路の事

一、公役人牛津通路之段、左之通会所ゟ達出有之
手覚

向井勇三郎殿
斉藤源蔵殿
蕃書調所出役
赤松大三郎殿
板倉主計殿御家来
田嶋順輔殿

1214 安政四年十月九日　長崎より帰着の事

一左之人々昨夜長崎ゟ帰着仕候段、御届申上候

松田定
馬場渡カ三郎
原口猪之助
綾部幸之進
高岸亘

1215 安政四年十月十三日　長崎より帰着の事

一左之人々昨夜長崎ゟ帰着仕候段、御届申上候、以上

三笠勝太郎
光野甚吾
梅崎六右衛門

1216 安政四年十月十六日　買入の蘭船入港の事

一蘭船出航之儀、左之通申来候
一筆致啓上候、先船渡来之阿蘭陀五番船壱艘商売相仕廻、今日当湊出航仕候、其末従御奉行所久米殿別紙写之通被相達候ニ付、写差越申候、右之外蘭船弐艘入津

いたし居候処、内壱艘者公儀ゟ御買入揚相成、代銀千百拾五メ貫歟、壱艘者此御方ゟ御買揚ニ相成、代銀千貫目ニ而御座候、此段為御知如斯御座候、恐惶謹言

十月十四日　平石常十郎

綾部四郎太夫様

本庄四郎左衛門様

当年入津之阿蘭陀四番船壱艘商売相仕廻、今日当湊致出航候、尤江戸江之注進者追而申上候、右之段、御国許へ御申越可有之候

十月十四日

1217 安政四年十月十八日　文学・医学上覧の事

一今日四ツ時御供揃ニ而、文学・医学為上覧学館被遊御入候

1218 安政四年十月十八日　牟田省賢へ免札渡される事

一牟田省賢へ医学寮ゟ免札被相渡候段、左之通

市左衛門様

四郎左衛門様　茂助

治兵衛様

弘道館ゟ別紙之通被相達候ニ付差越申候、尤本人江者爰許ニ而直達可致候条、左様御心得可成候、以上

十月十七日　牟田進作

1219 安政四年十月二十三日　伊王島詰仰せ付ける事

伊王島詰被仰付候

1220 安政四年十月二十九日　塚崎入湯願の事

一左之通御暇願出候所、願之通被相済候

私儀、痛所有之為入湯柄崎罷越度奉存候条、明朔日ゟ来月十日迄御暇被為拝領被下度奉願候、以上

十月廿九日　小田村市左衛門

1221 安政四年十一月朔日　長崎帰着の御礼の事

一当日之御礼例之通被為請候、右引続左之通、帰着之御礼被為請候事

松田定

馬渡三太郎

高岸亘

横尾太郎右衛門

江頭増太郎

梅崎源太郎

土井貞次郎

秀嶋大七

水田仁九郎

三笠勝太郎

原口猪之助

川浪辰之助
三浦政一
稲増平太夫
竹野次郎助
三厨兵左衛門
原口養虎

1222

安政四年十一月五日　石火矢放出の事

一北浦御台場石火矢放出ニ付、何れも別勤、尤西造酒丞殿ニも御用有之出勤
一殿様五時過、御供揃ニ而北浦御出被仰出置候処、御延引之旨被仰出候
一御火術方ゟ左之通申来候段、西丸ゟ申来候
（記事記載ナシ）

1223

安政四年十一月六日・八日　伊王島より帰着の事

一川崎弥右衛門、去ル三日伊王島出立之末、今日帰着仕候段、御届申上候
十一月八日
一左之人、昨夜伊王島ゟ帰着仕候段、御届申上候
三浦政次郎

1224

安政四年十二月五日　北浦台場出張の事

一北浦御台場出張、式日ニ付、御当役始別勤之事

1225

安政四年十二月七日・十一日　西洋流銃陣調練の事

一銃陣調練之儀、此節左之通被仰出候ニ付、文武方并大組代中江相達候事
西洋流銃陣之儀、来ル十二日ゟ於調練場丁白夕稽古有之、年内者廿四日迄向正月十六日ゟ相始、尤先以三月中を限、進退致習熟候様、出精可有之事
但、侍・小頭・徒士拾六歳ゟ三拾九歳迄可成丈不残様致出席、四拾歳以上者可為勝手次第事
附、出席帳、其外取締向等御火術方ニ而取調子差出候事
両御側方・屯蕃等非番之節ハ分而無懈怠出席可致旨、御用人方ゟ申達候事
十二月十一日
一左之通、附役達
当一順銃陣稽古方頭取被仰付候　神代官右衛門

1226

安政四年十二月十七日　火術方より初段伝授の事

一犬塚杢之助御火術方御相伝之義、左之通西丸ゟ申来候事
市左衛門様
四郎左衛門様　茂助
治兵衛様
犬塚与三左衛門次男杢之助、去ル十五日、御火術方御用之処、初段御相伝被仰付候旨、爰許迄相達候ニ

付、宜御取計可被成候、此段為御懸合、如此御座候、以上

十二月十七日

追而、本文御相伝ニ付而者、御礼御使者差出被成候ニ付而者、御懸合之上、右御使者可相勤之処、日間相立候ニ付、相勤置儀ニ御座候、已上

1227 **安政四年十二月二十日　本家より助成金の事**

一御本丸請役所ゟ左之通達帳相成候段、申来候事

加賀守殿・甲斐守殿公務御用捨中ニ付、長崎表請持前之用途、且御手助出米取束候而者大総之入費高ニ相及、地行勝手向差支之半ニ而、何分運之道無之ニ付、小城ゟ金七千五百両、蓮池ゟ同三千八百八拾両御助成被成下度、両家家老ゟ願之趣、被達上聞、去暮見合を以、願高之内、書載之通被差出候条、此段筋々可被相達候

一正金千六百七拾両　加賀守殿

一同千弐百両　甲斐守殿

以上

巳十二月廿日

1228 **安政四年十二月晦日　富岡弥一左衛門へ褒美の事**

富岡弥一左衛門

砲術師家数代連綿致繁栄候ニ付、自余格別之訳を以、御手当米三石被為拝領候

1229 **安政四年十二月晦日　大殿様足痛の事**

一大殿様御足痛ニ付、向元日御礼不被為請之旨、被仰出候事

安政六年（一八五九）

1230 **安政六年正月七日　中島需安ら血忌の事**

一左之人、血忌被成御免候段、菅井ゟ申来候

中島需安

一左之人、忌被成御免候事

中野官蔵

1231 **安政六年正月十三日　伊王島詰足軽出立の事**

一今日ゟ伊王島江交代足軽被差立候

1232 **安政六年正月十六日　小城家公務御用捨に付、伺の事**

一公辺諸御役之儀、御本家伺之末、左之通申来候

松崎七兵衛様

持永治兵衛様

城嶋茂助

本庄四郎左衛門様

従公辺格別之訳を以、当未年より五ヶ年之間、十一月中御参勤・二月御暇之儀被仰出候段、御達之末、大小之諸御役之儀、如何相心得可然哉之旨伺相成居候末、今日御進物役山崎左忠太ゟ被申達候者、右御伺ニ付、早速江戸表申越相成、御内密筋江伺相成候由之処、前文之通、十一月中御参勤・二月御暇之儀ニ候得者、御出府之儀、纔百日計之御日数ニ付、右様之御方ニ者、伝奏其外諸御役等被蒙仰候儀者無之御規則前之由申事ニ付、伺書江御附札ニも相成候様永談相成候処、右御規則前之儀ニ者候得共、墨黒ク書付等ニ者難相成旨ニ而、其儀無之段彼表ゟ懸合越相成候、右ニ付、其段及演達候様、御年寄方ゟ被申聞候旨被相達候、惣而右之振合ニ付、御進物方ゟも書取等者難相渡旨旁被申達候条、筋々可被相達候、此段為御懸合如是御座候、以上

正月十六日

1233 安政六年正月十九日　松本春圓二男文一養子の事

一左之通相談役ゟ書取を以、一類江里口弥右衛門江相達小頭亡田口與七嫡子之儀、一類中ゟ如願松本春圓二男文一を嫡子ニ被仰付儀候条、則ゟ定式之忌服請候様可相整候、尤本人江者追而忌明之上被相達儀ニ候、此段相達候様有之候

1234 安政六年正月二十日　北浦御台場石火矢稽古初

一北浦御台場石火矢稽古初被相整候事

一今日四時御供揃、御乗馬ニ而石火矢為御放出鳥越被遊御出候事

1235 安政六年正月二十六日　好生館より医師名前付出催促の事

一医師名前付出之儀、左之通申来候

松崎七兵衛様　　城島茂助
持永治兵衛様
本庄四郎左衛門様

（後筆）「当節御取立医学館」

好生館ゟ呼出候而、年内ゟ相達置候惣医生名前之儀、急成御用筋ニ而候処、是迄不被差出、反的御用差支居候条、明日中、差出候様被相達候間、早々御差越可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

正月廿六日

1236 安政六年正月二十七日　領中惣医師名前付け出しの事

一御領中医師惣名前付出候様、度々申来候付、遠方之人も有之調子相付兼候間、先以左之通差出候、残之儀者、急ニ取調子差出可申旨、懸合越ス

小城下町　村田道碩
畑田小路　山田元寿
北小路　松隈玄洞
平野村　斉藤玄周

畑田小路　山田三沢
永岡小路　相良柳沢
蛭子町　佐野文仲
麻那古村　北島天民
蛭子町　宮崎元益
新小路　川久保俊庵
高原刈　布上玄春
小城中町　菊池宗垣
新小路　原口養虎
栗並村　吉原宗寿
牛津本町　辻元道
牛津新町　前田文啓
右同新宿　馬渡仁庵
大久保村　福地亭元
右同前　福地良奔
御城下八戸　牟田省賢
古湯村　牟田忠安
御城下中町　林雄民
小城正徳町　中島需安
右同岡町　横田養庵
右同町　横田三省
一代医
牛津新町　村田有之
東山田立石宿石田道済
牛津新町　松本春圓
牛津本町　堤養哲
今山村　川副仙齢
伊万里　石井半治
上織島刈　石動玄友
永田村　田嶋養純
上熊川村　藤島俊斎
樋口刈　田代松齢
山代郷　山下三省
右同郷　北原半治
武雄　仲貞
友田村　遊仙
麻那古村　元柳

1237　安政六年正月二十七日　蘭銃組取り立ての事

一左之通、西丸ゟ申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　城島茂助
本庄四郎左衛門様

此節於御本方、新ニ蘭銃組被相立候由之処、右御仕組之振合、其筋聞繕否申越候様致承知候、今日幸御進物方面会ニ付、内々承合候処、右体之儀、不承及一体御火術組之義ハ、鍋島志摩殿江被相付多人数之組ニ相成居、其外諸組一般、総而蘭銃相用候様ニ者相成居、分而新規ニ蘭銃組与候而者被相立候儀承及不申候由御座候、御地江何れ之筋ゟ相響候哉為御知被成候ハバ、猶承合可申候条、御調子合被仰越度御座候、此段為御答如此御座候　以上

正月廿七日

1238

安政六年正月二十八日　長崎表警備の事

一公辺御役伺之儀、西丸ゟ左之通申来ル

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島茂助
本庄四郎左衛門様

昨日及御懸合置候別紙口達書之儀、今日御進物方持出、山崎左忠太江相達置申候、惣而文面等之儀、存寄無之由ニ候得共、別紙差越之通ニメ差出候様有之候付、其通ニメ差出申候、此段為御懸合如斯御座候、以上

正月廿八日

懸紙口達

長崎表御警衛向之儀ニ付、去寅年ゟ公務御用捨被仰出、年限相満候処、猶格別之訳を以、当未年ゟ五ヶ年之間、十一月中参府・二月御暇可被下旨難有仕合奉存候、就而者、頃日御進物方ゟ御演達之通、年限中諸御役等も不被仰付通、御治定相成候得者、右甘金、年々割廻、凡弐千両位之見渡ニ付、夫を以出勢出米間御差図次第、何れ之筋ニも奉畏候心得御座候、尤御都合次第出勢之方被仰付候通御座候得者、猶又難有仕合奉存候、此段御達可仕旨奉伺候様、在所ゟ申越候、以上

未正月

1239

安政六年正月晦日　蒲原栄助火術方下役の事

一右之通附役達

御出陣方御火術方下役被仰付候

蒲原栄助

1240

安政六年正月晦日　長崎表警衛につき吟味の事

一先達而、御本丸江長崎表御警衛向之儀ニ付、口達差出相成候末、今又左之通、西丸より申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島茂助
本庄四郎左衛門様

御進物方ゟ即刻呼出ニ而、一昨日差出置候、長崎表御警衛向之儀ニ付而之口達書、段々御吟味相成候処、御家老方ゟ御年寄当ニメ被差出候半而者、是迄之振合ニ不相置候条、其通ニメ差出候様、山崎左忠太ゟ被相渡、惣而別紙付紙之通ニメ差出候様与旁被申達候条、筋々被相達、一刻も御家老方御出浮相成候様存候、此段為御懸合如此御座候、以上

正月晦日

1241

安政六年二月二日　参府期間短縮の事

一野口新之允殿今暁より出丸ニ而長崎表御警衛向之義ニ付、口達書御本丸江御差出相成候、口達書左之通

口達

長崎表御警衛向之義ニ付、去寅年ゟ公務御用捨被仰出、年限相満候処、猶格別之訳を以、当未年ゟ五ヶ年之間、十一月中参府・二月御暇可被下旨、難有仕

合奉存候、就而者、頃日其筋ゟ御演達之通、年限中諸御役等も不被仰付候通御治定相成候得者、右甘金年ニ割廻凡弐千両位之見渡ニ付、夫を以出勢出米間御差図次第、何れ之筋ニも奉畏候心得御座候、尤御都合次第出勢之方被仰付候通御座候得者、猶更難有仕合奉存候、此段御達可仕旨被申付候、以上

未二月

1242 安政六年二月五日　北浦村産婦に付、石火矢放出延期の事

一例月之北浦石火矢放出之義、北浦村江産婦有之候付、差懸り被差延候

1243 安政六年二月五日　惣医師名前に付、好生館より再命の事

一惣医師名前付出之儀、今又左之通申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島茂助
本庄四郎左衛門様

惣医師名前頃日被指越候を好生館差出候処、今日又々呼出ニ而被相達候者、内治・外治并眼科・其外巨細ニ書載有之、扨又銘々年付相成候様、惣而二男・三男医業罷在候ものハ不残付出候様、別紙之分ニ而ハ請取相成兼候旨ニ而、書付被差返候条、前段之都合御調子合仕御書載之上、不日ニ御差越被成度御座候、素り同所より爰切被相急候条、其御含を以、急ニ御取調子可被成候、此段、為御懸合如斯御座候、以上

二月五日

1244 安政六年二月十日　馬場文八郎痳疾に付、治療のため塚崎入湯暇願

一左之通、御暇願有之候処、願之通被相済候

私儀痳疾ニ而甚難渋仕候付、彼是療養相加へ、少々快方ニ者御座候得共、未全治之場ニ相至り不申、此上ニ而者塚崎入湯仕候ハバ相応可仕旨、医師よりも申聞候付、同所罷越入湯仕度御座候、就而者、数日引入候上奉恐入候得共、御支所無御座候ハバ、明廿日ゟ向日数廿日御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

未二月　　馬場文八郎

1245 安政六年二月十一日　好生館より医師名書き上げ書載例の事

一好生館ゟ惣医師名前附出之義、今又左之通申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島茂助
本庄四郎左衛門様

好生館ゟ呼出候而先達而より相達置候惣医生付出之義、今以不被指出、右者如何之訳ニ候哉、年内ゟ相達置候を等閑之致方、反的御用差支居候条、明日迄之

内ニ者差出候様、厳敷被申聞候、惣而別紙之通書載相分り候様旁被申聞候間、早速も御取調子御指越相成候様、尤御地往返之義も有之候付、明日之義ハ相断置、明後日亘りハ差出可申相達置候へ者、何卒無間違明晩迄之内、御調子合御指越可被成候、此段今又為御懸合如此御座候、以上

二月十日

別紙

一　居所　一年附　一　二男、三男

一　科分　一　弟　一町医、郷医

右之通御書載分之事

1246　安政六年二月十二日　小城惣医生書き上げの事

一惣医生付出之義、数度申来候末、尚又掛合相来候付、先以て調子相付差出候事

四拾四歳　内治　小城下町　村田道碩
六拾歳　内治　畑田小路　山田元寿
弐拾九歳　江戸詰　眼科本道　北小路　松隈玄洞
三拾四歳　内治　平野村　斉藤玄周
十七歳　内外治　畑田小路　山田三沢
四十六歳　内外治　永岡小路　相良柳沢
十九歳　内外治　同　相良柳逸
四拾六歳　内外治　蛭子町　佐野文仲
三十三歳　内科　麻那古村　北島天民
五十三歳　内治　蛭子町　宮崎元益
江戸詰　廿五歳内治　同　宮崎元立
江戸詰　三十一歳内治　内外治　新小路　川久保俊庵
四十四歳　内治　高原外　布上玄春
五十五歳　内治　小城中町　菊池宗垣
二十二歳　内治　同　菊池元達
四十三歳　内科　新小路　原口養虎
三十八歳　内科　栗並村　吉原宗寿
二十八歳　内治　牛津本町　辻元道
二十九歳　内治　牛津新町　前田文啓
二十八歳　内治　右同新宿　馬渡仁庵
六十三歳　内外治　大久保村　福地良庵
二十二歳　内外科　同　福地亭元
三十九歳　内治　御城下八戸　牟田省賢
五十七歳　内外産科　古湯村　牟田忠安
五十七歳　内外治　御城下中町　林雄民
五十八歳　内外治　小城正徳町　中島需安
内外科　小城岡町　横田養庵
右同町　三省

一代医

村田道碩弟三十七歳　内治　柿樋瀬村　村田有之
船津権五郎二男二十六歳　内治　大願寺村　船津元仲
六十二歳　内治　東山田立石宿　石田道済
城嶋徳斎親隠居五十九歳　外治　岩蔵高場村　城嶋分圭
六十二歳　眼科　牛津新町　松本春圓
三十八歳　内治　江津村　堤養哲
四十四歳　内外治　今山村　川副仙齢
二十九歳　内治　伊万里　石井半治

二十四歳　針治　平原村　高間玄策
石動次郎兵衛弟三十四歳　内治　上織島刈石動玄友
田嶋久右衛門弟三十才　内治針治　永田村田嶋養純
藤島良左衛門弟五十四歳　内治　上熊川村藤島俊当
田代次郎助四十歳　内科針治　樋口刈　田代松齢
四十四歳　内外科　山代郷脇野村　山下三省
四十六歳　内科　同郷久原村之内成瀬　北原範治
二十七歳　内治　友田村　遊仙
六十二歳　内治　広那古村　元柳

1247　安政六年二月十六日　武衛流相図稽古願の事

一左之通願出相成候所、願通被相済候
口達
明十七日、於岡ノ前、武衛流相図稽古放出仕度御座候付、御支無御座候ハバ、場所被差免被下度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
二月十六日　小田村源右衛門
松崎又左衛門
本庄四郎左衛門様

1248　安政六年二月十九日　惣医生名前書き出しに付、再々度通達

一惣医生名前之義、左之通申来候
松崎七兵衛様
持永治兵衛様　城島茂助
好生館より呼出ニ而惣医師名前居所年附之義、急速差出相成候様、先達而より毎々相達置候へ共、于今其義無之、右者御当役ゟ別而被差急候義有之、右様延々相成候而不相叶、明日、明後日迄之内、無相違差出候様、稠敷石丸十作より被申達候、物而ハ頃日相知候分被差越候付、右丈差出候へ共、不相聴候而ハ不相叶旨ニ而差返相成候段、其節及御懸合置候通ニ而、其後、折々催促も有之居候得共、折角御調子中ニ而も可有之相心得、時々之御懸合も不相及、是迄見合罷有候へ共、今日亘りハ猶更厳敷被申達、甚迫合候付、一斉も御差越相成度御座候、此段為御懸合、如此御座候、以上
二月十八日

1249　安政六年二月二十一日　直正銃陣上覧の事

一肥州様追々銃陣被遊上覧之旨被仰出候段、左之通西丸より申来候事

1250　安政六年二月二十三日　惣医生名前付け出に付、連絡の事

一惣医師名前附出之義、一統不相聴段、今又申来候付、皆以取調子差出候事

1251 安政六年二月二十六日　講武所砲術教授尾本久作、塚崎・佐賀泊の事

一代官所より左之通、達出相成ル

帰府講武所砲術教授方尾本久作殿、明廿七日、左之休泊ニ而牛津通路之段申来候事

休　　泊

二月廿二日　嬉野　塚崎

同廿七日　小田村　佐嘉

以上

未二月廿二日　代官所

1252 安政六年二月二十八日　御火術方より近々銃陣につき上覧の事

一御火術方ゟ近々銃陣被遊上覧之旨、左之通相達候段申来候

松崎七兵衛様　城島茂助

持永治兵衛様

本庄四郎左衛門様

御火術方ゟ爰許呼出ニ而被相達候者、犬塚新七郎、田代希一義、近々上覧仰出相成居候付、御穏便明之上竿分太鼓持参ニ而出席有之候様、惣而一体稽古人之義も明日ゟも出席相成候様、此節之儀者、来月半頃蘭人御城下罷出候付、銃陣一覧をも被仰付義ニ付、早々ゟも稽古人出席相成候様、旁被相達候、此段為御懸合、如是御座候、以上

二月廿八日

1253 安政六年三月朔日　幕府役人小笠原静五郎ら帰着の事

一帰府公役人牛津通路之段、左之通、代官所ゟ達出相成ル

手覚

小笠原静五郎殿

小笠原鐘次郎殿

倉橋育之助殿

右之人々長崎表騎兵伝習御用相済帰府、左之休泊ニ而明二日牛津通路之段申来候

休　　泊

二月廿七日泊　矢上

同月廿八日泊　大村

同月廿九日泊　彼杵

三月朔日　昼　嬉野

同　二日　泊　塚崎

同　三日　昼　小田

泊　佐嘉

昼　神埼

泊　田代

以上
未三月朔日　　代官所

1254 安政六年三月二日　藤島文作から医業開業願の事

一藤島文作ゟ左之通願出候処、御先例も無之ニ付、難被相済度ニ而差返相成ル

乍恐奉伺口上覚

私亡父宗作儀、極小禄之身分ニ而、何分相続之運相付不申処ゟ責而ハ実家罷在候内稽古仕居候、医業ニ而も相営候半者、押々相続之一助とも相成可申奉存候、一代医業被差免被下候様、奉願御座之処、如願被仰付、御蔭を以、右医業相営、如形相続仕、往々ハ右医術を以御用之端ニも相立奉報御高恩候半而不相叶旨申聞罷在候処、去ル嘉永五子年、私十五歳罷成候節、病死仕候付、跡式無相違私江被仰付、重畳難有仕合奉存候、惣而者可成丈文武之稽古をも仕、御奉公申上候半而不相叶義者勿論ニ御座候得共、不束之私、小身之義ニ而、追年難渋差逼、実ニ相続出来兼、当惑失途之参掛ニ付、猶又彼是ニ相考候処、亡父医業相営罷在候内、私ニも手伝等仕、何分歟ハ相心得候筋も御座候付、乍自侭、今又一代医業奉願、一際稽古をも相励候半者、末以者御用之端ニも相立、相続之道をも相啓ケ、且者亡父御恩報之存念も相達可申旁ニ付、此儀御聴済被下候得者、於私者無此上難有仕合奉存候、乍去亡父死亡後最早数ヶ年相成儀ニ者御座候得共、二代引続右様奉願も如何敷奉存候へ共、此侭相過候而ハ、前断之通、弥難渋相嵩候義ハ眼前之事ニ付、格別之御憐評を以、一代医業被差免被下候様奉願度御座候、併容易ニ奉願候も恐多御座候付、先以御内慮奉伺候条、筋々宜御執達可被下儀、深重致御頼候、以上

十二月　　藤島文作

1255 安政六年三月二日　御火術方より蘭製大筒稽古呼出の事

一御火術方ゟ左之通相達之段申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島茂助

本庄四郎左衛門様

御火術方より爰許呼出ニ而被相達候者、昨日及御達置候、当節上覧ニ付、稽古人出席之義、一般被罷出候様相達置候得共、此節之儀ハ、老少相除若手熟達之人被罷出候様、惣而ハ出人数四人と申儀、早速達出相成度、右者蘭製御筒、其外被相渡義ニ付、其積合ニも相掛、彼是差支候付、無間違処、面付を以早速達出候様、素り当節之儀、蘭人も拝見被仰付義ニ付而者、何方ニ而も不都合等有之候而不相叶候得者、前断熟達之人相撰被差出候様、勿論幾人ニ而も不苦、諸組とも右之振合之由、旁被相達候、惣而者早速人数付出之義、御調子合無相違処、明日中被差越度、此段為御懸合如是御座候、以上

三月朔日

1256 安政六年三月二日　長崎御仕組来る五日見分の事

一長崎御仕組ニ付、宿々用意物来ル五日見分有之候段、左之通申来候

長崎御仕組ニ付、宿々用意物、且深堀、矢上、諫早御用地諸手陣場等為見分、百武作右衛門・物書役夏秋作一郎、来ル五日ゟ出立、左ニ書載之通被差越儀ニ候条、如跡方懸リ之役々其場出張、旅宿等之義、手当相成居候様、将又、宿々用意物之義、御定之品々不足等有之候而者不相済義候条、夫々、屹度相備居候様旁可相達候、

三月五日泊　同月六日泊
一牛津　一塩田
三月七日泊　同月八日
一多良　一湯江
同月九日
一矢上　一長崎
一深堀
以上
未三月　長崎御仕組方

1257 安政六年三月二日　蘭人伝習の役人ら休泊の事

一明三日蘭人伝習之公役人、左之休泊ニ而牛津通路之段申来候

明三日帰府蘭人・伝習方高松力蔵殿、天文方渋川助左衛門殿、手付手伝海老原伝次郎殿、天文方足立左内殿、手付下役岸本惣次郎殿、左之休泊ニ而、牛津通路之段申来候事

休泊

三月二日
嬉野　柄崎
同　三日
小田　佐賀
同　四日
神埼　田代
以上
三月二日　代官所

1258 安政六年三月二日　伊王島台場詰での銃練稽古に手明鑓を充てる事

一御番方より伊王嶋御台場詰之義、左之通申来候

伊王島御台場之義、小城家来ゟ詰方被仰付置候、指揮方等之義、御筒打侍手明鑓数人差越来候得共、同家来之内、追々熟達之向も致出来候趣ニ付而者、御台場壱ヶ所ニ御火術方助役練熟之向ゟ為心遣壱人ツ、、尤出鼻之義ハ中ノ田御台場部ゟ請持ニメ都合三人詰方被差越、左候而指揮方等者、同家来より相部候様、将又御石庫掛手明鑓両人ツ、被相部置候得共、壱人掛ニメ御火術方手伝入テ九人詰方被仰付義候条、筋々懇ニ可被相達旨ニ候、以上

未三月　御番方

1259

安政六年三月三日　公役人牛津通路に付、通達

一公役人牛津通路之儀、代官所ゟ左之通達書有之
浦賀御奉行組与力　朝茅健次郎殿
右同　合原操蔵殿
同組同心　柴田真一郎殿
右者今三日通路　力石太郎殿
竹川龍之助殿
右者明四日通路之段、今暁先触致到来候事
未三月三日　代官所

1260

安政六年三月三日　蘭人伝習方高松力蔵ら通過の事

一伝習方公役人牛津通過相済候段、代官所ゟ左之通、申来ル
小田村市左衛門様　川副安左衛門
其外様
従牛津啓上仕候、然者帰府蘭人・伝習方高松力蔵殿其外今昼九つ時過頃無別条当駅通路相済申候、此段為御存如是御座候、以上
三月三日

1261

安政六年三月三日　伊王島詰筒打相伝者付出しの事

一当時伊王島詰御筒打出人々并右之内、相伝相済居候人々付出候様申来候付、明四日差越相成候事

1262

安政六年三月六日　松本春圓等医業願い許可及び御徒士よりの医業願いは再吟味をする事

一松本春圓其外ゟ医業願有之候内、香田半之允、福島善蔵ゟも願出有之候処、右両人ゟ之願ハ、此節迄ハ被相済候得共、已後御徒士通ゟ之願相嵩候而ハ不相済義ニ付、以来ハ得と吟味有之候様被仰出候

1263

安政六年三月七日　真田流火術上覧の事

一今日四ツ時御供揃、御乗馬ニ而真田流火術為上覧、北浦被遊御出候事

1264

安政六年三月八日　栄照庵的場で井上流・武衛流砲術御会試の事

一今朝ゟ軍書御会被相始候事
一栄照庵於的場、井上流・武衛流砲術角前被遊御会試被相整候事

1265

安政六年三月十五日　伊王島詰筒打の小城・蓮池詰め替え名前付け出しの事

一御番方ゟ左之通、相達相成候段申来候
松崎七兵衛様

持永治兵衛様　　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様
御番方ゟ呼出候而、別紙写之通、達帳相成候付差越申候条、左様御承知可被成候、以上
三月十四日
伊王島詰御筒打小城・蓮池詰替之節、聞番ゟ出立日限書載役内江名書差出、附状被相渡来候得共、向後之義、右名書前廉差出候様、左候而於御火術方調子合相成候通被仰付儀ニ候条、此段筋々可被相達候、以上
未三月　　御番方

1266 安政六年三月十五日　夫松左衛門眼病に付、女房出精奇特に付、褒美の事

東道免村
松左衛門女房
右之もの、夫ニ者八ケ年以前ゟ眼病相煩居候処、幼少之子共相手不自由無之様看病相整、耕作方其外諸事心掛ケ、稀成寄特者ニ付、為御褒美鳥目壱貫文被下此

1267 安政六年三月十五日　流行病の砌、横田養庵、米等救合により御褒美の事

一去秋、流行病之砌、寄特もの并貧窮もの共江救合候人々御褒美左之通
一米壱石六斗五升救合　　横田養庵
一御扇子　五本
一御扇子　五本
一御盃　一
（後略）

1268 安政六年三月十六日　山田元寿・横田養庵、地福寺にてけが人治療の事

一左之もの昨日地福寺ニ而致怪我候付、左之人々江療治方被仰付候
右者地福寺ニ而昨日致怪我候者　　江津刈　抱男　勘助
山田玄寿
横田養庵

1269 安政六年三月十七日　練兵上覧の事

一今日四ツ時、御供揃ニ而、一番手練兵為上覧、学校調練場被遊御出候事

1270 安政六年三月十八日　銃陣調練の事

一軍書御会例之通
一御本方銃陣調練之義、左之通、西丸より申来候付、則御火術方相達候事
松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島与四右衛門

本庄四郎左衛門様
御火術方ゟ呼出ニ而、来ル廿一日銃陣上覧被仰出候付、稽古人名前書差出被置候分者出席有之候様、惣而者尚又打詰稽古無之而不相叶義候段被申達候条、其筋宜御取計可被成候、此段為御掛合如是御座候、已上
三月十七日

1271 安政六年三月十八日　塚崎入湯願の事

一左之通御暇願有之候所被相済候
私儀、腰痛ニ而塚崎入湯仕度御座候間、明十九日ゟ廿八日迄、日数十日御暇被為拝領被下度奉願候、以上
三月十八日　牧瀬勘蔵

1272 安政六年三月十八日　伊王島交代名前書の事

一御火術方ゟ左之通、相達候段申来候
松崎七兵衛様　城島与四右衛門
持永治兵衛様
本庄四郎左衛門様
御火術方ゟ呼出ニ而、此節伊王島詰為交代被差越候人々、并彼地罷在詰続之人々名前書、将又銘々御相伝付相整、明日出勤中ニ無間違被差出候様被申達候条、右名前早々可被差越候、此段為御懸合如是御座候、以上
三月十八日

1273 安政六年三月十九日　怪我に付、薬料拝領の事他

一今日四時御供揃ニ而、弐番手調練為上覧学館調練場被遊御出候事
一左之通附役達
抱男　勘助
右之もの、此節致怪我候付、為御施薬料、左之通被下之
一金三百疋
一米三斗
一伊王島詰続、并為交代被差越候人々名前書、且又御相伝附をも西丸差越ス

1274 安政六年三月二十日　石火矢稽古上覧の事

一今朝五時御供揃ニ而、北浦石火矢稽古打為御覧被遊御出候事
一帰府公役人牛津通路之段、左之通申来候
帰府海軍伝習方向井勇三郎殿、設楽完示殿、今昼八ツ時過頃、無別条通路相済候段申来候
三月十八日
帰府沢鉄太郎殿、其外、今昼九ツ時過頃無別条通路相済候段申来候
三月十九日

1275 安政六年三月二十一日　練兵上覧の事

一今日四時御供揃ニ而、練兵為上覧被遊御出候事

1276 安政六年三月二十二日　直亮銃陣上覧のため佐賀行の事

一今晩七時過御供揃御乗馬ニ而銃練為上覧、佐嘉被遊御越候事

1277 安政六年三月二十二日　横尾庄左衛門ら伊王島詰の事、伊王島筒打等詰人数差出の事

一於小松ノ間、御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通

横尾庄左衛門

伊王島詰被仰付候

一御本家御火術方ゟ左之通相達候段、申来候

松崎七兵衛様　　城島與四右衛門

持永治兵衛様

本庄四郎左衛門様

御火術方ゟ呼出ニ而、当節伊王島御筒打可被仰付人々并同所相詰居候人々、別紙名前之分入門手数之義拝見不申、右者彼地ニ而入門之手数等相整居申候哉、且又、姓名等相変居候義共ニハ無之哉、取調子達出候様被申達候条、否明日中ニも被仰越度御座候、此段為御懸合如是御座候

三月二十二日

三月二十三日

一於小松間、御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通

持永伝弥

水田仁九郎

田代源之助

伊王島詰被仰付候

一魚見岳詰之人々只今帰着仕候段、御届申上候事

一御番方ゟ左之通相達候段申来候

松崎七兵衛様　　城島與四右衛門

持永治兵衛様

本庄四郎左衛門様

御番方ゟ呼出ニ而、別紙写之通、達帳相成候付差越申候、以上

三月廿二日

伊王島御台場之儀、小城家来ゟ詰方被仰付置指揮方等之儀、御筒打侍手明鑓数人被差越来候得共、同家来之内、追々熟達之向も致出来候趣ニ付而者、御台場壱ヶ所ニ御火術方助役練熟之向、為心遣壱人充、尤出鼻之儀者中ノ田御台場部ゟ請持ニメ、都合三人詰方被差越、左候而指揮方等者、同家来ゟ相部候様、将又御石庫懸手明鑓両人充被相極置候へ共、壱人懸ニメ御火術方手伝入テ九人詰方被仰付儀候条、筋々懇ニ被相達旨候、以上

未三月　　御番方

伊王島詰御筒打侍手明鑓之内、被相滅指揮方等之義、小城・蓮池家来、業前熟達之向ゟ相整候様、最前為

被相達置義ニ者候得共、現業之上ニおゐて人数繰出来兼候振合有之候付、当節迄之処、一先打追之通侍弐拾壱人・手明鑓拾八人詰方被仰付義ニ候条、筋々懇ニ可被相達旨ニ候、以上

未三月　　御番方

1278 安政六年三月二十二日　大砲製造相談の事

一御火術方ゟ左之通相達之段申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様

御火術方御用席石田善太夫ゟ内々被申聞候者、同所稽古人之内ゟ文武方体仰付相成度、左無之而者、大炮製作物等相談シ候向、多人数之事ニ而、難及手、勿論大願寺出張等之分ニ而是迄稽古筋之義、得与談合も出来兼居候条、右役内一両人被相立候半者、其人々江製作方其外之義も相談シ、段々稽古人中ニも熟達相成候様可取斗候、物而者二段御相伝之内ゟ仰付相成候半而不相叶名前付出候半者、其内ゟ彼役内ニ而吟味合人指を茂可相整、右者追々伊王嶋交代も可有之、其以前取極候半而不相叶候条、早々名書指出候様、被相談旨申事ニ御座候、右之次第者、明日馬場大丞江相談シ置候条、同人ゟ一躰之義ハ御承知可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

三月廿三日

1279 安政六年三月廿四日　火術方より褒美の事他

一好生館ゟ左之通、達帳相来候段申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様

好生館ゟ呼出ニ而、別紙之通、達帳を以被相達候付、爰許ゟ代請判相整置候条、宜御相達可被成候、以上

三月廿四日

遠在御蔵入小配分医生之儀、其最寄丈ハ諸般立入申談相成候様被仰付置候処、今般御改正ニ付而者、夫ニ不及旨候条、可被得其意候、以上

未三月　　好生館

右之趣承知仕候、以上

村田道樹
山田玄寿
宮崎元益

一御火術方より左之人江御酒被為頂戴候段、左之通申来候

松崎七兵衛様
持永治兵衛様　　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様

御火術方ゟ別紙之通手紙を以被相達候、物而ハ昨日之日付ニ候へ共、使之ものより其段相断、只今致到来たる儀ニ付、早速差越儀ニ者候得共、迚も御刻限前罷出候義者出来申間敷、併御事柄ニ付承知之上ハ、

早々彼役筋罷出御請丈なり共可致候半而相叶間敷ニ付、宜御取斗可被成候、此段為御懇ニ而如此御座候
以上
三月廿四日　御火術方
付役中
城島与四右衛門様
銃陣御覧ニ付而、左之人御酒被為頂戴候付、明廿四日昼九ツ時、役筋被罷出候様、可被御取計候
三月廿三日　田代希一

1280
安政六年三月廿五日　持永治兵衛御蔵方の事、伊王島銀方付役山領千兵衛の事

一於小松之間、左之通御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通
御蔵方被仰付候　持永治兵衛
持役ゟ伊王島銀方兼被仰付、近々ゟ彼地被差越候
神代軍平
伊王島詰　田代希一
右同　石動玄友
一左之通相談役達　山領千兵衛
持役ゟ伊王島銀方付役兼、同彼地被差越候
一左之通附役達　秋野勇六
当分請役所泊番被仰付候事
但当病故障之節ハ昼間も差次之心得有之候様
一於請役所内、西造酒丞殿、左之通被相達候、列席例之通　犬塚与三左衛門
四番手ニ組入被仰付候

1281
安政六年三月二十六日　伊王島詰仰せ付ける事

一於小松間、御当役西造酒丞殿、左之通被相達候、列席例之通　小野田何馬
伊王島詰被仰付候

1282
安政六年三月二十六日　帰府蘭人伝習方赤松大三郎ら柄崎・佐嘉・田代宿泊等通知覚

一公役人牛津通路之段、代官所筋ゟ左之通、達出相成ル
手覚
明廿七日、帰府蘭人伝習方赤松大三郎殿、木暮東之輔殿、左之休泊ニ而牛津通路之段申来候事
休　泊
三月廿六日　嬉野　柄崎
同廿七日　小田　佐嘉
同廿八日　神埼　田代
以上
未三月廿六日　代官所

1283 安政六年三月二十七日　蘭人伝習方医師赤松大三郎帰府の事

一帰府蘭人伝習方、其外牛津通路相済候段、代官所ゟ左之通、達出相成ル

小田市左衛門　門奈安左衛門
其外様

従牛津啓上仕候、然者帰府蘭人伝習方赤松大三郎殿、其外、今廿七日昼九ツ時過頃、無別条当駅通路相済申候、将又、当所御本陣置物為見分御備方より、牟田二右衛門其外被相越、是又無別条相済申候、此段旁為御存如此御座候、已上

三月廿七日

1284 安政六年三月二十七日　伊王島への火術方入門持永伝弥他、手続き今日相済候事

一此節、伊王島被差越候人々御火術方入門之義、最前相懸合置候末、左之通申来候

松崎七兵衛様　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様

此節御火術方入門持永伝弥其外被罷越候付、入門手数、今日相済申候、尤水町求馬ニも一同可被罷越候処、同人義不快ニ而、何分其義出来兼候由ニ而、迚も両三日中ニも罷出候義、難相叶ニ付、求馬壱人丈八、伊王島ニ而入門之手数相整候義者相叶間敷哉、其筋及永談候様、御懸合之旨ニ付、御火術方付役石田善太夫江右不快達相整、伊王島ニ而入門之義及永談候処、最早同所出張も日間無之ニ付而ハ尤之義ニ付、随分伊王島ニ而入門手数有之、差支無之旨、被申聞候条、右様御承知可被成

一頃日同所ゟ被相談候稽古人之内ゟ於御手前文武方躰仰付相成度、右ハ二段惣伝(ママ)之内ゟ仰付相成候半而不相叶、名前付出候半者、其内ゟ彼役内ニ而、人差可相成段申事ニ付、最前及御懸合置候末御吟味相成、冨岡三太夫・藤島善之丞・犬塚新七郎・小野田何馬四人之名書被差越候付、今日差出候処、善太夫より被申聞候者、右頭取之儀、最前一両人与申置候得共、壱人成共相増候方宜敷有之候付、差出候名書四人共仰付相成度、勿論伊王島之方ニも其内ゟ出張相成候通無之而相済間敷、尤仰付相成候半者、早々彼役内江人々釣合有之候様申事御座候、此段為御懸合如是御座候、以上

三月廿七日

1285 安政六年三月二十八日　真田流会試の事

一於大明神射場、真田流角前於会試被相整候

1286 安政六年三月二十八日　精錬方御出の事

一明廿九日暁七ツ時過御供揃、御乗馬ニ而精練方被遊御

出候旨、被仰出候事

1287 **安政六年三月二十八日　伊王島詰の事**

一左之人々伊王島詰続被仰付候段、相談人ゟ留守五郎右衛門迄懸合越相成ル、但態与飛脚被差越候

藤島善之丞　水町惣五郎　高岸亘
松崎原太郎　山口健作　中尾神左衛門
三浦勇一郎　牟田清一郎　馬場市弥太
石田与三右衛門　安住岩之助　藤戸八三郎
大石源蔵　永橋重次郎　神代新九郎
藤山利兵衛　神代甚一

1288 **安政六年三月二十九日　伊王島詰の事**

一山領千兵衛・馬場崎卯吉郎、今朝ゟ伊王島江出立有之、但同所銀方附役江交代也

一此節伊王島詰名前之義、左之通申来候

松崎七兵衛様　城島与四郎右衛門
本庄四郎左衛門様

伊王島詰人数、此節被差越候名前差出候様御番方ゟ相達之末差出候処、支無之旨、広木作太夫ゟ被申達候、惣而者、例之通附状等之手数ハ相整候儀ニ候条、相達候様とも被申聞候、此段為御懸合如是御座候

三月廿八日

1289 **安政六年三月二十九日　好生館四月四日に新館に移り医業出席稽古達の事**

一好生館ゟ左之通、達帳相成候段申来候

松崎七兵衛様　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様

好生館より呼出候而、別紙写之通達帳相成候付、差越候条、宜御取計被成候、以上

三月廿八日

今般好生館御受帳被仰付、来月四日新館御引移相成候付、何れも急速出席稽古有之候様、尤拾六歳以上之医生者、依願寄宿被差免儀ニ候条、此段筋々可被相達候、以上

未三月廿八日　好生館

1290 **安政六年三月晦日　伝習方役人田崎順輔ら帰府の事**

一学館馬場ニおゐて両流馬術御会試被相整候

一左之通先触到来候段達出有之

手覚

四月朔日帰府伝習方田崎順輔殿、高橋参郎殿、左之休泊ニ而牛津通路之段申来候事

休　泊
三月廿七日　休無し　矢上
同廿八日　永昌　大村
同廿九日　無休　彼杵

同晦日　嬉野　塚崎
四月朔日　小田　佐嘉
同二日　神埼　田代
以上
未三月廿九日　代官所

1291　安政六年三月晦日　伊王島詰出立人数書出の事

一左之人々、伊王島為詰、今日ゟ出立有之
今泉兵五郎
持永伝弥
川頭形左衛門
小野田何馬
永田久吉郎
秀島大七
水田仁九郎
江口勝一郎
青木忠太夫
成富源吉
針水伝八
中島兵之允
宮田半八郎
中島源一郎
篠原市三郎
横尾庄左衛門
水町求馬
城戸助作
寺川助一
田代希一
西川隼之助
東島市太郎
田代源之助
竹野次郎助
七田仁三郎
石動玄友
助右衛門三男

1292　安政六年四月一日　好生館へ出席達の事

一医生好生館出席之儀、同所ゟ相達候旨、今日医師頭取江相達置候

1293　安政六年四月一日　伊王島詰に付、家臣へ達の事

一伊王島詰打追被仰付候段、頃日御本方より被相達候書付弐紙、今日於小松間、組心遣中大組代中呼出、相談役ゟ相達ニ而書付被相渡候、偖又当十一月中御参勤御伺済相成候旨、御本方ゟ相達相成候段、定例者無之義ニ候得共、公務御用捨之末ニ付、御家中含之ため相達候旨、相談役ゟ演達相成ル

1294　安政六年四月一日　田中久七武雄入湯の事

一左之通御暇願出候処、被相済候事
私儀、腰痛ニ而難渋仕候付、為入湯武雄罷越度御座候

間、明後三日ゟ向日数十日御暇被為拝領被下度奉願候、以上

四月朔日　　田中久七

1295　安政六年四月一日　三家伊王島等詰人数算当書の事

一川副増吉御礼後ゟ出丸御三家伊王島詰人数過不足有之候旨、頃日御三手聞番呼出申合セ相成候様、御番方ゟ相達之旨、神代軍平含帰り候末、此御方ゟ者程能西丸ゟ御番方江申立相成候様、含越相成ル、算当書左之通、其末行違左之通申来候ニ付、算当書本書差返ス

馬場大丞様
松田健三郎様　　城島与四右衛門
持永治兵衛様　　其外
神代軍平様

先日軍平殿爰元御出之砌、御番方ゟ相達相成候御三家出張人数過不足有之候付、尚又於手前々々算当有之、相違無之ニおゐてハ達出候様被相達候儀者御承知ニ而、其節被相渡候書付等者御持帰り相成居候得者、御吟味相成候儀と存候、然所、御番方ゟ日々才促有之、且鹿島ゟ聞番相見、於彼方も書付之通相違無之算当前ニ付、一同可及相達旨被申聞候間、何れ之通相成居候哉、早々被仰越、書付之義も御返却可被成候、右者前断之通此方ニ而も日々差迫り居候条、明日出勤中否御答為御知可被成候、此段、為御懸合如是御座候、以上

四月三日

尚以、本文請役所筋別段相懸合不申、最前軍平殿御承知之末ニ付、本文之通候条、受役所江者御永談被成度御座候、以上

覚

一高弐万九千三百壱石　　小城
一同弐万千五拾石　　蓮池
一同八千石　　鹿島
〆高五万八千三百五拾壱石
出勢高三百九拾七人
右高割ニメ
千石ニ付、六人八合〇三六五三
但右之割合ニ而
一人数百九拾九人三合五勺　　小城
但右同
一同百四拾三人弐合弐勺　　蓮池
但右同
一同五拾四人四合三勺　　鹿島
〆
半関船被相減候付
出勢高三百七拾七人
右高割ニメ
千石ニ付、六人四合六勺〇九
但右之割合ニ而
一人数百八拾九人三合一勺　　小城
但右同
一同百三拾六人　　蓮池
但右同
一同五拾壱人六合九勺　　鹿島

〆
覚
御番所
（組頭　半人
侍　五人
足軽拾二人半）
伊王島
（侍　四拾弐人
足軽弐拾四人）
魚見岳
（侍　四人
足軽弐人）
仕切船
（組頭　半人
足軽七人半）
組頭　壱人
〆侍五拾壱人
足軽四拾六人
御番所
（組頭半人
侍　五人
足軽拾弐人半）
伊王嶋
（侍　弐拾三人
手明鑓　壱人
足軽　拾弐人）

小城
主従　弐人半
同　拾五人
同　拾弐人
同　百二拾六人
同　弐拾四人
同　拾二人
同　弐人
同　弐人半
同　七人半
〆　弐百四人
蓮池
主従　弐人半
同　拾五人
同　拾弐人半
同　六拾九人
同　弐人
同　拾弐人

魚見岳
（侍　四人半
足軽　弐人半）
仕切船
（組頭　半人
足軽　七人半）
組頭壱人
〆侍三拾弐人半
手明鑓　壱人
足軽三拾四人半
魚見岳
（侍　弐人半
足軽　壱人半）
組頭壱人
侍　九人
足軽拾三人
五拾四人
〆組頭壱人
侍拾壱人半
足軽拾四人半
魚見岳
一拾四人
伊王嶋
一百五拾人
御番所

同　拾三人半
同　弐人半
同　弐人半
同　七人半
〆百三拾九人
鹿島
同　七人半
同　壱人半
同　五人
同　弐拾七人
同　拾三人
小城

一三拾人
〆百九拾四人
高割ニメ百八拾七人九合
過六人壱合

蓮池

魚見岳
一拾六人
伊王島
一八拾三人
御番所
一三拾人
〆百弐拾九人
高割ニメ百三拾五人
不足六人

鹿島

魚見岳
一九人
沖ノ島
一四拾五人
〆五拾四人
高割ニメ五拾壱人
過三人

小城

仕切船
一十人
魚見岳
一拾四人

伊王嶋
一百五拾人
御番所
一三拾人
〆弐百四人
高割ニメ百九拾五人三合
過四人七合

蓮池

仕切船
一拾人
魚見岳
一拾六人
伊王嶋
一八拾三人
御番所
一三拾人　御留打侍壱人、同年依願手明鑓ゟ相詰候事
〆百三拾九人
高割ニメ百四拾三人弐合
不足四人弐合

鹿島

魚見岳
一九人
沖ノ島　去ル寅年ゟ同卯年迄侍三人中小性弐人差
一四拾五人　出相成居候処、同辰年ゟ中小性弐人ハ相
省相成候事
〆五拾四人
高割ニメ五拾四人四合

不足四合

1296 **安政六年四月一日・五日　好生館出席達の事**

一医生好生館出席之儀、同所ゟ相達之旨今日医師頭取江相達置候

一好生館入門之人、来ル九日出席之義、左之通申来候

城島茂助

松崎七兵衛様

本庄四郎左衛門様

好生館より爰許呼出候而、来ル九日少将様同所被為成候付、入門相成居候医師中罷出候様、惣而著御目渡可有之候ニ付、何連も礼服用意相成候様、被相達候、喜限之義ハ未取極不申候ニ付、追而可相達由ニ御座候、此段為御懸合、如斯御座候、以上

四月五日

1297 **安政六年四月一日　古湯村へ入湯願の事**

一豊之助殿ゟ左之通御暇願有之候処、願之通被相済候

豊之助殿

小瘡ニ付、為入湯古湯村相越度、明二日ゟ来ル廿二日迄、日数三七日、御暇願御座候事

四月朔日

1298 **安政六年四月三日　久米刈へ流行病祈祷の事**

一久米刈流行病ニ付、左之通達出有之候付、城本坊・国円坊江転除御祈祷被仰付候段、付役ゟ相達ス

手覚

先頃ゟ久米刈江流行病数人相煩、余程難渋罷在趣、役々ゟ達出候付、御祈祷被仰付度奉存候事

未三月

代官所

1299 **安政六年四月三日　鍋島市太郎、熊川入湯願の事**

一左之通、御暇願有之候処、願通被相済候

私儀小瘡相煩候付、熊川入湯として罷越度奉存候付、明四日ゟ日数十日御暇被為拝領被下度奉願候、以上

四月三日

鍋島市太郎

1300 **安政六年四月四日　野田光之助、火術方付役兼務の事**

一左之通、相談役達

野田光之助

持役ゟ当分御火術方付役兼仰付候

1301 **安政六年四月五日　北浦石火矢見物延期の事**

一今朝五ツ時、御供揃ニ而、北浦石火矢為御見物被遊御出

候旨被仰出置候所、天気合ニ付、御延引被仰付候事

常富五百人
兵動新太郎
佐野市郎左衛門
松田文八郎
牟田忠安

1302　安政六年四月七日　伊王島詰より帰着の事

一左之人々、去ル三日伊王島出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候

下村犀吉
崎川範之允
野副甚三郎
石動仁太郎
峯幸一郎
綾部健一郎
永渕徳一
藤山久太夫
鴨打利兵衛
原口猪之助
千手弥三郎
川浪徳一郎
稲増平太夫
藤山光衛
庄久右衛門
三浦兵左衛門
志波岩人
太田又之允
土山文九郎
中島敬次郎
北川弥吉郎

1303　安政六年四月十日　相良柳沢より好生館出席者九名の名前報告の事

一昨九日、左之人々好生館出席相成候旨、相良柳沢ゟ達出候

昨九日好生館出席之人数、左之通

相良柳沢
相良柳逸
菊池玄達
斉藤玄周
川副仙齢
村田有之
堤　養哲
田嶋養順
牟田有賢

1304　安政六年四月十三日　石炭掘方願の事

一山代郷石炭掘方願之義、左之通申来候

城島与四右衛門

松崎七兵衛様

本庄四郎左衛門様

郡方ゟ此元呼出ニ而山代郷里村之内、後川と申所江古間伏再興石炭掘方願村方ゟ有之居、右者御私領方ゟも御願出相成義ニ候哉、問合有之、先例も有之、私領内之儀ニ付、いつれ聞番筋より書付差出候道無之而相済間敷、及挨拶候所、左候得者、一刻も差出候様、夫迄之所村方ゟ之願書郡方相預ヶ置可申旨、生野孫右衛門ゟ被申聞候条、願書差出候半而不相叶候半者、早速可被仰越候、此段為御懸合如是御座候、以上

四月十二日

尚以、村方願主之義者、忠太夫と申もの由御座候、以上

1305 安政六年四月十三日・十四日　藩主蒸気船見物の事

一明十四日六ツ時、御供揃、御乗馬ニ而蒸気船為御見物被遊御出之旨、被仰出候事

四月十四日

一今朝六ツ時、御供揃、蒸気船為御見物被遊御出候、西造酒丞殿、徳島健之丞御供

1306 安政六年四月十四日　伊王島より帰着の事

一左之人々去ル十日伊王島出立之末、今夕帰着仕候段、御届申上候

江頭源五左衛門
志波啓之助
梅崎六右衛門

1307 安政六年四月十五日　伊王島早速立人数に付達

一伊王島早速立人数之義、今又御番方ゟ左之通、相達之段、申来候

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様
城島与四右衛門

御番方ゟ呼出ニ、被相達候、伊王島詰其外人数御三家不列有之候付、石高割〆、尚又算当有之候書付被仰渡置候末、猶又於御手前当り合有之候処、其通相違無之ニ付、其段御番方江相達候様、頃日御懸合之末、蓮池・鹿島江も相懸合、其趣相達置候、然ル末、同所ゟ呼出御両家ゟも相達無之旨、達出相成、惣而者蓮池ゟ早速立人数不列有之候趣、相達相成、右者如何之算当前ニ候哉、右者如何之算当前ニ候哉、於役内当り合候得者、是又別紙之通候条、尚又於四郎方も調子合相違之有無達出候様被申聞候条、御取調子合否早々可被仰越候、此段為御懸合如此御座候、

四月十五日

覚

異船渡来之節、早速立人数

伊王島
小城
筒方弐拾四人
足軽弐拾四人

主従九拾六人
同所御番所
当番之節
組頭壱人
侍弐人
足軽三拾五人
非番之節
組頭弐人
侍四人
足軽五拾人
但当番非番平均ニメ
主従五拾九人
〆人数百五拾五人
伊王島
蓮池
筒方拾弐人
足軽拾弐人
主従四拾八人
同所御番所
但小城同様ニメ
主従五拾九人
〆人数百七人
沖島
鹿島
組頭壱人
足軽四拾人
主従四拾五人

〆合人数三百七人
百石ニ付五合弐勺六壱弐六
内
小城
但石高割百五拾四人壱合
人数百五拾五人　九合過也
蓮池
但右同百拾人七合
同　百七人　三人七合不足
鹿島
但右同四拾弐人
同　四拾五人　三人過也
〆

1308 安政六年四月二十日　馬渡仁庵、佐賀遊学中に病の園田半十郎引取願

一左之通、御届申上候
私儀遊学之末、一昨十八日引取候段、罷出御届申上候
事
馬渡仁庵

一左之通園田丹下ゟ悴半十郎佐嘉遊学御断之儀願出相成
候処、願通御聴済相成候付、其段被相達候様、関市之
進へ相達、相来ル
願御達

私悴半十郎儀、佐嘉遊学被仰付置、難有仕合奉存候、然ル処、旧冬ゟ持病気指発難渋仕候付、是迄療養相加候得共、今以一円快無御座、病症柄急快も致兼候哉ニ医師ゟ申聞、甚以当惑至極ニ奉存候、就而者、自儘之様奉恐入候得共、一先引取取極養生為致度奉存候間、御支所無御座候ハバ、何卒願通被仰付被下度、深重奉願候、以上

未四月　園田丹下

関市之進殿

1309 安政六年四月二十日　淳一郎岩蔵寺お出かけの節、相良柳庵・高木元道随行の事

（前略）

御借上下人数左之通

御側頭　井上丈右衛門
御側御目付　香田新蔵
御進物係　倉町左伝次
御駕籠心遣　倉永仁右衛門
御先番　今壱人
御同格拾壱人
張玄一
石井官兵衛
川原善左衛門
横尾平作
中山平四郎
古川新助
御供番　野辺田副四郎
犬塚文十郎
堤原次郎
中川貫之丞
御医師　相良柳庵
高木元堂

（以下略）

1310 安政六年四月二十二日　古湯入湯願の事

一左之通、御暇願有之候所、願之通御聴済相成ル

豊之助殿

小瘡ニ付古湯村為入湯、今廿二日迄御暇之末、全治仕兼候付、今又明廿三日ゟ当月中御暇願御座候事

1311 安政六年四月二十二日　伊王島出立人数に付、番方へ達する事

一去ル十五日懸合相成居候伊王島早速立之人等之義ニ付、左之通御御番方ゟ相達之旨申来候付、於御手前算当相成候所、相違無之ニ付、其旨御番方へ達込相成候様、西丸江返書差出ス

松崎七兵衛様　城島與四左衛門
本庄四郎左衛門様

先達而及御懸合候伊王島早速立之人数割不例有之候付、尚又石高割御番方ニ而算当有之、相違等者無之哉、同役場ゟ被相達候末、書付共御算当有之候様差上及

御掛合置候所、定而御落手相成居可申候、右者如何之御都合ニ候哉、早速被御取調子否早朝出勤前可被仰越候、右御番方ゟ毎々才捉有之候条、無間違可被仰越候、此段為御懸合如是御座候、以上

四月廿二日

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様

城島與四左衛門

1312　安政六年四月二十四日　番方より呼出の事

一西丸ゟ左之通申来候付、西造酒丞殿名前付出相成ル

御番方ゟ此元呼出、長崎御留守仕組ニ付、御家老名前急ニ御指出相成候様被申達候条、早々可被仰越候、以上

四月廿三日

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様

城島與四左衛門

1313　安政六年四月二十五日　火術方ゟ銃陣御覧用薬込相整候事

一御火術方ゟ左之通御届申上候

明後廿七日、銃陣上覧ニ付、明廿六日薬込之試相整候段、御届申上候事

1314　安政六年四月二十六日　好生館ゟ頭取医師呼出の事

一好生館ゟ左之通相達候旨申来候ニ付、頭取医師呼出右之段相達ス

好生館ゟ呼出ニ而、同所医生中出席、且詰方之儀、当月初改而被相達候処、今以其儀無之、一体医学館被相建、右之通被仰付候御趣意不行届通ニ而者決而不宜、惣而此後出席等無之人者、医業不相叶、素り十五才ゟ三拾才位まて之人は早速より詰方無之而者、開業者素り遊学等も被罷出候儀以来者不相叶候間、一刻も詰方且三拾才以上之人者会読等出席有之候様、旁石丸十作ゟ懇ニ被相達候条、一刻も通稽古、且又右年輩之人者早速詰方有之候様、御取計可被成候、此段為御掛合如是御座候、

四月廿五日

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様

城島與四左衛門

1315　安政六年四月二十七日　銃連上覧の事

一今日四ツ時御供揃、於調練場、銃練為上覧被遊御出候、右ニ付何れも別勤

1316　安政六年四月二十九日　蘭人伝習方塚原銀八郎他牛津止宿

一代官所ゟ左之通達出相成ル

手覚

帰府蘭人伝習方塚原銀八郎殿、其外、今廿九日、牛津止宿、猶又右同万年恒次郎殿、明朔日同駅通路之段、同所別当ゟ申来、尤休泊左之通ニ御座候、以上

塚原銀八郎殿其外
休　泊
四月廿八日　嬉野
彼杵
同廿九日　牛津
塚崎
五月朔日　轟木
神埼
万年恒次郎殿
休　泊
四月廿九日　塚崎
嬉野
五月朔日　佐嘉
小田
同二日　田代
神埼
以上
未四月廿九日　代官所

1317 安政六年五月三日　弐番手鉄砲大将以下仰せ付ける事

一於御書院、左之通被遊御直達候由
弐番手右備鉄砲大将申付候　嬉野多志摩
三番手左備鉄砲大将申付候　五郎川八太夫
武者大将支配持筒揃弓奉行申付候　西村四郎五郎
武者大将支配小役人奉行申付候　永橋泰助
武者大将支配蘭筒頭申付候　星野猶人
武者大将支配徒士大筒頭申付候　宇都宮朔之助
四番手弓大将申付候　簑田作左衛門
四番手旗奉行申付候　横尾内蔵允
五番手長柄奉行申付候　中林彦四郎
目付使番申付候　木下與左衛門
一於請役所内、左之通御親類ゟ被相達候
野口進之允
此節組御差繰ニ付、左之組々武者大将支配ニ被仰付候
蘭筒頭　星野猶人
徒士大筒頭　宇都宮朔之助

1318 安政六年五月四日　火術方より石火矢稽古延期の事

一左之通、御火術方ゟ達書有之
明五日、北浦御台場ニおゐて石火矢稽古放出差延候事
四月四日　御火術方

1319 安政六年五月四日　電流丸航海に付、驚かないよう達の事

一郡方より呼出ニ而、電流丸此節伊万里津被相廻候ニ付、
左之通相達之候申付候ニ付、其段山代江申越ス
七兵衛様　與四右衛門
四郎左衛門様
郡方ゟ即刻呼出ニ而、此節相廻居候電流丸、今日ゟ伊

万里津之方被差廻候付、異形船ニ付、彼表相驚不申候様、一躰者大庄屋筋を以相達置候儀ニ者候得共、尚又山代郷辺御私領方ゟも其心得罷在候様相達置度、藤瀬孫太郎ゟ被相達候段、為御懸合如是御座候、以上

五月三日

1320 安政六年五月四日　蒸気船御用の石炭方掘出方及び芦刈新搦願に付、西造酒丞ら手違にて遠慮願提出の事

一昨夜、当役御両人ゟ左之通遠慮御届相成候ニ付、早速御両殿様達御聴候由之所、今日大御目付并御用人まて従御両殿様御沙汰相成候者遠慮一条事柄御手前御聴済不相成内、御本家江御願書進達相成、既ニ去月廿六日御本方役々見分をも相済候通相成候亘り、兼而之心得等閑之儀ニ而、此義御取上相成候而者何れとか御沙汰ニも被相及候通移行、左候得者、他之聞江も如何ニ付、格別之思召を以、最前御本方江願書被差出候以前御聴済相成居候振ニ記録等江も控置候様、惣而遠慮御届之儀者、御用人方限ニ而差返シ相成、其筋江御届書出浮不相成振ニ相心得候様、旁被仰出候ニ付、筋々遠慮御届書被差戻候通取計相成候事

去ル辰年、蒸気船御用ニ付、山代郷久原村其外ゟ石炭堀方之儀　御本家請役所ゟ達帳を以、別紙之通被相達、其末従御手前口達書差出、其後之手続、是又別紙之通御座候、将又、当節芦刈本土居向潟地江新搦願出候末、此節役々見分手数済ニも相成居、就而者右両条とも事柄前広吟味之次第、委細奉伺御聴済之上、夫々手数をも相整候通可取斗之所、全心済ニ而其儀物落相成、畢竟不念処ゟ右之次第、今更重畳奉痛入候、依之御遠慮引入申候　以上

五月三日　西造酒丞
野口進之允

一右ニ付、御両人ゟ御請、左之通申上相成ル

山代郷石炭掘方、且芦刈本土居外搦築立願之儀、表立達御聴物相成居候得共、矢張最前御聴済相成居候通被思召之旨難有奉存候

五月四日　造酒丞
進之允

1321 安政六年五月五日　大殿足痛の事

一大殿様御足痛ニ而御礼不被為請之旨、菅井ゟ申来候事

1322 安政六年五月五日　伊王島詰人数調整の事他

一御番方ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候

伊王島・沖島加賀殿始之警衛人数最前知行高割合ニ而出勢被仰付置候処、昨年来仕切船御取止相成候ニ付、是迄差出候人数過不足相立候付、左之通被仰付候

一伊王島詰加賀守殿筒方待致過成候ニ付、弐人相減候様

一同所詰甲斐守殿人数不足ニ付、足軽五人相増候様

一前断甲斐守殿足軽五人被相増候ニ付、壱本松御筒方手

助土兵五人致過上候内、弐人加賀守殿筒方被相減候、
中ノ田江被相部、残三人相減候様
一甲斐守殿家来異船渡来之節、早速立ニ而壱本松出張之
筒方壱人相増候様
一熊次郎殿足軽同断之節、早速立ニ而沖嶋出張之内、三人
相掛候様、右之通被仰付義ニ候条、筋々懇ニ可罷相達候、
以上
未五月　　御番方
右之趣承届候、以上
御火術方
勘定所
御蔵方
右御違帳之趣承知仕候、以上
小城聞番　城島與四右衛門
蓮池聞番　和田主一左衛門
鹿島聞番　八沢半左衛門
一平石常十郎ゟ左之通申来候
平石
綾部様
本庄様
一筆啓上候、今四日昼、白帆舩五艘相見候旨、追々
注進有之、合図筒をも打方御座候、物而者白帆舩五艘
以下者佐嘉之注進申上ニ不及旨、当春御仕組替相成
候ニ付、近来者時々為御知も不申越候得共今日之儀者
前断之通ニ付、此段為御知意如此御座候、恐惶謹言
五月四日
追而本文注進之儀、以来自然事変候義も有之候ハバ、
一艘たり共早速為御知申越候心得ニ御座候、以上

1323 安政六年五月七日　老女日出嶋勘兵衛母病気に付、暇願の事

一日出嶋源兵衛母増尾病気ニ付、左之通御暇願有之候処、
病気之義者尤ニ相聞候段共、何分願通ニハ難被仰付、
緩々療養有之候様と之訳を以、願書差返相成候事
奉願口上覚
私母親先般不奉存寄大御前様御老女被仰付、冥加余
身難有仕合奉存候、就者乍不束茂成丈御奉公奉申上
度本意ニ御座候処、旧臘風邪相煩寒熱咳気強不斗吐
血仕候ニ付、時分柄御用多御半乍自侭御暇奉願、宿
元引取種々療養相加候得共、一円快方無之、兎角出
来不出来と申内、又々両三度茂吐血、其上持病之積
気ニ而胸隔差塞痛ミ有之甚難渋仕候、何分急快無覚束、
医師ゟも申聞候、最早発病ゟ百日余ニも相成候得者、
只様疲労仕、病症柄与申老躰之事ニ而、今暫全快之様
子ニも無御座、去迚者残念千万痛心罷在儀ニ御座候、
誠ニ御無人中与申勤掛り無間数十日引入旁至極恐入
仕合御座候、物而ハ前断之次第、何卒格別之御仁許
を以、御役儀御免被成下度、只管奉奉願候、左候得
者、御蔭ニ寛々養生可仕御重恩之程、尚又難有奉存候
条、此段筋々宜御相達致御頼候、以上
未四月　　日出嶋源兵衛
松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

1324 安政六年五月八日　北浦台場放出の事

一、左之通御届有之
今夜於北浦御台場試玉放出相整候事
五月八日　藤山沢右衛門

1325 安政六年五月八日　小城へ自然痘入り込み引痘願

一小城下町辺自然痘入込候ニ付、引痘之義、西丸筋被以願入相成候末、左之通申来候　与四右衛門

七兵衛様
四郎左衛門様

種痘願入之儀、頃日大坪九郎右衛門江御談之末、尚又御懸合之趣致承知候、依之先例之通、書付差出候処、追々好生館ゟ即刻呼出ニ而石丸十作、嶋田南嶺ゟ被申聞候者、種痘御願之儀、地行之儀ニ候半者、暫相見合呉候様、当時東西御境目筋、自然痘流行ニ而、既ニ御城下市中江も荒々入込、引痘方医師中、方々出張相成、別而無人ニ有之候段被申聞候ニ付、小城町江も同様自然痘入込候ニ付、一刻も種痘相整度委細及演舌候処、左候得者無拠繰合を以、早々出張可致、就者小城市中而已ニ候哉御尋有之候ニ付、小路迚も一同無之与相済間敷及挨拶候処、成丈此節者手細ク植方相整候半而難及手候間、自然痘入込之場所々ニ防方之分相整積ニ候条、御私領方ニも其心得相成候様、惣而此節種痘之人数凡何程ニ候哉、取調子相達候様、乍其上何日出張与申儀者取極可申、且又、種取之義、来ル十六日ニ相当候条、何れ為種取好生館江誰か被差越候半而相叶間敷、旁被申聞候条、一刻も種痘人数御付出可被成候、此段御答旁如此御座候、以上

1326 安政六年五月十日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候　西川徳三郎
去ル六日、伊王島出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候事

1327 安政六年五月十二日　好生館へ十六歳以上寄宿稽古の儀、小城より返事なき事

一好生館ゟ左之通相達之段申来候ニ付、頭取之医師江其段相達ス　与四右衛門

七兵衛様
四郎左衛門様

好生館ゟ呼出ニ而医師中出席、且又、十六才以上之人寄宿稽古之儀、先達而ゟ相達置候得共、今以無其儀如何之御手当振ニ候哉、爰切被申達候条、一刻も其御手当相成御模様為御知相成度、左候得者、右を以、同館江可相達候条、否御答為御知可被成候、此段為

懸合如斯御座候、以上
五月十二日

1328 安政六年五月十三日　引痘人数を代官所を通じて提出した事

一此節引痘人数取調子差出候様、西丸より申来候ニ付、代官所ゟ調子達出相成候を差越候事

1329 安政六年五月十四日　小城での種痘実施に手伝い医師佐野文仲らの事

一引痘方ニ付、左之通申来候

与四右衛門

七兵衛様
四郎左衛門様

引痘方ニ付、昨日大坪九郎右衛門含帰、今日好生館江町小路人数付差出、其外廉々及演達候処、左之通御座候、

一出張医師人数之儀相尋候処、引痘方医師ゟ壱人被罷出儀候、尤方々出張相成居候付、未名前等者相知不申由御座候

一かご舁之儀者御心遣ニ不相及、此方より手当被罷越候由之事

一来ル十六日、為種取罷越候もの五人程有之度、勿論年頃見合極幼少、又者年長之もの等者宜敷無之ニ付、手伝之人々ゟ見立相成候様、且又小瘡気無之人見立相成候様、被申聞候事

一手伝医師之儀者、一昨年御達相成居候人々ニ而、別段御達等者無之哉相尋候処、此節ハ新館被相開候付而者、別紙名前之人々呼出御達ニも可相成筈ニ候得共、遠方難渋之儀も可有之ニ付、追々御頭人御聞届之上、達帳を以可相達旨御座候、尤此内御匙相勤居候人も有之候得共、自然上々様方御引痘等之儀も可有之歟ニ付、御館下住居之人一般ニメ相伺筈候条、得其意候様申事ニ御座候

一来ル十六日種取相成候得者、廿二日ニ出張相成趣ニ御座候条、左様御心得可被成候事

此段旁為御掛合、如斯御座候、以上
五月十四日

追而種取罷出候人、十六日朝飯後、早々好生館罷出候様被申聞候、已上

心得迄被相達候引痘方手伝医師名前

佐野文仲　村田道碩　原口養虎
中島需安　相良柳沢　宮崎元益　菊池宗垣

1330 安政六年五月十五日　引痘方種取の事

一引痘為種取、小城町ゟ佐嘉相越候付、為心遣佐野文仲罷越候様、附役ゟ相達ス

1331 安政六年五月十七日　引痘方出張に付、人足の事

一引痘方ゟ左之通申来候

七兵衛様　　與四右衛門
四郎右衛門様
引痘方ゟ来ル廿二日出張相成候節、人足之儀御手当ニ不相及旨最前被相達置候得共、右者間違ニ而、右出張之節者、宿継人足之訳ニ付、牛津歟立石宿歟迄被相越、其向之処者同所ゟ手当相成候様事ニ付、右様御含者其筋宜被相達置旨ニ御座候、以上
五月十六日
尚々本文人足之儀、左之通御座候
駕舁三人
両掛持　壱人
〆四人
右之通御座候、以上

1332　安政六年五月二十日　石火矢放出の事

一月次石火矢、北浦於台場放出有之

1333　安政六年五月二十日　五月二二日引痘打ち合わせの事

一引痘方ニ付、西丸ゟ左之通申来候、
七兵衛様　　與四右衛門
四郎右衛門様
引痘方何日弥被罷越候哉、御手配ニも相懸候ニ付、聞〆及御掛合候様、大坪九郎右衛門江御含之末、其筋相尋候処、原田元蔵与申人、来ル廿二日、矢張被罷越候由御座候条、左様御心得可被成候、此段為御懸合如此御座候、以上
五月廿日
追而、村田道碩様、幸イ好生館出席ニ付、委細承知相成居候条、同人より尚又御達可被致存候、以上

1334　安政六年五月二十一日　本家より種痘医師出張の事

一御本家ゟ為引痘医師壱人福智院被相越引痘有之、右ニ付同所出張之上ニ而、此御方医師種痘手助之人々江同人ゟ相達有之候由、惣心遣として代官所ゟ出張相成、委細同役場江控有之候事

1335　安政六年五月二十三日　佐賀藩医原田元隆福智院出席の事

一代官所ゟ左之通達出相成ル
今廿二日、佐嘉医師原田元隆、福智院出席有之候事

1336　安政六年五月二十八日　文学・医学会試の事

一於学館、文学・医学并算術御会試被相整候

1337　安政六年五月二十八日　佐賀医師福智院へ出席の事

一代官所ゟ左之通達出相成候事

手覚
佐嘉医師石井長庵今廿八日福智院出席有之候事

1338 安政六年六月二日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候

釘本伝八
永橋重次郎
太郎左衛門弟
神代新九郎

去月廿九日、伊王島出立之末、今日帰着仕候段、御届申上候事
但此節伊王島御筒打被相減候付、伝八・新九郎右両人不快ニ付、為付添一応罷帰候也

1339 安政六年六月三日　江戸の松隈玄洞より蘭法稽古のため稽古延長願の事

一松隈玄洞ゟ於江戸表、左之通願出候段、当便申来候処、願之通被相済候旨申越

奉願口上覚

私儀家業為稽古出府仕度旨、最前三ヶ年ニ満合候、御暇ニ而兵粮をも願之通被仰付、御蔭を以、只今迄稽古罷有仕合奉存候、就而者満年ニ付、当秋帰郷可仕心得ニ御座候処、今度御国許一般蘭法稽古仕候様御達相成候段、其筋ゟ拙者来候付、去ル三月ゟ蘭法松嶋玄栄へ入塾稽古罷在候得共、最早御暇も来ル十月迄ニ而限月相成、夫迄之内ニハ、何分稽古出来兼候付、来申四月迄、今又六ケ月之間打追之通ニメ御暇被為拝領被下候道者有御座間敷哉、御然者猶又一際出精仕、尚以御用之端ニも相立度奉存候間、何卒願通被仰付被下候様奉願候、此段筋々宜御相達被下度致御頼候

以上
四月　松隈玄洞
深江平兵衛殿
瀧巳之助殿

1340 安政六年六月五日　石火矢放出の事他

一月次北浦御台場ニ而、石火矢放出有之
一今朝五ツ時、御供揃御乗馬ニ而、北浦御台場被遊御出候事

1341 安政六年六月七日　直正大久保台場御越の事

一左之通代官所ゟ達出相成ル
明八日朝正六ツ時御供揃ニ而、少将様大久保村御台場被遊御越之旨、只今大庄屋中原忠蔵より相達申候、以上

未六月七日　代官所

1342

安政六年六月八日　伊王島警備永橋重次郎帰着・久本孫次郎出立の事

一永橋重次郎、明九日より帰島、下目付久本孫之允、同日ゟ伊王島江出立仕候段、御届申上候

1343

安政六年六月十一日　種痘に野口文礼福智院出席の事

一引痘方ゟ左之通達出相成ル

手覚

今十一日佐嘉医師野口文礼、福智院出席被成候事

六月十一日　引痘方

1344

安政六年六月十四日　毎月銃陣稽古実施の事

一銃陣稽古之義、左之通文武方大組代中へ相達

銃陣稽古之義、以来ハ毎月十一日ゟ十三日迄、朝五時始ニメ、日数三日ツヽ仕切稽古之楯ニメ相整候事

付り、当月之義ハ、向廿一日ゟ廿三日まて被相整候事

未六月十四日

1345

安政六年六月十六日　引痘方より三田道筑派遣の事

一引痘方之義ニ付、最前拙者置候末、左之通申来候

七兵衛様　四郎左衛門　与四右衛門

引痘方之儀、今又岩蔵村其外、明十七日種取出張之上、植方被仰付度、其筋願入之義御懸合ニ付、好生館へ相達置候末、尚又、今日同所罷出相尋候処、右村々種痘引続被仰付候儀、相〻り居、明日三田道筑被罷越筈之由ニ御座候条、其御心得を以御手配可被成候、此段為御拙知如此御座候　以上

六月十六日

追而、山代郷忠右衛門、石炭掘願之義、御懸合ニ付、尚又及催促候処、郡方ゟ見分之上石炭方申談、諸手数相聴候上可相達由御座候、惣而者只今郡方ゟ為見分出張相成居候趣ニ御座候　以上

1346

安政六年六月十七日　引痘方中野元立出席の事

一代官所筋ゟ左之通達出相成ル

今十七日、為引痘佐嘉医師中野元立福智院江出席相成候事

1347

安政六年六月十七日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候

松尾忠吾

去ル十四日、伊王島出立之末、今晩帰着仕候段、御届申上候事

1348 安政六年六月二十日　戸崎村流行病転除祈祷の事

一戸崎村流行病ニ付、転除之御祈祷被仰付候
玉圓坊
新乗坊

1349 安政六年六月二十五日　釘本伝八医師手形の事他

一左之通御届申上候
江口勘兵衛儀、病気之末養生不相叶、今日相果候処、
悴義者伊王島詰中ニ付、此段私共ゟ御届仕候、以上
六月廿五日　重松四右衛門
七月一日
一大組代江左之通相達
釘本伝八
右之人是迄一類同組相願置候所、今晩ゟ評定所被相直
候付、尚又同所勤番有之候様
右之末、伝八一類ゟ医師手形相添、左之通達出相成候
付、則盗賊方江相達候事
口達
釘本伝八儀、一類同組被相預置候所、今晩ゟ評定所
江被相直候付、猶又同所勤番有之候様奉畏候、然所、
今晩より不斗腰痛相発、吐瀉数度仕候付、則佐野文
仲江相掛り療養相加候得共、今以快方不相見、今晩
ゟ評定所相直候儀出来兼候条、快気仕候迄之所御猶
予被下度、尤医師印紙相副、一類中ゟ奉願候、以上
未七月　釘本伝八
一類中
釘本伝八殿儀、今晩ゟ不斗腰痛相発候後、吐瀉数行
有之候付、則加療仕候得共、今以快方不相見候、殊
ニ只今ニ而八、熱気相発、肝臓之部ニ攣痛相増、飲食
不下、間々衝心ノ気御座候、依之色々治方相施居申
候、当時私服薬差出居候付、如此御座候、以上
未七月　佐野文仲印

1350 安政六年七月十三日　伊王島詰仰せ付ける事

一於請役所内左之通、御当役被相達候、列席例之通
富岡弥一左衛門
持役ゟ伊王島詰被仰付候

1351 安政六年七月一三日　引痘一時中止の事

一引痘之儀、当時流行病ニ而医師中も何分難及手旨ニ付、
先以被相止、且又山内郷ゟ最前引続引痘願出候得共、
取戻相成候様、西丸申越ス

1352 安政六年七月一四日　大久保台場にて遠丁打の事

一昨夕、左之通、西丸ゟ申来候
七兵衛様
四郎左衛門様　与四右衛門

愛吉郎様

請役所ゟ爰許呼出ニ而大久保御台場ニおゐて遠丁稽古打有之候様、此節仰出相成候付、御火術方江相達拾弐三丁之所、遠丁御台場所有之候様、左候而見分之上達出相成候ハヽ、此御方江表向御相談可致筈候、就而者右見分之節、村方ニも其心得罷在候半而相叶間敷、其御心得を以、百姓共ニも承知罷在候様、御含可被成旨、横尾文吾ゟ被申達候、惣而者前断遠丁之御台場御相談相成候得者、只今有之候壱番近丁之方ハ御差戻相成筈之段も被申聞候条、左様御承知、宜敷御取計可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

1353 安政六年七月一六日　樋渡雄七役儀免除願の事

一樋渡雄七ゟ左之通願出候所、願之通役方被成御免候事

奉願口上覚

私儀、御出陣方御火術方附役差次被仰付置、誠以冥加至極難有仕合奉存候、就而者可成丈御奉公申上奉報御高恩度存念ニ御座候所、当春以来大病相煩、長々引入、色々手を尽療養相加、御蔭を以、漸く少々ハ快方ニも御座候得共、未全治之際相見不申、只様不勤ニ而、時日押送り候亘り、重畳痛入次第奉存候、惣而ハ、自侭之儀恐怖至極奉存候得共、前断之訳ニ付、被仰付置候御役儀被差免被下度奉存候、左候得者御陰ニ猶又緩々得と養生仕、全快之上者向以御奉公をも可申上、猶更御高恩之程難有奉存候条、何卒願之通被仰付被下度、此段宜被仰上可被下候、以上

未六月　樋渡雄七

松崎七兵衛様

本庄四郎左衛門様

1354 安政六年七月一七日　佐嘉医師福智院へ出席の事

一引痘方ゟ左之通達出相成候事

手覚え

今十七日、佐嘉医師原田元隆、福智院出席相成候事

1355 安政六年七月二十日　石火矢放出の事

一月次北浦石火矢放出有之

1356 安政六年七月二十三日　村方より医師派遣願の事

一舎人・戸崎両村之役々ゟ左之通願出候付、早速佐野文仲呼出、御施薬方被仰付之旨、相達候所、同人御断、無余儀相聞候付、追而余人江被仰付候事

奉願口上覚

舎人村

戸崎村

右村々流行病ニ付而者、様々御願申上奉懸御難題奉恐入候、誠ニ当時只様相煩、於村方ハ様々手を尽候得共、右之次第ニ而当惑千万之参懸奉存候、就而ハ佐野文仲殿請持仕候所、段々薬功相見候模様御座候得共、小窮不束もの而已ニ而、万端届兼候儀有之、難渋此時

ニ差廻り罷在候、依之近来難奉願上、猶又奉恐入候得共、右之次第御慈察被成下、何卒御同人御治療被御差越被下候道ハ有御座間敷哉、偏ニ奉願上候、於然ハ病人者不及申上、看病其外気詮も引立可申奉存候条、願之通被仰付被下候様御筋々宜被仰上可被下儀、深重奉願上候、以上

未七月

村役
豊吉
右同
要八
右同
源右衛門
庄や
長十

篠原新左衛門殿

右之通願出候条、宜被懸御吟味可被下候段、前書御座候、以上

未七月　篠原新左衛門

御代官所

七月二十四日

一左之人々江此節舎人・戸崎両村流行病ニ付、御施薬方被仰付候

前田文啓
堤　養哲

1357　安政六年七月二十五日　伊王島出立の事

一左之通、御届申上候　富岡弥一左衛門

来月朔日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事

1358　安政六年七月二十七日　緑ヶ里医師派遣願の事

一緑ヶ里、当時流行病ニ付、左之通願出候付、願通被相済候

乍恐奉願口上覚

緑ヶ里之儀、各様方兼而御存之通零落村ニ而少人数之上、流行病其外相煩居候人々左之通

当月十四日ゟ流行之末、

廿四日死去　松永治兵衛殿
寿助子
同十七日ゟ右同　筒次郎
同十日頃ゟ時候障　袈裟右衛門
同子
同十九日ゟ流行病　袈裟太郎
成富多内殿
同廿一日ゟ右同　御内儀
西隈閑斉殿
同十五日ゟ時候障　御内儀
同廿四日ゟ流行病　慶助
同廿二日ゟ右同　同女房

同廿四日ゟ時候障　　次兵衛

右之通相煩居候所、御医師・駕籠舁、其外相働候人者四五人ならて無御座候所、昼夜之儀ニ付、中々以続兼、如何相成候哉難計御座候条、近頃御願申上兼候へ共、袴田ヶ里同様御医師・駕籠舁丈之儀御手助被仰付被下候道ハ有御座間敷哉、左無御座候ハヽ、相果候通相待居候ゟ外無之候条、此段御筋々宜敷被仰上、願之通被相済被下度、深重奉願上候、以上

未七月　　緑ヶ里横目

犬山万之允殿

右之通願出申候条、宜被仰整可被下候段、本文御座候、以上

未七月　　犬山万之允

御代官所

1359 安政六年七月二十七日　平吉郷流行病に付、転除祈祷の事

一平吉郷流行病ニ付、転除之御祈祷同郷社職五人被仰付度旨、代官所ゟ願出相成候付、願通被仰付候段、代官所へ相達ス

1360 安政六年七月二十七日　山代郷石炭掘りの事

一山代郷石炭掘之儀、最前御本家願出之末、如願被仰付旨、郡方ゟ達帳相成候段申来候付、其段山代懸合越ス

馬場大丞様　　徳島健之丞様　　城嶋与四右衛門

其外様

山代郷里村忠太夫ゟ願之石炭掘之儀、猶又其筋為催促候様御懸合ニ付、郡方江相尋候所、去ル十日、大庄屋多久嶋徳之丞江達相成候趣ニ付、御私領方ゟも願差出置候付、聞蕃方江之達帳ハ不相成取調子被呉候様、生野孫右衛門相談候処、矢張同日別紙之通、聞番方江も達帳相成居候処、呼出相達之儀、物落相成居候由ニ而、今日致承知候付、差越申候条、宜御取計可被成候、惣而最前受役所ゟ懸合相成居候筋歟と存候条、同所江別段不申越候間、御通達可被成候、此段為御懸合如是御座候、

七月廿五日

小城私領山代郷里村之内、後江川畠境先年石炭掘方相成候跡、古間伏ゟ今又石炭堀方被差免度、同所罷在候忠太夫ゟ筋々を以願出、役筋ゟ見分之所、支所無之由相達之趣、御当役御聞届如願被差免候条、此段筋々可被相達候、以上

未七月　　郡方

1361 安政六年七月二十八日　西洋流各前会試の事

一西洋流角前御会試、平原新射場ニ而被相整候事

1362 安政六年七月二十八日　緑ヶ里への施薬を命じる事

一左之通、手紙達　　宮崎元益

緑ヶ里流行病ニ付、御施薬方被仰付候

1363 安政六年七月二十八日　引痘手伝医師派遣中止の事

一左之通、西丸ゟ申来候所、当時流行病ニ而手伝医師等も難及手ニ付、被相止候段、返事差越ス

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様　　城嶋与四右衛門
江越愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ而、引痘方之儀、頃日出張之医師迄場所ニ而御達相成候者、当時流行病ニ而手伝方も出来兼候、暫之処、御断ニも相成歟様申事ニ候得共、右者最前聞番方より御願入之末ニ付而者前断之次第、筋々御達出無之而不相叶旨被申達候、然処、頃日之御掛合ニ者当時流行病ニ而手伝之医師等も何分難手及趣ニ付、先以願入候分ニ而被相止、山内郷ゟ引続引痘被仰付度願出之儀取戻候様、御懸合相成居候分ニ而、当今御取止と申儀ハ一向相分不申候ニ付、其段相答、爰許限如何共難相達旨、及挨拶候処、折角今晩ゟ出張之手当ニも相成居候処、参り様どもいたし候而者不相叶候ニ付、今暮時迄ニ否相達候様被申達候、就而ハ否之儀、押返シ早々被仰越度御座候、此段為御懸合如是御座候、以上

七月廿八日

1364 安政六年八月一日　大殿足痛の事

一大殿様ニ者御足痛ニ付、御礼不被為請候

1365 安政六年八月一日　富岡弥一左衛門伊王島出立の事

一富岡弥一左衛門并足軽目付北村七郎、今朝ゟ伊王島出立有之候事

1366 安政六年八月三日　流行病に付、転除祈祷願の事

一代官所筋ゟ左之通流行病転除之御祈祷願出相成候所、願通被相済、左之村ニ掛り庄屋宅ニ相整候事

奉願口上覚

平野村
東山田村
於保村
樽田村
立物ヶ里
道辺刈
三ヶ島刈
深町刈

我々懸右書載之村々、先頃ゟ流行病ニ而数人ツヽ、相煩罷在、其内死亡之者も出来仕、甚苦々敷参懸御座候、勿論、看病方其外爰切心遣罷在、祈祷・祈念等手を尽居

候得共、一円相退不申、誠ニ以不容易次第ニ御座候、就而者近来難奉願、重々奉恐入候得共、右於村々御上ゟ御祈祷被仰付被下候道ハ有御座間敷哉、伏而奉願候、於拙者一般恐怖仕居候人気も引立病症も退散可仕と難有奉存候条、何卒御憐憫之御評議を以、願之通被仰付被下候様、御筋々何分ニも宜被仰上可被下義、深重奉願上候、以上

未八月　平野村村役　藤蔵
東山田村役　伊兵衛
於保村懸り庄屋　栄三
立物刈懸り庄屋　興平
道辺刈懸り庄屋　儀兵衛
三ヶ島刈懸り庄屋　文六
猶田村懸り庄屋　良七

中原忠蔵殿

右之通願出候条、宜被遂御吟味可被下候段、前書ニ御座候、以上

未八月　中原忠蔵
御代官所

1367　安政六年八月四日　石火矢放出火術方心得の事

一左之通附役達　遠岳神九郎
富岡三太夫

明五日、北浦石火矢放出之節、一順御火術方之心得ニ而出張有之候様

1368　安政六年八月五日　北浦石火矢放出御覧の事

一今朝六半時御供揃御乗馬ニ而北浦石火矢放出為御覧被遊御出候事

1369　安政六年八月五日　流行病に付、転除祈祷願の事

一左之通、被仰付候事　城本坊
普門院
圓実坊
行乗坊
新　坊
吉祥坊
真常坊

佐保川島郷流行病転除御祈祷被仰付候

1370 安政六年八月六日　大久保台場の場所替相談の事

一大久保御台場之義、左之通申来候

松崎七兵衛様　　城島与四右衛門
本庄四郎左衛門様
江越愛吉郎様

御本丸受役所ゟ即刻呼出ニ付罷出候処、横尾文吾ゟ先以内々之訳ニ而相談被致候者、此節御台場打出之場所先以内見分之上、追々表向御相談も相成筈ニ候、併右場所最前御私領御仕置場有之候由、右者御私領方ニ而其場所一ヶ所ニ候哉、外ニも有之義ともニ者無之哉、惣而外ニ無之候共、御場所替等相成候義共ハ出来申間敷哉、勿論前断之都合強而御相談等相成候筋ニハ無之候得共、いつれを歟御運之道者有之間敷哉、同人限之訳ニ而内々相談相成義候条、否早急被仰越度御達候、此段為御懸合如此御座候、以上

八月六日　　留守五郎右衛門

一左之通御届申上候

伊王島ゟ今夕帰着仕候段、御届申上候事

1371 安政六年八月七日　白帆注進調子合の事

一御番方ゟ伊王島白帆船注進之義、左之通相達候段、申来候

松崎七兵衛様　　城嶋与四右衛門
本庄四郎左衛門様
江越愛吉郎様

御番方ゟ即刻呼出ニ而、五ヶ年以来伊王島御番所御請持相成候後、白帆注進者勿論、阿蘭陀船麾移之注進ハ御整相成居候哉取調子、急速達出候様、重松清次ゟ被申達候、此段為御振合如是御座候、以上

八月七日

1372 安政六年八月八日　好生館出席を命じられる事

一好生館ゟ左之通相達之段申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ而別紙之通被相達候付差越候条、其筋御相達被成存候、惣而者、来ル十三日被罷出候人々名書之義、明後十日迄好生館差出候様、急度被相達候条、早々御調子合、明晩中御差越可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

八月八日

今般好生館被相建西洋法研究致候儀被仰付候付而者、開業之有無ニ不相拘、一般改而入学式被仰付義候条、諸家来医師中、来ル十三日明六時好生館被罷出候様可被相達候、右ニ付、廉々左ニ

一礼服着用之事

一白麻料正銀八分被相納候様之事

未八月八日　　好生館

右之通、懸合相成候所、当今流行病ニ而医師中へも難差迦ニ付、程能断相成候様、返書差出ス

1373

安政六年八月十一日　医師派遣を断る事

一好生館ゟ左之通相達相成候段申来候

松崎七兵衛様　　城嶋与四右衛門
本庄四郎左衛門様
江越愛吉郎様

好生館ゟ達帳を以被相達候次第及御懸合置候処、当時流行病之半ニ而医師中何分難差迦ニ付、来ル十三日之処者御断申上、何れ流行病相除候迄御猶予被下度旨申出候条、其筋程能相断候様御掛合之趣致承知候、右ニ付、早速彼役場罷出御掛合之旨を以程能相断候所、其通承置候旨、挨拶有之、別席江引立内談有之候者、何歟訳合共有之候儀共ニ者無之哉、御壱人も差迦難相叶申訳御不都合ニも有之候条、一両人計成共被罷出候通御取計之道者有之間敷哉之旨、牧多蔵ゟ被申聞候条、尚御吟味之上、否早々可被仰越候、此段為御掛合如此御座候、以上

八月十一日

1374

安政六年八月十六日　大久保台場替えの事

一大久保御台場見分之義、左之通申来候

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様　　城嶋与四右衛門
江越愛吉郎様

大久保御台場替之義ニ付、御本丸請役所ゟ問合之次第、絵図面相添及御懸合候処、右者御用之義ニ付、一体者御差支無之候得共、土地之広狭も相分兼候付、見分之上、何れ共御取計可相成由、物而肆場之処者場所替相成候而可然候間、右様承知其筋江も右之趣相達候様、旁委細之御振合致承知、右御懸合之旨を以、請役付横尾文吾まて為相達義ニ御座候、物而者明後十八日明六時出宅ニ而、左之役場ゟ出張見分被相整義ニ付、御私領御役々ニも成丈早目ゟ右場所辺御出張相成居候様、左候得者、場所ニ而尚又御談等も可被致ニ付、其御心得相成居候様、旁同人ゟ被申達候

御火術方
伊東次兵衛
本嶋藤太夫
川瀬孫之允
永渕嘉兵衛

外ニ
一両人斗
手許両人斗

御蔵方
附役
手侍（ママ）
凡両人斗

検者方
侍役

手明鑓役
凡両人斗
御普請方
凡両人斗
修理方
凡両人斗
郡目付
凡両人斗

右之通由ニ御座候、以上
八月十六日

1375 安政六年八月十八日　本家より大久保台場見分の事

一今朝大久保御台場御本家役々出張見分有之候付、馬場大丞・留守五郎右衛門・持永治兵衛、其外地方ゟも出張有之候事

1376 安政六年八月二十二日　石火矢備の台式板修理の事

一御番方ゟ左之通相達之段、申来候
御自領香焼島、其外、左之ヶ所々々御石火矢平日御備附被置候得共、台式板等雨露ニ晒、保方不思和敷所ゟ折々修理新出来等有之哉ニ付、平日者小鹿倉御蔵、又者最寄御火術方明御蔵被御取片付置、到自然之節、何れ之場所ニも急速被相備義ニ候条、此段筋々懇ニ可被相達候
香焼島栗浦

一御石火矢玉目弐貫目壱挺
一同五百目弐挺
伊王島平治鼻
一同五百目弐挺
同千畳敷
一同五百目弐挺
高島風泊
一同三百目三挺
同カソウ鼻
一同五百目弐挺
同小島
一同五百目壱挺
一同壱貫五百目壱挺
同宮崎之鼻
一同壱貫目弐挺
沖ノ島観音崎
一同五百目三挺
以上
未八月
御番方

1377 安政六年八月二十五日　アメリカ人香焼島上陸の事

一御番方ゟ左之通相達候段申来候付、伊王島へ申越ス
松崎七兵衛様　城嶋与四右衛門
本庄四郎左衛門様
江越愛吉郎様
受役所并御番方ゟ呼出ニ而、別紙写之通、達帳相成候付

差越申候、此段為御懸合如是御座候、以上

八月廿四日

去月廿七日、亜米利加人共数人端船弐艘ゟ香焼島上陸、所々致徘徊、或者同所海岸ニ而小筒を以小鳥等討取候付、以後上陸者勿論、猥ニ海岸乗廻不申様、各国異人共江御厳達被成置候様、御奉行所御届相成居候得共、自儘之異人共、此後右体致増長候哉も難計ニ付、島々御番人深堀家来、猶又守衛向厳重相心得候半而不相叶、去迚公辺之御取扱、分而平穏之義候得者、右之御趣意ニ相触候通ニ而者不相叶ニ付、御番人深堀家来ハ勿論、住民共ニも浜辺立出揚陸不致様、穏ニ相制止不聞入致上陸候共、無法等不相働様、付副厳重致守衛渠等自然と乗戻候通有之候様、以下々々迄急度其旨を相心得居候様、此段筋々懇ニ可被相達候、以上

未八月　　御番方

1378 安政六年八月二十八日　蓮池家と伊王島交代相談の事

一伊王島交代之義、左之通西丸より来ル

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様　　城嶋与四右衛門
江越愛吉郎様

蓮池聞番ゟ伊王島交代之義、当十月朔日ニ者定而被相整方ニ可有御座哉、一体ハ去ル寅年御互ニ同島詰御番所相勤候ニ付而者、此御方之義、半月程御勤越ニも相成候哉ニ算当前御座候得共、右者何れニ而も御差引可相成、此節之義八十月朔日ニ交代被相整度被存候由、為被申聞候義ニ御座候、此段為御懸合如是御座候、以上

八月廿七日

1379 安政六年九月二日　相図稽古の事

一今夜於岡之前、真田流相図稽古打有之

1380 安政六年九月五日　石火矢稽古の事

一北浦石火矢出張ニ付、別勤

1381 安政六年九月五日　蓮池家と伊王島交代相談の事

一伊王島御番所詰替之儀、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

先達而及御掛合置候伊王島御番所詰替之儀、蓮池ゟ被申聞候次第者、定而御承知相成御吟味相成候儀と存候、然処、別紙之通彼聞番ゟ懸合到来ニ付差越候条、御披見之上、否被仰越度御座候、此段為御懸合如斯御座候、以上

九月五日

尚以、別紙御返却可被成候、以上

城嶋与四右衛門様　　和田主一右衛門

秋冷之砌ニ御座候所、弥御安康可被成御勤奉珎賀候、

打絶御疎情不本意之事ニ奉存候、然者指付之義ニ御座候得共、先頃垣内良一郎ゟ御相談仕置候伊王島御番所交代之儀、如何相分居不申哉、且何日頃ゟ御在所御出張之御積ニ御座候哉、相分居候ハヽ、御知セ被下置、自然いまた其儀無御座儀候ハヽ、急ニ御都合為御知被下度奉頼候、此段可得御意、如斯御座候、以上

九月四日

1382 安政六年九月五日　馬渡仁庵扶助願の事

一馬渡仁庵并香田文哉ゟ左之通御暇願出候末、願之通被相済候

奉願口上覚

私儀、家業為稽古、一昨己年ゟ三ヶ年之月数御暇奉願、肥後表罷越、村井同雲随従罷在候所、不弁丈ニ而聢と進達之際も相見不申候付、猶又追々者江戸遊学をも奉願度、兼而甚煩ニ御座候所、先般御本家ゟ漢家之医師は西洋之方をも相学候様御厳達之旨奉畏候、然所右同雲ニ者全古方一扁之儀ニ付而者、両様之稽古出来不申ニ付、未御暇之年限も満合不申候得共、先以同所引取、乍此上者江戸表罷越、誰漢蘭致折衷候有名之人江入熟(塾)令一際稽古仕度奉存候間、御支所無御座候半者、当未秋ゟ向三ヶ年之日数、今又御暇被為拝領被下度、惣而者前断肥後遊学中ニも厚ク御手を被付、稽古料等被差出被下候末、弥ヶ上御難題之儀ニ難奉願、至極奉恐怖儀ニ御座候得共、極小身之上、地行不如意之勝手柄共ニ而、自力之稽古何分不任所存候付、右詰中於彼表一孤兵糧をも被差出被下道者有御座間敷哉奉願候、於然者御蔭を以稽古中如形取続、猶又一際相励稽古仕候半者、乍不肖末以御用之端ニも相立候通有御座度、御厚恩重畳難有奉存候条、何卒格別之御慈評を以、旁願之通被仰付被下度、深重奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

未八月　　馬渡仁庵

松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

江越愛吉郎殿

本文願之趣、御吟味之上達上聞候所、一体者願通被相済義ニ候得共、当時医師稽古数人彼表被差越置候所、明春松隈玄洞・川久保俊庵帰郷有之筈ニ付、其交代ニ差当出府有之候様、惣而御暇之義ハ出立之月ゟ願通之日数ニ可被相心得候

奉願口上覚

私従弟香田文哉、最前医業之通被仰付難有仕合奉存候、就而者最早年頃ニも相成候ニ付、此節相良柳沢殿江為致随身、着府之上何れ江歟随身稽古為仕度奉存候間、当年ゟ向三ヶ年之御暇被為拝領被下度奉願候、於然者御蔭を以、尚又相励、末々御用之端ニも相立候通仕度奉存候条、何卒願通被仰付候得者、尚更重畳難有仕合奉存候、此段筋々宜御相達被成下度深重奉願候、以上

未八月　　香田半之允
松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿

1383　安政六年九月六日　流行病に付、転除祈祷の事

一左之通附役達　　城本坊
新坊
北浦二瀬川流行病転除御祈祷被仰付候

1384　安政六年九月六日　相図稽古の事

一今夜、於岡前武衛流相図稽古打有之

1385　安政六年九月六日　伊王島詰日数変更の事

一左之通、達帳相成ル
一伊王島詰之儀、是迄六ヶ月交代ニ候得共、此節諸般御取締御仕組ニ付、以来拾弐ヶ月交代ニ被仰付儀ニ候条、可被其意由ニ候、以上
未九月　　江越愛吉郎
本庄四郎左衛門
松崎七兵衛
右承届候、以上

1386　安政六年九月八日　菊池玄達死去の事

一左之通、忌中御届申上候　　石井半丸
菊池玄達、昨七日病死仕候所、母方従弟之続ニ付、忌中引入候段、御届申上候事

1387　安政六年九月十五日　医師へ役方命じる事

一於小松ノ間、御当役左之通被相達候、列席例之通上々様御ヒ被仰付候　　村田道碩
一左之通、手紙達
御ヒ相雇被置候所、不及其義候　山田元壽

1388　安政六年九月十八日　医師へ役方命じる事

一左之通、附役達　　村田道碩
宮崎元益
原口養斥
中嶋需安
以来御内々定泊番有之候様

1389 安政六年九月十八日　好生館より医師出席を命じられる事

一好生館ゟ呼出ニ而、左之通達帳相成候段申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ而、入学式之儀、今又別紙之通達帳を以被相達候付差越候条、宜御取計可被成候、物而右入学式之儀、日限を以被相達候処、壱人も罷出候者無之、右様之儀ニ而者不相済儀ニ候条、御節者屹度御手当相成候様、精々被申達候、偖又別紙名前之人々御私領方ゟ惣医師御附出之内ニ者相見不申候得共、此節代官所より達出相成候ニ付而者、尚御取調否早々可被相達旨をも被申達候、此段為御懸合如斯御座候、以上

九月十八日

今般好生館被相建ち、西洋法研究致候様被仰付候ニ付、先般開業之有無ニ不相拘、一般改而入学式被仰付置候得共、残人数今又入学式被仰付儀ニ候条、諸家来医師中二男・三男迄、来ル明六時、好生館被罷出候様被相達候

右ニ付、廉々左ニ

一礼服着用之事
一白麻料正銀八分ツヽ被相納候様之事
以上

未九月

付紙

入学式罷出候人々名書、来ル廿二日迄之内、役筋可被差出候、以上

加賀守殿家来　秋山養逸
田尻監物被官　檀文逸

1390 安政六年九月二十一日・二十二日　伊王島詰仰せ付ける事

一於小松ノ間、御当役左之通被相達候、列席例之通

甘木伝八　香田伝左衛門　藤山一
持永秀一郎　嬉野市左衛門　深江藤右衛門
志波太郎右衛門　江口甚右衛門　安本源之助
伊王島御番所詰被仰付候
関省之丞　牟田進作　江頭増太郎
大嶋彦右衛門　吉本吾六　村川彦之允
小林利三郎　木村十右衛門　諸隈徳一郎
高橋伊予吉　田中助太郎　志波岩人
石井兵之進　永松惣五郎　田崎官左衛門
村川八右衛門　江原甚之丞　武藤小次郎（弥一右衛門次男）

伊王島御筒打被仰付候

一左之人々伊王島ゟ帰着仕候段、御届申上候

神代軍平　下館千兵衛　馬場崎夘吉郎

九月二十二日
一於小松間、御当役西造酒之丞殿左之通被相達候、列席例之通

松本堂之助
大坪七十郎
石川八太夫
百々左衛門倅次男
馬渡友四郎
伊王島御筒打被仰付候
神代軍平
持役ゟ御賄方御内御広敷番兼被仰付候
尤御賄方之方主ニ被相勤候様

1391 安政六年九月二十三日　山口八郎右衛門危篤に付、伊王島詰忰を呼び寄せたい旨願の事

一山口八郎右衛門一類ゟ左之通願出候所、願之通被相済候

口達覚

我々一類山口八郎右衛門儀、先達ゟ咽喉瘋種病相煩、殊之外稠敷、昨今保養募老体之儀ニ而、甚危篤之病之趣、医師ゟも申聞、然処忰伴作伊王島詰被仰付置、最早交代之頃合ニ者御座候得共、右之次第ニ付、乍自侭一統ゟ引揚急々罷帰候通被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達被下度致御頼候、以上

九月　松浦五右衛門
嬉野三郎左衛門
松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿

一左之通、附役達

木村十右衛門
山口伴作病気ニ付、同人為交代明後廿五日ゟ被指立候

1392 安政六年九月二十四日　伊王島御筒打名前の事

一伊王島御筒打名前附出之儀、左之通申来候ニ付、今日指出ス

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様
与四右衛門

此節伊王島御筒打交代被仰付候由、右者素り御承知ニも相成居候通、当春御番方ゟ不指懸内前廉名書差出候得者、於御火術方調子合相成、支之有無被相達趣、達帳相成居、然ル処、当月中ゟ者定而出立ニも可相成候得者、一刻も名書被差出方ニ者有之間敷哉、延引相成何歟と申事有之候而も不相叶候条、早々達込相整置方可然申合候条、尚又御吟味可被成候、尤今日亘りハ右被差越義とも存候得共、最早日間無之ニ付、為念及御懸合義ニ御座候、此段態と為御掛合如此御座候、以上

九月廿四日

1393 安政六年九月二十四日　鹿島より民部危篤の旨達の事

一鹿島聞番ゟ民部様御病気御差重之段、左之通為御知有之候段、申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

別紙只今到来ニ付指越申候条、筋々可被相達候、此段為御懸合如此御座候、以上

九月廿四日

尚以、諸家老方并御用人中江之副封差越候条、御落手可被成候、以上

与四右衛門様　　佐一右衛門

以手紙致啓上候、然者民部様当夏以来御病気之所、段々御差重、到而御大切之段、在所ゟ申来候、此段為御知如此御座候、以上

九月廿三日

尚以、本文ニ付、別紙弐通相廻来候ニ付、為持申候条、急ニ被相達被下度致御願候、以上

七郎左衛門

源兵衛様
増吉様

以手紙致啓上候、然者民部様先日ゟ御病気之所、色々御養生御加被成候得共、一円御快方無御座、漸々被差重旨、昼九時頃ゟ別紙御容体書之通、至而御大切被為見候、右為御知被仰進、此段貴様迄、従私宜得其意旨被仰付、如此御座候、以上

九月廿三日

御容体書

民部様、年来御痙攣之症次第ニ被御差重、弥増御衰弱、御手足厥冷自汗漸ニ候、脉状沈術至而御大切之症ニ御診申上候、以上

御ヒ中

1394 安政六年九月二十五日　福岡右兵衛下関にて死去の事

一福岡右兵衛長州下ノ関ニ而大病相煩候末相果候段、左之通申来候

松崎七兵衛様　　北村菅三
本庄四郎左衛門様
江越愛吉郎様

従長州下ノ関啓上仕候、然者最前其筋ゟ御掛合相成居候福岡右兵衛儀、大病之末、養生不相叶、今廿二日昼四ツ時頃相果申候、惣而者旅中之儀ニ御座候得者、到今夕取置仕候、将又左ニ書載之医師等ニも度々見舞有之候ニ付、挨拶等万端相済候ニ付、則明廿三日ゟ壱番越ニ而荷物其外為持小道具両人差越義ニ御座候間、御用之儀も御座候ハヽ、同人共可申上候、我々ニも明朝ゟ則爰元出立御達之通御追付申上儀ニ御座候、此段（ママ）様中私ゟ御届申上候、尚一類ゟ者別段御

届宜義と奉存候、此段早々申上候、以上
尚以、宿屋ゟも看病其外万端気を付到而親切ニ世話仕候、御本陣之者は不及申候

長州御ヒ
松岡雲庵
下ノ関住居
石井雲斎
小林長謙
同所旅籠屋
魚屋安右衛門

1395 安政六年九月二十五日　伊王島筒打火術方へ入門の事

一御火術方ゟ左之通相達候段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様
与四右衛門

此節、伊王島御筒打交代之人々名書、昨夜被差越致落手、則今日御番方相達置申候、惣而者、右名書之内、御火術方入門手数不相済人者無之哉、左候而ハ何歟申事有之候而ハ不相叶候条、入門之儀、一刻も申達置候方可然と相気付候条、今夜中ニも御調子合之上、名前御申遣可被成存候、尤何れも御手数相済居候得者無此上、右者為含爰許相気付候侭、及懸合儀ニ御座候、此段如此御座候、以上

九月廿五日

1396 安政六年九月二十六日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候

藤嶋吉之丞
松崎平太郎

去ル廿四日、伊王島出立之末、今夜帰着仕候段御届申上候

1397 安政六年九月二十六日　伊王島筒打火術方へ入門の事

一御火術方ゟ左之通相達候段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様
与四右衛門

御火術方ゟ呼出ニ而、此節伊王島交代被差越候人々名前書御番方ゟ相廻候所、別紙関省之丞、其外入門手数無之哉ニ相見、尤名替且者伊王島ニ而右手数相成居候哉、急速取調子達出候様被申聞候ニ付、右者省之丞其外名替之人も可有之、尤其内手数無之人も有之候ニ付、折角願出可申相心得居候段相達候所、右者一刻も願出相成候様、尤当時御穏便中ニ付、其手数出来可申哉難計候得共、一刻も願出ニ者相成候様被申達候、就而者昨日も態と及御懸合置候通、一刻も御取調子相成候名替其外之有無、且入門願出之人々早々御調子、明日出勤前御差越可被成候、此段為御懸合

如此御座候、以上
九月廿六日

1398 安政六年九月二十六日　好生館より問い合わせの事

一好生館ゟ左之通相達候段申来候
七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ而、別紙村田道樹其外名前之儀、当春御私領医師附出之内ニ者相見不申、右者存命罷在候哉、且者改名等ニ候哉調子合、早速達出候様、将又秋山其外之儀者先達而相達置候末、如何之調子合ニ候哉、急々相達有之候様、旁被申聞候間、無御延引御調子御差越可被成候、此段御掛合如此御座候、以上
九月廿六日

村田道樹
原口養碩
村田有山
辻　元策
松本春道
石田順三郎
秋山養逸
檀　文逸

1399 安政六年九月二十九日　伊王島出立の事

一左之人々、今廿九日ゟ伊王島出立仕段、御届申上候事
甘木伝八　　持永秀一郎　　深江藤右衛門
香田伝左衛門　　藤山一　　嬉野市左衛門
志波太郎右衛門　　江口甚右衛門　　安本源之助

1400 安政六年十月五日　北浦石火矢放出の事

一月次北浦石火矢放出有之

1401 安政六年十月六日　大久保村台場替に付達の事

一大久保村御台場替之儀、左之通申来候
七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

御本丸請役所ゟ則刻呼出ニ而、別紙写之通被相達候ニ付差越申候条、御落手、筋々御相達可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

一小城私領大久保村石火矢台場在来ニ而者遠丁相試難相成ニ付、当節御築割相成度、役筋ゟ達出相出候ニ付、役々見分委曲達出之趣、御当役御聞届、別紙絵図面之通、台場築立被仰付儀ニ候、就右費地代米等、左之通被差出義候条、此段筋々可被相達候
上戸田村

一田畠弐段五畝
　地米七斗六升四合
右者遠丁御台場床費地代米、年々乞筈を以被差出候
一鋪米壱石五斗
右者前断畝数弐段壱段ニ付、鋪米六斗当メ当壱ケ年本文之通被差出候
大久保村
一鋪米壱斗六升八合
右者在来五丁御台場床畝枚壱三畝拾三歩御不用ニ付、元作主江被差戻、開手間壱人ニ付米弐升五合、当ニメ本文之通鋪米被差出、左候而、右費地代米之儀、是迄年々乞筈を以被相渡候得共、追々被差戻候ニ付、当未秋迄右代米被渡下之、以上
　未九月十一日　　請役所
右之通承届候、以上
　　御火術方
　　勘定所
　　御蔵方
右御達之趣、承知仕候、以上
　　城島与四右衛門
佐保川嶋郷上戸田村壱丁御台場見取絵図
（口絵写真）

1402　安政六年十月八日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候
　　久本孫之允
去ル五日、伊王島出立之末、昨夕帰着仕候段、御届申上候事

1403　安政六年十月九日　伊王島より田代源之助ら帰着

一左之人々、去ル五日伊王島出立之末、昨夕帰着仕候段、御届申上候事
田代源之助
秀嶋大七
永橋金次郎
牟田清一
竹野次郎助
大石源蔵
高岸　亘
藤山利兵衛
神代志一
今泉兵五郎
水町惣五郎
篠原市太郎
中嶋兵之允
江口勝一郎
中尾神左衛門

安住岩之助
藤戸八三郎
三浦勇一郎
石田与三右衛門
馬場市弥太

1404 安政六年十月十日　好生館より問い合わせの事

一惣医師名前付出之儀、左之通申来候ニ付、名前差出相成ル

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ而被相達候者、先達而申達置候、当春惣医師名前付出被差出候内、別紙名前之人無之名者名替且死亡等之儀ニ候哉否取調達出候様有之候処、于今為何儀も不申達、急速調子合、明日中差出候様稠敷被申聞候間、早々可被仰越候、此段為御懸合如斯御座候　以上

十月十日

道碩親隠居　村田道樹
死亡　原口養碩
道碩与改名　村田有山
辻　元策
松本春道
石田順三郎
秋山養逸

檀　文逸

1405 安政六年十月十日　番方より問い合わせの事

一御番方ゟ問合之次第、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

御番方ゟ呼出ニ付罷出候所、去月廿九日ゟ甘木伝八其外并深川瀬兵衛、伊王島為詰被差越候段御達之末、付状とも差出置候末、甘木伝八其外ニ者同日出立ニ而彼地到着之上、右付状其筋差出、深川瀬兵衛ニ者付状而已ニ而本人到着無之ニ付、富岡弥一左衛門迄出張之御番方藤瀬孫太郎ゟ問合相成候由之所、瀬兵衛ニも追々到着ニ付、右之次第弥一左衛門ゟ調子合候所、御在所ニ而右出立之儀、来月朔日ゟと申儀、本人より者其筋江相達置候所、何れ之筋ニ而間違廿九日ゟ出立と達出相成候哉之旨、書取を以弥一左衛門ゟ右書付相添痛入之書付指出相成候段、彼地ゟ掛合越相成候、就而者何れ之筋ニ而右日限間違候哉、取調子達出候様、松永卯右衛門ゟ被申達候、依之爰許調子合候所、去月廿七日之御掛合ニ而前断伝八其外并瀬兵衛義、廿九日ゟ出立相成候ニ付、御切手其外夫々申乞指越候様、御紙面之旨を以為取計儀ニ御座候、就而者何れ之筋ニ而相間違居候哉、被御調子合否早々可被仰越候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十月十日

1406 安政六年十月十二日　伯父快方の為暇願の事

一於伊王島、左之通願出候末、今十二日帰着仕候段、御届申上候事

西川隼之助

願書付

私儀、御筒打被仰付、当島被差越置難有仕合奉存候、然所私伯父御本家手明鑓三井右太夫と申人、当島相詰罷在候所、不計大病相煩、危篤之体ニ有之、勤方不相叶ニ付、御暇奉願、今八日ゟ帰郷仕儀御座候、惣而者外ニ縁類之人も無之ニ付、私江介抱旁付副罷越呉候道者有之間敷哉、分而願相談無余儀次第ニ付、御場所柄在勤中難奉願御座候得共、御支所無御座候ハヽ、何卒立帰ニ乂、往来日数丈御暇被差出被下道者有御座間敷哉奉願候、此段筋々宜敷御相達可被下致御達候、以上

未十月八日　西川隼之助

富岡弥一左衛門殿

1407 安政六年十月二十一日　松平主殿頭死去の事

一於嶋原、松平主殿頭様御死去ニ付、彼之方御家老方ゟ此御方御家老方江為御知之白木文箱一到来ニ付、先以請取差出、追而御家老ゟ御悔状出ル

一筆致啓上候、然者主殿頭儀、当春以来持病之痾癪差発候上、胸痛ニ而塞強被致難儀、急々快験不相見候ニ付、伊達遠江守様御養方御叔父伊達主馬様養子被致願書差出被置、種々療養被指加候得共、次第疲労相増、終ニ養生不相叶、今十四日辰下刻被致死去候、右ニ付御悔御使者御音物者勿論、御飛札等之儀、自然御沙汰も御座候ハヽ、堅御用捨被下候様致度存候、右為御知為可得御意、如斯御座候、恐惶謹言

十月十四日　佐野十郎兵衛
星野善右衛門
松平十郎右衛門
松平勘解由

西造酒丞様
水野舎人様
園田玄蕃様
野口進之允様

1408 安政六年十月二十七日　富岡三太夫ほか淳一郎様銃錬稽古役の事

一御火術方ゟ左之通相達之段、昨夜西丸ゟ申来候

七兵衛様
四郎左衛門様　与四右衛門
愛吉郎様

富岡三太夫・常富百人儀、昨日淳一郎様御銃錬上覧之節罷出、御酒拝領被仰付候由、右御礼御使者被指出候様被申達候ニ付、御承知之日積を以此元ゟ御使者相勤申儀ニ御座候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十月二十六日

1409 安政六年十一月三日　古部久甫親久英死去の事

一左之通御届申上候
古部久甫親久英儀、病気之末不相叶、於大坂表去月十八日相果、昨二日申来、倅久甫儀者実父之忌中ニ付、一類立石庄兵衛ゟ御届申上候事
庄久右衛門
明四日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事

1410 安政六年十一月九日・十三日　伊王島詰仰せ付ける事

一左之通御当役被相達候
犬塚与三左衛門
持役ゟ御目付代として伊王島詰被仰付候
但組頭之心得有之候様
十一月十三日
一犬塚与三左衛門ゟ左之通願出相成候所、大殿様江伺之上、願之通被相済候
願口上覚
私儀、此節難有蒙御達、伊王島江出立仕儀御座候所、先達而大病後ニ而于今漉と無御座、依之片道且暫時為介抱倅新七郎儀、従者之内ニ召連度御座候間、支所無御座候半者、向三拾日御暇被為拝領被下候道者有御座間敷哉奉願候間、何卒願通被御聞啓被下候様、筋々宜御相達致御願候、以上
未十一月
犬塚与三左衛門
松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿
一左之通御届申上候
犬塚与三左衛門
明十四日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事
石動玄友
右同断

1411 安政六年十一月十一日　檀文逸・秋山養逸調査の事

一好生館ゟ呼出ニ而檀文逸・秋山養逸調子合之儀、左之通申来候
与四右衛門
七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様
好生館ゟ呼出ニ而、先達而ゟ毎々相達置候檀文逸・秋山養逸儀、御調子合如何之訳ニ相成候哉、于今達出も無之、反的ニ差支居候条、否早々御達相成候様被申達候間、早々御調子可被仰越候、此段為御掛合如斯御座候、以上
十一月十日

1412 安政六年十一月十六日　富岡弥一左衛門役免除願の事

一富岡弥一左衛門ゟ左之通願相成候所、願之通被相済候

願書附

私儀、当八月ゟ為伊王島詰被指越、彼地罷越候処、近年折節腰脚之痛毎々ニ付、色々是迄養生罷在候得共、一円快復之場ニ不相至、然処詰内当九月中旬頃ゟ前断之痛所又々相発り歩行甚以不自由、起臥其外別而難渋仕、御用向等時ニ勤方出来兼、併押立療治相整候半而追々快方ニも可相成と医師ゟも申聞候ニ任養生方精々罷在候半、十月下旬ゟ前断痛所只様指募り候上、左半身不随之症相発り地行之上弥増身体別而不自由ニ相重り、甚以相驚、早速療治方手を尽シ候而も、少も快際不相見、只様痛勢差募、延々相成候半ハ、既ニ帰郷も不相叶通ニ者相成間敷哉、医師ゟも申聞、自分痛苦之振合をも同様相考、自然其通共移行候而者御上御難題引出候儀眼前ニ付、右之次第同島出張之御番方筋申段候所、前断之次第病気之次第ニ付而者、早々引取可然、尤暫時無代之儀者彼表差支無之様取計之道可有之被申聞候ニ付、其筋手数申受、去ル二日ゟ彼表出立、同四日帰郷相整申候、就而者御場所柄、殊ニ御手前出張之人々頭取御手〻、且御番所をも御請持相成居候所、病気故と者乍申、御在所相伺候御手数等も不相整帰郷仕候旦り、甚以重畳奉恐入儀ニ御座候付而者、帰宅後少も快方不相見、只様病勢相増迚も急快之程無覚束、勿論医師ゟも緩々養生仕候通無之而ハ快気可致病ニ無之段申聞候、就而者是迄身分過当之御役儀数年難有被仰付置、御蔭ニ只今迄相勤罷在候得共、何卒御用立候儀も無之、就中前断之病気差出、乍残念何分ニも勤方不相叶候通罷成候条、近頃恐多奉存候得共、何卒被仰付置候御役儀被差免被下候道者有御座間敷哉、深重奉願候、於然者療治方緩々相整、全快次第ニ者今一応御用端ニて相立度御座候条、前断之次第、筋々宜御相達、願之通御役御免被成下候通御取扱之程、偏ニ致頼候、以上

富岡弥一左衛門

松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿

一左之人、病気ニ付、依願役方被成御免候事

富岡弥一左衛門

1413 安政六年十一月二十一日　戸田村御台場新道の事

一戸田村御台場新道建之儀、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

郷普請方ゟ即刻呼出ニ而、先達而達帳相成居候戸田村遠丁御台場新道建方として、来ル廿三、四日頃ゟ掛り大庄屋入込罷越候条、御私領方ニも兼而御承知之末ニ付、大庄屋元ゟ御私領御役々江及御掛合候条、立

会、御出張相成候様、石井喜右衛門ゟ被申達候、此段為御懸合各無御座候、以上

十一月廿一日

1414 安政六年十一月二十七日　檀文逸・秋山養逸調査の事

一好生館ゟ呼出ニ而、左之通相達候段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

好生館ゟ御呼出ニ付罷出候処、医師秋山養逸、檀文逸、此節医師名前之内無之、右者名替歟死亡歟、早速取調子、今日中も付出候様被申聞候条、早々御取調子為知可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十一月廿一日

尚以、本文之儀、先達而ゟ毎々御掛合仕候ニ付、遍ク御承知可相成居、殊之外差詰、早速達出候様被申達候条、早々為御知可相成候、以上

1415 安政六年十一月二十八日　井上流・武衛流内試の事

一於栄照庵的場井上流・武衛流御内試ニ付、野口新之允殿・川副増吉別勤候

1416 安政六年十二月三日　伊王島より帰着の事

犬塚新七兵衛

伊王島ゟ帰着仕候段、御届申上候事

1417 安政六年十二月五日　北浦石火矢放出被差延候事

一北浦石火矢放出被差延候事

1418 安政六年十二月八日　井上流・武衛流会試の事

一於栄照庵射場井上流・武衛流両所御会試被相整候

1419 安政六年十二月八日　檀文逸医師名前一件

一秋山養逸、檀文逸義、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

好生館ゟ医師秋山養逸・檀文逸、医師名前之内ニ無之、改名・死亡等ニ而ハ無之哉、早速取調子候様相達ニ付、及御懸合候処、右両人ニ者医業手数相済居不申候ニ付、医師名前之内ニ付出不相成旨御掛合ニ付、昨日同所江相達候処、今日、則刻呼出ニ而、文逸ニ者去ル己年免札申請居、尤右最寄頭取医師ゟ人柄付出相成居、右之運相付居候ニ付而者、医業いたし候儀不相叶

者ニ候得者、相渡被置候免札御取揚ニも可相成ニ付、弥其通ニ候哉と、一応取調子急速相達候様、且又監物殿被官ニ相違無之哉之処も相達候様、野口廣一ゟ被申聞候条否御取調子、早々可被仰越候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十二月八日

1420 安政六年十二月二十三日　火術方より呼出の事

一西丸ゟ左之通申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

御火術方ゟ則刻呼出ニ而被相達候者、藤山久太夫・常富百人御用之儀有之候条、明廿四日朝五ツ時御火術方被罷出候様、急速可被相達由候、此段為御懸合如是御座候、以上

十二月廿三日

1421 安政六年十二月二十九日・晦日　惣医師付出及び正月十三日開講の事

一好生館ゟ左之通相達候段申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

好生館ゟ別紙写之通、被相達候付差越申候、別紙書載之名前者最前惣医師付出、其御方ゟ被差越候通ニ付、別段不及書載候条、御調子合可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

十二月晦日

向正月十三日開講ニ相整儀ニ候条、朝六時出席相成候様、将又開業以上別紙書載之人々御酒被為頂戴儀候条、此段筋々宜被相達候、以上

未十二月廿九日　　好生館

1422 安政六年十二月晦日　三家参勤短縮の事

一御本丸請役所ゟ御家老呼出之義、左之通申来候ニ付、西造酒丞殿今朝ゟ本丸相成候所、御当役鍋上総殿ゟ左之通御書付御渡有之由

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

御本丸請役所ゟ則刻呼出ニ付罷出候所、御家老方之内、御壱人明晦日御城御出相成候様、惣而右者夕弁七ツ時頃御出相成可然旨、深江助右衛門ゟ被相達候、此段為御懸合如是御座候、以上

十二月廿九日

長崎表御守衛向、多年御誠実を被相尽候付、格段之訳を以、尚又当未年ゟ五ヶ年之間、三家共十一月参勤・二月御暇可被下旨被仰出候付、御警衛向之儀、弥無油断厳重被相備候様被仰渡候段者最前被相達置、依而五ヶ年之間、御手伝御用并席並御役等被仰付候

得者、御守衛向整兼候段被仰立候所、書面之趣無余儀相聞候筋ニ付、年限中先御役当者被仰付間敷旨、御附札を以被相達候
左之通、西丸ゟ左之通申来候
七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様
請役所ゟ別紙之通被相達候ニ付、差越候条、宜御取計可被成候、以上
十二月晦日

安政七年（万延元・一八六〇）

1423　安政七年正月八日　伊王島より帰着の事

一左之通御届申上候
深川瀬兵衛
去ル五日、伊王島出立之末、昨夜帰着仕候段御届

1424　安政七年正月十二日　檀文逸一件

一檀文逸一件、左之通、今又申来候
七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様
旧冬及御懸合置候右近殿被官檀文逸義、於御私領方ハ医業免札等も申請不相成人之由ニ候得共、右者最前頭取医師より名書郡方江差出相成、先年免札被相渡置候付而者、医業不致人ニも候得者、免札御取揚ニも不相成候半而不相叶、急速取調子相達候様、好生館ゟ相達之次第及御懸合置候処、于今為何義も無之、同所より呼出ニ而否相達候様催促有之、殊ニ明日反的惣医師開講出席ニも差構候儀ニ付、年内ゟ之取調子不行届段差詰被相達候条、此上ハ無延引差分候様御取斗可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上
正月十二日

1425　安政七年正月十四日　北浦石火矢放出準備整候事

一北浦石火矢放出、来ル廿日相整候段、達出有之

1426　安政七年正月十五日　御火術方より網猟願の事

一御火術方ゟ網猟願之義、左之通申来候
七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様
御火術方稽古人冨岡三太夫其外爰許罷出被申聞候者、今日火術方被罷出候処、秀島転其外七人御私領江網為猟罷越致相談有之、同人抔限ニ者何れとも難及挨拶、何卒被相済度被申達候間、可然御家扱被成度御座候、猶三太夫其外ゟ名書持参ニ而申立可相成候条、御承知可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上
正月十五日

1427　安政七年一月十九日　馬渡仁庵参府の事

一左之通御届申上候

馬渡仁庵

来ル廿五日ゟ江戸出立仕候段、御届

1428　安政七年一月二十日　石火矢放出の事

一北浦石火矢放出被相整候事

1429　安政七年二月二日　塚崎入湯願の事

一大坪作助ゟ左之通、御暇願申上候

私儀、痛所有之候付、塚崎江入湯仕度奉存候条、明三日ゟ九日迄日数七日御暇被為拝領被下度奉願候、以上

二月二日　大坪作助

1430　安政七年二月五日　石火矢放出の事

一北浦御台場石火矢放出有之

1431　安政七年二月五日　種痘方より種取問い合わせの事

一種痘方一件左之通西丸ゟ申来

七兵衛様　四郎左衛門様　与四右衛門

愛吉郎様

種痘方之儀、頃日其筋申入置候末、何日為種取差出候様、其筋ゟ相達相成儀ニ候哉、又者種痘人数付差出相成候上ニ而、右之達相成可申歟、末人数付相聴不申候処ゟ延引相成候得共、来ル七日共為種取罷出候通有之度、御当役御申候付、其取斗も出来候哉、委細御掛合之趣、致承知候、早速其筋罷出、前段之次第承合候処、末御吟味相聴居不申候付、如何共差図難致、何れ相決候上、彼役場ゟ呼出可相達旨、野口廣一郎ゟ被申聞候条、何れ相達之上者、早々可及御掛合、先以此段為御答如此御座候、以上

二月九日（ママ）

1432　安政七年二月七日　伊王島筒懸足軽帰着の事

一伊王嶋御筒懸り足軽塚原久兵衛其外弐拾五人、今夜帰着

1433　安政七年二月九日　番方より長崎手配について達

一長崎表御手配之儀、左之通申来候

七兵衛様　四郎左衛門様　愛吉郎様　与四右衛門

御番方ゟ呼出ニ而、長崎表御当番ニ付而者、追々御手

配帳を以、被相達儀ニハ候得共、右帳江戸表伺越相成居、今少々隙取候哉も難斗、一体者魚見岳等人数其外先年之通相替候儀も無之候条、其含ニ而御手配ニも相成居候様、多分閏三月中旬御番代ニも可相成候条、旁其御含相成居候様、枝吉三郎左衛門被申達候、此段為御掛合如斯御座候、以上

二月九日

1434 安政七年二月十二日　真田流砲術藤山沢右衛門の事

一文武方ゟ左之通、達出相成

私儀真田流砲術門弟取立方之儀、年罷寄何分難届合、依之師家元東嶋菅一郎江差遣、尤同人儀末幼年ニ付服部奥之丞・土井清左衛門江師家代為相整申候、此段致御達候

正月　　藤山沢右衛門印

文武方

1435 安政七年二月二十一日　川崎源一銃粗忽の扱いに付遠慮の事

一川崎源一ゟ左之通、遠慮御届有之候段、菅井ゟ申来候

去ル十六日、御次詰銃壱挺巻出シ候様、永橋助一殿ゟ被相下候付、別巻出シ差上可申筈ニ御座候処、当日御能御興行ニ付、御幕明且又拝見等も仕度御座候処ゟ手男政助江巻出シ呉候様相頼置候処、麁忽之取扱仕候由ニ而、右御銃相損申候、惣而者御品柄手男江可申付訳無御座、等閑ニ仕候処ゟ右之次第、今更深重奉痛入候、誠之引入遠慮仕候

二月廿日　　川崎源一

川崎源一ゟ遠慮御届ニ付而ハ、於我々も奉恐入儀ニ御座候

二月廿日

永橋助一
藤嶋専人
岩松鉄弥

川崎源一ゟ遠慮御届申上候次第ニ付而者、兼而之申合も不行届通り、於我々も甚奉恐入候

二月廿日　　南里千之助
江越吉太郎

去ル十六日、御次筒壱挺相詰リ居候を巻出シ候様、御渡被成候を、小屋ニ而巻出候砌、不斗石之上ニ取落相損申候、惣而者御品柄入念を可申筈之処、右之次第出来仕、今更重畳痛入候、依之引入遠慮仕候

二月廿日　　手男　和助
右同　熊次郎
右同　政助

二月二十三日

一左之通、去ル廿一日夜被成御免候段、菅井ゟ申来

遠慮被成御免候　　川崎源一
遠慮被成御免候　　和助

熊次郎
政助

1436 安政七年二月二十三日　引痘に付、相談罷越し候事

一引痘之儀、左之通西丸ゟ申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

先達而ゟ被及御掛合候引痘之儀、末済口相成居不申候哉、一刻も相啓候通、其筋示談相整候様、自然医師抔ゟも被相越内談等無之而ハ、啓合兼候訳ニも候ハ、　早々及御懸合候様、旁之趣致承知候、右者頃日ゟ日々及催促居候得共、諸方ゟ之願不被及手ニ、西目筋等者既ニ十ヶ年も相止居、其場所副も被罷越候手分相成兼候由ニ而、何分ニも出張之場ニ不相出由申事ニ而、今日迄ハ相分兼、気之毒之儀ニ御座候、就而者前段之振合ニ而表向付役亘りニ而者、兎角隙取申儀ニ候間、被仰越候通、医師中ゟ被相越、内談等有之方至極可然存候条、一刻も被相越候通御取斗被成度御座候、尚是迄之振合ハ、今明日亘りゟ大坪九郎右衛門相含可及御談候条、左様御御承知可被成候、此段為御答如斯御座候、以上

二月廿四日

1437 安政七年二月二十九日　相図稽古の事

一文武方ゟ左之通達出有之

口達

今廿九日於岡之前合図稽古打相整候条、右場所奉願候、以上

二月廿九日

文武方

富岡弥一左衛門

1438 安政七年三月三日　綾部新五郎アメリカ国航海一件言

一綾部新五郎儀、一昨年遊学被仰付出府之末、旧冬外国御奉行村垣淡路守様、亜墨利加国江航海被蒙仰候付、御同人様へ随従申込、御承知相成候付、去ル十八日ゟ御出船ニ付、一同出立仕候段、御届申上候、此段及御懸合候条、御当役方被達、大殿様可被達御聴候、恐々謹言

正月廿八日

日出嶋源兵衛
太田蔵人

馬場大丞殿
徳嶋健之丞殿
川副増吉殿

1439 安政七年三月五日　北浦石火矢放出の事

一北浦石火矢放出例之通有之

1440 安政七年三月十一日・十四日・二十日　調練の事

一於調練場、壱番手調練有之
三月十四日
一於調練場、弐番手調練有之
三月二十日
一於調練場、三番手調練有之

1441 安政七年三月十二日　免札無き医師の配剤禁止の事

一御本丸請役所ゟ医師一件左之通申来候
七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様
請役所ゟ呼出ニ而、別紙之通達帳を以被相達候ニ付、差越申候条、宜御取斗可被成候、此段為御懸合如此御座候、以上
三月十二日
医術之儀、人命ニ預り大切至極之業柄ニ付、猥ニ配剤等不致様、先年医師中一統御試之上、開業免札被相渡置候処、間ニハ無其儀、執匙配剤等いたし居候向も有之哉ニ相聞、不可然義ニ候条、急速差留相成、左ニ而其段、好生館達出相成候様被仰付儀ニ候条、此段筋々相達候、以上
申三月九日

1442 安政七年三月十五日　伊王島・魚見岳詰仰せ付ける事

一於小松間、御当役西造酒丞殿、左之通被相達候、列席例之通
園田半十郎　　長崎講四郎　　北川弥一郎
川浪徳一郎　　土山文九郎　　太田又之允
野副甚三郎　　高木亦四郎　　兵動新太郎
峯清左衛門　　納富弥一郎（実弟）　　綾部健一郎
野口虎之進　　松田文八郎
伊王島詰被仰付候
前田文啓
右同断
山本種市　　鴨打利兵衛　　吉嶋要左衛門
横尾太郎左衛門　　八十嶋健八郎　　藤嶋益助
魚見岳詰被仰付候
右近形右衛門
持役ゟ伊王島銀方被仰付候

1443 安政七年三月十五日・十九日　小田大町で種取の事

一好生館ゟ呼出ニ而引痘の儀、左之通申来事
七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

好生館ゟ即刻呼出ニ而、当正月御願出相成居候御私領引痘之儀、被相済候条、得其意候様、惣而者来ル十九日為種取、小田大町之方へ拾人程差出相成候様、同所寺ニ而有之居候得共、名元相分兼候得者、同所ニ而尋有之候様、旁懇ニ被相達候

一右之末、於御館下植方有之候場所、且手助相整候医師名前書、早速達書相成候様、旁被申達候条、左様御承知無御延引為御知可成候、此段為御掛合、如斯御座候、以上

三月十五日

猶以、本文之儀ニ付、昨夜御懸合致承知候、折角罷出候半右之通御座候、惣而者十九日為種取罷越候節ハ、医師ゟ付添被差越候儀ハ不能申越候、已上

1444 安政七年三月十六日　伊王島・魚見岳詰仰せ付ける事

一於小松間、御当役西造酒丞殿左之通被相達候、列席例之通

原口猪之助

伊王島詰被仰付候

船津権太夫

竹野次郎助

魚見岳詰被仰付候

1445 安政七年三月十八日　引痘方手助医師名書上の事

一好生館ゟ呼出ニ而、御匙名前付出候様、且又引痘方手助相成候医師名書をも早速付出候様、相達之段、西丸ゟ申来候

1446 安政七年三月十九日　原口養虎種取に罷越候事

一引痘方為種取小田大町江原口養虎罷越候様相達

1447 安政七年三月十九日　好生館へ御匙名前村田道碩ら提出の事

一好生館へ御匙名前、左之通付出相成ル

村田道碩

相良柳沢

宮崎元益

1448 安政七年三月二十日　御匙名前并引痘方医師名書上

一御匙名前并引痘方之儀、左之通申来

七兵衛様

四郎左衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

御匙名前被差越、今日好生館へ相達置申候、将又、原口養虎・中嶋需安、当分御匙御雇与申儀、表向達

出不申候而も可然御申合候得共、達出候ハ而不相済義ニ候ハ、、宜取計旨、御紙面ニ付爰許申合候処、矢張御雇之名儀ニ而相達置候方可然存候付、名前書差出置申候、惣而種痘方ニ付、福智院江入込之儀、其内呼出何日与申儀可被相達由御座候条、左様御含被成候、此段御答旁、如此御座候以上

三月廿日

四郎左衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

1449　安政七年三月二十一日　伊王島出立日取り決めの事

一左之通、附役ゟ大組代江相達

伊王島出立日限之儀、以来廿八日ニ御取極相成候事

但、小ノ月ハ廿七日ニ出立之事

一左之通被仰付旨、御当役御用繁ニ付、相談役徳嶋健之丞江相達

佐野市郎左衛門

伊王島詰被仰付候

三月二十二日

一左之通被仰付旨、御当役御用多ニ付、相談役達

犬塚新七郎

大木吉太郎

伊王島詰被仰付候

1450　安政七年三月二十二日・二十六日　種痘の日程の事

一好生館呼出ニ而引痘方之儀、左之通相達之段申来

七兵衛様

好生館ゟ即刻呼出ニ而、御私領引痘之儀、去ル十九日種取相成候付而者、来ル廿六日植方式日相当候得共、多久私領罷出候付、此節者一日引揚、廿五日ニ植方相整申儀ニ付、其心得いたし候様、素り右引揚七日目引痘之儀、当一会丈ケニ而、其後ハ定例之通八日目種痘被相整趣ニ御座候、惣而前断出張之儀、廿四日晩より入込可相成哉者、未決着出来兼候由、依趣者、廿五日朝被相越候儀も可有之、且又、右出張ニ付、駕籠舁人足之儀、牛津之方江継立可相成歟、又者名原ニ而継立可相成歟、出張之人今日迄何某と申儀相分り不申ニ付、難取極候間、牛津・名原両方江人足御手配相成居、左候而、召仕之者走り越相通候節、早速間ニ合候様、御申付相成居度旨、示談有之候、将又引痘人数差出書、明日も差出候様、旁被申聞候条、無間違可被差越候、此段為御懸合、如此御座候、以上

三月廿二日

猶以種痘場所福智院与申儀者相達置申候

別啓

駕籠舁人足牛津・名原江御手当相成居、役之者体何某江釣合相成可然哉、是又早々為御知可被成候、其段者仰越之上、好生館へ相届置候半而相叶間敷候条、左様御承知可被成候、以上

1451 安政七年三月二十四日　手伝医師増依頼の事

一好生館ゟ引痘方手伝医師之儀、左之通相達有之候段、申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

好生館ゟ即刻呼出ニ而、引痘手伝医師之儀、別紙之通、村田道碩其外江被仰付、達之儀ハ呼出可相整候得共、遠方之儀ニ付、明日出張之医師ゟ承知有之候様、惣而明日ハ何れも相揃罷出被居候様、已来ハ四人充出張相成候得者且旨御座候、諸方共四人充ニ而相済候得共、此御方之儀ハ、御匙勤も有之候付、六人被仰付旨も被申聞候、将又、昨日御懸合被成候、今日ゟ出張之有無相尋候処、中野元立、今夕ゟ出張相成趣ニ御座候、此段為御懸合如此御座候、以上

三月廿四日

猶以、四条刈通之趣ニ付、人足之儀ハ用意有之居候様、同所勝右衛門宅江飛脚之もの立寄候様申合置候条、左様御心得可被成候、以上

村田道碩
佐野文仲
宮崎元益
菊池宗垣
原口養虎
中嶋需安

1452 安政七年三月二十五日　福智院にて種痘の事

一於福智院種痘有之

1453 安政七年三月二十六日　園田半十郎火術方入門の事

一園田半十郎御火術方入門之儀、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

当節、伊王島詰被差越候内園田半十郎義、御火術方入門無之ニ付、其筋申入於伊王島入門式相成候様取扱度段、御掛合之趣致承知候、依之早速御火術方江相談候処、一応者程能聞取相成候末、今又早速呼出ニ而被相達候者、一体去春達帳を以御番方ゟ被相達置候通、御筒打之儀者御番方江前広人々被相達候上、御火術方之方ニ而調子合相成御手筈前ニ付而者、右之通明後日出立ニ今日差掛り、右様之義被相願訳も無之、何れ前廉其運無之而不相叶、甚不詰之趣被差詰、併其分ニ而者不相済候付、何れ明日入門無之而不相済候条、半十郎儀、四時御火術方罷出、右手数有之候様被申聞候間、一刻も爰許まて被罷出候様御取計可被成候、惣而彼役場ゟ被申聞候通、去三月達帳相成候末と申、去十月交代之節も吉本五六其外入門式無之候処、伊王島ニ而入門之儀其節迄と申訳ニ而相済居候末、此節之儀、今更何れとも難取計候条、何卒本人

入門被罷出外有之間敷存候間、一刻も其御取計可被成候、此段御答旁為御懸合如此御座候、以上

三月廿六日

一西丸ゟ左之通申来候

七兵衛様

四郎左衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

園田半十郎始拾九人伊王島詰為交代、来ル廿八日ゟ被差立候付、交代名前書、員借人馬願、従者付御切手乞出共被差越致落手、御切手并員借とも今日ハ相済不申、何れ明日済次第差越可申候条、手男壱人受取として差越可被置候、惣而者伊王島詰続之人々名前、当節不被差越、此節引取之人々名前而已有之、右ニ而者御番方付状相渡申間敷候条、明朝迄之内御取調子可被差越候、将又足軽共人馬員借此節者入用無之候哉、去十月出崎之節者馬六疋願出有之候付、此節も右之畢竟を以願出置、右者余慶(ママ)相成候共不苦儀ニ付、願出所、若哉間落等ニ而後達而被仰越候而者手数間ニ合兼候付、右之通取計置申候条、左様御承知可被成候、此段御答旁如此御座候、以上

三月廿六日

尚以、本文詰続之儀、足軽共ニも同様ニ付、是又御書載可被成候、以上

三月二十七日

一園田半十郎、其外明廿八日ゟ伊王島江出立仕候段、御届申上候事

一伊王島詰出立之儀、差延候様、御番方より被申達候段、申来候

七兵衛様

四郎左衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

園田半十郎其外御切手三紙并員借人馬切府弐紙相済候付差越申候、惣而者御番方附状為申請、昨日名前書差出候処、今日為請取罷出候様と申聞置候末、猶又呼出相成候付罷出候処、前断交代名前之儀、早速御火術方差廻置候処、未調子済之儀達出無之、附状等差出候場ニ不相至、明日より出立之儀ハ見合相成候様、右ハ昨年三月達帳ニも相成居候通、彼地詰御筒打之義、前広ニ名書差出相成、左候而御火術方ニおゐて調子合相成候通被仰付置候ニ付而者、差懸り御達出相成訳無之、無余儀彼役場調子合不相届内ハ御申付ニも可相成筋ニ無之、昨年十月之節も差掛り致手継候付、其砌も一ト通ハ相達置候処、又々差懸り前断之次第、一体達帳通り不被相行処ゟ右之振合ニも移行候段不相済儀ニ付、已来者達帳通り前広名書等被差出、御火術方調子合相済候上御申付ニも相成候通無之而不相叶、右達帳慥ニ爰許請判ニも相成居候処、如何之間違ニ候哉、為念尚又致一覧候様と之儀ニ而持出見セ被申候、惣而明日之所ハ出立見合ニも可相成義ニ候得共、御火術方調子合左程日間取候事ニ而も有之間敷、旁右様相心得可被申旨、松永外右衛門より被申達候、就而者右達帳之儀、其砌早速為及御懸合置儀ニ者候得共、尚又爰許控之写為念差越候条、得と御

承知ニも相成居度御座候、此段為御懸合如此御座候、以上

三月廿七日

猶以、今朝被差越候詰続之人名前之儀も慥ニ請取、早速其筋差出為置義ニ御座候、以上

伊王島詰御銃打小城・蓮池家来詰替之節、聞番ゟ出立之日限書載、役内江名書差出、附状被相渡来候得共、向後之儀、右名書前広差出候様、左候而於御火術方調子合相成候通被仰付義ニ候条、此段筋々可被相達候、以上

未三月十四日　　御番方

右ニ付、伊王島出立被差延候事

1454 安政七年三月二十八日　園田半十郎伊王島出立の事

一園田半十郎其外伊王島出立之儀、左之通申来候付、明廿九日ゟ出立相成ル、但足軽共迄

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

園田半十郎其外今廿八日ゟ伊王島江出立ニ付、御番方附状之儀、彼是御贈答之末、可成丈今夕汐ゟも乗船出立相成候通有之度申合ニ付、其筋取扱候様御懸合之趣致承知候、早速御番方罷出及示談候所、漸御火術方ゟ調子相付達出相成候由ニ而、附状被相渡候付、即差越申候条、宜御取計可被成候、尤右付状之儀、明日ゟ出立之積ニメ申請置候条、出崎之人々其心得相成居候様有御座度、旁可然御取計可被成候、此段早走を以及御懸合候、以上

三月廿七日

1455 安政七年三月二十九日・二十六日　種痘日程の事

一好生館ゟ呼出ニ而、引痘の儀、左之通申来事

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

好生館ゟ呼出ニ付罷出候処、先達而於福智院種痘相成居、右者八日目来月二日出張可致之所、一日引揚七日目来月朔日植方被相整筈ニ候条、手伝医師并種子且又植方致候者共其心得相成居候様被申達候条、筋々宜御取計可被成候、以上

三月廿九日

尚々種痘いたし候者惣名書差出候様被申達候条、是又宜御心得御調子之上、急速可被差出候、以上

1456 安政七年三月晦日　伊王島出立の事

一左之通、御届申上候

右近形右衛門
横尾代蔵
江口平次

明朔日ゟ伊王島江出立仕候段、御届申上候事

1457 万延元年六月朔日　松隈玄洞御礼の事

一右畢而（当日の御礼）帰宿之御礼、左之通

従大坂帰宿之御礼　池田彦兵衛

従江戸帰着之御礼　松隈玄洞

1458 万延元年六月九日　江口平次跡式の事

一江口平次江跡式御達之義、同人当時伊王島詰罷在候ニ付、同所詰御目付高木勘解由ゟ相達相成候様、御書付差越相成候処、五月廿八日相達相成候旨、六月九日申来候小頭江口平次へ亡父重七跡切米、無相違為執候条可申聞者也

1459 万延元年六月一三日　北浦台場へ出勤の定

一左之通申上相成ル

月次北浦御台場石火矢放出之砌は、一統別勤ニ而致出張候通、最前御治定相成居候得共、四ツ時以前相済出勤刻限間ニ合候節ハ、何れも致出勤方可有御座候事

1460 万延元年六月十八日　山内郷引痘五五一人の事

一山内郷引痘願有之ニ付、西丸差越

口達

山内郷引痘人数五百五拾壱人

右前方畢竟古湯村・中原村・上熊野川村三ヶ所ニ而引痘相整度、且又可相成筋ニ御座候半者、引痘手伝別紙之人々被仰付被下候様、筋々江相達致御頼候、以上

申六月　富岡九郎左衛門

斉藤玄周

北嶋天民

牟田甚安

松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

江越愛吉郎殿

（中略）

一山内郷引痘願済之義、左之通申来候

七兵衛様　四郎左衛門様　愛吉郎様　与四右衛門

山内郷引痘之義、御目代ゟ別紙之通達出相成候条、前方比竟其筋達出候様、惣而別紙名前三人江手伝被仰付度、是又可然取計明後廿一日福智院引痘式日ニ付、申談之都合も可有之ニ付、早々其筋達出候様、御掛合之趣致好生館江今日別紙之通相達置、手伝医師之義も斉藤玄周・北嶋天民・牟田甚安相達候処、其通無之而相済間敷、惣而明廿一日植方之儀、芦刈筋之

者由ニ而人数何程可有之哉、三拾余も有之候得者、山内郷種取之者、又之式日ニ可相整、右人数も無之位ニ候得者、乍遠郷も明日罷下り候様、手当相成度明日出張之医師松尾栄仙ゟ被申聞候由、何れニメも同人出張ニ付、手伝医師其外之義、尚申談可相成由ニ付、御相談可被成候、此段御否旁為御掛合如此御座候、以上

六月廿日

鍋島内匠頭内

藤井銑太郎

竹内良輔

羽田勝蔵

香田文裁様

以手紙致啓上候、薄暑之砌御座候得共、弥御安泰被成御座、珍重奉存候、然者医術御請持之趣致承知候間、以来家中下々迄療治御頼被申度、乍御苦労時々御立入可被下候、依之乍些小御出入扶持月ニ三人扶持被指出候条、左様御承知可被成下候、此段可得意旨、内匠頭被申候付、如斯御座候、以上

四月廿九日

1461 万延元年六月二十二日　香田文哉、餅木家へ出入・扶持拝領の事

一今朝江坂ゟ之文箱到着、右便ニ而左之通申来候

香田文哉義、伊東玄朴様御塾詰罷在候処、今度内匠頭様ゟ御出入扶持被下度、前廉川副増吉迄彼之御方御用人竹内良輔を以、右御相談、同人限聞置呉候様被仰含候旨、示談相成候末、別紙写之通、手紙ニ而三人扶持被下候段、同人ゟ達出相成申候、此段為御懸合如此御座候、恐々謹言

五月廿二日

伊東又右衛門

村岡権左衛門

松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

江越愛吉郎殿

追而本文之義、委細太田蔵人方へ川副増吉ゟ先便ニ而内状ニ而懸合越相成候由ニ付、定而御承知相成義と存候、以上

1462 万延元年六月二十七日　石火矢会試御出の事

一今朝六半時、御供揃ニ而石火矢為御放出会試被遊御出候

1463 万延元年六月二十八日　学館にて文学試験の事

一今日於学館、文学御会試被相整候

但、医学之義は御断ニ付無之

1464 万延元年六月二十八日　伊王島へ足軽派遣の事

一伊王島江交代足軽被差遣候

1465 万延元年七月八日　田尻家より石炭掘願の事

一右近殿家来江口城太夫より左之通願出候処、願之通被相済候

奉願口上覚

右近殿勝手向差支ニ付、為仕詰知行所大久保村之内ゟ石炭掘方被相整度被存候ニ付奉願候条、御吟味之上、御支所無御座候半者、何卒願之通堀方被差免候様御届候、宜御相達可被下儀、深重御頼仕候、以上

六月　　江口城太夫

松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

江越愛吉郎殿

本文石炭掘方願出之場所遠見分村方支之有無取調子候処、差支無御座、一体人別より者田畑手募村方柄ニ御座候得者、小百姓共作間を以、炭方之枠相整候半者、御蔭ニ相凌之所ニも可相成、且又村方補銀等を以、永々之為相成候様、村仕法をも相立置度、素り炭置場其外否除不相成候通相整候趣ニ御座候条、願之通被差免方ニ者有御座間敷哉、於役内吟味仕候条、猶宜被遂御評議候、以上

申八月　　山代郷　地方

1466 万延元年七月一六日　親看病に付、伊王島より弟を帰らせたし

一持永九郎太夫より左之通願出相成候処、願之通被相済候

口達覚

私親新次郎儀、先達而ゟ病気相煩、老体之儀ニ而甚危篤之病之趣、医師よりも申聞候、然処弟持永秀一郎義、伊王島詰被仰付置候ニ付而は、自侭之御願申上兼候得共、前段之次第ニ付罷帰看病等為仕度奉存候条、何卒格別之御吟味を以、一先帰郷被仰付被下度奉願候、此段筋々宜敷御相達致御頼候、以上

七月　　持永九郎太夫

松崎七兵衛殿

本庄四郎左衛門殿

江越愛吉郎殿

1467 万延元年七月一七日　伊王島詰仰せ付ける事

一於小松ノ間、御当役左之通被相達候、列席例之通

馬場市弥太

伊王島御番所詰被仰付候

1468 万延元年七月一八日　山内郷種痘手伝い医師の事

一好生館ゟ呼出ニ而、山内郷引痘手伝医師之義、左之通相

達之段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

好生館より此元呼出ニ而、山内郷引痘手伝医師北島天民・牟田忠安江被仰付候段、御聞届相済候旨ニ而相達相成候、尤本人々々江之達シは出張之医師達帳持参相成、於場所相達相成筈ニ付、来ル廿一日熊川村罷出被居候様ニ而有之候条、宜敷御取計可被成候、惣而先日も御掛合相成居候斉藤玄周故障有之被相省候段は、早速同所可相達之処、間落相成、昨夜尚又御掛合付、其段相達候処、相省可然尤御聞届ニも相成居候ニ付、跡達而書取差出候様有之候付、其取計致義御座候、前段間落ニ而ハ御否及延引恐入義ニ御座候、此段御答旁如此御座候

七月十八日

1469 万延元年七月一九日　馬場市弥太、伊王島出立の事

一左之通御届有之

馬場市弥太

明廿日より伊王島へ出立仕候段、御届申上候事

1470 万延元年七月二十一日　石火矢放出の事

一於北浦、石火矢放出ニ付、何れも別勤、但去ル五日、御停止中ニ付被差延置候末也

1471 万延元年七月二十五日　伊王島より帰着の事

一左之通、御届有之

持永秀一郎
高木亦四郎

去ル二日、伊王島出立之末、昨廿四日帰着仕候段、御届申上候事

1472 万延元年七月二十五日　伊王島より暇願

一持永秀一郎義、於伊王島左之通願出候所、願之通被相済候段申来候

口上覚

私儀、伊王島為御番所詰被指越置、難有相詰罷在候処、不計先日ゟ脚気種々症相煩、色々療養手を尽候得共、日々増稠敷相成、只様致衰弱、一円薬切不相見、唯今之様子ニ而者、急快之程難計医師ゟも申聞、甚以案痛之参懸りニ御座候、依之御場所柄詰容易ニ難奉願御座候得共、前断之次第ニ付、乍残念詰方御断無交代ニメ引払被仰付被下道者有御座間敷哉、一向奉願候、於然御蔭ニ宿元罷帰、緩々養生相加、御重恩尚更難有奉存候条、御支所無御座候ハヽ、何卒願之通被仰付被下候様、筋々宜御相達可被下義、深重奉願候、尤別紙医師手形相副指出申候、以上

申七月

持永秀一郎

高木勘解由殿

1473 **万延元年七月二十七日　看病のため暇願**

一秀嶋隼人ゟ左之通願出候処、願通被相済候段、同人江相達

願口達

私儀、母親昨年ゟ大御前様御附被仰付、御重恩難有仕合奉存候、然所罷出懸ゟ不快勝ニ而、徐々勤方出来兼、実ニ奉恐入候、其上、当春以来半身不随之様有之候付、先月半頃ゟ御暇相願、古湯村之方罷越入湯仕、彼是療養相加候得共、一図快方無御座、何分近日之内出勤仕候気体無御座、左候而者弥ヶ上御用支ニも可相成、至極奉恐入義ニ御座候、依之近来自侭千万難奉願御座候得共、御暇被為拝領被下度、於然者御蔭尚又緩々養生為仕度奉願候条、格別之御仁評を以、願之通被仰付被下度、此段筋々宜御相達可被下候、以上

申七月　　秀嶋隼人

松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
江越愛吉郎殿

1474 **万延元年八月三日　伊王島詰仰せ付ける事**

一於小松ノ間、御当役左之通被相達候、列席例之通　藤山久太夫

伊王島詰被仰付候

1475 **万延元年八月五日　北浦にて石火矢放出の事**

一北浦石火矢放出有之

1476 **万延元年八月七日　林雄民へ伊王島詰を命じる事**

一於小松間御当役左之通被相達候、列席例之通　林雄民

伊王島詰被仰付候

1477 **万延元年八月八日　牟田進作伊王島詰免除願いの事**

一於伊王島、左之通願出候処、願之通被相済候段申来候

願書覚

私儀、伊王島為御筒打被指越置、難有相詰罷在候処、不計先日より脚気種之症相煩、色々療養手を尽シ候得共、日ニ増稠敷相成、只様致衰弱、一図薬功不相見、只今之様子ニ而は何分急快之程難計医師ゟも申聞、甚以案痛之参懸ニ御座候、依之御場所柄詰容易ニ難奉願御座候得共、前段之次第ニ付、乍残念詰方御断無交代ニメ引払被仰付被下道は有御座間敷哉一向奉願候、於然者御陰ニ宿許罷帰り、緩々養生相加御重恩尚更難有奉存候条、御支所無御座候半者、何卒願之通被仰付被下候様、筋々宜御相達可被下義、深重奉願候、以上

申七月　牟田進作
高木勘解由殿
一左之通御届有之
牟田進作
脚気種之症相煩候付、帰郷相願、去ル廿九日伊王島出立之末、今晩帰着仕候段、一類を以御届申上候事

1478　万延元年八月八日　医師免札取り納めの事

好生館ゟ呼出而、左之人々免札之儀、江戸詰之由ニ而不被相納、右者帰着相成居可申候間、早速納方有之候様、被相達候、此段為御懸合如此御座候、以上
八月八日
相良柳沢
馬渡仁庵
前田文啓

1479　万延元年八月九日　伊王島詰を命じる事

一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通
松井小三治
石動仁太郎
大石次郎左衛門
水尾小十郎
山田武一
安本蔵人
中島源一郎
横尾庄左衛門
中尾神左衛門
田代希一
東与七
藤戸八三郎
永橋太兵衛
三浦勇一郎
安住岩之助
野口安之助
石田右八
牟田清一郎
卯兵衛二男
森幸之進
平太夫弟
稲増弥三郎
伊王島詰被仰付候

1480　万延元年八月九日　病に付、伊王島より帰郷の事

一左之通、御届申上候
前田文啓
脚気種之症相煩候ニ付、帰郷相願、去ル六日伊王島出立之末、今夜帰着仕候段、御届申上候、以上

1481　万延元年八月十一日　伊王島出立の事

一左之通、御届有之

林雄民

明十二日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事

1482 万延元年八月一二日　伊王島詰仰せ付ける事

一於小松ノ間、御当役左之通被相達候、列席例之通

与三左衛門二男
大塚登之助
次兵衛弟
吉田新吾

伊王島詰被仰付候

1483 万延元年八月十二日　火術方入門に付、伊王島詰人員調査の事

一水尾小十郎其外、御火術方入門并伊王島御減人之都合、左之通申来候

七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

伊王島交代名前之内、水尾小十郎・野口安之助御火術方入門之義相達候処、当時上様御忌中ニ付、神文之手数如何致可然哉、役内吟味合可相達能々手数出来兼候得者、無拠伊王島出張之上、彼地ニ而手数相成外有之間敷、右之亘り差分り候上可申達由ニ御座候、猶又御番方江出張名前指出候処、定而詰続之人々も可有之ニ付、足軽迄之処、右名前差出候様申事ニ御座候条、御調子早々可被差越候、此節交代日限御引揚相成、廿三日頃より出立之振合者御懸合之通、委細及演舌置たる義ニ御座候条、右様御承知可被成候、此段、為御懸合如是御座候、以上

別啓

御番方附役本吉治部右衛門ゟ内々被申聞候者、伊王島詰御筒打人数之内、此節御減人相成筈ニ而、折角御吟味中之由、右者此御方ゟ侍通八人計、足軽通ハ彼地江拾六七人相詰候通可相成、昨日亘り御聴達相成筈ニ而、いまた調不調之義者不相分候得共、当分其通可相成、就而は此節為交代被指越候以前も差極候ハヽ、御弁利之筋ニも可有之候得共、其以前決着之程不相分、御本方交代之儀者来月十五日ニ付、右ニ当テ押出候儀共ニ者有之間敷哉、左候得は、此節此御方出張之人々暫時ニ而引取相成候様ニも可相成、御費之儀も可有之候得共、致方無之、成丈出張前ニも相決候様差合可申由ニ御座候、魚見岳之処者鹿島詰之分御減人相成、此御方・蓮池之処者打追之人数被差出候半而不相叶由、訳者鹿島之方沖島詰守衛方ニ付、同所御減難相成ニ付、無拠魚見岳ゟ被相減候様相成義ニ候旨、沙汰有之候、御気組ニも可相成ニ付、此段為御知候、以上

1484 万延元年八月十三日　火術方より呼出の事

一御火術方ゟ呼出ニ而、伊王島詰御筒打并来ル十五日同所砲術有之旁相達候段申来候

七兵衛様　　富岡三太夫
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様

御火術方ゟ此許呼出ニ而、別紙名前之人此節伊王島詰之内付出相成候処、未入門之手数相見不申候、名替等ニ而も有之候哉、急速調子合達出候様

一水尾小十郎・野口安之助入門願之義、其通相済居候得共、神文手数之義ハ当時御慎中ニ付、手数難相成、廿三日亘りゟ出立相成候趣ニ付而は、迚も此許ニ而其手数相成兼、何れ伊王島之方ニ而被相整候通可致候得共、手数引渡之儀者於此地無之而相叶間敷候条、来ル十六日七日間被罷出候様被相達候

一来ル十五日、於御火術方砲術有之候付、二段御相伝之人朝五ツ時迄之内、御火術方罷出候様、惣而表向相達ニ者難相成候得共、伊王島御筒、其外小城・蓮池共被相任候様、御火術方ゟ申立相成居、右ニ付而者色々玉其外心得ニも相成候義有之候条、是非同日無間違被罷出候様被申達候、右者富岡三太夫此許罷出被居ニ付、申談相整置候得共、猶又其節御相達可被成候、右旁御火術方ゟ被相達候条、可然御取計可被成候、此段旁為被懸合如斯御座候、以上

八月十三日

伊王島詰被仰付候　　富岡三太夫

一御火術方ゟ呼出ニ而、左之通相達候段申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

御火術方ゟ則刻呼出ニ而、左之人々明後十六日五ツ時御用之儀候条、同役場被罷出候様

富岡三太夫
犬塚新七郎
小野田何馬

右之通ニ候得共、新七郎義者、当時伊王島詰之由、右者追々帰郷有之候上ニ而被罷出候様、旁被相達候

一明十五日御火術方ニ而砲術有之ニ付、二段相伝之人被罷出候様相達置候得共、右者延引相成候ニ付、出席不相及旨被相達候、右旁相達ニ付、態度為御懸合如此御座候、以上

八月十四日

八月十五日

一御火術方ゟ左之通相達之段申来候

七兵衛様　　与四右衛門
四郎左衛門様
愛吉郎様

御火術方ゟ呼出ニ而、明十六日砲術有之候条、二段相伝之人出席有之候様、右者心得ニも相成候玉製作之儀ニ付、無間違被罷出候様被申達、一体一昨日及御懸合置候通ニ御座候条、其節御手当可被成候、此段

1485 万延元年八月十四日・十五日　火術方より呼出の事

一於小松間、御当役左之通被相達候、列席例之通

為御懸合如此御座候、以上

1486 万延元年八月十五日　医師へ弁当料支給の事

一好生館ゟ左之通相達之段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

好生館ゟ呼出ニ而、昨年来於御私領引痘之節、手伝ニ罷出候人江弁当料別紙之通被相渡候

一相良柳沢・前田文啓免札之義、如式不快等ニ而被罷出候儀不相叶候半者、一類ゟ持出相成候而も不苦候条、一刻も相調候様被相達候、右旁被相達候付、及御懸合候条、宜御取計可被成候、以上

八月十五日

1487 万延元年八月十六日　伊王島詰合力金の事

一左之通達出相成ル

出立ニ付御合力

一金弐両弐歩　平士
一同壱両壱歩　副士

詰中月ニ御助勢

一金弐歩　平士
一同三朱　副士

伊王島・魚見岳詰被仰付候面々支度料、其外之義、去ル嘉永七寅年委曲被相達置候末、此節右之通被仰付義ニ候、尤□度支度料之義ハ、是迄之通被指出義ニ候条、可被得其意由候、以上

申八月

右承届候、以上

御目付附方
御蔵方
伊王島銀方
勘定所

1488 万延元年八月十六日　蓮池聞番より伊王島詰交代の月について永談の事

一蓮池聞番より左之通永談有之候段申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
愛吉郎様

与四右衛門

蓮池聞番ゟ永談有之候者、伊王島交代之義、当年ハ閏月も有之候ニ付、来月十五日交代之積ニ御座候条、其通相心得候様申事ニ御座候条、右様御承知可被成候、此段為御懸合如此御座候、以上

八月十六日

1489 万延元年八月十七日　番方より伊王島詰人員について火術方調べの上差し支えない報知の事

一御番方ゟ呼出ニ而、左之通相達候段申来候

七兵衛様

四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様
御番方ゟ呼出ニ而、伊王島為詰、此節被差越候人々、御火術方調子相整候処、差支無之旨被申達候、此段為御掛合如斯御座候、以上
八月十七日

1490 万延元年八月十七日　脚気流行に付、伊王島筒打減人の事

一伊王島御減人之都合、今又左之通内達有之候段申来候
七兵衛様
四郎左衛門様　　与四右衛門
愛吉郎様
伊王島御筒打御減人之次第、本居治部右衛門ゟ沙汰有之候付、為御心得頃日及御懸合置候末、今日則刻呼出ニ而同人ゟ被申聞候者、一体者御減人相成筈ニ者候得共、当今之処ニ而其通難相成訳ハ、神嶋御筒・香焼詰之人ニより請持相成吟味ニ候處、同所之義、当時流行之脚病症数拾人相煩、引取相成居、快気之上追々出張稽古方等も有之、一通打合候半者御栄出可相成、左候へ者、十月・霜月ニも可相成候条、其御心得相成候様、最前致御沙汰置候末ニ付而之由ニ而演舌御座候条、右様御承知可被成候、此段為御掛合如此御座候、以上
八月十七日

1491 万延元年八月十八日　砲術上達に付、免許相伝許可の事

一左之通、佐賀御火術方ニおゐて演達有之段、達出相成候
富岡三太夫
小野田何馬
其方共儀、砲術稽古上達ニ付、免許御相伝被仰付候
右者御相談人ゟ達
富岡三太夫
貴様当節出崎ニ付而者、御秘事制作之儀も余人ニ勝れ、呑込出崎之上ニ而者、万事引請相成候通可被心得候、尤此御方ゟも役々出崎ニ付、談示者可致候条、其通可被心得候
右者附役ゟ達

1492 万延元年八月十九日　役替の事

一於請役所内、御当役左之通被相達候、列席例之通也
（前略）
秀島八助
御出陣方・御火術方・御究役兼被仰付候
岩松源之進
伊王島銀方被仰付候
田中藤七
御出陣方附役ゟ御火術方附役兼被仰付候

（後略）
一左之通相談役徳島伴之丞ゟ相達　富岡弥一左衛門
砲術師家元之訳を以御火術方へ御用之時ニ被罷出候様
（後略）

1493　万延元年八月二十日　富岡三太夫・小野田何馬火術方免許相伝に付、礼物の事

一富岡三太夫・小野田何馬御火術方ゟ免許御相伝被仰付ニ付、御礼御使者并掛り役ニ被仕贈物之義、左之通申来候
七兵衛様
四郎左衛門様　与四右衛門
愛吉郎様
富岡三太夫・小野田何馬御火術方免許御相伝被仰付候付、前方畢竟爰許ゟ御礼御使者相勤候様、且又右之人々ゟ御火術方附役中へ配物之義、犬塚新七郎仰付迄相見合候様御懸合致御承知、御使者今日相勤申候、配物之義者二段相伝同様ニ而可然哉、其内何れ之筋江歟承繕可存御意候、此段為御含如此御座候、以上
八月廿日

1494　万延元年八月二十一日　小野田何馬へ役方就けたく本家へ聞き合いの事

一小野田何馬義、此節御火術方免許御相伝被仰付候処、同人江役方等被仰付可然哉、佐嘉聞合之末、左之通申来候
七兵衛様
四郎左衛門様　与四右衛門
愛吉郎様
頃日、大坪九郎右衛門江御含相成候、此節小野田何馬御火術方免許御相伝被仰付候処、役方仰付相成候儀、差支等者無之哉、同所附役亘りへ内々相談見候処、委細致承知、川瀬孫之允江九郎右衛門罷出相談候処、素り役方等仰付相成義、彼方ニ而者幸之義ニ而、何も差支候義者無之、却而自余御観之ためニも相成可申被入御念候義ニ付、其段内々頭人志摩殿江も相達置可申由御座候

1495　万延元年八月二十二日　伊王島詰出立の事

一左之人々、明廿三日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事
富岡三太夫
松井小三治
石動仁太郎
大石次郎左衛門

水尾小十郎
山田武一
安本蔵人
中島源一郎
横尾庄左衛門
中尾神左衛門
田代希一
東与七
藤戸八三郎
永橋太兵衛
三浦勇一郎
安住岩之助
野口安之助
石田右八
牟田清一郎
卯兵衛二男
森幸之進
次兵衛弟
太田新吾
与三左衛門二男
犬塚愛之助
岩松源之進
野田光之助

1496 万延元年八月二十五日　伊王島出立の事

一左之通御届有之

今廿五日ゟ伊王島出立仕候段、御届申上候事

1497 万延元年八月二十六日　相図稽古願の事

一左之通、願出相成候処、願之通被相済候

口達

今夜、於岡前、合図稽古放出相整度御座候間、右場所被指免被下度奉願候、以上

八月廿六日　富岡弥一左衛門

文武方

1498 万延元年八月二十八日　イギリス製筒買い入れの義困難の事

イキリス製之御筒御買入之義、左之通申来候付、御吟味之処、当時御勝手方御六ケ敷御半ニ候得者、何分ニも御買入之評議難相付旨ニ付、其段返書差出ス

七兵衛様　四郎右衛門様　与四右衛門

愛吉郎様

御進物方ゟ則刻呼出ニ而、此節長崎表ゟイキリス製拾匁筒剣付ニメ、胴乱鋳形、其外小道具まて一切相揃、代金四両弐分ニメ御買入相成間敷哉之旨ニ而、見本として六百五拾挺丈差越相成居候処、御手本ニは既ニ過分之御用意ニも相成居候ニ付、御三家始、御親類・御家老方江御買入ニ者相成間敷哉、一体御備立方御達前も有之候得者、御観メもいたし候旨、増田忠八郎ゟ被申達、右筒

をも持出相見被申候、惣而砲術方功者之人致一覧度候得者、何時も相見セ可申候条、同道相成可然旨をも被申聞候、且又右者昨夕刻彼表便宜有之、返書差出候半而不相叶候条、明日出勤中四ツ時過頃迄、御買入之否御達出相成候様、旁被申達候条、御否無延引、被仰越度被御座候、此段為御懸合如斯御座候、以上

万延二年（文久元・一八六一）

1499 万延二年一月五日・六日・八日・十一日　宮崎元益直正へ御目見の事

一宮崎元益儀、中将様御目見被仰付候段申来候ニ付、罷出候事

一月六日

一宮崎元益御目見之儀ニ付、左之通申来候

七兵衛様

四郎右衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

宮崎元益儀、向後年始御目見被仰付候段、御達之次第者昨日及御懸合置候通ニ御座候、就而者、来ル九日被渡御目候由ニ付、明後八日晩ゟも被罷出候様、同人江御通達相成度御座候、此段為御懸合如是御座候、以上

正月六日

猶以、本文御目渡之儀、九日御定日之由ニ付、以来之儀、其心得相成居候様、御通達可被成候、以上

一月八日

一宮崎元益儀、中将様御目見之儀、左之通西丸ゟ申来候

七兵衛様

四郎右衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

請役所ゟ別紙之通触状到来ニ付、宜御取計可被成候、以上

正月七日

加賀守殿家来

宮崎元益

右之人、年始ニ付、正月九日被渡御目候条、暁七時御城罷出、当番之御目附江釣合被申候様可被相達候、以上

西正月七日

平田助太夫

深江助右衛門

田中五郎左衛門

一月十一日

一宮崎元益儀、中将様御目渡ニ付、御礼御使者之儀、西丸より左之通申来候

七兵衛様

四郎右衛門様　　与四右衛門

愛吉郎様

宮崎元益医業方ニ付、向後被渡御目候段、本人御呼出御達相成候末、右御礼御使者之儀、御進物方相尋候処、御親類始、家来同様之節者、御側頭迄御自身御礼申上相成候付、御使者被差出候様ニと有之候付、昨日御取次迄右御使者相勤申候、且又元益昨九日前

段之末、御目渡相済候付、是又御礼御使者相勤候様、山崎左仲太ゟ被申聞候得共、向後御目渡ニ付而者、時々御礼無之而不相済儀ニ候哉、今日猶又増田忠八郎面会之節相尋候処、矢張御目渡之時ニ御礼被仰上候様ニと有之候付、右御使者之儀も今日其筋相勤置申候、此段為御懸合如是御座候、以上

正月十日

御火術方

放出相整候事

二月四日

一北浦御台場月次石火矢放出ニ付、いつれも別勤

二月五日

1500 万延二年一月十九日　好生館より呼出の事

一左之通、西丸ゟ申来候付、本人々々江手紙を以相達

七兵衛様　　四郎右衛門様　　愛吉郎様　　与四右衛門

好生館ゟ呼出ニ而、左之人々ニ明後廿日於弘道館御格式後被渡御目候付、朝六時同所被罷出候様被相達候条、宜御取計可被成候

加賀守殿家来
牟田省賢
宮崎元益

右之通御座候、此段為御懸合如此御座候、以上

正月十八日

1501 万延二年二月四日・五日　石火矢放出の事

一御火術方ゟ左之通達出有之

明五日、北浦石火矢放出之義、此節者鳥越弐貫目御筒

1502 万延二年二月八日　大御前様小女を命じる事

一左之通、相談役ゟ相達

原口養斎娘
いと

大御前様御小女被仰付候

1503 万延二年二月十三日　宿置物見分の事

一長崎御仕組ニ付、宿ニ置物見分之儀、左之通相達有之候段、西丸ゟ申来候付、置物附差越ス

長崎御仕組ニ付而、宿ニ用意物、且深堀・矢上・諫早御用地、諸手陣場等為見分、枝吉三郎左衛門、物書役古川平八、来ル十五日ゟ出立、左ニ書載之通被差越儀候条、如跡方懸リ役々其場出張、継宿等之手当相成居候様、扨又宿ニ用意物之義、御定之品々不足等有之候而者不相済義候条、夫々屹度相備居候様旁可被相達候

二月十五日泊　　一小田　　一成瀬
一牛津　　同十七日泊　　同十八日泊
同十六日泊　　一浜　　一多良
一塩田

同十九日泊　　同廿日泊　　同廿一日泊
一湯江　　一永昌　　一矢上
一長崎　　一深堀
但帰路
一江ノ浦其外
以上
酉二月　　長崎御仕組方

1504 万延二年二月十三日　長崎警備人数減少の事

一御番方ゟ左之通達帳を以被相達候段、西丸ゟ申来候
当御番所、其外之儀、紅毛船出帆期限ニ不拘、始終減番ニ而振置候積可被相心得旨、御奉行所ゟ被相達候、依之去春御諸番ゟ御減番之楯を以、人数詰方被仰付置候付、右ニ相准、神島・伊王島諸御筒打并加賀守殿・甲斐守殿家来筒方、其外左之通被相減、物而三家之儀、是迄知行高之割合を以、出勢被仰付置候ニ付、魚見岳詰熊次郎殿家来之義被相省、尤前段廉々減高之分者、異船渡来之節差図次第、早速立ニ而致出張候様、扨又香焼詰之義、船載御筒請持ゟ神島御筒懸をも兼合被仰付義候条、平日同嶋渡海大小銃之業前致鍛錬、自然之節者早速神島駆付御筒部之内相加候様、旁左ニ書載之通、利冊御手配帳をも御書載替相成儀候
一神島詰御筒打侍九人、手明鑓弐拾弐人、当詰代ゟ被相減、尤異船渡来之節差図次第、早速立ニ而致出張候様
一伊王島詰右同侍四人、手明鑓八人、当詰代ゟ被相減、尤前条同断
一同所詰加賀守殿家来筒方七人、足軽拾三人、甲斐守殿家来筒方四人、足軽拾弐人、前段一同被相減、尤前条同断
一魚見岳御台場三ノ増請持熊次郎殿家来筒方五人、足軽三人前段一同被相省、尤右跡御台場之儀、同所詰加賀守殿・甲斐守殿家来打追之人数ニ而平日請持被仰付、異船渡来之節、差図次第熊次郎殿家来早速立ニ而出張之上、是迄之通銘々請持相成候様
附、同所御繁六挺立壱艘被相省、扨又熊次郎殿家来住居仮木屋之義引払之上、急速解除相成候様、尤異船渡来之節、差図次第右御船駆付、且仮木屋飾之義、於其筋手当相成候様
一香焼詰五十人之内、三拾人之異船渡来之節、早速神島駆付、御筒部之内相加候様、尤船載御筒之儀者、是迄御手配之通、神島辺差廻到時乗組業　合相施候様
右之通被仰付儀候条、筋々懇ニ可相達候、以上
酉二月　　御番方

1505 万延二年二月十四日　宿見分延期の事

一長崎御仕組ニ付、置物見分被差延候段、左之通申来候事
長崎御仕組ニ付、宿駅用意物、扨又諸手陣場等為見分、枝吉三郎左衛門、其外来ル十五日出立、諫早・

深堀、其外被差越候段、最前被相達置候所、御用有之、一先出立被差延儀ニ候条、此段筋々可被相達候、以上

酉二月　　長崎御仕組方

1506

万延二年二月十五日　伊王島詰仰せ付ける事

一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通

古川助一
稲増平太夫
水町求馬
伊東宅助
田崎太郎左衛門
川浪又三
馬渡伝治
小林弥五右衛門
諸隈市之允
田中太兵衛
橋本唯之丞
石井兵之進
東島市太郎
水田弥次右衛門
馬渡市弥太

伊王島詰被仰付候

1507

万延二年二月十六日　役替・加増等の事

一左之通、於小松間御当役被相達候、列席例之通

下川堂九郎

持役ゟ伊王島銀方被仰付候

宮崎元益

年来堅固ニ相勤、且此節御祝ニ付今又御加米三石被為拝領候

三浦時之助

伊王島番詰被仰付候

1508

万延二年二月十七日　福地良庵不縁の事

一左之通御届申上候

福地良庵儀、相原万兵衛三男享元を惣領ニ養子仕置候所、双方熟談之上不縁仕候段、組筋を以御届申上候事

1509

万延二年二月二十日　伊王島詰を命じられる事

一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通

川久保俊庵

伊王島詰被仰付候

1510 万延二年二月二十三日　調練上覧の事

一今日四時、御供揃壱番手調練為上覧、学館被遊御出候事

1511 万延二年三月一日　相良柳沢より悴柳逸江戸遊学願

一相良柳沢ゟ左之通願出相成候所、如願被相済候

奉願口上覚

私悴柳逸義、医学稽古被仰付、好生館相詰、誠ニ兵糧等をも被差出被下、旁難有仕合奉存候、惣而者、乍不弁右稽古をも被仰付置候所、近頃自侭千万奉存候得共、最早年齢も相長、且兼而之志願ニも御座候付、此節神代軍平、其外江戸表被差越候由ニ付、幸之折柄ニ御座候間、当節一同彼地差越、村田蔵六江為致入熟(塾)、猶又一際相部稽古為仕度奉存候間、御支所無御座候ハヽ、当酉春ゟ向三ヶ年之月数御暇被為拝領被下度奉願候、将又当時之御半難奉願、甚奉恐入候得共、右受業中一孤兵糧被為拝領被下候道者有御座間敷哉奉願候、於然者、御蔭を以、稽古中如形取続、猶更御高厚(ママ)重畳難有奉存候条、何卒願之通被仰付被下度、深重奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

酉二月　　相良柳沢

松崎七兵衛殿
本庄四郎左衛門殿
深江平兵衛殿

1512 文久元年三月四日　伊王島詰の事

一左之人々、明五日ゟ伊王島江出立仕候段、御届申上候事

馬渡伝治
橋本唯之允
水田弥次右衛門
伊東宅助
小林弥五右衛門
三浦時之助
川浪又三
水町求馬
田崎太郎左衛門
田中太兵衛
石井兵之進
稲増平太夫
東嶋市太郎
諸隈市之允
寺川助一
馬場市弥太
川久保俊庵
下川薫九郎
北川四郎兵衛
石田貞之進

1513 文久元年三月四日　病平癒を触れた者を処罰する事

小城郡岩蔵村之内東谷村半助帳内
勇助

右之者、去ル子十月、同辰八月地蔵之利生を以、諸病為致平癒候等申触、紺屋町覚右衛門所、其外ニおゐて致加持候旨を以、毎度御手当被仰付置候所、当二月、中佐嘉郷藤ノ木村常吉所、其外ニおゐて又々前断同様奇怪之儀申触加持等いたし、謝礼銀受取罷在候付、居村ニおゐて日数五日棒杭肆之御手当被仰付、右肆方相済候上被御引渡儀候条、已後屹度相慎候通、尚又手〆相成候様、尤右手〆振之儀者、急速達出有之候様之事

1514 文久元年三月五日　石火矢放出の事

一北浦石火矢放出有之

1515 文久元年三月六日　下古賀村郷医弟子の娘溺死の事

一代官所ゟ左之通通達出有之
注進
牛津新町・下古賀村ゟ別紙之通相達候付、此段御達仕候、以上
三月六日　篠原新左衛門
御代官所
口達

小城郡下古賀村郷医宗節帳内、右弟子当時砥川町住宅罷在候祐賢娘旧冬出生仕候を、牛津新町ゟ召抱候、当年拾弐歳罷成候下女美加背負、昨夕七時頃砥川町境大橋罷通候由候処、不計拘場ニ爪突供々江中落込、美加にも幼年、殊ニ引汐ニ而小児引留候儀不相叶辛々美加一孤丈者上陸仕、依之網打入、其外手を尽相探候得共、右小児之娘ニ者一向相知不申候由ニ付、調子合候処、右之次第御座候、此段御達仕候、以上
酉三月六日　下古賀村庄屋
忠三
牛津新町別当
遠田儀右衛門
篠原新左衛門殿

1516 文久元年五月四日　石火矢放出の事

一明五日、月次石火矢放出之儀、来ル廿一日相整候段、御火術方ゟ達出有之

1517 文久元年五月四日　長崎非番方手配の事

一長崎表御非番方御手配之儀、御番方ゟ達帳を以、左之通相達有之候段、西丸ゟ申来候
伊王島
御番方附役壱人
御火術役壱人
同　助役壱人

御筒打侍拾七人
御番方物書役壱人
但此内御火術方手伝弐人
御筒打手明鑓拾人
下目付壱人
御番方使番壱人
御火術方乍役此内壱人小奉行兼
足軽弐人
土兵弐拾三人

右者平日詰

右者異船渡之時々駆付

御火術役壱人
同　助役壱人
御筒打侍弐拾五人
但此内御火術方手伝役壱人
同手明鑓弐拾六人

右者異船渡来之節、差図次第、早速立二而出張

土兵九拾六人

右者異船渡来之節、差図次第駆付

加賀守殿家来
筒方三拾三人
足軽拾壱人

右者平日詰

加賀守殿家来
筒方三拾壱人
足軽三拾七人

右者異船渡来之節、指図次第、早速立二而出張

甲斐守殿家来
筒方拾九人
同手明鑓壱人
足軽五人

右者平日詰

甲斐守殿家来
筒方拾七人
足軽弐拾四人

右者異船渡来之節、差図次第、早速立二而出張

同御番所
加賀守殿・甲斐守殿、家来順
番交代
組頭壱人
筒方入テ
侍拾人
番屋
足軽弐拾五人

右者平日詰

右家来当番之方
組頭壱人
侍弐人
足軽三拾五人

右同家来非番之方
組頭弐人
侍四人
足軽五拾人

右者異船渡来之節、差図次第、早速立二而出張

御非番御船割帳之内
伊王島
一浜風使船　役者壱人　舸子八人　一二十四ホント　御筒壱挺
但同弐　一三十六ホント　同　壱挺
但同三　一八十ホント　同　壱挺
同所上ノ段
一六挺立壱艘　御手舸子壱人宛　舸子五人　但東ゟ壱　一二十四ホント　御筒壱挺
但同弐　一八十ホント　同　壱挺
但同三　一三十六ホント　同　壱挺
但同四　一三十六ホント　同　壱挺
一四挺立弐艘　御手舸子壱人宛　舸子三人宛
一野戦銃　同　壱挺
同所縁場
一五挺立小舟四艘　舸子五人宛
一十二ホント　御筒弐挺
大明寺干場
同御番所
一六挺立壱艘　御手舸子壱人
右者平日乗組　舸子五人
但東ゟ壱　一十二ホント　御筒壱挺
右者異船渡来之時々駆付
但異船渡来之節、早速立渡海用小ヶ倉駆付
一十二ホント　同　壱挺
一五挺立浜船弐艘
但東ゟ弐　一十二ホント　同　壱挺
其末諸遣用
御非番所、其外御武具帳之内
伊王島　但同三　一二十四ホント　同　壱挺
トントル御筒百五拾挺　玉薬フーテイ、其外小道具共
壱本松下ノ段　但同四　一二十四ホント　同　壱挺
但南ゟ壱　但同五

一八十ホント　同　壱挺
但同六
一八十ホント　同　壱挺
但同七
一三十六ホント　同　壱挺
一三十六ホント　同　壱挺
一野戦銃　同　壱挺
御番所辺
一野戦銃　御筒弐挺
中ノ田
但東ゟ壱
一三十六ホント　御筒壱挺
但同弐
一三十六ホント　同　壱挺
但同三
一八十ホント　同　壱挺
但東ゟ四
一八十ホント　同　壱挺
但同五
一三十六ホント　同　壱挺
但同六
一三十六ホント　同　壱挺
一突棒壱本宛
一差俣壱本宛
一琴地壱本宛
一懸棒弐本宛
右者壱本松・大明寺干場・中ノ田番屋三ヶ所用

台屋三ヶ所用
一御紋幕　壱切宛
一御紋差提灯壱張宛
右者平日相渡居候様、尤中将様、扨又御奉行御巡見等之節用
出鼻
但南ゟ壱
一三十六ホント　御筒壱挺
但南ゟ弐
一三十六ホント　御筒壱挺
以上
酉四月　御番方

1518　文久元年五月六日　伊王島出張の事

一於小松間、御当役左之通被相達候、列席例之通
長崎勤四郎
牟田進作
崎川範之允
長崎表異変之節、伊王島為堅、急出張被仰付候
一伊王島江足軽被差越候
五月七日
一伊王島詰足軽、今日ゟ帰島
七兵衛様

1519　文久元年五月八日　病平癒を触れた者を処罰する事

四郎左衛門様　　与四右衛門
平兵衛様
郡方ゟ爰元呼出ニ而、先般岩蔵村半助帳内雄助、病気平癒之ため地蔵呪と相唱、奇怪之儀申触候付、棒杭肆之御手当相成、其末於御私領方右様之不所業可致様御手締相成候様、左候而御手締之振合者役内江御達出有之候様申達置候所、于今為何義も無之、何れ之通御取計相成居候哉、急速取調子可相達旨、田中礼太郎ゟ被申聞候条、御取計振之所、早々可被仰越候、此段為御掛合如斯御座候、以上
五月九日

1520　文久元年五月十五日　伊王島出張の事

一於請役所内、左之通御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通
黒木新左衛門
持役ニ而伊王島詰被仰付候

1521　文久元年五月十九日　伊王島出張の事

一於小松間、御当役西造酒殿ゟ左之通被相達候、列席例之通
高岸亘
長崎表異変之節、伊王島為堅、急出張被仰付候

1522　文久元年五月二十一日　北浦石火矢放出の事

一北浦月次石火矢放出有之候付、御当役始勤

1523　文久元年五月二十二日、六月三日　伊王島詰の事

一左之通、御届申上候
黒木新左衛門
来ル廿七日、伊王島出立仕候段、御届申上候事
五月二十七日
一黒木新左衛門今日ゟ出崎相成ル
六月三日
一左之通、御届申上候
関市之進
去ル朔日、伊王島出立之末、今夜帰着仕候段、御届申上候

1524　文久元年六月四日　城島与四右衛門入湯願の事

一左之通御暇願有之候処、願之通被相済候
私儀、痛所御座候付、古湯村入湯仕度候間、来ル五日ゟ向日数十日御暇奉願候、此段可然御相達致御頼候、以上
六月三日　　城島与四右衛門

1525 **文久元年六月五日　石火矢放出御覧の事**

一今朝六半時、御供揃御乗馬ニ而石火矢為御見物、北浦御台場被遊御出候事

一例月之北浦石火矢放出有之

1526 **文久元年六月十一日　軍艦調べ下向役人牛津休泊の事**

一左之通、代官所ゟ達出相成候付、上使屋勤申越

手覚

下向之御軍艦取調子役組頭小林甚九郎殿、同取調役鈴木哲之助殿、左之休泊ニ而、明十二日牛津通路之段、申来候事

休　　泊

六月十一日　　佐嘉

神埼

同十二日　　塚崎

小田

以上

酉六月十一日　　代官所

1527 **文久元年六月十四日　長崎仕組仰せ渡される事**

一西丸ゟ左之通申来ル

形左衛門

七兵衛様

四郎左衛門様

平兵衛様

御本丸受役所ゟ別紙之通到来ニ付差越候条、宜敷御取計可被成候、以上

六月十三日

尚以、城島与四右衛門用捨引入中ニ付、私ゟ及御掛合候、以上

原田大右衛門

中野数馬

田中善右衛門

伊東次兵衛

西造酒丞様

長崎御仕組被仰渡候条、明後十五日朝五ツ時御城御出可被成候、以上

六月十三日

1528 **文久元年六月二十二日　伊王島より飛脚到来の事**

一伊王島ゟ足軽飛脚到着

1529 **文久元年六月二十七日　火術方より呼出の事**

一御火術方呼出ニ而、左之通相達候段申来候

御火術方ゟ呼出ニ而、別紙之通被相達候条、明廿八日無相違被罷出候様、御取計可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

六月廿七日　　与四右衛門
七兵衛様
四郎左衛門様
平兵衛様

高岸亘
常富百人

右之人御用有之候条、明廿八日五ツ時役筋被罷出候様

1530

文久元年六月二十九日　砲術二段相伝の事

一佐賀御火術方ゟ昨日呼出ニ而、左之通被仰付候段、達出相成

高岸亘
常富百人

右之人々稽古熟達ニ付、二段御相伝被仰付候
但右ニ付、前方比竟(マヽ)を以、御礼御使者西丸勤

1531

文久元年七月二日　牟田省賢呼出、開業免札渡し改正の事

一好生館ゟ呼出ニ而、左之通相達之段、申来候

七兵衛様
四郎左衛門様
平兵衛様

与四右衛門

好生館ゟ呼出ニ而、別紙書取被相渡候付指越申候、惣而書取之内ニも有之候通、当年ゟ三ヶ年之内ニ改業有之候様、左無之ニおゐてハ丑年ゟ屹度医業被指留義ニ候条、其節ニ至り何分申立相成候共、決而御取立無之候条、其段前以相達置候段、旁野口廣一より被相達候、尤別紙ニ書載有之候通、御城下并弐里四方住居之人々之由ニ而、追々遠在之義者尚又被相達由ニ御座候

一牟田省賢明後四日御用之義候条、好生館罷出候様被相達候、惣而者、同人義、爰許手寄之義ニ付、直ニ相達義ニ御座候条、左様御承知相成候、右旁為御懸合、如是御座候、以上

七月二日　　加賀守殿家来
牟田省賢

御城下、偖又近在凡二里四方住居之医師
医師一統西洋法相学候様被仰付候付、最前被相渡置候開業免札、旧年御取立相成候付而者、追々改而被相渡候半而不叶候処、于今学業一新いたし兼、一般可相渡様無之ニ付、無余義学業相改候向々当節被相渡義ニ候、就而ハ御改築以来、毎々被相達候次第も有之候処、今以絶而出席無之向も有之、殊ニ一往開業被差免候向者、打追之姿ニ而も不苦哉ニ心得違之向も有之哉ニ相聞不宜義ニ候条、則今より一際出精向亥年迄学術共屹度相改候様、自然右年限中不相改向者配割をも差留相成義候条、其心得可有之候事

酉七月

1532 文久元年七月五日　北浦台場石火矢放出の事

一北浦御台場石火矢放出ニ付、何れも別勤

1533 文久元年七月五日　雅様死去の事

一於蓮池於雅様御事、御病気之末、御養生不相叶御死去之段、左之通為御知有之ニ付、諸取計左之通

多内

四郎左衛門様

以手紙致啓上候、然ハ於雅様御事、一両日御咄乳被成御座候所、慢驚風之御症ニ而、御約被成御発種々御養生被成候得共、次第御疲労相増被及御危篤、御養生不被相叶、今晩子ノ中齋被成御卒去候、右為御知、如斯御座候、以上

1534 文久元年七月十八日　文学・医学上覧の事

一四ツ時御供揃、文学・医学為上覧、学館御入ニ付、御当役はしめ別勤

但、医学御断

1535 文久元年七月二十九日　異国船渡来の事

一異船弐艘竹崎之鼻辺渡来ニ付請役所ゟ左之通相達之段、早走を以申来候

七兵衛様

四郎左衛門様　與四右衛門

平兵衛様

請役ゟ即刻呼出ニ而異国船弐艘南海乗入リ竹崎ノ鼻并嶋原城下前長洲辺相掛居候由、就而ハ御領内上陸等不致候、夫々御手配リ相成御私領方ニ而者住ノ江之方繋船等御用辺早速誰出張江湖内乗入揚陸等不致候様御手当可被成、大尚委敷義者明日達帳を以相達相成義ニ候得共、前断之振合先以相達置、素り向合御蔵入ニ候得とも別段御手当ニ不相成候条、其心得を以取斗心様旁請役所田中五郎左衛門ゟ被相達候、此段早走を以為御掛合如是御座候、以上

七月廿九日

尚以本文ニ付而者、明日毎々及御掛合候義も可有之候条、手男・抱男間合夜ゟも被指掛置度、御座候以上

文久二年（一八六二）

1536 文久二年四月二日　伊王島詰出発、真田流合図稽古の事

一伊王島詰足軽拾九人、今日ゟ被差立候

一真田流合図稽古打有之候付、場所願有之

口達

今夜於岡前真田流合図稽古打相整度御座候条、御支所無御座候半者、右場所江被相済被下度奉願候、此段筋々宜敷御相達可被下候、以上

四月二日　　服部奥之丞
　　土井清左衛門

1537　文久二年四月三日　小城家の医師好生館入学の事

一医生入学式之義、左之通好生館ゟ被相達候段申来候
　　松崎七兵衛様　　西川形左衛門
　　深江平兵衛様
　　久保彦左衛門様
好生館ゟ呼出ニ而、別紙両通之通被相達ニ付指越候条、宜御取計可被成候、此段為御掛合、如是御座候、以上
　　四月三日
当月廿日、入学式被相整儀候条、別紙書載之人々、明六ツ時、好生館被罷出候様可被相達候
　　右ニ付、廉々左ニ
一礼服着用之事
一白摩料正銀八歩ツ、被相納候様之事
　　以上
　　戌四月三日

松隈玄洞　宮崎元益
村田道碩　宮崎元立
山田元壽　原口養虎
斉藤玄周　布上玄春
相良柳沢　吉原宗壽
相良柳逸　牟田省賢
佐野文仲　牟田忠安
北嶋天民　馬渡仁庵
　　前田文啓
　　辻　元道
　　林　雄民
　　中嶋需安
　　城島分連
　　松本春円
　　堤　宗元
　　川副仙齢
　　石田常済
　　村田有之
　　藤嶋俊斉
　　石動元友
　　田代松齢
　　石井萬庵
　　田嶋養純
　　山下三省
　　北原範治
　　宗賢
　　元柳

右之人々願不入

山田三沢
武富鎌良
船津元仲
高間元策
石田要策
三浦敬治
香田文哉
福嶋豊作
三省

右之人々入門願書指出相成候様

1538　文久二年四月八日　直大下国に付、初御目見の事

一当御下国ニ付、初而御目見之義、御一宿伺越相成候処、願之通被相済、且又条事名替之儀も一同相済申来候付、大組代呼出相達ス

（前略）

養虎倅
原口養充
需安倅
中嶋需要

1539　文久二年四月九日　馬渡仁庵・辻文之進帰着の事

馬渡仁庵
辻文之進

今夕帰着仕候段、御届申上候事

1540　文久二年四月十一日　大石良英来小城の事

一大石良英、明日為御伺罷出候付、道案内之儀、左之通申来候

松崎七兵衛様
深江平兵衛様
西川形左衛門
久保彦左衛門様

大石良英、明十二日桜岡被罷出之儀、相良柳沢を以御相談之末、御請被致、弥明日昼前ゟ被罷出候由、右ニ付、尚又今日御城ニ而同人江面会、道筋等之儀申談、下道取被極、甲柳原刈宿江案内之者御差出相成居候通取計置候段申聞置候条、無間違同宿迄昼頃迄之内案内之者御差出相成居度御座候、此段為御掛合如此御座候、以上

四月十一日

1541　文久二年四月十三日　福地松庵家督相続の事

一左之通、於小松間御書付を以、御当役ゟ御達、列席例之通

福地松庵江亡父良庵跡式無相違申付候条、可申聞候もの也、以上

戌四月

1542 文久二年四月十三日　直虎不例に付、医師泊番定の事

一左之通、附役達

村田道碩
山田元壽
相良柳沢
宮崎元益
中島需安

桜岡御次江当分壱人充泊番有之候様

1543 文久二年四月十四日　伊王島より帰着の事

一伊王島ゟ足軽目付新郷良右衛門御用有之、今日到着

1544 文久二年四月十四日　画師柴田黙（花守）二男芥次郎、上海渡航に付、相談事の書状

一柴田黙二男芥次郎・御役人根立助七郎殿、唐国被罷越候ニ付従者ニ相談有之段、左之通申来候

太田又六郎

日出嶋源兵衛様
馬場大丞様

一筆致啓達候、各様弥御安康可被成御勤珍重存候、然者、去ル八日、御番方ゟ早速罷出候様申来候付罷出候処、神嶋詰御番方納冨六郎左衛門被参居、同人并中川貫之允ゟ被致示談候者、六郎左衛門此表連越相成居候、柴田黙二男芥次郎、今度唐国上海表被指越候公役人之内御勘定根立助七郎殿ゟ従者之内ニ内々差遣呉候様、長崎聞番石川寛左衛門迄、御小人目付塩沢彦次郎与歟申人ニ而相談相成候付、佐嘉表江者同人ゟ通達相成候条、御在所之方江者、私ゟ御懸合致候様被申聞候付、猶私者当嶋御守衛向一篇ニ而詰中之取〆方、旁出嶋罷在儀ニ候得者、夫等之儀者矢張筋々を以、西丸聞番方江御達相成候通有御座度申答候処、尤之儀ニ一応承知相成申候、然処、一昨十日夕、御番方ゟ参呉候様申来、貫之允ゟ又々被申聞候者、芥次郎一条、石川ゟ佐嘉表懸合被越候處、早速達上聞、根立殿御相談遂可被差遣御都合之旨、御進物方中ゟ寛左衛門迄急札致到着候付、六郎左衛門其外ゟ猶又貴様江申談之儀有之候付、明日神島迄致同道候条、左様ニ相心得被申聞候末、昨十一日西田郡助一同寛之允同道ニ而、神島罷越候処、前段芥次郎一条、是迄之始末者委細別紙三通、写之通ニ御座候条、右へ被相処（ママ）、御評議可被成候哉、惣而六郎左衛門ゟ被申聞候者、公役人当湊出帆之儀、来ル廿日頃ニ御治定之由、甚差懸り候義ニ移行申候、然処、芥次郎義、自分貫請置候と申儀、実は内分之儀ニ而、表向夫々御手数等相整置候訳ニも無之と申、第一黙儀、当時者御家中ニも御取立相成居候得共、此義御在所江御内々成共御都合不致候而者不相叶儀ニ付、近日中何れとも道筋可相啓存居候半、不計前段之通相成、佐嘉表之御

都合も案外ニ御急評相付、其上出帆も日合無之ニ付、別紙写面ニも相見候通、先以、此表差掛候運、先石川従者之内を倉之助連立被申候訳ニ而、支度料等者六郎左衛門ニ当分被指出候都合ニ取計相成候、就而者、当節之儀、脇々ゟ者彼是手廻シ等もいたし、従者差越度願入之向も有之位之半ニ候得者、必定後日之御用ニも相立可申ニ付、其辺御在所ニも宜敷致御懸合呉候様、素り西丸筋江相廻り候通取計之儀勿論ニ候得共、右様火急之儀ニ付、此節丈者別段之訳を以、及示談候旨、郡助一同分而被及相談候、惣而者、私ニも一応為相断末ニ者候得共、示談振別段之訳と候而者、今又西丸筋被相廻候様ニと者何分難申切ニ付、石川其外書状致相談写取、段々之次第、各様迄及御左右儀ニ御座候条、右写を以、可然御評議可被成候、飛脚之儀者御巡見前色々都合も有之、詰足軽より引揚候儀不相叶ニ付、御手前方詰足軽目付新郷良右衛門為飛脚差立、筆頭砕兼之儀者口上相含置候条、御承知可被成候、此段旁為可得御意、如此御座候、以上

四月十三日

猶以六郎左衛門御気并別紙三通之模様ニ而者、表向之内ニ而寛左衛門限之振合ニ公役人之方江者執成相成候義と相考申候、将又別紙写之名前有之候御番方物書役森山源吾帰島便ニ而、御手許ゟ芥次郎支度料として先以金五拾両丈被差出候を、同人持越相成候ニ付、石川・納富申合ニ而早速ゟ衣類其外整相成候付、此御方ゟも万一何れとか無之而不相叶都合をも六郎左衛門其外相気付居被申候半者、唯今之内沙汰相成度、左無之候得者、当便差立後、懸り被及談示候迚、此方限ニ者取計不相叶、素り御地往復之日合も無之ニ付、如何被存候哉相尋候処、右者其筋ゟ支度料ハ不及申立聞、其外江も何れも並追々被差出筈ニ候得者、右之心遣ニ者相及罷敷、併御地之御都合差分り次第ニ者、唐国迄も罷越候義ニ付、二男と者乍申、御在所江之御暇乞旁誰レ同道ニ而当嶋迄連越義ニ候条、其節いつれ之首尾ニ而歟、何分成共取計相成候得者、重畳ニ候得共、此義者何分ニも申談置候儀用捨ニ被存候段、被申聞候付而ハ、私ニも如何共考相付不申候付、是又宜御吟味可被下、誠申迄も無之候得共、芥次郎身分ニおゐて先以実ニ冥加至極之義ニ御座候、此段為可得御意、早々如此御座候、以上

一筆啓上仕候、暖気相催候処、弥御安康可被成御勤珍重御儀奉存候、然者、去ル六日其御許出立之末、翌七日昼四ツ半頃着船、漸出勤中御番方罷出、附状差出候上、御進物方罷出、御含之次第申達候処、至極御同意之儀ニ付、則御年寄江相伺、上様江御内々差上相成候処、其通被仰付候由ニ而、昨昼四ツ時頃より無時早走被差立候由、左候而御合力体之儀、明日亘り迄ニ者相捌可申御座候付、右済寄候上、直ニ出立仕儀御座候、就而者自余と格別之不伺を以有之間敷由、左伝太殿ゟ沙汰相成候間、是又御含迄申上候、此段為可得貴意、如斯御座候、恐々謹言

森山源吾

四月九日

石川寛左衛門様

納富六郎左衛門様

御状致披見候、加賀守殿家来画師柴田栞岡二男甲斐次郎儀、今度上海表被指越候御勘定根立助七郎殿従者之内、内々指遣呉候様塩沢彦次郎を以被相談候由ニ而、委曲之御紙面致承知候、則御年寄申達吟味之上達上聞候処、被差越旨御内々沙汰被為在候間、早々其運相成候様可被成候、路用等之儀者吟味之上被仰越儀候条、其御心得可被成候、此段為可申越無時早走を以、如此御座候、恐々謹言

山崎左忠太
倉永仁太夫
増田忠八郎

石川寛左衛門様

一筆致啓達候、各様弥御安全可被成御勤珎重存候、然者、加賀守殿家来画師柴田栞岡二男甲斐次郎与申人、納冨六郎左衛門儀、先年貰請家内養育被罷在候付、同人儀昨冬以来神嶋連越相成居、惣而右甲斐次郎儀当年十八九才ニ而も可有之候得共、到而才發之人ニ而書画共相応ニ有之、殊ニ親伝来幼年之砌ゟ画師道執心ニ付、爰許繪師春徳寺隠居僧鉄翁、其外江稽古仕度由ニ而、私方江随身、其向々江通稽古をも為致度旨、六郎左衛門ゟ任示談、当春頃より彼宅召呼、従者之内取加、前断之通稽古有之候通取計置候処、今度上海表被差越候御勘定根立助七郎殿於御用先見取繪圖等書整無之而不叶義も可有之ニ付、画道心得候者召連候通いたし度由ニ而、人柄聞合有之候付、右甲斐次郎書画等之振合聞及相成、差付御小人目付塩沢彦次郎まて被相談候由ニ而、同人中牟田倉之助を以、甲斐次郎儀、此節助七郎殿従者之内ニ内分差遣呉候様、私江相談申来候、右者一存限差付之通答も難致、尤甲斐次郎被罷越通相成候得者、於向々現地現物等之見分見取絵図、其外書写物申付相成候分者写取、此御方江差上候様いつれと歟取計様も可有之、左候得者、不万一御用弁之筋ニ而ハ被差越通申立候方ニ可有之致勘弁、前断之次第六郎左衛門并甲斐次郎江も申聞候処、何れも別而幸ニ被相心得、何卒被差越候通願立呉候様被申聞候、就而者向方相談之通、矢張内々ニメ私従者甲斐次郎を倉之助ゟ連立相成、此節被差越候通、御内々被仰付候道者有之間敷哉、相伺義ニ御座候間、猶又宜被仰談御吟味之次第、早急御指図越有御座度、自然右之通、御聞済於相成者、甲斐次郎仕廻方、且用意金等六郎左衛門心遣有之儀ニ者候得共、詰所之儀ニ而調金体之儀者勿論、何も行届申間敷、惣而者倉之助、其外被差越候面々御当介之見合も可有之候得共、右同様ニ者参兼可申候、併此節柄之儀候得者、夏寒之身形取繕をはじめ用意金迄ハ過分之金高ニも可相成ニ付、右倉之助其外之御当介被差出候高ニハ相寄、六郎左衛門へ御内々御取替被差出候道者有御座間敷哉、是又難閣御内達仕候、右ハ表向ニも難申越、各様まて及御掛合候間、彼是共可然様御取扱有御座度、及御談候、此段為可申越、如斯御座候、留ル

四月六日　　石川寛左衛門

増田忠八郎様
山崎左忠太様
大石又蔵様

追而、本文彦次郎ゟ相談、一昨四日申来候付、早速六郎左衛門、其外申合候半、否通答急ニ為知候様、自然差支之筋も有之義ニ候得者、外人取極可相成由ニ而、今日中差極通答いたし度、倉之助を以申来候、勿論爰許限難取極事柄ニ候得とも、形之通、倉之助其外分而其筋々江之御相談相成被指越候御趣意も有之儀候得者、差而御支之筋も有之間敷申合、弥可差遣旨、一先者返答仕置候、萬一不被相叶段、御差図之次第も有之候半者、其節ニ到り病気形ニ而可申断心得ニ御座候、本文彼是現地之振合書中而已ニ而差砕兼候儀も有之不私御用筋ニ付、神崎御番方へ物書役森山源吾含越相成候通、取計候条、委細者同人ゟ御承知可被成候、以上

1545 文久二年四月十五日　好生館入門故障に付、達の事

一来ル廿日、惣医師好生館入門方ニ付、左之通、西丸ゟ申来候

西川刑左衛門

松崎七兵衛様
久保彦左衛門様

惣医師中、好生館江為入門、来ル十九日より爰元罷出相成候付而者、旅勤并当病故障之人ニも可有之候条、其筋御回答、来ル十八日迄之内、爰元為御知被成下、右者万端手配ニ相拘り候条、右様承知無間違御申越可被成候、此段為御掛合、如此御座候、以上

1546 文久二年四月十六日　於操様妊娠の事

一於操様御妊娠之段、左之通為御知申来候

以手紙致啓上候、向暑之砌ニ御座候処、弥御堅衛可被成御勤珎重奉存候、然者於操様御事、御妊娠被成御座候由、御医師ゟ被相達奉恐悦候、先以貴様方迄拙者ゟ得御意置候様被仰付、如斯御座候、以上

志田多内

馬場大丞様
日出嶋源兵衛様
徳嶋健之丞様
綾部四郎太夫様

1547 文久二年四月十六日　徳見伝助より注進の事

一長崎在番御目付有馬帯刀様帰府休泊之振合、徳見伝助ゟ左之通申来候

一筆啓上仕候、暖気之節御座候所、弥御安康被成御座珍重御儀奉存候、然者当地御目付有馬帯刀様御交代相済、明後十五日爰許御発駕、別紙御休泊日刻書附写差越申候、御落手可被下候、此段申上度、如此御座候、恐惶謹言

徳見伝助

松崎七兵衛様
深江平兵衛様
久保彦左衛門様

御目付有馬帯刀様御発駕御休泊日刻
休泊

四月十五日　彼杵
時津　渡海
同十六日
嬉野　柄崎
同十七日
小田　佐賀
同十八日
神埼　田代
同十九日
同廿日
山家　内野
同廿日
飯塚　木屋瀬
同廿一日
黒崎　小倉
同廿二日
休無之　下ノ関
大里ゟ渡海
右之末、五月七日大坂御着
戌四月

出丸相成候段、懸合越候事

江戸詰

松隈玄洞
村田道碩
山田元壽
斉藤玄周
相良柳沢
相良柳逸
佐野文仲
北嶋天民
川久保俊庵
菊池宗垣
宮崎元益
宮崎元立
原口養虎
布上玄春
吉原宗壽
牟田省賢
牟田忠安
馬渡仁庵
前田文啓
辻　元道
林　雄民
中嶋需安
城島分圭
松本春円
堤　宗元
川副仙齢

伊王島詰

1548　文久二年四月十六日　好生館入門者氏名の事

一惣医師中、来ル廿日好生館入門手数之儀ニ付、左之通名前書ニ旅勤其外書載之分除テ、余者不残十九日晩ゟ

石田道済
村田有之
藤嶋俊斉
石動元友
田代松齢
石井蘇庵
田嶋養純
山下三省
北原範治
宗賢
元柳

右之人々願不入

筑前秋月遊学

山田三沢
武富鎌良
船津元仲
高間元策
石田要策
三浦敬治
香田文哉
福嶋豊作
三省

江戸詰

右之人々入門願書差出相成候様
右者好生館ゟ此節呼出相成候名前
外ニ

享元事

松本春道
相原雄庵

右者好生館江当二月付出之名前ニ者相加り居、此節呼出名前之内ニ者無之候得共、一同入門手数相成度事

菊池宗庵
林　長庵

邦衛殿家来

岸　淡齢

右者是まて付出相成居不申候得共、此節一同入門願之事

戌四月

1549　文久二年四月十七日　伊王島出立人数の事

一左之人々、同十四日伊王島出立之末、同十七日帰着仕候段、御届申上事

下村犀吉
馬渡伝治
橋本唯之丞
伊東宅助
寺川助一
田崎太郎左衛門
川浪又三
小林弥五右衛門
諸隈市之允
田中太兵衛
三浦時之助
石井兵之進
東嶋市太郎
水田弥次右衛門
馬場市弥太

江口甚右衛門
与左衛門弟
木下文吉郎
川久保俊庵
吉村鉄助

一吉嶋要左衛門・森卯兵衛、魚見岳詰被仰付置候処、病気ニ付、同廿日御断申上候事
一松井小三治・八十嶋健八郎儀、魚見岳詰被仰付之旨、同廿一日御達相成候事
一池上八太郎・馬場卯吉郎儀、同十九日伊王島出立之末、同廿二日帰着仕候段、御届申上候事
（中略）
一左之人々、去ル七日ゟ魚見岳為詰出立仕候段、同六日御届申上候事

松井小三治　山本種市
小柳孫右衛門　村川八右衛門
石動次郎兵衛　石川形右衛門
松崎平太郎　八十嶋健八郎

1550　文久二年四月十九日　魚見岳詰の事

一於小松間、御当役左之通被相達候、列席例之通　北川　湊

魚見岳詰被仰付候

1551　文久二年四月二十一日　北浦台場にて石火矢放出の事

一北浦御台場ニおゐて石火矢放出有之候事

1552　文久二年四月二十四日　直亮病により閑叟から牧春堂派遣の事

一佐賀御医師槙（ママ）春道此御方罷越候ニ付、左之通、西丸ゟ申来候

松崎七兵衛様　西川形左衛門
久保彦左衛門様

御進物方ゟ則刻呼出ニ而、殿様御不例ニ付、大石良英先達而ゟ罷出居候処、当今家内病人之上、本人ニも不快ニ而、近日中罷出候儀不相叶段、閑叟様被聞召御気之毒被思召、右為代牧春堂被差越候間、被仰出候段、倉永仁太夫ゟ被相達候、右ニ付、春道江面会刻限、其外承繕候処、早速ゟ駕籠昇其外手当いたし置、揃次第罷出候段被申聞候、惣而罷出候場所之儀被相尋候得共、爰元限難取極候付、早速申越朝日町口辺り江案内之者可差出置段、及挨拶置候条、右罷出候場所御吟味之上、案内之者江御差含、朝日町口迄早速も御差出相成度御座候、惣而今夜者一宿相成、明日一先引取候含之由ニ御座候、此段旁早走を以、及御掛合候、以上

四月廿四日

猶以、拙者も近々罷登、委細之都合可及御談候、以上

1553 文久二年四月二十六日　直大長崎にて病、牧春堂出勤の事

一肥州様御出崎中、且槙(ママ)春道此御方罷出候段、左之通、申来候

松崎七兵衛様
久保彦左衛門様　　西川形左衛門

肥州様於長崎表御麻疹被遊御煩、彼表御勤向等も御断相成候哉之風聞有之、実説ニ候半者、趣次第ニ者御見舞御使者被差出候半而相叶間敷歟、いつれニも事実之都合其筋承繕否早々為御知いたし候様、御掛合之致承知候、右者鍋島隼人宅ニ而一通致承知候得共、猶又御進物方罷出、一体之御様子彼是承繕候処、御途中ゟ之御発熱ニ而、最前者久張御麻疹共ニ而者有之間敷哉之旨申来、当今彼表ニ而余程流行、其中ニも大分稠敷向も有之、御上下余程御心遣ニ而、大石良英を廿四日晩、遅目ゟ早速立ニ而被差越候由、然處、行違彼表ゟ委敷御容体書等致到来、先者時候御障りニ而、当分之御事之由、尤得と御養生之上ニ而御勤向等も有之筈ニ而、未御帰城之御比合も不相分趣ニ御座候、御見舞御使者等之御仕成無之可然哉相尋候処、唯今之場ニ而者右様之御仕成ニ不相及、猶又都合次第可致差図旨、増田忠八郎ゟ被申聞候、惣而良英ニも出崎相成候付而者、此後其御方江為御伺罷出候儀如何可相成哉、槙春堂江罷出相尋候処、御城出勤之上申談、都合次第取極可申旨被申聞候付、出勤之上、昨夕御城ニ而同人江面会相尋候処、明廿八日昼頃ゟ出宅、一夜泊りニ而其御地罷出可申段被申聞候条、右様御承知、其筋江も御通達宜御取計可被成候、右旁之次第、昨夕御掛合可致之処、昨夕刻鍋安房殿・同伊豆殿・同駒次郎殿・鍋島啓之助・多久佐吉郎同道ニ而、三階為拝見、俄ニ押掛被罷出候付、彼是致混雑、前段御懸合之儀も延引相成、折角今朝飛脚可差立致居候処、御掛合ニ付御答旁如此御座候、以上

四月廿七日

1554 文久二年四月二十七日　徳見伝助献上の事

一徳見伝助御蔵方御用向有之、当地罷越、為伺後機嫌罷出、左之通、献上申上候付、於小松間、御広間番ゟ取次御状方申付差上候、右之末御料理代金弐百疋被差出之旨、請役付ゟ面会、相達ス

一粕ていら　　壱箱

1555 文久二年四月二十八日　小銃会試の事

一平原天神射場ニ於ゐて、小銃角前御会試被相整候

1556 文久二年四月二十八日　直大病により長崎より帰城の事

一肥州様御出崎中、御不例ニ付、一先御帰城之段、左之通申来候

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様　　西川形左衛門
久保彦左衛門様

肥州様長崎御越之末、御不例ニ而未同所御奉行所、其外御勤向も無之段、彼是之都合、昨日及御懸合置、猶又其筋承繕候処、御不例之儀、大分御快方ニ者被為在候由候得共、此節者御初而之儀ニ而、御勤向色々御手数等も可被為在之処、前段之御都合ニ而、何分此節迄者御勤向御手数等者為御出来兼、一先御手数等無之可被遊御帰城筈之由、惣而電流丸御乗船ニ而御帰相成儀ニ付、別段御供等者追々引取相成居候由御座候、尤御帰城之御頃合者未相分趣御座候、就而者、此節御帰城之上、御仕成之振合いつれ之通共ニて可然哉、其内御進物方江承繕之上、右之儀者早々可及御合候条、左様承知可被成候、此段御心得と〆如此御座候、以上

四月廿八日

1557 文久二年五月二十日　病により伊王島から帰郷願の事

一嬉野又兵衛大病ニ付、倅十助、伊王島交代帰省願、左之通、又兵衛ゟ願出相成候処、願通被相済候

奉願口上覚

私儀、先達而ゟ膈症相煩候付、色々療養罷在候得共、一図快方之隙相見不申、到近来候而者、猶更薬食通兼、老体之義ニ而、甚老憑之症之趣、医師ゟも申聞候、然処、倅十助義、去秋ゟ難有伊王島詰被仰付置、御場所柄之儀ニも御座候得者、自儘之御願等仕候亘り、至極奉恐入候得共、可相成義ニ御座候ハヽ、交代被仰付帰省仕候通被成下候道者有御座間敷哉、奉願候、於然者、御蔭を以、付添看病をも為仕、私ニも安堵仕、尚又緩々療養相加可申、御厚恩之程、重畳難有仕合奉存候条、何卒自余格別之御憐愍を以、願之通被仰付被下候様、筋々宜御相達致御頼候、以上

戌五月　　嬉野又兵衛

松崎七兵衛様
本庄四郎左衛門様
久保彦左衛門様

1558 文久二年五月二十日　伊王島番を命じる事

一於小松間、御当役西造酒殿ゟ左之通被相達候、列席例之通

伊王島御番所詰被仰付候　深江藤右衛門
当分為伊王島詰、急出張被仰付候　馬渡仁庵

1559　文久二年五月二十日　薬学稽古の為好生館詰を命じる事

一於達間、左之通、相談役
菊池宗庵
松本春道
村田有之
蘭学為稽古、好生館詰被仰付候

1560　文久二年五月二十一日　北浦にて石火矢放出の事

一北浦御台場ニおゐて、月次石火矢放出ニ付、右近殿・西造酒丞殿・松崎七兵衛・本庄四郎左衛門別勤
深江藤右衛門
馬渡仁庵
明廿二日出立ニ而伊王島罷越候段、御届申上候事

1561　文久二年五月二十二日　好生館寄宿願の事

一松本春道、其外蘭学稽古として好生館詰被仰付候付、同所江寄宿願等之手数、村田有之より最前願入之畢竟を以、取計相成候様、西丸掛合越ス

1562　文久二年五月二十七日　麻疹流行に付、医学・軍学会試延期の事

一明廿八日、医学・軍学御会試御定日之処、当時麻疹流行病人勝等ニ付、依願被差延候段、御廻札被差出候事

1563　文久二年五月二十八日　林長庵好生館詰となる

一左之通相談役達、尤御当役ゟ被相達筈之所、御不快ニ付、本文之通候也
江里口藤七兵衛
伊王島詰被仰付
一左之通相談役達
林長庵
蘭学為稽古、好生館詰被仰付候

1564　文久二年五月二十九日　伊王島より帰着の事

一左之通、御届有之
嬉野十助
去ル廿六日、伊王島出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候事
持永秀一郎
一左之通、御届申上候
江里口藤七兵衛
明朔日出立ニ而、伊王島罷在候段、御届申上候事

一於達之間、御当役左之通、被相達候、列席例之通

関省之丞
野口袈裟一郎
藤島善之丞
松井小三治
嬉野十助
武藤虎吉郎
馬渡伝治
崎川範之丞
横尾兵右衛門
持永秀一郎
吉富助太夫
高岸　亘
秀島隼人
永田久吉郎
橋本唯之丞
山本与左衛門
水田弥次右衛門
庄久右衛門
江口勝一郎
中島兵之允
北川　湊
村川彦之允
古川源一郎
篠原市三郎
城戸助作
稲増平太夫

文久三年（一八六三）

1565　文久三年三月二日　大殿足痛に付、御礼を受けず

一大殿様御足痛ニ付、明三日御礼不被為請之旨、被仰出候段、菅井御状方ゟ申来候

1566　文久三年三月五日　伊王島へ急出張の侍・足軽名書きの事

一伊王島急出張之義、左之通、御番方ゟ相達之段、西丸ゟ早走を以申来ル

七兵衛様
治兵衛様　　市左衛門
四郎左衛門様

御番方ゟ則刻呼出ニ付、罷出候処、薩□之方へ此節英夷軍艦指向候由ニ付、別紙之人数、早速伊王島可被差越候、惣而、火急之義ニ付、御切手賃借乞請ニハ不相及、同役場ゟ附状印鑑ニ而可然旨ニ付、急出張被仰付候名前丈急速御差越可被成候、尚委細ハ伊東八郎右衛門含越相成候条、右様御承知被成候、此段、早走を以、如此御座候、已上

三月五日

小城
筒方三拾壱人
足軽三拾七人

一急出張足軽名前、左之通

千々岩政助
池田利右衛門
山田庄兵衛
祭城二兵衛
芦原清兵衛
松永九平次
御厨末吉
八頭司猶助
上滝太三
武藤太助
平野平作
村岡金太夫
野田卯吉
岡国助
江リ口久兵衛
山田清八
副島伸助
篠原千兵衛
久保良助

持役ニ而伊王島急出張被仰付候

野口虎之進
永橋重次郎
志波岩人
江原甚之丞
八十島五百人

兵藤清左衛門
岸川定五郎
森長太夫
中山啓之助
中島与助
築貫万助
古賀平太郎
中願寺兵三
中村幸七
永沼千蔵
松尾平右衛門
淵田頼助
野田平吉
西村清兵衛
末永清助
陣内伊兵衛
坂井善太夫
徳広今朝右衛門

辻忠兵衛

一此節伊王島急出張被仰付、被指越候人々之内、火急之義ニ付、名前相替候義も難計候ニ付、右之段其筋へ断相成居候様、伊東八郎右衛門含帰相成候末、左之通申来ニ付、此節ハ合印計持越相成ル

市左衛門

七兵衛様
治兵衛様
四郎左衛門様

伊東八郎右衛門含帰相成候、此節急出張名前御番方持出附状等相願候處、附状ニも不相及、矢張印鑑ニ而賃借、且長崎御屋敷出入并伊王島御番方へも右合印壱紙ニ而相済、外ニ手数無之、依之、御筒打三拾壱人ニ壱紙、辻忠兵衛へ同壱紙、足軽三拾七人へ同壱紙、都合三紙指越申候条、右様御承知可被成候、将又右名前之通候得共、自然当病・故障之人も有之候半ハ、代人可指出旨をも相断置候処、何方も右様之義可有之趣被申聞、然而ハ右御筒打并足軽名前添相極候半ハ、明日も差越被成度、此段早走を以早々如此御座候、已上

三月五日

尚以、印鑑面書載相成候名前松永五左衛門義ハ、最早死亡相成候得(ママ)未、跡役無之ニ付、古印鑑之侭ニメ相渡候旨をも中川貫之允ゟ被相達候、已上

別啓

此節、急出張行粧之義、御番方聞繕候処、侍ゟ手明鑓迄ハ小具足用意相成候位ニ候得ハ、足軽之義ハ具

足ニハ相及間敷旨被申聞、猶出島之役々聞繕之上可然御取計可被成候、已上

1567

文久三年三月五日　川島宗瑞牛津通行の事

一公役人牛津通路済之段、左之通、申来候

安左衛門

又七様

其外様

従牛津駅啓上仕候、然ハ蘭人伝習御用之由ニ而下向川島宗瑞、今五日昼四時頃、当駅無別条通路相済申候、此段為御存如此御座候、已上

三月五日

1568

文久三年三月十五日　長崎出張、伊王島番を命じる事

一左之通、於小松間、御当役西造酒丞殿ゟ被相達候、列席例之通

下村長四郎

今泉助三郎

横尾太郎左衛門

嬉野市左衛門

長崎表売船渡来之節、一左右次第急出張被仰付候

一於御当役座、左之通、御当役ゟ被相達候、列席例之通

徳島健之丞

長崎表異変之節、伊王島為惣心遣出張被仰付候事

1569

文久三年三月二十日・二十七日・二十九日　長崎不穏の際非番にても出征を命じられる事

一御番方ゟ則刻西丸呼出ニ而、長崎表急出張之義、右之通申来候

御番方ゟ則刻呼出ニ而、長崎表不穏時節柄ニ付、猶又出勢相成候様、長崎御奉行所ゟ御本家并筑前江御達相成候ニ付、今廿日晩汐ゟ早速立被指立候ニ付、伊王島御番所御非番中ニ候得共、組頭弐人・侍四人・足軽五拾人別紙書取之通、今晩汐ゟ早速立相成候様、惣而、火急之義ニ付、御切手并賃借之義者先達而早速立相成候手筈同様印鑑被相渡旨ニ付、組頭并係名前早速仕向相成候上、右印鑑被相渡候旨旁羽室雷助ゟ被相達候、此段早走を以早々如斯御座候、以上

三月廿日

市左衛門

猶以、本文ニ付而、御本家ゟも御筒方弐百人余、蓮池ゟも御番所之方兼而御達之通、出勢之趣御座候、已上

七兵衛様

治兵衛様

四郎左衛門様

一右ニ付、左之通、人数被差出候

手組附

（五郎川八太夫
服部奥之丞）

下村長四郎

今泉助三郎
横尾太郎左衛門
嬉野市左衛門
足軽五拾人
副士
西川徳三郎
南里政太郎

右ニ付、為注進右組之内ゟ足軽両人早走を以、被指立候事

三月二十七日

一長崎表急出張之人数用意之義、左之通御番所ゟ相達相成候段、西丸ゟ申来候

御番方ゟ則刻呼出ニ而、伊王島へ増詰として左ニ書載之人数一左右次第早速立之義、御用意相成度、右者彼地ゟ何時申来候哉も難計ニ付、右之御心得被成置度、惣而侍名前之義ハ、其筋指出置候様、於然者其節急速間ニ合候様可被取計、旁石井雄左衛門ゟ被相達候条、右様御承知宜敷御取計可被成候

伊王島増詰
組頭壱人
侍五人
足軽弐拾五人

右之通ニ御座候、蓮池江も同様之達ニ而、鹿島其外右之割振を以相達申候、以上

三月二十九日

□於同所御同人ゟ左之通被相達候

松田定

□長崎表異変之節、一左右次第□預組召連、早速立被仰付候

今泉兵五郎
嬉野三郎左衛門
船津権太夫
東島市太郎

1570 文久三年三月晦日　西丸ゟ閑叟長崎行きの報知

大殿様四月朔日ゟ左之御休泊ニ而長崎御越、御帰御船中三重津被遊御揚陸候段、被相達候条、被得其意候

御休泊

亥四月朔日

佐賀　六角
浜　多良
湯江　諫早
長崎
御滞留中一日
長崎
御乗船
同七日
三重津
以上

1571 文久三年四月一日　長崎異変の際急出張を命じる事

一於小松間、左之通、御当役被相達候、列席例之通

前田孫四郎

長崎表異変之節、一左右次第急出張被仰付候

1572 文久三年四月二日　伊王島・高島警備省略の事

一御番方左之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候

伊王島・高島御備之義、当分被御取止之旨被仰出候、就而ハ御番所并遠見所之義も右両島共被相省、高島守衛之人数之義ハ、彼地出張役々何レ之筋へ歟見計を以守衛被仰付、尤伊王島之義ハ長崎御屋敷、偖又鵬ヶ崎、其外御筒御備替相成□迄之處ハ、打追之通詰方被仰付置候条、此段筋々懇ニ可被相達候、以上

亥四月　　御番方

1573 文久三年四月三日　伊王島備筒移動手配の事

一於小松間、御当役左之通被相達候、列席例之通

□服部奥之丞江為交代、富岡小兵衛□（預ヵ）り組召連、伊王島被指越候

□手持永九郎太夫・大木清吾□組ニ被相加候

一今夕、伊王島ゟ飛脚到着、右便ニ而、左之通注進有之候

足軽中山啓之助飛脚便を以致啓達候、然ハ今朔日御番方ゟ則刻呼出ニ付、次郎右衛門罷出候處、伊王島御台場御備筒之義、当分被御取止之旨被仰出候段、相達相成申候、惣而ハ、一本松御台場之内八十ホント御筒弐挺、早速ゟ御取下、同所御石庫をも御取崩、長崎御屋敷御備替相成候趣ニ□（御ヵ）座候、全体御屋敷之方御筒八挺丈□備付相成、拾七八挺丈ハ稲佐崎辺□之由ニ御座候、御手前受持之御筒右場所江御備替相成而、其ニ而ハ有御座間敷哉、左候得者、御自分方をも急速其場所出浮、諸手配相整候心得ニハ御座候得共、前件之次第ニ付、先以内輪手配而已にて惣人数引直り候節ニ相成候ハ、、大混雑相成可申、其辺之義ハ未見当も難相付、追而相分候半ハ、早々可及御懸合候、此段為注進如斯御座候、恐々謹言

四月朔日　　甘木新右衛門

中尾次郎右衛門

松崎七兵衛殿

持永治兵衛殿

□四郎左衛門殿

□御筒、其外引移方、其外土兵而已ニ而ハ御手ニ被及兼候由ニ而、足軽中ゟ御加勢等差出呉候様、分而相談ニ付、早速ゟ右之手当相整申候、扨又御出陣方下役古賀小左衛門義、平山御陣場見繕、隙取候模様ニ付、別段飛脚指立申候、佐賀表ゟ之達右状写ハ、其筋差遣置申候

1574 文久三年四月五日　長崎仕組方より家老名前差し出しを命じられる事

一御番方ゟ長崎御仕組ニ付、御家老名前指出候様相達有之候段、西丸ゟ左之通□ニ付、西造酒殿御名前付出相成□返書差出

四郎左衛門

七兵衛様
治兵衛様
御番方ゟ呼出ニ付罷出候處、長崎御仕組ニ付、御家老
御名前指出候様、津田三郎左衛門ゟ被申達候条、右
様御承知急ニ為□御知可被成候、此段為御懸合□此
御座候、以上
四月五日

1575 文久三年四月八日　長崎異変の際、出張を命じる事

一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通
日出島源兵衛
長崎表異変御出馬之節棹役ニ而御供
徳島健之丞
右同断之節、評定所として御供
川副増吉
同断之節、元〆ニ而□
星野九右衛門
□之節手組□連御供
留守五郎右衛門
右同断之節、棹役ゟ御纏奉行兼ニ而御供
西村四郎五郎
右同断之節、手組召連御供
松崎七兵衛
右同断之節、検使御取次兼ニ而御供
持永治兵衛
□（右同ヵ）断之節、御状方ニ而□
□（右之ヵ）人々
神代官右衛門
御当役座ニ而御達長崎表異変御出馬之節、二番手□
大物頭へ相従、持永九郎太夫組召連陣代
富岡弥一左衛門
□（右ヵ）同断之節、日出島源兵衛組召連陣代
長崎要人
木下與左衛門
右同断之節、御本陣へ被召連候
三浦斧柄
右同断之節、預組召連御供
溝口八郎
馬場文八郎
相浦邦太郎
藤島喜右衛門
相良柳沢
□（右同ヵ）同断之節、持役ニ而御供
中島需安
右同断之節、御供
富岡寛之進
薬王寺弼
黒木又三郎
園田半十郎
牟田進作
犬塚志津馬
松田千一郎
松崎源太郎

西川熊次郎
村崎六郎
川浪治一郎
大島彦右衛門
三浦助之助（ママ）
今泉内蔵助
秋野新八
三浦政一
伝右衛門次男
竹内吾六

四月十日後ニ被仰付候

右同後ニ被仰付候

神代右馬允
秀島大七
原口猪之助

右同断之節御馬廻為警衛御供

葉次郎右衛門
千手弥三郎
大木林太夫
永渕形左衛門
神代市太郎

□（長ヵ）崎表異変之節、馬場大丞組□為交代急出張被仰付候

柴田作右衛門
□（右同断ヵ）之節、馬場大丞組滝巳之助□陣代被仰付候

右同断之節、持永九郎太夫伊王島詰之人々へ為交代急出張被仰付候

南里俊八
中島甚九郎

右同断之節、持永九郎太夫組今泉文吾郎陣代被仰付候

小池利兵衛
本村敬七
川副七三郎
辻文之進
生部作一
今泉馬吾郎
田中一太郎
牧瀬権内
村山休四郎
大坪兵太郎
吉次文碩

□介役□仰付候

岡孫太

右同断御出馬之節、持役ニ而御供被仰付候

西岡久之助
田中九十九

長崎表異変之節、二番手服部奥之丞□陣代被仰付候

四月九日

一於小松間、御当役左之通被相達候、列席例之通

木下牧太
相原治右衛門

□（長崎ヵ）表異変御出馬之節、持役ニ而御供

右同断之節、御側ニ而御供

東島栄太郎
右同断之節、御馬廻警衛御供　土井清左衛門
右同断之節、御納戸ニ而御供　永田右源次
深江隼太
□（右同ヵ）断之節、棹役ニ而御供　江口甚右衛門
長崎表異変之節、持永九郎太夫組高木浪衛陣代
秀島太七
右同断之節、馬場大丞組伊王島□人江為交代　急出
張被仰付候　三笠勝太郎
御蔵方差次ゟ伊王島銀方兼被仰付、近々ゟ彼地江被
指越候　安川作之允
志波啓之助
長崎表異変御出馬御納戸陣役ニ而御供　丹宗孫兵衛
香田忠左衛門
横田伊兵衛
□（右ヵ）同断之節、御供□之通願書　指出候
一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通
松田助太郎
長崎表異変御出馬之節、御馬廻為警衛御供
大木林太夫
右同断之節、持永九郎太夫組伊王島出張之人江為交
代急出張被仰付候　川浪徳一郎
四月十日　三浦時之助
□（長崎ヵ）表異変御出馬之節、御馬廻為警衛御供
被仰付置候処、流ニ被仰付候
四月十一日
一左之通、於小松間、御当役被相達候、列席例之通
遠岳神九郎
長崎表異変御出馬之節、手組召連御供被仰付候
下川和三郎
右同断之節、伊王島詰馬場大丞組永橋重次郎為交代
代急出張被仰付候右同断　永橋敏一郎
□御馬為警衛御供、右同断□（一左ヵ）之通、御届
有之　岡平蔵
梅徳丸為上乗、明日ゟ山代表出立仕候段、御届申上
候事
四月十二日
一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通
北島弥兵衛
古部休甫
□（長崎表ヵ）異変御出馬之節、持役ニ而御供
四月十三日
□（一ヵ）於御書院、左之通被遊御直達候、列席例
之通

西造酒丞
長迫表異変之節、都合為心遣召連候
藤山九右衛門
目附使番申付候
一於小松間、御当役西造酒丞殿左之通□（被ヵ）達候、
列席例之通
藤山相右衛門
□支配組ニ被相加候、尤当四月以後、長崎表異変之
節、二番手ニ相加、早速立被仰付候
薬王寺弼
四番手ニ被相加候
小柳孫右衛門
長崎表異変御出馬之節、御宿割・川割方・普請方兼
御供被仰付候
馬渡万九郎
弐番手宮地鉄之丞組小頭田口伝之進陣代被仰付候
池田彦太郎
荒木利兵衛
□（長崎表ヵ）異変御出馬之節、太鼓役被□（仰付
候ヵ）
堤善作
永渕藤次郎
池田仁兵衛
牟田善右衛門
武者大将支配星野九右衛門組ニ被相加候
空閑平太夫
小寺官助
江島伝左衛門
鈴木壽七
五番手神代太郎左衛門預り組ニ被相加候
田中安六
長崎表異変御出馬之節、御宿割・川割方・普請方附
役被仰付候
善福寺
常円坊
□御本陣貝吹被仰付候
四月十四日
□役、左之通被相達候、列席□（例之通ヵ）
黒木又三郎
長崎表異変御出馬之節、御馬廻為警衛御供被仰付候
真乗坊
右同断之節、御本陣貝吹被仰付候

1576

文久三年四月十七日　伊王島より帰着の事

□（一左ヵ）之通御届有之候
服部奥之丞
西川治三郎
去ル十四日、伊王島出立之末、昨夜帰着仕候段、御
届申上候事

1577 文久三年四月十八日・二十日　長崎異変の際、出張を命じる事

一於小松間、左之通御当役被相達候、列席例之通
重松与次右衛門
長崎表異変御出馬之節、一左右次第手組召連、早速立被仰付候
松田定
五郎川八太夫為交代預組召連、近々ゟ伊王島被指越候
山田甚右衛門
□異変御出馬之節、□（御宿割ヵ）川割方・普請方附役被仰付候
田中安六
長崎表異変御出馬之節、御宿割・川割方・普請方附役被仰付置候處、流ニ被仰付候
四月二十日
□（一於小ヵ）松間、御当役左之通被相達候、列席□（例之通ヵ）
益田安太郎
長崎表異変御出馬之節、御供被仰付候
□（一ヵ）左之通申上有之候
御出崎御供之内、不調子之義有之、甚奉恐入候、以上
持永九郎太夫
四月廿日
一綾部新五郎不快

1578 文久三年四月二十三日　宿備の古物を村方へ引替えの事

一長崎御仕組方ゟ宿々用意物之義、左之通申来候
宿々用意物之義、毎年役内ゟ見分被指越、用立兼候品ハ夫々備替相成義ニ候得共、草履其外□ニ用立兼候節ニ至り□（一ヵ）成来、其通ニ而ハ全捨切ニ而費之節ニ相見、殊ニ実用不相成旁ニ付、以来ハ年々見分備替相成、左候而古物之義ハ右郷物相納候村方へ引替ニして、被渡下義候条、筋々懇ニ可被相達候
一草鞋
一沓
一飼葉
一敷藁
一小糖
以上
亥四月
長崎御仕組方

1579 文久三年四月二十六日　番方より新しい伊王島・高島・沖ノ島の備方達有り

一御番方ゟ左之通達帳相成候段、昨夕西丸ゟ申来候
伊王島・高島・沖ノ島之義、当節守衛人数、其外御取払相成候ニ付而者、香焼偖又深堀之義、猶又御厳備無之而不叶ニ付、当分香焼島□其外三ヶ所江御筒備□守衛人数組頭七人・侍四拾人・足軽百三拾八人之内

ゟ侍三拾六人・足軽三拾五人御筒部、残人数組頭七人・侍四人・足軽百三人之義ハ不目立通ニメ引払被仰付義ニ候条、此段筋々可被相達旨候、以上

亥四月　　御番方

伊王島御番所

甲斐守殿家来当番方　足軽拾人

右者平日詰

当番方

此内侍拾弐人
足軽拾弐人

右ハ香焼島堀切出張残り

□足軽四拾八人

□早速立

当番方

組頭壱人
侍拾人
足軽拾五人

非番方小城

組頭壱人
侍弐人
足軽三拾五人

此廉全ノ余り人数

組頭弐人
侍四人
足軽五拾人

右者早速立

高島

長門家来

筒方六人
侍弐人

足軽八人

右者平日詰

此内侍拾弐人
足軽拾壱人

右ハ香焼島御崎出張残り

人

右者早速立

沖ノ島

備前守殿家来

組頭壱人
筒方六人
侍三人
足軽拾人

右者平日詰

□（香焼ヵ）島

若狭殿家来

侍三人
足軽五人

右者平日詰

〆組頭七人

侍三拾人

足軽百三拾八人

香焼島新御備付之場所出張

一甲斐守殿其外家来侍三拾三人

一同足軽三拾人

若狭殿家来

右者平日詰
□七拾壱人、差引残人数左ニ
一組頭七人
一侍四人
一足軽百三人

（侍三人
足軽五人

1580 文久三年四月二十七日　伊王島引き払いの事

一伊王島其外守衛人数御引払之義ニ付、最前西丸江懸合越相成居候末、左之通申来候

七兵衛様　　四郎左衛門
治兵衛様

伊王島・高島・沖ノ島之義、当節御守衛人数其外御引払相成候ニ付、御番方ゟ達帳を以、被相達候写差越候處、右達帳之内江非番方小城と□組頭弐人・侍四人・足軽□全之余り人数と付紙有之、右ハ引払之人ニ有之候哉臍落いたし兼候ニ付、其筋聞繕否可申越旨、御懸合之趣致承知候、右ハ矢張引払之人ニ相当り可申由ニ御座候、此段御再答如斯御座候、以上

元治元年（一八六四）

1581 元治元年正月十三日　火術方より指棹役仰せ付けられる事

一昨夜、神ノ島ゟ注進相成、犬塚喜兵衛義、同所出張之御火術方ゟ左之通被仰付之旨、相達有之候段、申来候於御慶ハ目出度申納候、然者、当島并香焼詰一統、当年始歳暮共無別条罷在候条、右様御承知可被成候、惣而者、去ル四日御火術方綾部大右衛門ゟ左之通被仰付之旨、相達相成候段、本人ゟ達出相成申候

犬塚喜兵衛

指棹役被仰付候
右之通御座候条、宜敷御取計可被成候、此段旁為御懸合如是御座候、恐々謹言

正月十日　　伊東八郎右衛門
相原治右衛門

西川形左衛門殿
持永治兵衛殿
大坪九郎右衛門殿

猶以、本文之次第ニ付而者、同人義、万端引受心遣も有之格別之訳ニ付、御褒美御合力旁として、壱詰之内、両度ニ金百疋充被為拝領方ニ者有之間敷哉、右者是迄類例も無之義ニ付、尚御吟味之否御申越可成候、以上

1582 **元治元年正月十四日　火術方より稽古を命じられる事**

一稲増平太夫義、佐嘉御火術方稽古被仰付候段、御火術方ゟ相達相成候様、取計候也

1583 **元治元年正月十八日　好生館稽古人へ御目見の事**

一好生館ゟ西丸呼出ニ而、左之通書取を以被相達候段申来候ニ付、則本人〳〵江相達

来ル廿日五ツ時、御供揃御格式にして、弘道館被為成候上、好生館稽古之人ニ被渡御目儀ニ候条、別紙書載之人々、明六ツ時、学館被罷出候様可被相達候

附、諸家来之義者、其主人々々ゟ御側江御礼申上相成候様之事

子正月十八日　　好生館

加賀守殿家来

牟田省賢

菊地宗庵

村田有之

1584 **元治元年正月十九日　筒打頭を命じる事**

一左之通被仰付義ニ候条、其段相達有之候通、神ノ島御目付相原治右衛門江注進相成候

犬塚喜兵衛

御筒打頭取被仰付、於其場上席有之候様

1585 **元治元年二月一日　郷中引痘日の事**

一今日郷中引痘式日ニ付、佐嘉医師相良寛斎、昨夜ゟ出張之末、無量寺おいて有之

1586 **元治元年二月六日　神ノ島増詰の事**

一左之通相達相成候由、西丸ゟ申来候

神ノ島増詰被指越置候加賀守殿家来三拾三人・甲斐守殿家来弐拾人、則引払被仰付義候条、此段、筋々可被相達候、以上

二月六日　　御番方

1587 **元治元年二月七日・八日　種痘不足に付、引痘日延期の事**

一明八日、御家中引痘郷町打込無量寺ニ而可被相整之処、此節迄者種取之痘勢思わ敷無之ニ付、一先御家中之分者、指延相成度段、引痘方より達出相成

二月八日

一於無量寺、町在引痘式日ニ付、佐嘉医師礼雲、昨夜ゟ出張有之候段、其筋ゟ達出相成

1588　元治元年二月十一日　神島より引き払いの事

一左之通、神島詰帰着有之、尤去ル六日、御番方ゟ増詰之義引払相成候様相達之末、彼地懸合之処、八日ニ彼表ニて綾部大右衛門ゟ引払之達相成、爰元ゟ之懸合を不待、早速一統引払相成候様、相達之段、相原治右衛門・伊東又右衛門ゟ付状到来

関省之丞
川浪又三郎
牟田友之助
牟田伊吉郎
犬塚喜兵衛
松田千兵衛
加藤道助
大島彦右衛門
池田森三郎
石田右八
野口安之助
原権之助
横尾庄左衛門
川浪竹三郎
成富源吉
藤戸又右衛門
東島市太郎
水町求馬
佐野市郎左衛門
中島源一郎
川頭源八郎
吉本弥三郎
山田武一
野口虎之進
原田猪之助
南里藤一郎
松田文八郎
木下文吾郎
七田仁三郎
石動玄友

右之人々、今十一日神島ゟ帰着仕候段、御届申上候事

二月十一日

定弟
与左衛門弟
助右衛門次男

1589　元治元年二月十二日・十三日　神島より帰着の事

一神島詰、一昨日帰着相成候内、左之人々遠慮之末、今夜帰着仕候段、御届有之

伊東宅助
東又七郎
竹内五六
羽館久吉郎
伝右衛門次男
吉五郎弟

二月十三日

一左之人々、神島ゟ今夜帰着仕候段、御届有之

相原治右衛門
伊東八郎右衛門
西川徳三郎

野田光之助

1590 元治元年二月十四日　公務御用捨明けに付、魚見岳詰免除の事

一昨夜、左之通西丸ゟ申来候
追々御番代ニも相成候ニ付、魚見岳詰之義、打追之通候哉、御番方罷出相尋候処、右者当年ゟ公務御用捨御年限明ニ相成候ニ付、当節ゟ同所出張ニ者不相及候、惣而ハ、別段達帳ニも不相成、追而御手配帳ニ相成筈ニ付、委細者御手配帳ニ而致承知候様、鐘ヶ江次郎兵衛ゟ被申聞候条、右様御承知宜敷御取計可被成候、此段為御懸合、如此御座候、以上

1591 元治元年二月二十二日　銃名変更の事

一御備立方ゟ左之通、達帳を以、被相達候由ニ而、西丸ゟ到来
メンエ銃之義者線銃、八匁ドンドル筒之義者雷銃と相唱候様被仰付義ニ候条、可被得其意候、以上
子二月　御備立方

1592 元治元年二月二十四日・二十五日　直亮病に付、直正より医師派遣の事

一今夕松崎七兵衛、左之通会試相成候ニ付、御医師今夜も被罷越間敷哉との事ニ付、諸手配其他取計向取立置御不例ニ付、従肥州様御医師被遣候事
但、今日御出中ニ付、御帰之上、御指図相成筈ニ付、今夜歟明朝ニも可相成哉之事
二月二十五日
一殿様御不例ニ付、従肥州様御医師被遣候ニ付、取計向左之通
一見前便案内足軽壱人名原辺迄早速ゟ指出置候事
但、立宿引付并参着之次第、桜岡相通候事
一立宿平野久右衛門宅之事
但、参着之上、茶・多葉紛・菓子并空腹凌指出候事
一供方江も空腹凌差出候事
一本御門通り之事
但、御門上番当之事
一御使者同様之御取成ニ付、御式台ゟ被罷上候様致案内、御取次上ノ板間迄出迎、帰之節者御用人御取次、縁側迄送候事、但平服也
一小松ノ間上ノ間江案内之事
一参着之上、茶・多葉粉・菓子持出候事
一其末、御用人応対有之候事
但、追々御ヒ之人ニ応対有之候事
一料理壱汁三菜、外ニ香物
一吸物
一酒
一小平
一取肴
一さしみ

一鉢肴
一菓子
一御目録三百疋被下候事
　但、御用人ゟ被相渡候事
一供方江左之通
一茶漬壱汁弐菜
一酒
一肴
　以上
一御医師宮田魯斉被罷出、御願文、御肴・御菓子等、同人御使ニ而御内々被進候
　但、右才領等人江前方畢竟銀包被下候
一右御医師被遣候ニ付、早速御礼御使者として、御取次西村四郎五郎出丸相成候処、行違、西丸勤ニ而不苦段、御進物方ゟ指図有之、彼方ニ而勤相成候段、懸合来候

1593　元治元年二月二十五日・二十六日・二十七日　直亮危篤の事

一殿様御不例御危篤之御容体被為在候ニ付、御当役始、請役所詰中、今昼ゟ打詰滞勤有之、御親類・御家老方ニも御出仕、御打詰被成候
二月二十六日
一殿様御不例ニ付、閑叟様ゟ御医師大石良英被遣候、今昼、御内へ被罷出候、御用人・御医師中応対、其末、御容体伺之上、空腹凌被差出、御目録金弐百疋、且又御取込中ニ付、御料理代金弐百疋被下候
二月二十七日
一殿様病気段々被御差重、御療養不被為叶、今朝五ツ時前被遊御逝去候、尤御本閣少々御都合有之、且御手数等相聴兼候義も有之候ニ付、差付ゟ表向御弘無之

1594　元治元年二月二十七日　引痘整う事

一佐嘉医師、昨夜ゟ罷出、於無量寺引痘相整候段、其筋ゟ御届有之

1595　元治元年三月三日　宮崎元益他、直虎の御附になる事

一徳島健之丞、川副増吉、宮地健九郎、藤島守人、宮崎元益、若殿様御附被仰付候ニ付、御礼として御発シ、以前、三ノ御丸罷出候方ニ申合、今夕ゟ何れも出丸相成、尤御内輪御行成之知合も有之、押懸罷出候も如何ニ付、一応其筋へ尋之上被罷出候吟味也

1596　元治元年三月四日　藩主直亮死去に付、遠慮の事

一左之通、遠慮御届申上候所、夫ニ不及旨被仰出候ニ付、役僧呼出相達候事
　殿様御不例ニ付而者御祈祷等被仰付候得共、其験も無御座ニ付、則ゟ引入用捨仕候、此段御届申上候、以上
　三月四日　福智院
一右同断に付、左之通遠慮御届申上候処、書載之通被成

御免候
殿様御病中、御執ヒをも被仰付置候処、甚以不行届亘り、今更重畳奉痛入候、依之則ゟ遠慮引入申候、以上
三月四日　宮崎元益
右者三日目御免之廉ニ候得共、翌五日御出棺ニ付御免
宮崎元益ゟ遠慮御届申上候ニ付而者、於私も重畳奉痛入候、依之遠慮引入申候、以上
三月四日　銘々ゟ書付出ル
右者翌日御免之筈候処
御出棺ニ付、其朝御免
（松隈玄洞
佐野久仲
村田道碩）
則御免
中島需安
不及遠慮
山田元寿
一右同断ニ付、左之人々ゟ奉恐入候段、御届申上候
相良柳沢
川久保俊庵
原口養虎

1597　元治元年三月四日　引痘実施の事

一佐嘉医師納富俊碩、昨夜ゟ止宿之末、今四日、於無量寺引痘有之候段、引痘方ゟ達出相成ル
但、御家中引痘之義、御凶変御発ニ付、此節無し

1598　元治元年三月二十一日　本家より公務御用捨・長崎警備の事

一右畢而（直虎家督の御礼）、左之通御書付ニ、於同所（佐賀城料理間）、御同人（鍋島上総）ゟ被相渡候
長崎表御警衛向之義ニ付、別紙之通、於公辺被仰渡候、右ニ付而者、人数差出方之義者、追而被相達候品も可有之候得共、於当番年之義ニも有之、先以、魚見岳御台場へ人数指出御警衛方請持被仰付義候、末家之者共、出格之訳を以、猶又当子年ゟ五ヶ年之間、公務一切御用捨被仰出候間、長崎御警衛一切厳重行届候様可被致候事

1599　元治元年三月二十二日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師塩田道円、昨夜ゟ無量寺出席相成候段、代官所ゟ達出有之

1600　元治元年三月二十三日　再び魚見岳詰の事

一左之通、御番方ゟ内達有之候段、西丸ゟ申来候
三家之義、出格之訳を以、尚又当子年ゟ五ヶ年之間、公務一切御用捨被仰出候ニ付、長崎御警衛向人数差出方之義ニ而、追而被相達候品も可有之候得共、先以、魚見岳御台場へ則今ゟ左之通詰方被仰付義候

魚見岳
一ノ増
欽八郎殿家来
筒方九人
但、筒方手助ゟ番屋詰兼　足軽六人
二ノ増
甲斐守殿家来
筒方六人
但、筒方手助ゟ番屋詰兼　足軽六人
三ノ増
備中守殿家来
筒方三人
但、筒方手助兼　足軽三人

一玉薬之義、至其時御武具心遣之人ゟ渡方相成義候、御筒手入等吃度相整候様

一詰中飯米之義、前方之通深堀蔵床ゟ被相渡義ニ御座候、右之通被仰付義候条、筋々懇ニ可被相達候、以上

子三月　御番方

1601　元治元年三月二十五日　宮崎元立帰着届の事

一宮崎元立為稽古江戸相詰居候処、病気差出候ニ付、去ル二日江戸出立之末、今日帰着仕候段、御届有之

一右ニ付、足軽為付副罷下候

1602　元治元年三月二十八日　火術方大砲稽古上覧の事

一左之通、大庄屋筋ゟ筋々達出相成候、右ニ付而者御仕成等無之

明廿九日明六ツ時、御供揃ニ而、御火術方稽古大砲放出為御覧、大久保被遊御越候段申来候条、如跡方無迦相整候様相達可申候、以上

御道繰
名護屋御渡、立石、中極町、大久保、以上

子三月廿八日

1603　元治元年三月晦日　魚見岳詰を命じる事

一於小松ノ間、左之通、御当役西造酒丞殿より被相達候、列席例之通

魚見岳詰被仰付候

馬渡伝治
吉富新太郎
山本権市
古館喜一
庄久右衛門
村川伝右衛門
千々岩幸之進
相右衛門伯父
藤山利兵衛
藤七兵衛弟

〆九人　　江リ口外太郎

1604　**元治元年四月三日　魚見岳詰の者火術方入門の事**

一此節、魚見岳被仰付候人々之内、吉富新太郎・古館喜一、火術方入門相成居不申候ニ付、同所申入之義、西丸申越置候所、明後五日被罷出候様、相達相成候段申来候ニ付、其段相達ス

一村川伝右衛門義、魚見岳詰被仰付候処、老母病気ニ付、御断願有之候処、願之通被仰付候段、手紙達

1605　**元治元年四月四日　引痘に付、佐嘉医師出張の事**

一佐嘉医師江上文斎、昨夜ゟ止宿之末、今四日、無量寺出張相成引痘有之候段、其筋ゟ達出相成ル

1606　**元治元年四月四日　魚見岳詰を命じる事**

一於小松ノ間、左之通御当役西造酒丞殿ゟ被相達候、列席例之通　　甘木新右衛門

魚見岳詰同所銀方兼被仰付

但、香焼銀方をも引受相成候様、且魚見岳詰上席ニ而万事心遣候様

1607　**元治元年四月五日　母病気に付、香焼詰断の事**

一竹野又四郎義、香焼詰被仰付置候処、母親病気ニ付御断願、一類田代源二其外ゟ指出候末、願之通被相済候ニ付、一類呼出相達候

1608　**元治元年四月六日　魚見岳詰を命じられる事**

一左之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候

三家々家魚見岳詰之義、来ル十一日ゟ指立義ニ候条、筋々懇ニ可被相達候、以上　　御番方

子四月

一於小松之間、左之通御当役西造酒丞殿ゟ被相達候、列席例之通　　川頭形左衛門

香焼詰被仰付候

但、甘木新右衛門へ香焼・魚見岳銀方被仰付候得共、香焼者遠隔之場所ニ付、同所銀方之義引受心遣有之、同人申談相成候様、付役達

1609　**元治元年四月九日　魚見岳詰出立の事**

一左之通、御届有之　　甘木新右衛門　江口平次

明十日ゟ魚見岳為詰、出立仕候段、御届申上候

1610 **元治元年四月十日　引痘に付、佐嘉医師出張の事**

一引痘ニ付、佐嘉医師楢村蒼寿、昨夜止宿之末、今十日、無量寺出席相成候段、代官所ゟ達出有之

1611 **元治元年四月十一日　魚見岳詰へ出張の事**

一左之人々、魚見岳為詰、今日出立仕候段、御届有之

馬渡伝治
吉富新太郎
山本権市
千々岩幸之進
庄久右衛門
藤山利兵衛
江里口卯太郎
古館喜一
足軽六人

1612 **元治元年四月十七日　宮崎元立参府断の事**

一左之通、一類松崎五右衛門江付役より演達いたし候事

宮崎元立

右者、日数九十日之御暇ニ而帰郷相成居候得共、病気之訳を以、出府不相叶候ニ付、被仰付置候御役儀御断相成候様、江戸表懸合相成候義ニ候事

1613 **元治元年四月二十二日　引痘に付、佐嘉医師出張の事**

一引痘方ニ付、佐嘉医師相良寛斎、昨夜ゟ止宿、今廿二日無量寺出席相成候段、其筋ゟ達出相成

1614 **元治元年四月二十七日　三家の筒方備人数規定の事**

一御番方ゟ左之通達帳を以被相達候段、西丸ゟ申来候

香焼島堀切、其外御台場詰三家家来筒方之義、壱貫目以上者三人懸り、以下者壱人懸ニメ詰方被仰付義候、過人数丈急速引払相成候様

堀切
欽八郎殿家来
甲斐守殿
筒方拾弐人
足軽拾弐人

右者当時詰方

内

筒方九人
足軽九人

右者当節御潤島ニ而詰方

差引

過成

筒方三人
足軽三人

右者引払

竹崎
備中守殿家来
筒方拾壱人
足軽五人

右者当時詰方
内
筒方七人
足軽五人

右者当節御潤島ニ而詰方
差引
過成　筒方四人

右者引払
以上
元治元年子四月　御番方

1615　元治元年五月五日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一為引痘、佐嘉医師塩田道円、昨夜ゟ止宿之末、今五日無量寺出席相成候段、代官所ゟ達出相成候

1616　元治元年五月十一日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師中野雲圭、昨夜ゟ止宿之末、今十一日無量寺出席相成候事

1617　元治元年五月二十三日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師納富俊碩、昨夜ゟ止宿之末、今廿三日無量寺出席相成候段、代官所ゟ達出相成ル

1618　元治元年五月二十九日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方佐嘉医師江上文斎、昨夜ゟ止宿之末、今廿九日無量寺出席之段、代官所ゟ達出相成ル

1619　元治元年六月五日　魚見岳詰出立の事

一今晩、魚見岳早速立之儀、西丸ゟ左之通、早走を以申来候

形左衛門様
治兵衛様　七兵衛
九郎右衛門様

御番方ゟ即刻呼出ニ付罷出候所、当時長崎表不穏風説有之候付、別紙達帳之通、侍拾人急出張被仰付候旨、石井雄左衛門ゟ被相達候条、右様御承知通御取計可被成候、此段早走を以、為御掛如是御座候、以上

六月四日

猶以、本文ニ付、印鑑壱紙、同人ゟ被相渡候ニ付、御

切手并賃借乞請御番方付状ニも不相及候条、右様御承知可被成候、惣而者、出勢之人数不目立様、十林原通ニ而小ヶ倉通行有之候様、同人ゟ被申聞候条、旁右様御承知可被成候、以上

当時、長崎風説之次第有之、不穏折柄ニ付、先以、左之通早速立十林原通ニ而増人数被指出候旨ニ候条、可被得其意候

一三家家来魚見岳部筒方弐拾人

内

拾人　小城
七人　蓮池
三人　鹿島

子六月　御番方

右之趣、承届候、以上

五月五日（ママ）

一於小松間、左之通御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通

稲増平太夫
高岸直
秀島隼人
横尾庄左衛門
田崎寛左衛門
村川彦之允
八十嶋五百人
船津権太夫
嬉野市左衛門
常富百人

魚見岳為増番、急出張被仰付候

1620　元治元年六月五日　火術方熟達に付、褒美の事

一左之通、付役達

稲増平太夫

御火術方格別熟達之人ニ付、為御合力、月々金百疋宛被指出候

但、本文之次第、魚見岳銀方へ掛合越ス

1621　元治元年六月六日　魚見岳詰出立の事

一魚見岳増詰、早速立之人々、今朝ゟ出立相成候事

1622　元治元年六月十五日　山内郷引痘願の事

一山内郷中引痘願有之、里郷当月中仕廻相成候付、急済相成候付、種取致連綿候故、堤形部左衛門ゟ書付指出相成ル

1623　元治元年六月二十八日　長崎仕組を仰せ渡される事

一左之通、御本丸相談役中より申来候ニ付、今夕ゟ出丸相成候

原田大右衛門
中野数馬

西造酒丞様　　伊東外記
長崎御仕組被仰渡候条、明後廿九日五ツ時、御城御　　深江助右衛門
出可被成候、以上

1624　元治元年七月一日　宮崎元益遠慮の事

一左之通御届申上候
私倅元立義、病気ニ付、江戸表ゟ被指下候末、一類松崎五右衛門迄御達之旨も有之、成丈外出等不致通取締罷在候得共、病症柄と申、昨今殊之外不出来ニ有之、所々之寄行候上、御場所柄江も罷出不都合出来兼手〆方不行届亘り、重畳奉痛入候、依之遠慮引入申候、此段御座候、以上
七月朔日　　宮崎元益
一類宮崎元益より御届申上候次第ニ付而者、於我々も不行届亘り、重畳奉恐入候、以上
七月朔日　　松崎五右衛門
菊地宗垣

七月二日
一昨夜、左之通御届相成ル
私儀、昨廿九日、評定所勤番罷在候処、暮前頃、宮崎元立殿不計被罷出、無間も村崎六郎殿一類ニ付、同人居籠所江罷越候旨申捨、直様被罷通候故、直ニ追懸候得共、最早居籠所江迄被参候を病気柄之事ニ付、程能相宥、御門外連出被罷帰候様取計申候、惣而者兼而厳重之御手配警衛罷在候付而者、其場ニ而差留置、其筋達出候半而不相叶候所、前断之次第、全不行届亘り、今更重畳奉痛入候、依之引入逼塞仕仕、以上
七月朔日　　横尾代蔵
（同文ニ付飯盛斧吉・生方半兵衛・堤半次ノ届書略ス）

1625　元治元年七月二日　田代松齢へ家名相続を命じる

一左之通、於小松ノ間、御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通　　田代松齢
元田代次郎助名跡被相立候付、家名相続被仰付候、元知被為拝領、一代医業被指免候
一生医師之席被仰付候段、相談役相原万兵衛ゟ相達候

1626　元治元年七月二日　魚見岳詰を命じる事

魚見岳詰被仰付候　　道碩弟　村田有之

1627　元治元年七月二日　宮崎元益遠慮御免の事

一左之通被成御免候
遠慮先以御免　　宮崎元益
右同断　　横尾代蔵

右同　足軽　飯盛斧吉　生方半兵衛　堤半次

1628　元治元年七月五日　村田有之出島の事

一村田有之義、今日ゟ出島仕候段、御届申上候事

1629　元治元年七月六日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘ニ付、佐嘉医師嶋田芳橘、昨夜ゟ止宿之末、今六日無量寺出席相成候段、会所ゟ達出相成ル

1630　元治元年七月十七日　医師へ西洋医術研究・好生館出席を命じる事

一御本丸請役所ゟ左之通達帳を以被相達候段、西丸ゟ申来候事

一医師之儀、漢法者一切被止西洋法ニ相改候様、去ル酉年限被相達、御城下扨又近所凡二里内四方在住之儀、去ル亥年迄術方致研究、乍其上茂不相進向者ヒ留をも可被仰付旨被相達置候付、御取調子之上、追々被相達候次第も可有之候条、精々好生館出席、猶又西洋医術致研究候様、尤右之通被仰付候而も不取用向於有之者、急度可被及御沙汰義候条、此段筋々懇ニ可被相達候、以上

子七月十三日　請役所

1631　元治元年七月二十三日　魚見岳詰銀米方派遣願の事、西泊・戸町両番所取払の事

一魚見岳詰甘木新右衛門ゟ左之通、急町便を以、注進相成候付、早速御本丸筋聞繕相成候様、西丸申越ス

以急町便致啓達候、然者今十九日御番方ゟ即刻呼出ニ而、別紙之通相達御模様替相成候付而者、何時異変出来仕候哉も難計、何れも夜白厳番罷在儀ニ御座候、右者疾西丸呼出、其筋ゟ相達有之儀と者存候へ共、万一物落等可仕哉も難計ニ付、態と急便を以致御掛合義ニ御座候、惣而此上増出張等有之儀ニ候得ハ、長崎御屋鋪・神島間との嶋ニ御座候間、迚も拙者江口平次而已ニ而者、懸々心配不行届ニ存候条、其御含ニ而増出張中銀米方之儀者別段誰そ御遣被成度、御吟味相成度存候、此段旁為注進、畢竟如此御座候、恐々謹言

七月十九日　甘木新右衛門

西川形左衛門殿
持永治兵衛殿
大坪九郎右衛門殿

以手紙致啓上候、今十七日夕刻、御番頭之内御壱人則御出被成候様、尤為差掛義ニ付延引有之、私致出席候通、御奉行所ゟ御呼出ニ付、即罷出候所、服部長門守殿御面談、長州一件和談出来兼候由ニ而、来ル廿一日・廿二日間ゟ英仏蘭三ヶ国之軍艦弐拾艘横浜表

出航、長州表乗渡及戦争候決談相整候趣、横浜ゟ便り有之候段、蘭コン〇シュル(ママ)ゟ申立候由、左候ヘハ、長州表之都合ニ随ひ爰元異人居留所辺乱妨等難計ニ付、大村家其外江人数差出方之儀被相達置候由、依之為心得御為達相成候段被申聞候付、其御心得可被成候、此段為御掛合如斯御座候、以上

七月十七日

石川寛左衛門

追啓、本文ニ付而者、尚御心得ニも相成義候、御永談之筋御座候間、次兵衛殿明朝飯後御出可被成候、以上

鍋島隼人様
千葉頼母様
藤本桓作様
北原有右衛門様
鐘ヶ江次郎兵衛様

御奉行所御届草案

長崎表御備向御模様替之儀、両家打合追々可申上及永談候半、方今切迫之時勢引移候付而者、不弁利之場所ニ有之、片時も其侭難被閣、一刻も取払枢要之場所江引移度、尤右様切迫之折柄ニ付、先以番頭共義者可然場所江為引移、当今共詰候様仕度、美濃守殿御家来ニも遂談候所、彼御方も御存寄無之ニ付、当番方之場者速ニ御番所引払申度心得御座候、此段相伺候様、肥前守申付越候、以上

七月　　御名内

伊東外記

御付札

書面之趣承届候、場所取極り候ハヽ、絵図并仕様帳相副、厳可被申聞候

子七月

今度、両御番所御取払ニ付、廉々左之通

一西泊番頭
一同御番方附役
一同物書役
一同使番両人
右者長崎御屋鋪居直
一勾丸八丁立壱
一二文字使船壱艘
一六丁立壱
一四丁立壱
一三丁立壱
一戸町番頭
右者神嶋池御前御目付木尾居直
一暁丸八丁壱
一西泊御目付
但事変之節者弁利宜場所見計出張相成候様
一同下目付
一同仮下目付
右者太田尾住居
一六文字使船壱
一六丁壱

一四丁壱
一戸町御目付
　但西泊御目付同断
一同下目付
一同仮下目付
右者魚見岳御台場、右ハ尤仮木尾出来立迄之処、当分太田尾住居相成候様
一壱文字使船壱
一四丁壱
一三丁壱
一御石火矢役頭
一西泊御火術方助役
一同手伝役三人
一同下役弐人
右者西泊遠見鼻住居
一九文字使船壱
一六丁弐
一山形付三丁壱
一戸町御火術方助役
一同手伝役三人
一同下役両人
右者同所住居
一両御番所足軽中之儀者、見計を以ヶ所々増詰相成候様
一西泊御番所御備四貫弐百目御石火矢之儀、打追之通御備相成居候様
　但、本文元香焼詰之人ゟ請持相成候様
一両御番所切組木尾内御備石火矢四挺柳浦御取片付相成候様
一西泊御番所遠見之儀者被相定置麾移之儀、打追之通被仰付儀候様
一両御番所御取除、扨又同所備筒御取片付之儀、深堀於元〆方相成候様
一番頭初ヶ所々居直ニ付而乗船・荷船等、成丈両御番所御輒品を以相弁、不足丈之処者深堀元〆方ゟさし廻相成候様
一両御番所木尾々々之儀、御両家御舫之儀ニ付而者、木尾々々ハ勿論、両御番所不相混様、解方相成柳浦御開相成候様
一戸町御番所扨又太田尾詰早速立御筒打之儀、見計を以、ヶ所々部方相成候様
一戸町御備四貫弐百目之儀、元之通神島江引直相成候様
一西泊詰馬場元右衛門義、神島御台場居直相成候様
一八文字使船壱
一戸町詰諸岡権太夫義、高鉾右同
一八丁立壱、此船深堀ゟ指廻相成候様
一戸町詰中川貫之允義、長刀岩右同
一八丁立壱、右同
一戸町詰医師之儀、長崎御屋鋪住居相成候様
右之通被仰付義候条、筋々懇ニ可相達候、以上
　子七月　　御番方
右之趣、承届候、以上
　　甘木新右衛門
　　其外

1632 **元治元年八月十一日　野戦台製造を命じる事**

一左之通、付役達
　野戦台製造方懸り被仰付候　土井清左衛門
　　山田甚右衛門
　　田中安六
　右同断付役被仰付候　牟田口半次

1633 **元治元年九月五日　武衛流石火矢上覧の事**

一今日五ツ時、御供揃御乗馬ニ而、武衛流石火矢稽古放出為御覧、北浦被遊御出候事

1634 **元治元年九月七日　組入りの事**

一於小松ノ間、左之通野口進之允殿被相達候、列席例之通
（中略）
弐番手ニ被相加候　相良柳沢
　　馬渡仁庵
三番手ニ被相加候　松隈玄洞
　　宝善坊
武者大将支配ニ被　村田道碩
相加候　山田元寿
　　中嶋需安
　　林雄民
　　佐野文仲
（後略）

1635 **元治元年九月十三日　野戦筒掛かり仰せ付ける事**

一左之通、於小松ノ間、野口進之允殿ゟ被相達候、列席例之通
　東嶋栄太郎
　水町蔵人
　飯田貞一郎
　大木百蔵
　野副甚三郎
　石川八太夫
長州御征伐ニ付、壱番手出陣之節、野戦筒懸り被仰付候
（後略）

1636 **元治元年九月二十二日　銃練詰稽古の事**

一於学館、銃練詰稽古之末、今日薬込ニ而相整義ニ御座候段、御火術方ゟ御届相成

1637 **元治元年九月二十三日　真田流稽古上覧延期の事**

一今廿三日朝五ツ時、御供揃ニ而真田流放出稽古打御内覧として御出之義、雨天ニ付御延行相成候事

1638 **元治元年九月二十四日　魚見岳詰帰着の事**

一左之通、御届申上候

高岸亘
秀嶋隼人
常富百人
村川彦之允
横尾庄左衛門
船津権太夫
嬉野市左衛門
稲増平太夫
田崎官左衛門
八十島五百人

去ル廿一日、魚見岳出立之末、今廿四日帰着仕候段、御届申上候事

1639 **元治元年九月二十五日　石火矢稽古上覧の事**

一今朝五ツ半時、御供揃御乗馬ニ而、真田流石火矢稽古打為御覧、北浦被遊御出候事

1640 **元治元年十月八日・九日　香焼詰帰着の事**

一左之通、御届申上候

安本源之助
永松惣五郎
宮田伝四郎
牟田清一郎

去ル二日、香焼出立之末、今夕帰着仕候段、御届申上候事

十月九日

一左之通、御届有之候

川頭形左衛門

去ル二日、香焼出立之末、今日帰着仕候段、御届申上候事

1641 **元治元年十月十三日　銃調練上覧の事**

一於学館、調練場銃陣調練有之候、右ニ付、殿様被成御覧候、各方ニも列席相成

1642 **元治元年十月十七日　宮崎元益・元立へ仰せ渡し有り**

一宮崎元益・同元立江今夜被仰渡之旨、寄親西造酒丞殿宅おいて、御目付星野九右衛門ゟ相達、読手深江隼太、委細罰帳有之候故略之

一左之通、遠慮御届有之

今夜、私并倅元立江御書付を以被仰渡之旨ニ付而者、重畳奉痛入候、依之遠慮引入申候、以上

十月十七日　宮崎元益

1643 元治元年十一月五日　西洋流角前会試の事

一来ル八日、西洋流角前御会試之義、一先被差延候段、御火術方、其外其外(ママ)江相達御廻札相成候事

1644 元治元年十一月十日　本家にて銃調練上覧の事

一御備立方ゟ呼出ニ而、左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候

大物頭・大馬廻、偖又未夕御覧不相済警固組・御留守居組銃調練之義、来春迄ニ段々被遊御覧之旨、被仰出候条、可被得其意候、以上

欽八郎殿
甲斐守殿
備中守殿
大炊助殿
若狭殿
安芸殿
上総
豊前
安房
六左衛門
又右衛門
左近
杢佐

以上
子十一月　御備立方

1645 元治元年十一月十六日　真田流砲術稽古の事

一明十七日、於北浦御台場、真田流砲術稽古打相整候段、其筋ゟ御届相成候事

1646 元治元年十一月十六日　長崎警備に付、幕府へ届け出の事

一御本丸ゟ御家老壱人御出相成候様、昨夜西丸ゟ申来候ニ付、西造酒丞殿御本丸へ御出之処、御年寄ゟ左之通書取被相渡候

末家鍋島欽八郎義、今度被仰出之旨も御座候ニ付、出府為仕候筈ニ御座候処、私義、毛利大膳御追討被仰付候ニ付而者、欽八郎義も役目人数差出、且又長崎御番方ニ付而も兼而人数差出置候上、今般末家鍋島甲斐守・同備中守御暇被下被仰渡候次第も御座候ニ付、猶又長崎御警衛向増人数等も用意仕旁ニ付、御追討済迄在邑為致候、此段御届仕候、以上

十一月十八日　御名

御用番
本多美濃守殿江

1647 **元治元年十一月二十八日　宮崎元立逼塞御免の事**

一左之人、逼塞被仰付置候所、今退出被成御免候
宮崎元立

1648 **元治元年十二月二十二日　牟田省賢医術免札渡される事**

一牟田省賢義、好生館ゟ医術開業免札被相渡候段、西丸迄達帳相成候由、同所ゟ申来候

1649 **元治元年十二月二十九日　宮崎元益御目見の事**

一御本丸受役所ゟ左之通相達有之候段、西丸ゟ申来候
一正月元日御名代使者并御家来御目見被罷出候刻限、暁七ツ時
一同五日御家老被罷出候刻限、明六ツ時、右之通被得其意、無迦様可被相達候、以上

欽八郎殿家来
宮崎元益

右之人、年配ニ付、正月九日被渡御目由候条、暁七ツ半時御城罷出、当番之御目付へ釣合被申候様、可被相達候、以上

慶応元年（一八六五）

1650 **慶応元年正月十五日　入湯願の事**

一左之通、御暇願相成候処、願済相成ル
私儀、痛所御座候付、為養生入湯仕度奉存候付、御支所無御座候ハヽ、明十六日ゟ廿二日迄、日数七日御暇被為拝領度奉願候、以上
正月十五日　山田甚右衛門

1651 **慶応元年正月十五日　一番手調練稽古整いの事**

一来ル廿日、於学館調練場、壱番手調練稽古放出相整候段、組筋ゟ御届相成候事

1652 **慶応元年正月十六日　本家より銃陣調練御覧達の事**

一御備立方ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候
最前被仰出置候大物頭、其外銃陣調練之義、左ニ書載之通、来月初旬被遊御覧義ニ候、尤御日取之義者、追而被相達義候条、可被得其意候
欽八郎殿
甲斐守殿
備中守殿
大炊助殿
若狭殿

安芸殿
上総
豊前
安房

1653 **慶応元年正月十八日　領内の牛馬革差し留めの事**

一左之通、佐嘉御武具方ゟ達帳を以被相達候段、西丸ゟ申来ル

革類近年無類之高価相成候上、当折柄ニ而、諸国共革具足等之製作相始、旅出差留為相成由ニ而、別而払底相成、役筋其外必止与差支居候趣ニ付、御領中斃牛馬之皮、旅出被差留、東目安良川、偖又有田郷桃川、弐ケ所へ革なめし仕法被差免候、左ニ書載之者共江請元被仰付候、惣而右仕組等之儀者、請元共ゟ御領内ケ所々江小頭相立、万端無疎相整候様、委曲申付置候条、此段筋々懇ニ可被相達候

元町仕立屋
勝十
佐嘉山内三段田宿
与右衛門

以上
元治二年丑二月　御武具方

1654 **慶応元年正月二十日　銃調練上覧の事**

一於調練場、壱番手稽古調練有之候付、為御覧殿様被遊御出候

1655 **慶応元年正月二十二日　銃調練上覧により魚見岳へ鉄砲確認の為役人差し出す事**

一御本家ゟ調練上覧之旨被仰出候付、魚見岳江差越被置候鉄炮為存寄、今朝ゟ御出陣方下役人差立相成ル

1656 **慶応元年正月二十二日　本家調練上覧に付、出勢を命じる**

一左之通、書取を以、御当役西造酒丞殿ゟ壱番手大物頭宮内殿江被相達候

来月初旬、於御本家調練上覧被仰出候付、長州御出勢仰付被置候訳を以、御手組被召連、御出張被成候様、尤日限之義ハ追而被相達由ニ御座候

一右同断、三番手大物頭靱負殿江同断

来月初旬、於御本家調練上覧被仰出候ニ付而者、長崎表御当番中之訳を以、御手組被召連、御出張被成候様、尤日限之義ハ追而被相達由ニ御座候

1657 **慶応元年正月二十五日　小野宅右衛門死去**

一江戸ゟ抜状到来、小野宅右衛門、去ル四日病死之段申来ル

一右ニ付、左之通、御届有之

小野繁三郎

親宅右衛門義、江戸表ニをゐて、去ル四日病死仕候段承知仕候、依之今廿五日より、忌中引入候段、御届申上候

同人姉
つれ

右同断

1658

慶応元年正月二十五日　銃調練の事

一明廿六日、於学館調練場、三番手調練相整候段、組方ゟ御届相成候事

1659

慶応元年一月二十六日　銃調練上覧人数差し出しの事

一御備立方ゟ此節上覧調練人数付差出候様、西丸呼出相達之次第申来候付、左之通人数付差越申候

上書

惣名前書　但白半切認

大組頭　大組頭
鍋嶋靱負　田尻宮内
家老　番頭
西造酒丞　持永九郎太夫
番頭　番頭
村川織部　南里蔀
番頭　与頭
相原万兵衛　宮地五左衛門
与頭
（ママ）重松与次右衛門

右同
松田定　嬉野多志摩
右同　右同
星野九右衛門　五郎川八太夫
右同　右同
遠岳神九郎　富岡小兵衛
右同　右同
高木勘解由　渋川四郎次郎
右同　右同
横尾内蔵允　中林彦四郎
右同　右同
永橋助一　神代太郎左衛門
右同　右同
木下与左衛門　蓑田作左衛門
組頭　右同
三浦斧柄　藤田徳一郎
右同　目付使番
富岡弥一右衛門　今泉兵五郎
目付使番　右同
木下牧太　長崎要人
用人　側頭
川副増吉　関市之進
纏奉行　供頭
小田村市左衛門　馬場清左衛門

側役
西繁吉
右同
野副半九郎
右同
蓑田助之允
側役
秀嶋八助
右同
高木浪衛
馬廻士
戸田昌之助
右同
野口健之進
組頭
牟田進作
右同
石動仁太郎
右同
吉富十郎
右同
久保又七
馬廻士
兵動波門
右同
秀嶋大七
右同

右同
宮地健九郎
右同
成富八之助
右同
城嶋又八郎
右同
瀧已之助
右同
志波岩人
右同
西岡久之助
右同
藤嶋利吉郎
右同
今泉助三郎
右同
伊東八郎右衛門
右同
納富万兵衛
右同
溝口八郎
右同
佐野一郎左衛門
右同
蒲原又助
右同

石井武一
右同
中原只右衛門
右同
右近形五郎
右同
石井半九
右同
大園元吉郎
右同
陣内十太郎
馬廻士
永橋重次郎
野戦銃役士
富岡三太夫
右同
神代彦龍
右同
薬王寺弼
右同
徳見逸作
右同
牟田官之助
右同
松田助太郎
右同
嬉野又一郎

青木忠太夫
右同
三笠勝太郎
右同
西田郡助
右同
大木清吾
右同
横岳郷助
右同
川浪徳一郎
右同
石井十字
野戦銃役士
黒木又三郎
右同
関省之丞
右同
服部有喜
右同
下村長四郎
右同
東嶋栄太郎
右同
犬塚志津馬
右同
松井小三治

野戦役士
土井貞次郎
右同
梅崎源太郎
右同
神代宗三郎
右同
八十嶋五百人
右同
稲増平太夫
右同
中嶋源一郎
右同
藤山善右衛門
右同
野副甚三郎
野戦役士
飯田貞一郎
野戦役士
井上文輔
右同
北川湊
番士
神代右馬允
右同
今泉夘一郎
右同

右同
川副松一郎
右同
江口勝太郎
右同
川頭源八郎
右同
犬塚喜兵衛
右同
大木太蔵
右同
高岸亘
右同
常富百人
右同
石川八太夫
野戦役士
三浦時之助
右同
水町蔵人
番士
成富十助
右同
川頭形左衛門
右同
庄藤兵衛
右同

志波辰之助
同
加藤道助
右同
斉藤用之助
番士
横尾藤馬
同
中嶋神左衛門
同
西川隼之助
同
前田孫四郎
同
大木主一
同
永橋太兵衛
同
木村源右衛門
同
松田千兵衛
番士
大嶋彦右衛門
同
土山文九郎
同
岸清左衛門

納富五郎太夫
同
大石次郎左衛門
同
牟田源太左衛門
同
江口甚左衛門
同
城戸助作
同
三浦兵左衛門
同
重松四右衛門
同
藤戸又右衛門
同
古川源一郎
同
葉利左衛門
同
嬉野十助
同
崎川範之允
同
持永秀一郎
同
横尾太郎左衛門

同
永田久吉郎
同
梅崎与右衛門
番士
成富弥十
同
伊東宅助
同
千手弥三郎
番士
羽館兵五郎
同
三浦政一
同
野口三左衛門
同
田崎官左衛門
同
松枝大助
同
中嶋文蔵
同
今泉善内
同
香田伝左衛門
番士

同
土井清左衛門
同
水尾寛弥
同
堤健之助
同
山田武一
同
南里俊八
同
太田又之允
同
木村十右衛門
同
葉次郎右衛門
同
江頭増太郎
同
橋本平之丞
同
相良儀兵衛
同
田代希一
同
横尾只七
同

安本蔵人
同
七田助右衛門
同
船津権太夫
同
川浪辰之助
同
中原善内
同
東與七
同
安住作左衛門
同
柴田十左衛門
番士
深江藤右衛門
同
岩松源之進
同
山本與左衛門
同
古館平兵衛
同
吉田次兵衛
同
大嶋文蔵

宮田角左衛門
同
中嶋兵之允
同
納富弥七郎
同
神代勝左衛門
同
田代源二
同
永松惣五郎
同
於保兵之助
同
諸隈徳一郎
同
秀嶋隼人
同
香月鉄次郎
同
嬉野三郎左衛門
同
田中太三郎
同
柴田作右衛門
同
小林又右衛門

同　　同
石井十郎　　横尾庄左衛門
同　　同
諸隈市之允　　永渕形左衛門
番士　　同
安本源之助　　水町求馬
同　　同
嬉野市左衛門　　江越礼太
同　　同
高橋忠兵衛　　東嶋十右衛門
同　　同
石井兵之進　　安住清右衛門
同　　医師
宮田伝四郎　　松隈玄洞
同　　同
佐野文仲　　宮崎元益
同　　同
川久保俊庵　　前田文啓
同
横田揚湾　　山伏拾壱人
副士百四拾九人　　足軽四百六拾弐人
本陣口付其外七人　　従者七百弐拾七人
〆人数千五百七拾三人
以上

1660　慶応元年二月一日　銃調練上覧日程の事

一於御本家調練上覧之御日割、左之通相達之段、西丸ゟ申来ル

七兵衛

久之助様
形左衛門様
薫九郎様

御備立方ゟ即刻呼出ニ而、別紙之通達帳相成申候、右ニ付、肥州様御出座御刻限之義承繕候処、未相分候得共、多分朝五時始ニ而可有之候得共、当御刻限其外之儀、追而可相達旨、石井小助ゟ被申聞候条、右様御承知可被成候、此段為御掛合如此御座候、以上

二月朔日

尚以、蓮池へ者従者なしニメ、人数七百人、鹿嶋ニも同様人数之義ハ四百人計と申事ニ御座候、此段者御含迄ニ及御懸合候、以上

1661　慶応元年二月二日　銃調練吟味の事

一各方始、於山水ノ間ニおゐて調練御吟味有之
二月三日
一於八幡原、壱番手・弐番手調練有之

1662

慶応元年二月四日　小城参府すべきか問い合わせの事

一西造酒丞殿、今日左之通御書付御本丸御持出、御年寄鍋嶋市佑江御差出相成候也

欽八郎殿儀、去冬中出府被致候筈ニ御座候処、長州御追討ニ付而者、役目人数差出、且又長崎御番方ニ付而も地行人数差出置候上、去子九月甲斐守殿・備中守殿御暇被下被仰渡候次第も御座候付、猶又長崎御警衛向増人数等も用意仕、旁之訳を以、当分被致在邑候様、最前公辺御届被成下難有仕合被奉存候、就而者最早御追討方相済御出勢之義も御引払相成候ニ付而者、参府之儀如何被相心得可然哉、此段奉伺候、以上

1663

慶応元年二月五日　銃調練上覧の際銅勢引き連れの事

一於御本家調練上覧之節、殿様御胴勢御引連被遊御出候ニ付、左之通西丸ゟ口達差出候段申来ル、御備方名当也

口達

来ル九日調練御覧ニ付、欽八郎殿未前髪ニ者候得共、稽古之ため罷出候方可然旨、三御丸御小姓頭を以御内意有之候、依之行軍ゟ備付迄之処、指揮被致儀御座候、就而八人数等も相増儀ニ者候得共、未相聴兼候付、追而御達可仕候、此段御達仕候様、在所ゟ申越候、以上

丑二月　　松崎七兵衛

石井小助殿
前山清一郎殿
相良宗左衛門殿

二月六日

一明七日、於調練場、御前手致足揃候様、尤振ニ依候而者放発をも致し候様被仰出候事

一於佐嘉調練上覧之節、殿様御胴勢御引連被遊御出ニ付、御前手之儀、左之通被仰付候段、帳面を以請役付ゟ相達ス

帳面上書

於佐嘉表調練之節、御前手御仕組帳

遠岳神九郎
中林彦四郎
松本三五左衛門
藤田徳一郎

此節、於佐嘉表調練之節、御胴勢御引連被遊御出候付、手組召連御前手ニ被相加候

高木勘解由

右同断之節、江副兵部左衛門組召連、右同断

星野九右衛門

右同断之節、松崎七兵衛組召連右同断

小田村市左衛門

右同断之節、御纏奉行被仰付候

戸田昌之助

西岡久之助
野口健之進
藤嶋利吉郎
牟田進作
今泉助三郎
石動甚太郎
伊東八郎右衛門
吉富十郎
納富万兵衛
久保又七
溝口八郎
兵動波門
佐野一郎左衛門
秀嶋大七
蒲原又助
石井武一
青木忠太夫
中原只右衛門
三笠勝太郎
右近形五郎
西田郡助
石井半九
大木清吾
大園元吉郎
横岳郷助
陣内十太郎
川浪徳一郎
永橋重次郎
石井十字

右同断之節、御前手ニ被相加候
実相坊
堯仁坊

右同断之節、御前手御陣貝被仰付候
中野昌左衛門
嬉野重太郎
徳富源六
鐘ヶ江半五郎

右同断之節、御前手御陣太鼓被仰付候
以上

右之通帳面達ニ而承知之上、名前之下ニ印形被相整候

二月七日
一明八日昼四ツ時、御供揃ニ而佐嘉御越、一夜被遊御止宿候旨被仰出候事
一小頭・御徒士、鉄砲・陣笠・胴乱之義、御出陣方ゟ可被相渡之処、御品不足ニ付、左之通持参相成候而可然段、書取を以、請役附ゟ相達ス
小頭
御徒士
於佐嘉調練之節、当一順自分鉄砲・胴乱・陣笠相用候而不苦候、尤已来之儀ニ者不相成候

二月八日
一明九日、於佐嘉表調練ニ付、今日四ツ時御供揃ニ而西丸まて被遊御出候事

二月九日

一今日、於佐嘉表調練之末、上様御胴勢御引連、夕七半時過頃被遊御帰館候也
一御前手之義ハ、犬塚与三左衛門宅、御陣屋両手者御火術方へ幕其外飾陣屋相成候事
一肥州様・閑叟様御桟敷江被遊御出候、殿様ニも御手前調練相済候上、御桟敷へ被遊御出候様有之候付、被遊御出候由

1664　慶応元年二月十七日　銃調練の事

一明十八日、於調練場三番手練兵相整候段、組筋ゟ達出相成候事

1665　慶応元年三月五日　石火矢放出の事

一北浦於台場、月次放出有之

1666　慶応元年三月二十三日　練兵整う事

一来ル廿六日、於学館調練場、練兵相整候段、組筋ゟ達出相成候
三月二十六日
一今日、於学館調練場、弐番手練兵被相整候

1667　慶応元年四月五日　石火矢放出の事

一於北浦御台場、月次石火矢放出被相整候

1668　慶応元年四月六日　香焼島他筒備規定の事

一御番方ゟ左之通達帳相成候段申来候
去々年、生麦一件ニ付、香焼嶋之内、堀切其外三ヶ所御筒備相成、小城・蓮池・鹿島其外家来詰方被仰付置候得共、平常之処者被御取畳、御筒・玉薬等皆式自然之節ハ依時機御備付相成、御筒懸り之儀者左之通御指図次第出張、尤御筒囲方相済候迄ハ為御筒番壱ヶ所ニ足軽両人充打追滞勤候様、旁被仰付儀候条、筋々可被相達候

堀切
欽八郎殿・甲斐守殿家来順番受持　筒方九人　足軽九人

深浦
河内殿・大炊助殿・若狭殿・上総・長門家来順番請持、尤大炊助殿・若狭殿ニ者両家詰合ニメ　筒方九人　足軽七人

竹崎
備中守殿家来　筒方七人　足軽五人

一異船渡来之都合次第、香焼島為守衛、壱番立・弐番立ニ而指図次第、左之通早速出張被仰付儀ニ候
欽八郎殿・甲斐守殿家来当番方

壱番　組頭壱人　足軽十五人
右同　弐番　侍弐人　足軽拾人
右同非番方　壱番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
右同　弐番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
備中守殿家来　壱番　侍壱人　足軽拾五人
右同　弐番　侍壱人　足軽拾五人
河内殿・上総・長門家来当番方　壱番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
右同　弐番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人

右同非番方　壱番　侍弐人　足軽弐拾五人
右同断　同　組頭壱人ツ、　侍弐人ツ、　足軽弐拾五人ツ、
右同　弐番　組頭壱人ツ、　侍弐人ツ、　足軽弐拾五人ツ、
大炊助殿・若狭殿家来当番方　壱番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
右同　弐番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
右同非番方　壱番　与頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人
右同　弐番　組頭壱人　侍弐人　足軽弐拾五人

以上

丑四月　　御番方

1669

慶応元年四月七日　好生館へ出席勉励の事

一好生館ゟ左之通達帳相成候段申来候

医術之儀者人命ニ係り大切之業柄ニ付、好生館をも被御取立置候事候処、当時練熟之者手寡候間、一際出精致勉励候通、屹度勤方相成候様被仰出候

今般、別紙之通被仰付候所、昨年来、出席人数格別相減、懈怠之向も有之哉ニ相見、不宜趣候条、則今ゟ一際勉励研究有之候様、此段筋々懇ニ可被相達旨ニ候、以上

丑四月　　好生館

右之趣、致承知候、以上　　松崎七兵衛

1670

慶応元年四月二十日　香田俊道お雇医師差し支え無き事

一左之通、西丸ゟ申来候処、少も差支無之御吟味相成候ニ付、其段返書指出候

香田俊道儀、講武所方并大砲方・歩兵方之内、御雇医師被仰付候而差支無之哉、羽室雷助ゟ問合相成候条、指支之有無早々可被仰越候、其段為御懸合如是御座候、以上

四月廿日

1671

慶応元年五月九日　幕府へ参府猶予願の事

一御年寄ゟ御書付被相渡候ニ付、御家老之内御壱人御城御出相成候様御進物方ゟ相達之段、昨夜西丸ゟ申来候ニ付、西造酒丞殿御出之処、一昨七日ニ被差出置候御願書ニ付而、公辺江御願出、御本家ゟ被指出候段、御年寄原田小四郎殿ゟ左之通之御願書案文被相渡候

末家鍋島欽八郎義、昨年被仰出之旨も御座候ニ付、出府為仕候筈ニ御座候処、私義、毛利大膳御追討被仰付候ニ付而者、欽八郎義も役目人数兼而人数指出置候上、末家鍋島甲斐守・同備中守御暇被下被仰渡候次第も御座候ニ付、猶又長崎御警衛向増人数等も用意仕旁ニ付、在邑為仕候段、最前申上置候処、御追討出勢人数も致陣払候ニ付、欽八郎義、最早出府為仕候筈之処、近来頭瘡相煩、折節寒熱有之、長途之旅行仕候体無御座候ニ付、当冬頃まて出府之義御猶予被成下度奉願候、尤少茂快方ニ相成候得者、早々発足仕候様申聞義御座候間、願之通御聞済被成下度、此段奉願候、以上

四月　　松平――――

右者此御方ゟ五月之御書付候得共、長州出勢人数引払後、余り程延候而ハ、公辺向御不都合ニ付、矢張四月之御書付ニ而被指出候由

1672

慶応元年五月十六日　銃練上覧場所に荊有り切払の事

一御本家御火術方ゟ相達之次第、左之通、西丸ゟ申来候
御私領於八幡原、銃陣被遊上覧筈之処、同所江所々
荊有之ニ付、明日役々出張切払方いたし候条、其段
相懸　合置候様、就而者、右上覧之義、其筋ゟ相達相
成居候哉被相尋、右者為何義も承り居不申段、及返
答候所、一体者御側ゟ相達相成義ニ候得共、則右之段
相達候旨、川瀬孫之允ゟ被申聞候、惣而此節ハ稽古
上覧之義ニ付、此御方ゟ稽古人も被罷出候而も差支
ハ無之、尤是非出席有之候様と表向相達候訳ニ者無
之段旁、同人ゟ被申聞候条、左様御承知可被成候、
此段、為御懸合如是御座候、以上
五月十六日
尚以、本文荊切払方ニ付而者、兼而大久保出張之砌相
雇来候夫丸此節も中極町亘りゟ被相雇候心得ニ付、
差懸り故障等之義無之様、庄屋元其筋ゟ御通達相成
居度、是又同人ゟ被申聞候条、宜御取計可被成候、
以上

1673

慶応元年閏五月十三日　医者へ泊番を命じる事

一御用人方ニ而、左之通、御達相成候由
村田道碩
佐野文仲申談、隔夜ニ泊番有之候様
附り、非番之節ハ夜勤ニ不相及候
佐野文仲
村田道碩申談、隔夜ニ泊番有之候様
非番之節ハ夜勤ニ不相及候
宮崎元益
泊番添ニ被仰付候

1674

慶応元年閏五月十八日　番方より出張手配の事

一御本家御番方、左之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候
御非番御手配帳之内
香焼島
堀切
欽八郎殿・甲斐守殿家来順番請持
筒方九人
足軽九人
右者異船渡来之節、指図次第、早速立ニ而出張
一異船渡来都合次第香焼島守衛壱番立・弐番立ニ而指
図次第、左之通、早速出張被仰付儀ニ候
欽八郎殿・甲斐守殿家来当番方
壱番
組頭壱人
足軽弐拾五人
右同
弐番
侍弐人
足軽拾人
右同非番方
壱番
組頭壱人

侍弐人
足軽二拾五人
御非番御武具帳之内
香焼島
堀切
但自然之節之御備
一唐銅五百目　壱挺
一同　壱貫目　右同
一同　壱貫目　右同
一同　五百目　右同
一同　三百目　右同

1675　慶応元年閏五月二十五日　綾部新五郎長崎行きの事

一左之通、御届有之
綾部新五郎
明後廿七日ゟ長崎表罷越候段、御届申上候事

1676　慶応元年六月五日　石火矢放出の事

一北浦御台場ニ而、月次石火矢放出有之

1677　慶応元年六月六日　引痘に付、献銀の事

一御本丸請役所ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候
引痘之義、厚以思召、先年来御施ニ被仰付置、御領中端々迄痘難相免レ御仁恵之御仕組ニ付、壱人ニ付而左ニ書載之通、段取を以、好生館相納候様、尤極難之者者其懸々ゟ見計を以達出相成候半者、御施ニ被仰付義候条、此段筋々可被相達候、以上
正金五拾疋
右者御家老以上
正銀五匁
右者着座中
同四匁
右者侍・手明鑓中
同弐匁
右者御徒士以下平人迄

1678　慶応元年七月五日　石火矢放出の事

一北浦台場ニおいて、月次石火矢放出有之

1679　慶応元年七月十九日　銃をエンフィールド銃とする事

一御備立方ゟ御家老呼出ニ付、園田主殿殿御出之処、左之通書附被相渡候由
役目鉄砲之義、八匁之雷銃ニ被相定置候得共、エンヒールド銃ニ被相改候条、漸々仕替候様被仰付之旨被仰出候

1680 **慶応元年七月二十二日　綾部新五郎英学稽古料の事**

一綾部新五郎、長崎表英学稽古ニ付、束賄料月ニ金弐歩充相納候様、長崎聞番方ゟ懸合来候旨、其筋ゟ相達之段、西丸ゟ申来候

1681 **慶応元年八月十四日　銃練に付、畑地へ打ち込む事**

一左之通、西丸ゟ申来候

御備立方ゟ呼出ニ而明後十六日、於大久保村エンヒルド銃遠丁打様被相整候、右ニ付、台振込之場所江畑地少々被差出候様、達帳有之候、物而御火術方江打様被仰付、昨日ゟ出張相成居、同所ニ而庄屋筋へ者直ニも申談可有之ニ付、一刻も可及御懸合旨、手許夏秋三兵衛ゟ申聞候条、右様御承知早々御取計可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

達帳写

今度、手銃於大久保遠丁之打様被相整候ニ付而者、所々依畑地之場所ゟ打方被相整候半而不相叶義ニ付、右者打様台居込場所等、少々充差出相成候様被仰付義ニ候条、可被其意候、以上

丑八月　　御備立方

右之趣、奉承知候、以上　　松崎七兵衛

1682 **慶応元年九月六日　塚崎入湯願の事**

一左之通、御暇願有之

私義、痛所御座候ニ付、為入湯塚崎罷越度御座候ニ付、明七日ゟ来ル廿日迄日数一七日之御暇被為拝領被下度奉願候、以上

九月六日　　江越礼太

1683 **慶応元年十月一日　本家船方へ返納銀の事**

一御本家御懸硯方ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候

一役内御仕法銀拝借之廉々、左之通今般外向御船方江被相付、其筋返納相成候様被仰付義ニ候

但引当証文

一正金四千両　　川副増吉

其外

但右同

一同弐千八拾両　　右同人

其外

丑九月　　御掛硯方

1684 **慶応元年十一月五日　石火矢放出の事**

一於北浦御台場、月次石火矢放出有之

1685 慶応元年十二月十日　魚見岳番手配の事

一御番方ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候
御当番御手配之内
魚見岳増台場
御名殿家来
一ノ増　筒方九人
但、筒方手助ゟ番屋詰置
足軽六人
右者平日詰
堀切
御名殿
甲斐守殿　家来順番交代
筒方九人
足軽九人
右者異船渡来之節、差図次第早速立ニ而出張
一異船渡来之都合次第、香焼島為守衛壱番立・弐番立
ニ而差図次第、左之通早速立出張被仰付儀候
御名殿
甲斐守殿　家来当番方
壱番　組頭壱人
足軽弐拾五人
弐番　侍弐人
足軽拾人
右同非番方
壱番　組頭壱人
侍弐人
足軽弐拾五人
弐番
右同
組頭壱人
侍弐人
足軽弐拾五人
御番方

寅二月

慶応二年（一八六六）

1686 慶応二年一月十日　魚見岳詰を命じる事

一左之通、於小松ノ間、御当役野口進之允殿ゟ被相達候、
列席例之通、尤大御目ニ者（付カ）別勤ニ付、其義無之
川頭形左衛門
嬉野市左衛門
志波辰之助
東嶋市太郎
中嶋源一郎
千々岩哲六
善左衛門弟
松田文八郎
藤右衛門親隠居
深江外吉郎
魚見岳詰被仰付候
一左之通、付役達

魚見岳詰銀方兼被仰付候　　川頭形左衛門

1687　慶応二年一月十五日　魚見岳詰を命じる事

一左之通、附役達

足軽
中山慶助
中山政一郎
佐藤末吉郎
徳広伊助

魚見岳詰被仰付候

一月二十一日

一左之通、於小松ノ間、御当役野口進之允殿被相達候、列席例之通　　楠田貞兵衛

魚見岳詰銀方附役被仰付候

1688　慶応二年二月三日・九日　引痘願達出の件

一昨夜、左之通、西丸ゟ申来候処、御領主様ゟ御願取被下候訳ニ而、御館下并町在々も種痘被相整度段、好生館願入相成候様返書差出ス

今般、御私領中引痘被相整候ニ付、跡方之通、好生館江願入候様、就而者町在ゟ願書差出候上、爰元ゟ副口達を以願入候例も有之由ニ候得共、当時之場ニ而者何連之道大庄屋筋ゟ代官所へ願出候半而不相叶趣ニ付、此節者御私領方ゟ之御願爰許ゟ引請、在所ゟ申越候之文意を以、其筋願入候様御懸合之旨致承知候、安政之頃、押取御願相成居候儀も有之候得共、其砌ハ御私領方御願已而ニ而相済居、当時ハ大庄屋筋ゟも願出候様相成候、然処、此節此御方ゟ者押取御願之分ニ而、村方願出之儀者大庄屋筋ゟ而已差出候様相成候得ハ、大庄屋引請之様移行、以来諸事之願等ニも差支可申、矢張近年比竟村方願書江副口達を以差出候方可然存候間、右之御手筈相成候様、御取計可被成候、惣而引痘人数并場所之儀、爰許心得ニも相成義候条与御調合被仰越度、此段早走を以、御答旁為御懸合如此御座候、以上

二月三日

尚以、御領中引痘御願之義ニ候得者、定而小路廻り之義も種痘御願相成儀ニ可有之、此段為念及御懸合候、以上

二月九日

一引痘方願済之段、左之通、西丸ゟ申来候

1689　慶応二年二月十三日　綾部新五郎長崎留学の事

一左之通、御届有之　　綾部新五郎

明十四日ゟ長崎之方罷越候段、御届申上候事

1690 慶応二年二月十五日・十六日・二十二日　異国形帆前船買入に付、西丸ゟ連絡の事

一異国形帆前船、御買入ニ付、西丸ゟ左之通申来候ニ付、
足軽壱人今夜ゟ差立ル
請役所ゟ即刻呼出罷出候処、長崎表ニ而西洋形帆船
壱艘英人ゟ御買入相成候儀、伺之通、御聞済相成候
段、山本伝左衛門ゟ被相達候、右ニ付、長崎御奉行所
御手数向之儀者、其筋ゟ同所聞番方へ懸合越相成候
旨、旁同人ゟ被申聞候、此段為御懸合如此御座候、
以上

二月十五日

此節、西洋形帆船壱艘御買入御願之通相済候ニ付、
長崎表御奉行所御手数向之儀、御年寄中ゟ長崎聞番
方江註進状、今夜仕出シ相成候由ニ付、此方江被相渡
候ハ、、急ニ差越候通可取計致相談候処、押付可被
相渡旨御座候、就而者長崎表江為飛脚可然足軽壱人被
仰付、今日中、爰許釣合候様御取計可被成候、此段
為御懸合如此御座候、以上
尚以綾部新五郎・久留与平、昨夜本庄江ゟ出船相成
申候、此段御含迄得御意候、以上

二月十六日

一御本家御懸硯方ゟ左之通達帳相成候段、西丸ゟ申来候
一欽八郎殿勝手向累年不如意之半ニ候得共、時勢柄ニ付、
軍器之儀者致充実候半而不叶ニ付、此度西洋形帆壱艘
買入度候処、代金壱万四千両余ニ相及、大金之調儀
不行届ニ付、右之半高七千金丈年割返上ニメ拝借被
仰付度願出相成、右者当時勢必用之品柄、代金相整
兼取入不行届通ニ而者相叶間敷ニ付、願高之内、左之
通拝借被差出儀候条、可被得其意候
正金六千両
右者月五朱御益付ニメ、当寅秋ゟ五ヶ年返上、引当之
儀者金高相当之石数、筋々証文差出相成候様
以上
慶応二年寅二月十六日　御懸硯方

二月二十二日

一左之通、相談役達
川副増吉
石井武一
此節、異国形帆前船御買入ニ付、出崎被仰付候
一左之通、役場々々ニ而頭人ゟ相達
下目付　平野久右衛門
御蔵方付役　江越寛助
右同断ニ付、出崎被仰付候

1691 慶応二年二月十六日　引痘に付、日程・手伝医師名の事

一引痘方之儀、左之通、西丸ゟ申来候
好生館ゟ呼出ニ付罷出候処、来ル廿日引痘被相整候
ニ付、同日御私領被罷出候条、前方之通、駕籠舁夫丸
四人名原宿相揃居候様、将又手伝医師之人ニ別紙之
通、出張之医師ゟ相達相成儀ニ者候得共、先以致内達

可置候条、引痘之場所へ罷出相成居候様、旁向井次郎作ゟ被相達候条、右様御承知宜敷御取計可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

二月十六日

引痘式日

二月廿日　同廿六日　三月三日　同九日　同十五日

引痘方手助

村田道碩
相良柳沢
菊地宗垣
原口養和
中嶋需安

1692　慶応二年二月二十日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師上村俊庵福智院今日出席相成候段、代官所ゟ達出相成候

1693　慶応二年二月二十六日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師宮田魯斎朝日町無量寺へ出席相成候段、代官所ゟ達出相成候

1694　慶応二年二月二十九日　富太郎付伽を命じる事

一左之通被仰付候段、菅井ゟ申来候

養和弟
原口養林
富太郎様定御伽被仰付候

1695　慶応二年三月三日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一今日於無量寺引痘ニ付、佐嘉医師渋谷良次出席相成候段、引痘方ゟ達出相成候

1696　慶応二年三月五日　石火矢放出の事

一於北浦御台場、月次石火矢放出有之

1697　慶応二年三月七日　本庄津出船の事

一御番方ゟ左之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候

当御請番御番手之面々来ル十五日夕汐ゟ本庄津出船被差立儀候条、筋々可被相達候、以上

附り、内外御台場詰御筒打、且三家家来之儀、翌十六日ゟ本文同様被差立儀候、以上

寅三月　御番方

右之趣、承届候、以上

御船方
御火術方
勘定所
御蔵方

一右ニ付、魚見岳詰被仰付置候人々呼出、来ル十六日ゟ

被差立候段、付役ゟ書取を以相達候

1698 **慶応二年三月九日・十五日　引痘に付、佐嘉医師出張の事**

一佐嘉医師相良寛斎引痘方ニ而今日無量寺出席相成候段、会所ゟ達出相成候

三月十五日

一引痘方ニ付、佐嘉医師松隈元甫無量寺へ出席相成候段、代官所ゟ達出相成候事

1699 **慶応二年三月十六日　魚見岳詰出立の事**

一左之通、御届有之

川頭形左衛門
志波辰之助
中島源一郎
原口猪之助
中嶋源一郎
東嶋市太郎
千々岩哲六
善左衛門弟
松田文八郎
藤右衛門親隠居
深江外吉郎

魚見岳詰として今十六日ゟ出立仕候段、御届申上候事

1700 **慶応二年三月二十一日　引痘に付、佐嘉医師出張の事**

一引痘方ニ而、佐嘉医師高木玄洞今日無量寺江出席相成候段、代官所ゟ達出相成候事

1701 **慶応二年三月二十二日　大木丸購入を幕府へ届け出る事**

一去月、於長崎表、英九番船壱艘御買入相成候節、御本家聞番方ゟ同所御奉行所江左之通御願相成候

英九番船壱艘払船相成候趣承知仕候ニ付、末家鍋嶋欽八郎方江右船為買入度御座候間、宜御聞済被成下候様奉願候、此段可奉願旨、肥前守申付越候、以上

寅二月　　松平肥前守内
石川寛左衛門

一右ニ付、御奉行所ゟ御付紙、左之通

書面船買入之儀承届候、委細之儀者運上品懸江可被談候

一右之末、受取渡之節、公役人其外乗込人数名前左之通

公役人
御普請役
木下盛平
定役
秋沢貞次郎
御小人目付

元橋清之丞
御役所附
山口源之進
阿蘭陀通詞
佐藤麟太郎
下番
春口寅次
本船番
春豊之助
同下番
永見安兵衛
御本家出張役々
納富六郎左衛門代
佐野栄寿左衛門
聞番手代り
後藤主馬
手元
石井嘉右衛門
今壱人
御屋代
平石常十郎
同八郎
此御方ゟ出張役々
御船方頭人
川副増吉
御船方
石井武一

下目付
平野久右衛門
御蔵方付役
江越寛助
英学稽古人
綾部新五郎
足軽
内山栄三
右船乗込御手舸子人数
寺井
松田伝蔵
古賀藤七
横尾久兵衛
弟子丸喜助
同丈蔵
古賀為吉
宮原常七
新町
江口十七蔵
山代
長谷川兵蔵忰
清太郎
野田千之助忰
利三郎
久留與平手筋ニ而雇入候舸子
名前左之通
讃岐塩飽島

音吉
古川町　卯之助
同　次兵衛
椛島町　與平
塩飽島　松太郎
上総　亀吉
塩飽島　喜三郎
小瀬戸　惣五郎
大黒町　万吉
島原　四良吉
広島　浅吉
島原　茂吉

一右船ニ被相用候御船印并船号左之通御取極相成候ニ付、御本家江図面を以、西丸ゟ御届相成、将又公辺江も御届相成候様、江戸註進相成ル

（旗図面アリ、口絵4参照）
船号
大木丸
右之通ニメ懸合越ニ相成ル

1702　慶応二年三月二十七日、四月三日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付而、佐嘉医師大中春良今日無量寺出席相成候段、会所ゟ達出相成

四月三日

一佐嘉医師渋谷良次、今三日無量寺出席相成候段、引痘方ゟ達出相成候

1703　慶応二年四月十一日　医師弟子名前差し出しの事

一御家中医師并郷医迄、当時稽古有之居候弟子名前、不残附出候様、好生館ゟ被相達候段、最前西丸ゟ懸合来居候ニ付、左之通、名前書差出ス

親元寿弟子
山田三沢
大庭雪斎殿弟子
相良柳逸
右同人弟子
宮崎蘇庵
当時好生館詰
菊地宗庵

山田元寿弟子
福地松庵
親需安弟子
中嶋需亭
親雄民弟子
林長庵
親春円弟子
松本春道
亡親道亭弟子
石田淳庵
大庭雪斎殿弟子
福嶋方策
郷医芦刈友田村
山田元寿弟子
元仙

1704 慶応二年四月十五日　引痘に付、佐嘉医師出張の事

一引痘方ニ付、佐嘉医師副島雲僻無量寺江出席相成候段、引痘方ゟ達出相成ル

1705 慶応二年四月二十五日　大木丸出船・着岸の際発砲願

一御本丸江西丸筋を以伺相成候処、附紙左之通相成候段、同所ゟ申来候
口達

附紙海上御持場内々ニおゐて砲発之儀八月ゟ二月迄差支候
此節買入候西洋形大木丸出船并着岸之節致砲発度御座候、此段相伺候様、在所ゟ申越候、以上
寅四月　松崎七兵衛
羽室雷助殿
山本伝左衛門殿
宮崎寿平殿

1706 慶応二年四月二十九日　大木丸住之江入津の事

一左之通、御船方ゟ御届有之
先般於長崎表御買入之大木丸、住ノ江入津仕候、此段御届仕候、以上
四月廿九日　御船方

1707 慶応二年八月三日　木村市太郎出嶋の事

一左之通、御届有之
木村市太郎
明四日ゟ出嶋仕候段、御届申上候事

1708 慶応二年八月三日　大木丸買入の理由を幕府へ届出の事

一大木丸御買入相成候ニ付、公辺御届振合及註進置候末、於彼地溜池御屋敷ゟ左之通、願書指出相成候旨申来候

大木丸御船、諸国運用公辺御願之儀、委細御再答之末、早速溜池御屋敷及示談、去月廿五日別紙之通、御用番様其外江夫々御達相成申候、就而ハ四月十九日御仕出被仰越候通、御本家ゟ者図面等迄巨細之御届ニ者不被及候事と相見へ、絵図・大砲数等之儀、為何沙汰も無之由、依之於御地、委細之御達込ニ者相成居不申候付、御買入相成候丈、御同所ゟ御届有之候而、図面其外を以之儀者有御座度被仰越候趣も有之候付、折角左社存候得共、御本家ゟ御用番様江御書附之振合御届書ニ者無之、全御願書ニ而御例も有之候通、追而御書取を以、御差図ニも相成申候由候得者、御双方より御願書被指出候而者、御不都合ニも可有之吟味合、且又最前及御懸合置候通、既ニ御本家筋ゟ此之表御指廻相成居候御願書案ニ御印等迄相添来居候得者、矢張於御地、巨細之御達込ニ相成居候訳ニ而、図面等計り引分御達難相成筋ニ移合候条、無拠彼御方御手数丈ニ而相済候通取計申候、此段及御懸合候条、御当役方へも被相達、宜達御聴候通、御取計可被成候、恐々謹言

七月十一日　　持永治兵衛
　　黒木新左衛門

相原万兵衛殿
馬場大丞殿
徳嶋健之丞殿
星野九右衛門殿

一御本家ゟ公辺御届、左之通相成候段、江戸ゟ申来候
肥前守末家鍋嶋欽八郎ゟ当時勢柄、軍器不致充実候半而不相叶、平生者運用旁廻米等仕、自然之節ハ軍艦ニ相用度ニ付、長崎表ニ而西洋形帆船一艘買請度旨願出候末、今般能勢大隅守様江奉願、英人乗渡候帆船一艘買請候、依之欽八郎家来共軍用乗働等為習熟、九州・四国・中国者勿論、御当地・奥州・松前等江連々乗込、且風潮之模様ニ寄候而者、所々島々并湊江繋船仕候儀も可有御座、尤異国船ニ不紛様、別紙図面通、船印相用申儀ニ御座候間、右之趣、兼而其筋々被相達置被下候様仕度、此段可奉願旨、国許ゟ申付越候、以上

六月廿五日　　御名内
　　名

右御用番
井上河内守殿

――申付越候ニ付、御用番井上河内守様へ申上置候、此段御届仕候、以上

――　　御名内
　　名

右操練所江

今般英人より末家鍋嶋欽八郎買請候帆船大木丸与相唱候、此旨御届仕候様、国許ゟ申付越候、以上

六月廿五日　　御名内
　　名

右御用番江

1709

慶応二年八月四日　出産に付、石火矢放出延期の事

一左之通、御火術方ゟ御届有之

明五日、北浦石火矢放出之儀、同村江出産之者有之候ニ付、一先被指延候事

八月四日　　御火術方

1710

慶応二年八月五日　古湯入湯願の事

一左之通、御暇願有之

私儀、痛所御座候ニ付、為入湯古湯罷越度御座候間、今五日ゟ来ル十一日迄御暇被為拝領被下度奉願候

八月五日　　川崎長左衛門

1711

慶応二年八月十三日　神島より帰着の事

一左之通、御届有之

三笠勝太郎
富岡三太夫
石田貞之進

神島ゟ昨夜帰着仕候段、御届申上候事

1712

慶応二年八月十六日　宮崎元益他好生館呼出の事

一左之通、西丸ゟ申来候ニ付、別紙御用之向々江手紙指出ス

形左衛門様
甚五兵衛様
七兵衛

宮崎元益其外別紙之通、来ル廿五日、好生館罷出相成候様、向井次郎作ゟ被相達候条、宜御取計可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

八月十六日

尚以、何之御用向ニ候哉相尋候処、免札被相渡趣ニ御座候、御含迄得御意候、以上

宮崎元益
佐野文仲
村田道碩
相良柳沢
原口養和
菊地宗垣
中嶋需庵

右之人々、御用有之候条、当月廿五日、好生館罷出候様、可被相達候、以上

1713

慶応二年八月二十二日　石火矢放出の事

一左之通、伺出相成ル

北浦石火矢放出之節、以来ハ裁付とつほふニ而、一統出席有御座度、吟味合候条、御支無御座候哉、奉伺候、以上

寅八月　　御火術方

八月廿三日

1714 慶応二年八月二十四日　備立方より銃数差し出しを命じられる事

一左之通、西丸ゟ申来候

七兵衛

形左衛門様
甚五兵衛様

御備立方ゟ呼出ニ付、別紙之通、達帳相成候付、則写差越申候、惣而晦日与有之候得共、成丈其以前達出相成候様、石井小助ゟ被申聞候条、旁御承知宜御取計可被成候、此段為御懸合如斯御座候、以上

八月廿四日

一野戦銃
　但、山戦銃入テ
一忽微砲
一臼砲
　右者貫目員数
一エンヒールド銃
一雷銃
　右者員数

右之通、来ル晦日迄差出相成候様被仰付候条、可被得其意候、以上

寅八月　　御備立方

1715 慶応二年八月晦日　長崎にて銃購入を命じる事他

一左之通被仰付候、相談役達

鉄砲為買入長崎表被差越候　（富岡三太夫
犬塚喜兵衛
犬塚喜兵衛

御火術方稽古被仰付候

1716 慶応二年八月晦日　幕府より香田俊道へ給金拝領の事

一江戸ゟ左之通申来候

別紙及御掛合候通り、香田俊道此節公辺ゟ御雇被仰付候付而ハ、騎兵隊ニ相属シ、追々横浜伝習方江も致出張、且此節柄ニ付、不日ニ長州出張相成候儀難計ニ付、旁致用意候様、其筋ゟ内意も有之趣ニ御座候、惣而者、御老中様方廻勤を始、陸軍所出勤中ニ而も矢張万端御家来之場ニ而相勤候而者、年始其外式立候節者、熨斗目等も致着用候半而不相叶、左候得者、無拠於御内輪、其格合被仰付候通無之而者、無格之身分内外不都合之儀も有之候間、医業進達之訳を以、何れ与か被仰付方ニ者有御座間敷哉、此許ニ而者吟味合候条、尚宜敷御評儀相成度存候、此段為御懸合如斯御座候、以上

八月十一日　　持永治兵衛
　　黒木新左衛門

相原万兵衛殿

馬場大丞殿
徳島健之丞殿
星野九右衛門殿

去月廿六日、御用番松平周防守様ゟ即刻御呼出ニ付、治兵衛罷出候処、香田俊道陸軍三兵屯所附当分御雇被仰付、為御手当壱ヶ月ニ金拾両被下候旨、御書取公用人を以御渡被成候、就而者、早速溜池御屋敷相談シ候処、去ル文久三戌年、宮崎元立洋書調所出役被仰付候節之通り、此御方江御達相成候様、公用人中迄可及示談、同所御留守居佐藤文平ゟ被申聞候付、別紙写之通、例書相添、周防守様御勝手指出置候処、同廿八日溜池ゟ呼出ニ而、別紙写之通、前段同様之御書取周防守様ゟ溜池御留守居呼出ニ而被相渡候旨、御留守居方富岡十蔵ゟ被相達候、惣而者、旧冬其筋ゟ指支之有無御問合之上、御本末共御指支無之旨、御贈答相済居候故、御同所より別紙之通、御請書被指出候ニ付、此御方ゟも先以御請書差出、且又御承知之上、御勤品且俊道勤向之儀相伺候処、御附札之通、御指図相済候故、追々日積を以、御使者被指出候通取計儀御座候、且又俊道ニ者早速藤嶋喜右衛門同道ニ而、御老中様縫殿頭様廻勤之末、陸軍所調役江引渡相整申候、此段御当役方江被相達候上、宜敷達御聴候通、御取計可被成候、恐々謹言

八月十一日　　持永治兵衛
　　黒木新左衛門

相原万兵衛殿
馬場大丞殿

徳嶋健之丞殿
星野九右衛門殿

猶以、最前此御方江御用番様ゟ御達相成候儀者御取消シ相成候付、被相渡置候御書取致返却候様、溜池御留守居迄公用人ゟ訳而示談ニ付、則致返上候条、左様御承知宜御取計可被成候、以上

一欽八郎家来香田俊道儀、陸軍三兵屯所附当分御雇被仰付、為御手当壱ヶ月金拾両被下候間、其段可申渡候、陸軍御奉行可承合候旨、昨夜家来之者御呼出御達之趣難有奉畏候、則在所表欽八郎江可申聞儀ニ者御座候得共、右様之儀者依家格本家松平肥前守方江御達被下候先例御座候間、先以此段各様迄御内々申上置候、以上

七月廿六日　　御名家来
　　持永治兵衛

例書

一文久三年亥四月十三日、松平豊前守様ゟ本家松平肥前守家来江御達書左之通

巻表江　　松平肥前守家来江
　　鍋嶋加賀守家来
　　宮崎元立

一右洋書調所教授手伝並出役被仰付候間、其段可申付候、勤候内為御手当御扶持方拾人扶持并壱ヶ年金八両被下候、委細之儀者林大学頭・林式部少輔・田村肥後守・中川市助可承合候

右之通御座候、以上

七月廿六日　　御名家来

持永治兵衛

巻表江　松平肥前守家来江

鍋嶋欽八郎家来

香田俊道

一右陸軍三兵屯所附当分御雇申付候、為御手当壱ヶ月金拾両被下候間、其段可申渡候、尤陸軍奉行可承合候

末家欽八郎家来香田俊道儀、陸軍三兵屯所附当分御雇被仰付、為御手当壱ヶ月金拾両被下候間、其段可申渡旨、尤陸軍御奉行様江可承合由被仰達、承知仕候、則右之趣国許肥前守江申越、且又俊道江申渡候、此段御請申上候、以上

七月廿八日　御名内名

御用番

松平周防守殿江

欽八郎家来香田俊道儀、陸軍三兵屯所附当分御雇被仰付、為御手当壱ヶ月金拾両被下候間、其段可申渡候、尤陸軍御奉行可承合候旨、本家松平肥前守家来江被仰渡候段、承知仕候、右之趣早速在所欽八郎江可申聞、且又俊道江申渡候、此段御請申上候、以上

七月廿八日　御名家来

持永治兵衛

欽八郎家来香田俊道儀、陸軍三兵屯所附当分御雇被仰付、為御手当壱ヶ月金拾両被下候段、以御書附本家松平肥前守家来江被仰渡候、依之右之段欽八郎承知仕候上、御礼勤向并俊道御礼之儀、如何相心得可申哉、此段奉伺候、以上

七月廿八日　御名家来

持永治兵衛

御付札

欽八郎ゟ者使者差出、俊道儀ハ老中縫殿頭江相廻候様可仕候

1717 慶応二年九月十二日　大木丸出航の事

一左之通、御船方ゟ御届有之

大木丸、明後十四日ゟ出帆相整候事

九月十四日

一今日ゟ大木丸住ノ江出帆相成筈之処、雨霧ニ付、明日ゟ出帆相成候

1718 慶応二年九月十六日　本家より、以来西洋銃陣稽古の事

一左之通、御当役方ゟ大物頭方江御直達相成候由

此節、従御本家御達之次第も有之候ニ付、組々調練之儀者以来西洋銃陣ニ依り稽古有之候様

1719 慶応二年九月十七日　火術方稽古の事

一左之通、於達間、相談役達

神代彦龍

御火術方稽古被仰付候　関省之允
服部有喜

1720　慶応二年九月十八日　神島詰を命じる事

一左之通、於小松間、御当役野口進之允殿被相達候、列席例之通　原権兵衛

神島詰被仰付候

九月二十日

一左之通、於小松間、御当役野口進之允殿被相達候、列席例之通　永石六郎

神島詰被仰付候

一左之通、相談役達　横尾喜三郎

御火術方稽古被仰付候

1721　慶応二年十月十一日　火術稽古の事

一左之通、御届有之

東嶋逸馬儀、真田流・方円流砲術稽古罷在候処、此節致伝来、明後十三日火術試相整候事　服部奥之丞
土井清左衛門

十月十一日

1722　慶応二年十月十四日　佐野安靖ドイツ学稽古の為暇願

願書附

私悴安靖儀、学館定詰文学稽古罷在候処、年頭ニも相成候ニ付、医学稽古専一ニ為仕度御座候、然処、御本家御医師福地林儒儀内縁之人ニ御座候処、右之人長崎表江トイツ学とメ罷越居、幸之折ニ付差越候ハヽ、万事申談も可致旨申聞候故、指遣度御座候間、当寅年ゟ向三ヶ年御暇拝領被仰付被下度、惣而者右稽古料自力ニ而者不任所存候間、何程歟被指出被下度、於然者、御蔭ニ稽古仕儀ニ御座候間、何卒自余別段之訳を以、願通被仰付被下候様、深重奉願候間、筋々宜御相達可被下候、以上

寅十月　佐野文仲

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

1723　慶応二年十月二十四日　富太郎長崎で診察の事

一左之通、被仰出候

富太郎様御病所被為在候付、薬医江診察為御頼、極御忍ニ而、来ル廿六日ゟ長崎表へ被遊御越之旨、被仰出候事

1724 **慶応二年十月二十五日　佐野安靖長崎遊学の事**

一左之通、御届有之　　佐野安靖

明廿六日ゟ出立仕候段、御届申上候事

1725 **慶応二年十月二十五日　塚崎滞留養生願の事**

一左之通、御暇願有之　　宮地五左衛門

今日迄之御暇ニ而、塚(ママ)入湯仕居候処、未全快不仕候ニ付、打追養生相加度御座候条、明廿六日ゟ日数一七日御暇奉願候事

1726 **慶応二年十月二十八日　馬渡仁庵蘭医養生所稽古願の事**

一左之通、願出相成候処、願通被相済候

願書附

私儀、去ル七月ゟ神島詰被仰付難有仕合奉存候、就而者長崎表蘭医養生所之儀、諸藩入込稽古方至極宜敷趣ニ付、余隙を以、通稽古仕度御座候条、御支無御座候半ハ、願之通被仰付被下度、惣而当島詰御本藩医師土肥香庵別而懇意ニ而、自然留守中急病等有之候節者、互ニ救合可申、懇切ニ被申聞候付、間迦等も有御座間敷候条、何卒願之通被相済被下度、深重奉願候、此段筋々宜敷御相達致御頼候、以上

十月　　馬渡仁庵

伊東八郎右衛門殿

1727 **慶応二年十一月五日　石火矢放出の事**

一於北浦御台場、月次石火矢有之候

1728 **慶応二年十一月十三日　長刀岩詰番士、病の為帰郷願**

一左之通、御届有之

志波辰之助儀、長刀岩詰被仰付置候処、於彼地病気相煩、色々養生相整候へ共、急快之程相見不申候処ゟ、別紙願書を以願出相成、無拠相聞候付、願通被相済、無交代ニメ引取相成申候、尤途中為心遣被相副、彼地去ル十日出立之末、今十三日帰着仕候段、御届申上候事

一右ニ付、註進状并願書医師手形左之通

従神島態度致啓達候、然者長刀岩詰御筒打志波辰之助儀、去月初頃ゟ足痛差起候付、馬渡仁庵早速ゟ色々療養有之居候へ共、至昨今只様病勢指募、昼夜烈敷相痛、余程病症重ク腐骨疽相成、迚も急快之程難計ニ付、別紙之通交代願書相成、勿論此侭閣候而者終ニ者弥ヶ上御難題出来可仕哉も難計、医師ニも見受別紙医師手形指出候処、一体者伺越御指図之上、交代取計可申之処、前断之次第ニ付、往復相待兼、無余儀

願通無交代ゟ明九日ゟ引払候通取計申候条、帰着之上、早々交代之人可被差越、就而者介抱として一類相付可申之処、詰合無之ニ付、石田右八懇り違ニ候得共、辰之助前辺ゟ懇意柄故被相付度願出度、願出相成可然人柄ニ付、一類之楯ニゟ其筋願啓候通御取計可被成候、此段為註進如斯御座候、恐々謹言

十一月八日　　高木勘解由

相原万兵衛殿
馬場大丞殿
星野九右衛門殿

一左之通、於彼地願出相成候段、申来候

口上覚

私儀、長刀岩詰御筒打被仰付、難有相詰罷在候処、去月初頃ゟ足痛差起、唯様病勢差募、色々療養手を尽儀ニ御座候得共、至昨今腐骨疽相成、迚も急快之程難計医師ゟ申聞、甚以案痛之参掛ニ御座候、依之御場所柄容易ニ難奉願御座候得共、前断之次第ニ付、乍残念詰方御断無交代ニゟ引払被仰付被下度、将又召使之分ニ而者道中無心元御座候付、石田右八兼日懇意柄ニ付、心遣として被相副被下候道者有御座間敷哉、一向奉願候、於然者御蔭ニ宿元罷帰、緩々養生相加御重恩猶更難有奉存候条、御支所無御座候半て何卒願之通被仰付被下候様、筋々宜敷御相達可被下儀、深重奉願候、尤別紙医師手形相副差出申候、以上

寅十一月　　志波辰之助

高木勘解由殿

覚

志波辰之助儀、腐骨疽之症相煩、色々療治仕候得共、日ニ増厳敷相成、一円薬効不相見、何分急快之程難計候、依而服薬指出如斯御座候、以上

寅十一月　　馬渡仁庵

1729　慶応二年十一月十八日　長刀岩詰を命じる事

一左之通、於小松間御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通　　成富源吉

長刀岩詰被仰付候

1730　慶応二年十一月二十日　長崎で蘭医へ診察を願う為暇願

一左之通、御暇願出相成候処、願通被相済候

奉願口上覚

私儀、年来麻疾之症ニ而甚難渋仕、色々療養相加候得共、一円快方無御座候付、長崎表罷越居候阿蘭陀医者江致相談、一際養生仕度奉存候間、御支所無御座候ハヽ、日数三十日之御暇被為拝領度奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

十一月廿日　　馬場清左衛門

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

一左之通、御暇願有之候処、願通被相済候

奉願口上覚

私儀、当夏以来肝臓之病相煩、色々療養仕候得共、一円快無御座候ニ付、長崎表罷越居阿蘭陀医師江致相談、一際養生仕度奉存候間、御指支無御座候半者、日数六拾日之御暇被為拝領被下度奉願候、此段筋々宜御相達被下度致御頼候、以上

十一月十九日　田代源二

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

奉願口上覚

私儀、痩病之症ニ而甚難渋仕、色々療養相加候得共、一円快方無御座候付、長崎表罷越居候阿蘭陀医師江致相談、一際養生仕度奉存候間、御支所無御座候ハヽ、日数三七日之御暇被為拝領度奉願候、此段筋々宜御相達可被下候、以上

十一月廿日　川副七三郎

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

1731 慶応二年十一月二十一日　長刀岩詰出立の事

一左之通、御届有之

香田伝左衛門
石田右八
成富源吉

明廿二日ゟ神島并長刀岩詰御達之通、ヶ所々々為詰出立仕候段、御届申上候事

1732 慶応二年十二月四日　稽古中惣髪願の事

一左之通、佐野文仲ゟ願出相成候処、願通被相済候、右前髪其外之儀、組筋を以、願出相成筈ニ候得共、稽古中ニ付而之願書ニ付、組筋を以之願出ニハ相及間敷御吟味ニ付、左之通願書相成、組筋江者願済相成候段、演達相成候様、大組代迄相達ス

願書附

私倅安靖儀、トイツ学奉願候処、願通被仰付難有仕合奉存候、然ル処、直伝習をも為仕度御座候へ共、剃髪ニ而者其儀出来兼候付、稽古中惣髪為仕度御座候間、御支無御座候ハヽ、願通被仰付被下度奉願候、此段筋々宜御相達可被下候、以上

寅十一月　佐野文仲

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

1733 慶応二年一二月七日　唐津藩大木丸にて運送相談の事

一小笠原佐渡守様御勝手方役人、左之人々罷出、昨夜ゟ金居屋止宿ニ而御政務方御役々江得御内話度旨申入候ニ付、馬場大丞・星野九右衛門・下川甚五兵衛、於使者屋面会相成候処、下関通船不相叶ニ付、江坂江之運送相施御勝手必止と差支候ニ付、此御方御所持之大木丸江彼御方御国産物何程ニ而も宜敷候間、積合被下候様重

畳御相談之旨、左之通、演舌書被差出候、依之勝手方役々申談之上、可及御答旨ニ而引取相成ル

演達

当時馬関通船難相成付而者、江戸・大坂家中扶助方を始め、在所表ゟ穀物諸品運送差支勝手向操合方ニ至事迄深致痛心候、領分之穀船者小船計ニ而南海乗廻り者乗者不仕得当惑至極存候、就右而者、帆前御船大坂御運輪之御序御座候ハヽ、穀物・紙類御積合被成下候儀相叶申間敷哉、申上兼候得共、此段御自分様迄相伺候様、佐渡守内意之次第重役ゟ申聞候、自然御承引被成下候ハヽ、積入方を始め、都而御示談被成下候度、其御筋々宜敷御通達被成下候様、御手数之儀何共乍御六ヶ敷奉願候

十二月

使番格紙道方　太田儒江

仲小姓　吉田祐吾

一表向御使者と申ニ而者無之、佐渡守様御内意之旨、彼重役中ゟ申含ニ而罷出候由也

一右同断ニ付、受肴一折、御台所迄献上申上度旨ニ而差出相成候

一右之人々江今日面会ニ付、案内足軽御門番手当相成ル

一左之通、酒食被差出候、馬場其外相伴

一茶　一多葉粉盆　一菓子

一吸物　一小平　一口取

一刺身　一茶碗蒸　一鉢肴

一吸物　一大平　一丼

一湯漬　一汁三菜　外ニ香物

十二月八日

一昨日之末、小笠原様ゟ之御勝手方役人江於使者屋川副増吉・星野九右衛門・下川甚五兵衛・三笠勝太郎面会相成ル、御相談之筋者大木丸着船之上、積合可致返答相成ル

一右之末、諸手配昨日之通

一酒食之儀、凡昨日ニ准ス、尤今日者御料理被下候

1734　慶応二年十二月八日　神島詰を命じる事

一左之通、於小松間御当役野口進之允殿被相達候、列席例之通

深江友三郎
犬塚志津馬
秀嶋藤太郎
安本孫太郎
丹宗市郎左衛門
村川幸三郎
宮田伝四郎
太田千之助
岡初太郎
東又七郎
田代源之助
川浪久太夫
藤戸又右衛門
牟田武一郎
鴨打馬次郎

羽館久吉郎
相良柳逸

神島詰被仰付候

1735 慶応二年十二月十四日　江越礼太長崎より帰着の事

一左之通、御届有之　　江越礼太

長崎ゟ帰着仕候段、御届申上候事

1736 慶応二年十二月十五日　江越礼太遠慮の事

一左之通、遠慮御届有之

私儀、去ル七日迄之御暇ニ而長崎表病院罷越居候処、御暇期日前余症相煩、何分帰郷不任所存日限指掛り御暇願次申上、右者往復之日合を以奉願筈之処、無其儀、殊ニ又々同様之願次申上窺合之至、今更重畳奉痛入候、依之遠慮引入申候

十二月十五日　　江越礼太

江越礼太義、去ル七日迄之御暇ニ而長崎表罷越候処、病気ニ付、日限差掛り御暇願次相成、右者最早往復日合も無之ニ付、何れ日限切ニ相成訳ニ候へ者、帰郷之上御沙汰之品も可有之候へ共、願次之儀者病気無拠義ニ付、御聴済相成居候処、又候同様之願書指出候儀者不都合之儀ニ候処、其侭取次指出候通り不気付之段、今更重畳奉恐入候

十二月十五日　　西川形左衛門

下川甚五兵衛

江越礼太儀、去ル七日迄之御暇ニ而長崎表罷越居、病気ニ付、指掛り御暇願次候通り、不都合之段者最前遂吟味申上候次第も御座候処、又候差掛り願出候を、病気無拠訳ニ候得共、此節被相済置方ニ者有之間敷哉之旨相伺候通り、甚不吟味之段、今更重畳奉恐入候

十二月十五日　　星野九右衛門

星野九右衛門ゟ御届申上次第ニ付而者、於我々も不吟味之段、今更重畳奉恐入候

十二月十五日　　西造酒丞
野口進之允

十二月十八日

一江越礼太江大物頭於西造酒丞殿宅、今夜左之通被仰渡候、惣目付関市之進、読人柴田十左衛門勤之　　江越礼太

其方儀、病気有之、去月四日ゟ御暇相願、長崎表病院江為療養罷越居候処、御暇日限差掛り余症相煩帰郷出来兼候由ニ而、御暇願次いたし、其後不致快気旨を以、又候同様之願書差越、一体御暇願次候半者、往復日合を以、相願可申之処、無其儀病気ニ而出来兼候儀と者乍申、心得等閑処ゟ右之次第不束之至ニ候、依之被御呵置候也

寅十二月

1737 慶応二年十二月十九日　長崎へ砲術稽古の事

一左之通、相談役達

犬塚喜兵衛

砲術稽古として長崎被指越候

1738　慶応二年十二月十九日　相良柳逸縁組の事他

一左之通、於小松間、御当役西造酒丞殿ゟ被相達候、列席例之通

寅十一月諸願

（中略）

一相良柳沢儀、忰柳逸江牟田官之助妹十五歳相成候を縁組仕度旨、双方奉願候殊

（中略）

一名替奉願候者

（中略）

元庵被改下候　　田代松齢

1739　慶応二年十二月二十七日　神島詰人員の事

一左之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候、則ゟ神島江早飛脚を以、申越相成候

元香焼詰之儀被相省儀候、尤医師之儀、神島詰御人数をも有之候付、打追被仰付儀ニ候

附、本文香焼詰請持御筒之儀、異変之節者諫早家来より一先請持相成、左候而、爰元ゟ早速被指越、交代被仰付儀候

右之通被仰付儀ニ候条、当時小城家来五拾人之儀、則引払相成候様、旁筋々懇ニ可被相達候、以上

寅十二月　　御番方

十二月二十八日

一左之通、西丸ゟ申来候付、神島江早飛脚を以達越相成ル

七兵衛

形左衛門様

甚五兵衛様

元香焼詰御筒打侍五拾人引払ニ付、最前長刀詰ニ而被指越置候御自分方詰銀方付役副士楠田貞兵衛・足軽目付酒井喜右衛門、神島江引直り相詰居候処、此節前断引払ニ付、最前之通、長刀岩江居直り候付、御懸合之通、御番方へ相談示候処、右両人名書指出口上ニ而相達可然旨、鐘ヶ江次郎兵衛ゟ被申聞候付、其通取計置申候条、右様御承知可被成候、此段、為御答如斯御座候、以上

十二月廿八日

1740　慶応二年十二月晦日　塚崎入湯願の事

一左之通、御暇願出有之候処、願通被相済候

相良十郎助

痛所御座候付、為養生塚崎入湯仕度御座候付、御支所無御座候半者、来正月八日ゟ同廿九日まで御暇願申上候事

慶応三年（一八六七）

1741 慶応三年一月十五日　孝明天皇崩御に付、銃練見合わせの事

御同人（伊賀守）御渡
主上崩御ニ付、銃隊調練之義者、追而相達候迄見合可申候、此段向々江可被達候
十二月

1742 慶応三年一月十八日　火術方にて初段伝授の事

一左之人々、御火術方御用申来候ニ付、罷出相成候末、左之通被仰付候ニ付、為御挨拶御使者被差出候、右者西丸勤相成候様申越相成ル

兵動波門
船津権太夫
永橋重次郎
安住岩之助
石田右八
木下文吉郎
与左衛門弟

右之人々、御火術方御用之処、初段御相伝御申渡相成候条、左様御承知宜敷御執計可被成候、此段御懸合如斯御座候、以上

1743 慶応三年一月十八日　松田助太郎長崎留学願の事

一左之通、松田健三郎ゟ願出相成候処、願通相済候、依之而済口之次第、附役ゟ相達

願書附

私倅助太郎儀、為英学長崎表差越度奉存候間、当正月ゟ来ル十二月迄御暇被為拝領被下度奉願候、於然者、御蔭ニ稽古仕儀御座候間、筋々宜御相達可被下致御頼候、以上

正月　松田健三郎

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

1744 慶応三年一月二十三日　孝明天皇崩御に付、稽古伺の事

一主上崩御ニ付、御停止御触達之内、廉々被差免候段相達相成候ニ付、弘道館其外稽古之儀者御本家如何相成居候哉、其筋承繕否早々掛合越相成候様、西丸江掛合越相成居候末、左之通申来候

逸作
五右衛門

形左衛門様
甚五兵衛様

此節御停止ニ付、弘道館其外諸稽古相始り候振合聞合候様、御懸合之末、廉々左之通

一弘道館諸稽古之事
右者作事御免見合、明廿二日ゟ被相始候、尤内会試式日講釈丈者当分被相止候
一御火術方同断
右ハ明廿二日ゟ被相始候、尤大小銃共放発之儀者改而被相止ニ而も無之、自然与見合相成候様、何れ今日亘り如何与歟御評決可相成由
右之通、山本伝左衛門ゟ被申聞候条、左様御承知可被成候、此段為御報如斯御座候、以上
正月廿三日
一月二十四日
一左之通、西丸ゟ申来候
逸作
五右衛門
形左衛門様
甚五兵衛様
御火術方稽古之内、大小銃放発之儀不苦由ニ御座候、昨日之末、今又聞繕之廉々如斯御座候、以上
正月廿四日
形左衛門様
甚五兵衛様

1745 慶応三年一月二十七日　三家神島詰を命じられる事

一御番方ゟ別紙之通、達帳相成候段、西丸ゟ申来候
逸作
五右衛門

御番方ゟ呼出ニ付罷出候処、別紙之通、達帳相成申候、将又手許西原勝左衛門ゟ別紙之通、達帳相成候付而者、早速ゟ出張相成度候得共、仕舞方等之儀有之、何日ゟ被差立候哉、後日以前ニ達出候様、右者御三家一同交代相成度ニ付、猶申談候様、演舌有之候、依之鹿島聞番・助役江申合候処、来月十日比出立之気組ニ而達出候方ニ者有之間敷哉申合候条、猶御勘考之上、否可被仰越候、此段為御懸合如斯御座候、以上
正月廿七日
三家之儀、去々年以来、公務一際御用捨ニ付而、伊王島其外江筒方人数差出相成居候処、去々亥年三島御備被御取払、稲佐崎等御台場御取建之上、請持被仰付旨被相達置、尤御当番中、魚見岳御台場而已詰方相成来、然処、前断稲佐崎之儀、如形御番所御取建相成、追々御模様替御台場御築造之上ハ、夫々御手を可被付哉ニ候得共、出格之訳を以、公務御用捨被仰付置候筋ニ付、先以御年限之間、神島御台場請持左之通差付ゟ詰方被仰付儀ニ候、将又早速立之儀者、打追之通、御直人ゟ、併異変差付之処者最前被相達置候諫早家来五拾人差出相成候様、惣而詰小屋割等之儀者、追而被相達義ニ候
但御直人
侍拾五人
右者指揮方
小城
筒方弐拾四人
足軽七人

蓮池
筒方拾七人
足軽五人
鹿島
筒方六人
足軽弐人

右之通被仰付儀ニ候条、筋々懇ニ可被相達候、以上
卯正月　御番方

1746

慶応三年二月一日　大木丸住之江着船の事

一左之通、御蔵方ゟ御届有之
大木丸御船、正月廿一日長崎出帆之末、同廿八日朝、住ノ江着船仕候
綾部新五郎儀、於長崎病気相煩、同所ゟ住ノ江迄乗込不相叶、無余儀滞崎養生相整居申候
右之通、田中藤吾・早坂又一ゟ達出候ニ付、此段致御達候、以上
二月朔日　御蔵方

1747

慶応三年二月二日　原口養和妹不縁の事

一左之通、御届有之
加藤道助儀、原口養和妹を縁組仕置候処、双方熟談之上、不縁仕候段、組筋を以御届仕候事

1748

慶応三年二月三日　塚崎入湯願の事

一左之通、御暇願有之候処、願通被相済候
私儀、病所御座候而、先達而御暇相願、塚崎入湯罷越候処、未全治不仕候付、今一応罷出療養相加度御座候間、今又明三日ゟ当月中御暇被為拝領被下度、奉願候、以上
二月二日　相良十郎助

1749

慶応三年二月四日　番方より神島小屋割達の事

一御番方ゟ神島詰ニ付而、小屋割書付被相渡候段、西丸ゟ申来候
今度三家之儀、神島御台場請持被仰付候付而、詰小屋割左之通
但指揮方
御直侍拾五人
右者堂ノ上四番ゟ七番迄　小城
右者浜手元香焼詰所跡へ　蓮池
右者堂ノ上拾番ゟ拾弐番迄　鹿島
右者同所拾三番ゟ拾四番迄
以上
卯正月　御番方

1750 **慶応三年二月六日　神島筒打役・銀方役を命じる事**

一左之通、於小松間、御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通

高岸亘
山本与四之助
永石六郎
木村市太郎
永松相五郎
黒木恒一郎
新左衛門二男
弥一左衛門二男　富岡外三郎
十助弟　嬉野末吉郎
弾右衛門二男　吉本今朝助

神島詰御筒打被仰付候　伊東八郎右衛門

持役ゟ神島銀方并心遣兼被仰付候　深川瀬兵衛

御出陣方附役ゟ神島銀方附役兼被仰付候

1751 **慶応三年二月七日　江越礼太長崎にて養生願の事**

一左之通、御届有之　江越礼太
松田助太郎

御暇奉願候末、今七日ゟ長崎表罷越候段、御届申上候事

一左之通、御暇願出候処、願通被相済候付、今日ゟ日数百日之事

願書附

私儀、昨年以来、咽喉病相煩、毎度数拾日之御暇奉願、長崎表養生罷越、少々快御座候処より、此節押々出勤仕候得共、兎角不出来勝ニ而病所柄甚難渋仕候付、猶又彼表罷越養生相加度奉存候間、勤役中、毎々奉恐入義ニ御座候得共、日数百日之御暇被為拝領被下候様、奉願候、左候得ハ、御蔭を以、養生相部致全治候通仕度、御重恩千万難有奉存候条、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

江越礼太

卯二月

西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

1752 **慶応三年二月八日　綾部新五郎帰着届の事**

一左之通、御届有之　綾部新五郎

病気快気仕、去ル六日、長崎出立之末、今日帰着仕候段、御届申上候事

1753 **慶応三年二月十日　神島出立届の事他**

一左之通、御届有之　伊東八郎右衛門
田中安六

深川瀬兵衛

来ル十五日ゟ神島出立仕候段、御届申上候事

一此節、神島詰人数被差越候ニ付而、御自分方詰侍其外被差越候処、折節御用等有之、長崎市中出手数六ヶ敷御用弁不相成候間、左之通之口達差出相成候様、西丸江懸合越相成ル

口達

此節、神島御筒部被仰付人数差出、且又長刀岩江も相詰罷在候付、為心遣別段自分方詰、左之人数差越候ニ付而者、神島江相詰、諸事心遣相整、惣而当時勢柄、軍器之取入、其外於長崎表用弁之筋多々有之候付、右兼帯申付、差越候儀ニ候得者、折節同表罷越、依事滞留致用弁候半而不叶儀も可有之、其節者御手数相整可申候条、兼而右之段被申聞置被下度奉願候

侍壱人

副士弐人

右之通御座候、尤兵粮之儀者手前ゟ相弁候、此段御達仕候様、在所ゟ申越候、以上

1754 慶応三年二月十三日　小田村市左衛門大木丸乗込の事

一於請役所、左之通御当役ゟ書取を以被相達候

小田村市左衛門

当一順御船奉行兼帯大木丸乗組被仰付候

関市之進

小田村市左衛門大木丸乗込中、富太郎様御附頭兼帯被仰付候

1755 慶応三年二月十四日　大木丸出航届の事

一左之通、御届有之

明十五日ゟ大木丸出船仕候段、御届申上候事

1756 慶応三年二月十六日　相良柳逸長崎稽古願の事

一相良柳逸、神島詰被仰付候ニ付、出島中、長崎養生所通稽古為仕度、親柳沢ゟ願出相成候処、願通被相済候、右願書諸願帳ニ有之候ニ付、略ス

一左之通、御届有之

神島詰之人々、明十七日ゟ出立仕候段、御届申上候事

1757 慶応三年三月五日　塚崎入湯願の事

一左之通、御暇願相成候処、願済相成ル

私儀、近来脚気症ニ而甚難渋罷在候付、為入湯塚崎罷越度奉存候間、御支所無御座候ハヽ、来ル八日ゟ来月八日迄日数三十日之御暇被為拝領被下度奉願候、以上

三月五日　田口伝之進

1758 慶応三年三月十二日　長刀岩より帰着の事

一左之通、御届有之

川頭形左衛門
成富源吉
中嶋源一郎
原口猪之助
嬉野市左衛門
東嶋市太郎
千々岩哲六
松田文八郎
深江夘吉郎
楠田貞兵衛
善左衛門弟
藤右衛門親隠居
銀方付役

長刀岩出立之末、昨十二日帰着仕候段、御届申上候事

1759 慶応三年三月十五日　長崎より帰着の事

一左之通、御届有之

犬塚喜兵衛

去ル十日、長崎表出立之末、一昨十三日帰着仕候段、御届申上候事

1760 慶応三年三月二十九日　田代元庵養子願の事

一左之通、於小松間ニ御書付を以、御当役西造酒丞殿ゟ列席例之通

夘二月諸願

（中略）

一田代元庵儀、嫡子無之ニ付、松田権助二男市三郎を惣領令養子度旨、願之事

（中略）

一宮崎元益儀、忰蘇庵江牟田源太左衛門姉娘を令縁組度旨、双方願之事

（後略）

一剃髪奉願候者

宗垣忰　菊地宗庵

1761 慶応三年四月一日　古湯入湯願の事

一左之通、御暇願有之

病所有之、古湯之方為入湯罷越度御座候条、来ル五日ゟ同十四日迄、日数十日御暇奉願候

宮内殿

病所有之、古湯之方入湯仕度御座候間、来ル五日ゟ同十四日迄日数十日御暇願御座候事

1762 慶応三年四月七日　唐津藩より帆前船にて運送許可の御礼の事

一小笠原佐渡守様ゟ之御使者高畠新六郎、昨日参着、使者屋止宿相成居候末、今日御取次西岡久之助面会相成候処、左之通口上手覚書之通也

薄暑之節御座候処、弥御堅固可被成、御入珍重存候、将又先般運送之儀ニ付、帆前御船江御積合被下度旨、御家来衆江家来之者ゟ為及御頼談候処、御承引被下、以御蔭都合能相廻、厚忝存候、右御挨拶時候御見舞旁以使者得御意候付、目録之通、致進覧之候

小笠原佐渡守使者　高畠新六郎

但竪
御目録左之通
殿様江
一御樽代金千疋　折足付
一鯣一箱
大殿様江
一御樽代金五百疋　右同
一鯣一箱

1763 慶応三年四月二十一日　川浪久太夫神島より帰着届の事

一川浪久太夫儀、神島詰被仰付置候処、於彼地病気相煩、療養相加候得共、急快之体不相見候処ゟ無交代ニメ引払度願出相成候処、無余儀相聞候付、願通無交代ニ而引払候通、取計相成り、去ル十九日彼地引払候末、昨廿日帰着仕候段、御届有之、右ニ付、願書其外註進左之通
川浪久太夫、去二月出島着掛ゟ肝臓攣急且胸病差発シ、早速ゟ相良柳逸療養有之候得共、一円薬功不相見候付、長崎蘭医江も相見、色々治療相加候得共、昨今只様病勢差募、迚も急快之程難計ニ付、別紙之通交代願出相成、勿論此侭閣候而者、終ニ弥ヶ上御難題出来可仕哉も難計、医師ニも見請候由ニ而、別紙医師手形差出候条、無余儀願之通無交代ニメ引払有之候通、其筋夫々手数相済、明十九日ゟ出立帰郷相成候条、帰着之上、早々交代之人被差越候通、其筋宜御取計可被成候、右心遣、且外ニ御用も有之候付、飛脚旁として足軽坂口忠兵衛付副指越候条、早々帰島相成候通、御取計可被成候、此段為註進、如斯御座候、恐々謹言

四月十八日　伊東八郎右衛門判
西川形左衛門殿
下川甚五兵衛殿

尚以、本文願出相成候間、一応御懸合之上、御差図次第取計候、則当然ニ候得共、余り永々引入相成候而者、自余差支候都合も内々其筋ゟ相響候付、無拠無交代ニメ引払相成候通、為取計儀ニ御座候、以上

口上覚

私儀、神島為御筒打被差越、難有相詰罷在候得共、着掛ゟ胸病之症差発、色々治療相加、既蘭医へも相見セ候得共、昨今只様致衰弱只今之様子ニ而者、何分急快之程難計、医師ゟも申聞、甚案病之参掛ニ御座候、就而者、御場所柄容易ニ難奉願御座候へ共、前断之次第ニ付、乍残念詰方被差免、無交代ニメ引払被仰付被下度、惣而召仕之分ニ而者道中無心元御座候ニ付、誰そ被相付候道者有御座間敷哉、旁奉願候、於然者、宿元引取養生相加御重恩之程、猶又難有奉存候条、御支所無御座候半者、願通被仰付被下候様、筋々宜敷御相達可被下儀、深重奉願候、尤別紙医師手形相副差出申候、以上

卯四月十五日　川浪久太夫判
伊東八郎右衛門殿

覚

川浪久太夫儀、着掛ゟ胸病心悸之症差発、私調判仕、色々療治相加候得共、一円薬効不相見、日増病勢差募、急快之程難計御座候、此段一札如斯御座候、以上

四月十五日　相良柳逸

口達

御筒打川浪久太夫病気ニ付、別紙之通願出候、勿論医師ゟも一札差出候程之義ニ御座候間、宜敷御吟味被下度、就而者願之通被相済被下儀ニ御座候半者、自分方詰足軽坂口忠兵衛付副為致儀ニ御座候、此段御達仕候、以上

四月十五日　伊東八郎右衛門

綾部右衛門殿

口達

川浪久太夫病気ニ付、無交代ニメ引払候様奉願、且又道中召仕之分ニ而者、無心元御座候ニ付、為心遣誰そ被相付被下度旁奉願候処、願之通被仰付候付、明十九日ゟ引払申候間、右久太夫ニ付副候自分方詰足軽坂口忠兵衛立帰ニメ引払候御手数被下度、此段御達仕候、以上

四月十五日　伊東八郎右衛門

綾部右衛門殿

1764 慶応三年四月二十五日　神島詰筒打を命じる事

一左之通、於小松間御当役西造酒丞殿被相達候、列席例之通

神島詰御筒打被仰付候

横尾兵右衛門

1765 慶応三年四月晦日　長崎奉行所より諸家長崎警備担当口を達せられる

一長崎御奉行所ゟ左之通被相達候段、徳見伝助ゟ申来候ニ付、大御目付持永九郎太夫印鑑四枚丈御奉行所江指出相成候様、伝助江達越相成ル

一筆啓上仕候、薄暑之節御座候得共、弥御安康被成御座、珍重珍重（ママ）御儀奉存候、然者当地口々御番所此節別紙之通、公義ゟ被仰出候間、別紙写入御覧申候、随而御印鑑三枚早々当御奉行所可被成差出候、此段申上度、如斯御座候、以上

四月十九日　徳見伝助

実名書判

西川形左衛門殿

下川甚五兵衛殿

御達書写

長崎表口々新関日見口ヘハ松平主殿頭、茂木口ヘ者松浦肥前守、浦上口ヘハ大村丹後守江勤番被仰付候旨、板倉伊賀守殿御書付を以被仰渡候間、此段為心得相達候、且新関通印鑑未差出向ハ早々指出候様可被致候

卯三月

1766 **慶応三年五月一日　石火矢放出整わない事**

一御火術方ゟ左之通届出相成ル
来ル五日、北浦御台場月並石火矢放出之儀、不可被
相整候事

1767 **慶応三年五月十二日　小田村市左衛門・江越礼太、長崎より帰着の事**

一小田村市左衛門、大木丸乗組出坂相成居候処、病気ニ
付、長崎上陸、今夕帰着相成候段、御届有之候事
一江越礼太御暇ニ而長崎罷越居候処、今夕罷帰り候段、右
同断

1768 **慶応三年五月二十七日　長崎異変の際出陣を命じる**

一左之通、御当役方ゟ御書付を以、被相達候由
　　靱負殿
当卯年四月以後、長崎表異変之節、御順番ニ付、最前
相達被置候通、御出張之御心得有之候様

1769 **慶応三年六月一日　大木丸住之江着岸の事**

一大木丸住ノ江着岸相成候段、御船方ゟ達出相成ル

1770 **慶応三年六月二十八日、七月一日　富岡へ神島惣心遣を命じる事**

一左之通、於小松間御当役西造酒丞殿より被相達候、例
席例之通
　　富岡三太夫
持役ゟ神島詰惣心遣并銀方兼被仰付候
七月一日
一左之通、御届有之
　　富岡三太夫
来ル五日ゟ出島仕候段、御届申上候事
　　七月朔日

1771 **慶応三年七月十一日　神島より帰着の事**

一左之通、御届有之
　　伊東八郎右衛門
去ル九日、神島出立、昨十日夜帰着仕候段、御届申上
候事
　　七月十一日

1772 **慶応三年七月二十二日　熊川湯治願の事**

一左之通、御暇願有之
　　私儀、痛所有之、甚難渋罷在候付、為入湯上熊川村
江罷越度奉存候間、御支所無御座候ハヽ、明廿三日

ゟ来ル廿九日迄、日数一七日之御暇被為拝領被下度
奉願候、以上
七月廿二日　鶴田次右衛門

1773　慶応三年八月九日　神島詰筒打を命じる事

一左之通、於小松間、御当役西造酒丞殿より被相達候、
列席例之通　小林利三郎
神島詰御筒打被仰付候　山領千兵衛
持役ゟ神島詰銀方付役兼被仰付候

1774　慶応三年八月十一日　神島詰筒打を命じる事

一左之通、於小松間御当役野口進之允殿ゟ被相達候、列
席例之通　川頭源八郎
神島詰御筒打被仰付候
一左之通、附役達　足軽
中山慶之助
佐藤末五郎
徳広伊助
神島詰御筒掛被仰付候

1775　慶応三年八月十九日　神島詰医師相良柳逸が長崎屋敷へ移動の事

一左之通、被仰付之旨、神島江達越
神島詰　相良柳逸
為医学稽古、長崎詰且神島懸り医師被仰付候
右之通、達越相成候ニ付申候、惣而者是迄神島詰ニ候
処、長崎御屋敷之方居直り相成候ニ付、御番方其外
長崎聞番江御切手年数等いか、候ハヽ手数被相整可
然哉、於彼地示談相成、夫々取計有之候様、富岡三
太夫迄掛合越
一神島詰御筒打出張罷在候内、岡初太郎、黒木恒一郎江
為交代、明廿日より左之人々出立相成候
川頭源八郎
小林利三郎
一神島詰下目付田中安六江為交代、左之人、明廿日ゟ右
同断　嬉野重太郎
一右同断御筒部足軽之義、是まて七人相詰罷在候処、彼
地御抱足軽四人此節ゟ相部、残三人為交代明日より被
指越候

1776　慶応三年八月晦日　神島より帰着の事

一左之通、御届有之　岡初太郎

黒木恒一郎

去ル廿六日、神島出立之末、昨廿九日帰着仕候段、御届申上候事

1777　慶応三年九月十一日　病にて評定所出廷出来ず医師手形の事

一左之通、七田長兵衛一類より左之通、御断書付并医師手形共西丸差越ス

口達覚

私一類七田利三親隠居長兵衛儀、佐嘉評定所御用ニ付罷出候様御達之趣奉畏候、然処、去ル申年頃より眼病相煩、両眼相潰、其上骨からミニ而平臥罷在、何分御用罷出候儀不相叶、右ニ付、別紙医師手形相副差出申候間、其筋宜御相達之儀下度、御頼仕候、以上

卯九月　　納富慶三

西川形左衛門殿

下川甚五兵衛殿

右ニ付、医師手形左之通

七田利三親隠居長兵衛義、先年来眼病相煩、両眼相潰、其上骨節疼痛平臥罷在、今以一円快気相見不申候、近来私療用罷在候付、一札如件

卯九月　　宮崎蘇庵

西川形左衛門殿

下川甚五兵衛殿

1778　慶応三年九月二十五日　大木丸住之江着岸の事

一左之通、御届有之

大木丸御船、大坂罷越候処、一昨廿四日、住ノ江下沖江着船いたし候段、乗込之足軽内山栄三郎御届申上候、以上

九月廿六日　　御蔵方

1779　慶応三年十月十日　相良柳逸出崎の事

一相良柳逸、今夕より出崎ニ付、神島江註進状差出候

1780　慶応三年十月二十二日　エンフィールド銃一件に付、出崎を命じる事

一左之通、相談役達　　下川甚五兵衛

エンヒイルト銃一条ニ付出崎罷越候様被仰付候

一左之通、付役達　　深川瀬兵衛

エンヒイルト銃一条ニ付出崎被仰付候

十月二十五日

一下川甚五兵衛・深川瀬兵衛・嬉野重太郎、エンヒイルト一条ニ付、今朝より出崎相成候

1781 **慶応三年十二月二十四日　長崎より帰着届の事**

一左之通、御届有之　　嬉野又一郎

長崎より昨夜帰着仕候段、御届申上候事

十二月廿四日

慶応四年（明治元・一八六八）

1782 **慶応四年正月九日　長崎病院へ療養の為暇願の事**

一左之通、願済相成ル

私儀近年身節相痛、是迄種々療養相加候得共、一円快無御座、旧冬亘ゟ痛苦難堪程ニ御座候付、此上なから長崎病院江罷越、一際療養仕度奉存候条、御支無御座候ハヽ、何卒来ル十日ゟ向日数三十日之御暇被為拝領被下度、深重奉願候、此段筋々宜御相達致御頼候、以上

正月六日　　嬉野多志摩

西川形左衛門殿

下川甚五兵衛殿

1783 **慶応四年正月十三日　本家より大木丸滞留達の事**

一御本家ゟ別紙之通、大木丸御船御相談申来候段、申上相成ル　　七兵衛

形左衛門様

甚五兵衛様

請役所ゟ呼出ニ付罷出候処、今度京坂騒動一条、未た表向懸合ハ無之候へ共、江戸表戦争之儀者註進有之候、物而者、当節柄、蒸気船御持合三艘ニ而者手募有之候付、長崎御奉行所筋を以御買入之手筈ニ相成居候得共、迚も火急之間ニ者合兼候付、無余儀大木丸御相談相成度候得共、当今兵庫湊滞船有之居候趣相聞候付、住ノ江着岸之上者、暫御繁留相成居候様、若又大坂表急便も有之候ハヽ、急ニ差下シ相成候様、御掛合有之度、旁羽室雷助ゟ被申聞候条、自然近々之内着岸等致し候ハヽ、早々為御知可被成候、此段為御掛合、如斯御座候、以上

正月十二日

1784 **慶応四年正月二十日　直虎水痘の事**

一御水痘被遊候

1785 **慶応四年正月二十六日　直大伊万里から出航の事**

一山代郷代官ゟ左之通申来候段、申上相成ル　　七田次右衛門

受役附宛

以手紙致啓上候、然者肥州様伊万里之方ゟ昨夜涼風（ママ）

丸御乗込ニ而久原津ゟ御本船御乗込ニ而、今暁ゟ御出
帆被成候付、此段御知セまて早々如斯御座候、以上
正月廿四日　　深江隼太
右近輪三

1786　慶応四年正月二十九日　長崎から帰着届の事

一左之通、申上有之
長崎ゟ昨夜帰着仕候段、御届申上候事
正月廿九日　　嬉野多志摩

神島詰被仰付候
二月十日
二月十一日　　香田伝左衛門

1787　慶応四年二月九日・十日・十一日・十五日・十六日　神島詰筒打を命じる事

一左之通、申上有之
江副兵部左衛門　庄馬五郎
庄久左衛門　成富源吉
原口猪之助　中嶋源一郎
横尾庄左衛門　水町求馬
田代希一　千々岩哲六
南里藤一郎　石田右八
野口安之助　宮地健九郎
犬塚晋助　馬渡寛四郎
神島詰御筒打被仰付候
二月九日
二月十日
一左之通、申上有之

神島詰被仰付候
二月十一日
二月十五日
一左之通、申上有之
伊東八郎右衛門、其外神島詰為交代、来ル廿四日ゟ
出立之段、御届申上候事
二月十六日
一左之通、申上有之

神島詰被仰付候
二月十六日　　小野田源八

1788　慶応四年二月二十日　沢主水正守衛の事

一神島詰富岡三太夫ゟ之懸合申上有之、左之通
去ル十四日、公家沢主水正殿御本家甲子丸御船ニ而、
当湊御着船相成、翌十五日御揚ニ付、左之人々海陸
御守衛被仰付、無事相勤申候、惣而最前周防社御参
詣、其後西御役所江御出相成申候、未夕為相替御所
置も承り不申候、何れ帰郷之上、委細ハ御達可仕候、
此節御巡見ニ付、御守衛被仰付候人々

富岡三太夫
高岸亘
横尾兵右衛門
羽館久吉郎
藤戸又右衛門
東又七郎
永松相五郎
木村重太郎
秀嶋藤五郎
山本与四之助

右之通、為註進如此御座候、恐々謹言
二月十七日　富岡三太夫
下川甚五兵衛殿
綾部新五郎殿

一左之通、申上有之
石田貞之進
来ル廿四日ゟ神島詰として出立仕候段、御届申上候事

1789　慶応四年二月三十日　北浦台場上覧の事

一今日八時、御供揃御乗馬ニ而、北浦御台場被遊御越、七半時頃ゟ御帰還、直ニ菅井并浜江御出、御山通ニ而御帰館、尤明日ゟ佐嘉被遊御越ニ付而也
但此節、御火術方ニおゐて註文相成候大砲其外打様し有之候付、被遊御覧候

1790　慶応四年三月四日　備立方より銃調練を命じられる事

一御本家御備立方ゟ之書付、左之通、申上有之
七兵衛
受役附様
御備立方ゟ呼出ニ付罷出候処、別紙御書付石井小介ゟ被相渡候付差越申候条、宜御取計可被成候、此段如此御座候、以上
三月三日
知行高ニ依、役目鉄砲御定之旨有之候付而者、物成千石以下、右銃手従者之義組内調練、偖又御火術方出席業前習熟、隊伍編成聊不束之義無之様、組々ニおゐて申合候様、尤於御火術方も業前御試等被仰付儀候
附譜代被官共、幼少其外等ニ而当今自分仕立整兼候向ハ願ニ依、別段銃卒御仕立相成義ニ候

1791　慶応四年三月五日　太政官より長崎警備を命じられる事

一御年寄方ゟ奉札左之通
納富右膳
井上丈左衛門
松崎七兵衛様
以手紙申達候、肥州様正月廿五日、太政官代江重臣

御呼出ニ而、長崎表御警衛、従前之通被仰出候段、三條前大納言殿御書付を以被仰渡候、欽八郎様・左兵衛佐様・御内方様江右為御知、従私共宜申上由被仰付越如斯候、可有御申上候、以上

三月五日　　右両人

右同人様

以手紙申達候、肥州様御事、先月廿二日、御用之儀候間、太政官代江御出可被遊旨御直宛之御剪紙御到来ニ付、則御供揃ニ而被遊御出候処、議定職外国事務局輔加勢被仰出候段、弁事坊城侍従殿より御書付被相渡候、欽八郎様・左兵衛佐様・御内方様江右為御知、従私共宜申上由被仰付越如斯候、可有御申上候、以上

三月五日

1792　慶応四年三月八日　神島帰着届の事

一左之通、申上有之

羽館久吉郎
山本與四之助
丹宗一郎左衛門

去月廿八日、神島出立之末、今六日帰着仕候段、御届申上候事

1793　慶応四年三月十一日・十三日　長刀岩詰を命じる事

一左之通、御達相成候段、申上有之

吉富助太夫
北川湊
石井健蔵
安本源之助
藤嶋竹之助
嬉野市左衛門
村川八三
川浪久太夫

長刀岩詰被仰付候

三月十一日

一左之通、申上有之

嬉野又一郎

長刀岩詰被仰付候

三月十二日

三月十三日

一今十三日ゟ神島并長刀岩之方出立、左之通、御届申上有之

伊東八郎右衛門
辻文之進
嬉野又一郎
吉富助太夫

今十三日ゟ神島出立仕候段、御届申上候事

北川湊
石井健蔵
嬉野市左衛門
村川八三
川浪久太夫
安本源之助
藤嶋竹之助

今十三日ゟ為長刀岩詰出立仕候段、御届申上候事
三月十三日

1794 慶応四年三月二十五日　神島帰着届の事

一左之通、申上有之

富岡三太夫
山領千兵衛

去ル廿一日、神島出立之末、昨夕帰着仕候段、御届申上候事
三月廿五日

1795 慶応四年三月二十五日　直大名代直彬帰着の事

一左之通、鹿嶋より為御知有之

北御門八兵衛

松崎七兵衛様
以手紙致啓上候、然者左之廉々註進申来候付、此段為御知、如斯御座候、以上
（中略）

一肥州様長崎表御警衛御巡見為御名代、備中守様当月七日御暇御帰国之儀、従肥州様御願之通被聞食候段被相達候事
（後略）

1796 慶応四年閏四月十一日　土佐藩士と面会の事

一土佐藩中唐津表ゟ天草罷越候由ニ而昨夜横丁金井屋止宿、雑務方役人面会申入相成候付、今夕御蔵方ゟ出会之段申上有之候、左之人

土佐藩中
笹村源右衛門

右者内実者探索方之由、長崎詰有之候人之由、江頭源五左衛門面会有之

1797 慶応四年閏四月十二日　綾部新五郎京都遊学を命じる事

一左之通、申上有之
（中略）

綾部新五郎

京都遊学被仰付候

1798 慶応四年閏四月二十四日　綾部新五郎出立の事他

一追々左之通、申上有之
（中略）

綾部新五郎

明廿五日ゟ出立仕候段、御届申上候事

閏四月廿四日

明廿五日、調練場ニおいて野対筒薬込ニ而稽古相整候事

閏四月廿四日　御火術方

1799　慶応四年五月十一日　長刀岩詰を命じる事

一左之通、申上有之

八郎右衛門二男

伊東小市

長刀岩詰被仰付候

五月十一日

1800　慶応四年五月十四日　長崎番所受取報知の事

一御年寄方奉札左之通

納富右膳

井上丈左衛門

松崎七兵衛様

以手紙申達候、長崎御番所為御請取、御番人被差越候処、三月十七日無別条御受取相済候段、四月十一日駿州興津駅おいて被聞召候、欽八郎様・左兵衛佐様・御内方様江右為御知、従私共宜申上由肥州様被仰付越、如斯候、可有御申上候、以上

五月十二日

1801　慶応四年六月十六日　相良柳逸惣髪願の事

一相良柳逸惣髪願済、左之通

願書

私悴柳逸儀、英学被仰付置、長崎相詰罷在、難有仕合奉存候、然ル処、直伝習等之都合剃髪ニ而者差支候付、稽古中惣髪為仕度御座候間、御支無御座候ハヽ、願通被仰付被下度奉願候、此段筋々宜敷御相達可被下候、以上

辰六月

相良柳沢

下川甚五兵衛殿

中嶋甚九郎殿

1802　慶応四年六月十七日　御用に付、長崎出立の事

一左之通、申上有之

左之通被仰付候

下川甚五兵衛

御用有之出崎被仰付候

六月十六日

左之通被仰付候

本村鉄助

御用有之下川甚五兵衛ニ被相附、出崎被仰付候

六月十六日

下川甚五兵衛

今十七日ゟ長崎出立仕候段、御届申上候事

本村鉄助

右同断

六月十七日

1803 慶応四年七月三日　所持の蒸気船京都へ報告の事

一異船所持之面々付出相成候様、京都江御達之由ニ而御本家ゟ左之通被相達候

七兵衛

甚五兵衛様
甚九郎様

請役所ゟ則刻呼出ニ付罷出候処、京都ニ於て別紙之通、御触達相成候段申来候条、此御方御船大木丸雛形別紙之通明後四日出勤前差出候様、松岡又六郎ゟ相達候条、早速被御調子合、明晩迄無相違可被差越候、此段、為御懸合如是御座候、以上

一六月十二日、於御所、大原左馬頭殿ゟ尾州御家来江御書付壱通御渡相成、御触頭之向々江御通達御触下候、同断被相達候旨ニ而順達之写

諸藩江

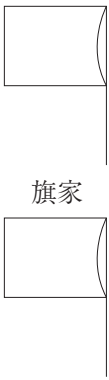
先達而蒸気帆前船名・馬力云々雛形之通、早々取調可届出旨、御布告ニ相成候得とも、今以届出サル藩も有之、已ニ届出候藩へも其調所色々不一候故、今一応委細別紙雛形之通、来月廿九日を限り相調可差出候者也

六月

雛形

何之藩、蒸気帆前船

船名、鉄制（ママ）・木制（ママ）　外輪・螺施
原名
長サ
幅
馬力
頓数
檣数
炬出シ
右彼紀元何年何国製造、我々何年何月於何港買入
船印之事



如右、委細図色取りを以、書出可申事
向後、蒸気帆前之無差別、様式之艦買入、或ハ製造之節ハ、如右相認、軍勢官へ早々差出可申事、但買入之船者代価も同様可申出事

月日

1804 慶応四年七月十五日　沢右衛門へ歓使者差出の事

一長崎府知事沢右衛門権輔様、先般御着崎、将又其後御官位御昇進ニ付、右御歓御使者左之通相勤申候

1805 慶応四年八月五日　外国より船借り入れの事

一西丸ゟ左之通申来候段、申上有之

七兵衛

甚五兵衛様
甚九郎様

御出陣方ゟ則刻呼出ニ付罷出候処、異人船御借入来候旨申来ニ付、伊万里江差廻候様、早速ゟ長崎之市江懸合越候筈ニ付、来ル七日頃ゟ出立之積ニ而手配相成居候様、右御借入船伊万里廻船之段申来候半者、俄ニ栄出可相整候間、其心得ニ而手配相成居候様、中山平四郎より被申聞候条、右様御承知可被成候、此段、為御懸合如是御座候、以上

八月四日

1806 慶応四年八月五日　神島詰・長刀岩詰を命じる事

一左之通、申上有之

牟田伊兵衛　船津政太郎
前田伝四郎　大石善作
安住岩之助　川浪又三郎
十助弟嬉野又三　又右衛門弟藤戸和三郎
神之島被仰付候
永松相五郎
永橋敏一郎
長刀岩詰被仰付候
深川瀬兵衛
持役ゟ神之島詰被仰付候

1807 慶応四年八月八日　神島帰着届の事

一左之人々病身ニ付、無交代ニ〆、去月廿九日ゟ神島出立之処、海上不順等ニ而今日帰着仕候段、別紙口達差添左之通申上有之

中嶋源一郎
喜右衛門二男
犬塚晋助

神島ゟ帰着仕候段、御届申上候事

1808 慶応四年八月十二日　田尻宮内、伊万里より出陣の事

一山代郷久原村ゟ今般出勢役々ゟ之手紙申上有之、左之通

徳島健之丞
星野九右衛門

馬場又左衛門様
川副増吉様

従山代郷久原村致啓達候、然者宮内殿始一同無滞、去ル九日爰許為致参着義御座候、惣而御雇入之異船同九日夕七半時頃、当所前碇泊、且甲子丸御船之義も昨十日昼頃、右同断、然ル処、異船別而小形ニ而、凡弐百計りならて乗込不相叶、荷物も右ニ応し候由

ニ御座候、然ル処、佐嘉御用物并御手前玉薬、其外大総之荷物ニ而積方談判殊之外六ヶ敷有之趣ニ候得共、御本家御武具方中山平四郎其外役々出張爰切之心配ニ而、漸時暮頃積込相済候付、今朝六ツ時ゟ宮内殿始一同乗込、両船直ニ出帆相成筈御座候条、先以御安心可被成候、此節平四郎はしめ、役々数人出張乗込前後、其外彼是別而懇ニ心配相成候都合其外委細中嶋文蔵江相含置候条、旁左様承知可被成、此段為註進、如此御座候、以上

八月十一日晩

猶以、是迄格別病人等も無之可也ニ乗込相済、御同慶ニ御座候、惣而羽州御軍監藤川能登殿、沢主水正様ゟ被指越候由ニ而、昨夕爰元到着甲子丸乗組ニ而彼之表ニ罷越筈御座候、此段御含迄申越置候、以上

1809

慶応四年八月十七日　病にて長刀岩詰より帰着の事

一左之通、申上有之

長刀岩詰　　嬉野市左衛門

右之人、胃病・腫気之病相煩危篤之体ニ付、無交代ニして、去ル十四日ゟ医師相良柳逸并使前助太夫付添出立、明十七日到着之段、註進其外を以申上有之

1810

慶応四年八月十九日　神島・長刀岩より帰着の事

一島詰為交代、去ル十二日ゟ牟田伊兵衛其外出立之末、左之人々交代帰郷之段、銀方ゟ註進状差上相成

神ノ島詰之人々

志波辰之助
川頭源八郎
庄馬五郎
宮地健九郎
右近輪三

長刀岩詰之人々

石井献蔵
村川八三
足軽目付
山田文七

神ノ島小屋詰足軽

佐藤末五郎
辻丸元吉

長刀岩詰右同

木下伊兵衛
石橋惣右衛門
大嶋勝蔵
八頭司猶助
御厨長四郎

一此節羽州出勢星野九郎右衛門より御相談人迄註進、長州福浦甲子丸船中ゟ之掛合、去ル十一日、甲子丸并御雇入之異船一同山代郷出帆、同夜右浦掟泊同十一日打進候処、相良宗左衛門儀、京都表ゟ御用相含、佐嘉迄罷帰り候末、右異船之義ハ早々出帆甲子丸之義ハ同人猶又御用相含、右御船江引返シ相成候付、夫迄相滞候

様、佐嘉ゟ註進申来候段、藤本桓作ゟ被相達候付、異船ハ同十二日朝ゟ直ニ羽州江出帆相成候由、物而甲子丸乗込之内、長崎要人組足軽社刈永渕貞七山代郷逗留之節ゟ外邪相煩、船中弥以気体不相勝、医師ゟも不軽様見込之次第申出候付、宮内殿江相達之上、分過夫之内社刈栄助附添差返候段、去ル十四日出之註進状申上有之

一左之通、申上有之　　岩松新三郎

長刀岩詰被仰付候

八月二十二日

一左之通、申上有之　　岩松新三郎

明廿三日ゟ出立仕候段、御届申上候事

八月廿二日

1811　慶応四年九月四日　大赦により宮崎蘇庵へ恩赦の事

一左之通、一類呼出相達相成候

（中略）　　宮崎蘇庵

右者不容易御不審之筋有之、評定所相居籠被置候得共、心気不揃ニ付、是迄其侭被指置候処、此節大赦ニ付、宿元被差返候、尤嫡子之義者引取、山内罷越相慎罷在候様

（後略）

1812　慶応四年九月十三日　松平忠和家臣より書状到来

一左之通、申上有之、右者松平主殿頭様御家老ゟ奉札大坂表ゟ相回ル

一筆致啓上候、欽八郎様益御機嫌能被成御座奉恐悦候、然者主殿頭儀、今般帰邑之御暇願之通被仰出、先月廿四日、京都表発足、海路無滞、今日被致着城候、右為御知可得御意旨被申付、如斯御座候、恐惶謹言

六月十四日　　松平十郎右衛門

星野善右衛門

嶋田平吾寿

松平勘解由

板倉八右衛門

西造酒丞様

水町舎人様

園田主殿様

野口進之允様

別紙

追啓、主殿頭儀、天草郡当分警衛被仰付候旨、於長崎表従督府被仰渡候付、警衛之者差出申候、此段、為御知可得御意旨被申付、如斯御座候、以上

六月十四日

1813 慶応四年九月二十八日・二十九日　神島より帰着届の事

一左之通、申上有之

田代希一
庄久右衛門
香田伝左衛門
成富源吉
南里藤一郎
水町求馬
鴨打馬次郎
野口安之助

右之通、明廿七日、神島より帰着仕候段、御届申上候事

九月廿八日

九月二十九日

一左之通、申上有之

江副兵部左衛門
小野田源八
千々岩哲六
大石善作

右之人々、去ル廿五日神島出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候事

九月廿九日

1814 明治元年十月三日　神島より帰着届の事

一左之通、申上有之

牟田伊兵衛
船津政太郎
原口猪之助
藤戸和三郎
川浪又三
宮田伝四郎
嬉野又三郎
安住岩之助
深江市之允
横尾庄左衛門
石田右八
馬渡寛四郎
伝治弟

右之人々、去月廿八日、神島出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候事

1815 明治元年十月八日　長刀岩より帰着届の事

嬉野又一郎
北川湊
吉富助太夫
川浪久太夫
藤嶋竹之助
岩松新太郎

永松相五郎
泰助二男　永橋敏一郎
八郎右衛門二男　伊東小市
右之人々、去ル三日、長刀岩出立之末、昨夜帰着仕候段、御届申上候事

1816 **明治元年十月八日　古湯入湯願の事**

一左之通、申上有之、御留守中ニ付、御当役聞届相成候事
私儀、痛所御座候付、古湯村江為入湯罷越度御座候間、御支所無御座候半、、明九日ゟ来ル十五日まて日数一七日之御暇被為拝領被下度奉願候、以上
十月九日　田中一郎

1817 **明治元年十月二十六日　佐野文仲稽古延期願の事**

一佐野文仲悴安靖義、トイツ学稽古として、去ル寅冬ゟ三ヶ年之御暇ニ而長崎表罷越居候処、猶又同表病院御雇医師マンセルと申異人之部屋相詰令一際研業仕度ニ付、明巳年ゟ三ヶ年打追之通、稽古被仰付度願書を以、筋々願出相成、願済之事

1818 **明治元年十月二十八日　綾部新五郎帰着の事**

一今夜左之通、申上有之
綾部新五郎
去ル十一日、京都出立之末、今廿八日帰着仕候段、御届申上候事
十月廿八日　綾部新五郎
親四郎太夫、去ル十七日、病死之段、今日帰着之上、承知仕候、依之則より忌中引入候段、御届申上候事

1819 **明治元年十一月三日　相良柳逸へ給金支給の事**

一左之通、長崎病院局中おゐて相達之段、達出候旨申上有之
相良柳逸
右当直申付、一ヶ月金拾五両充被下之候
辰十月

1820 **明治元年十一月九日　江越礼太養生願の事**

一江越礼太儀、両三年咽喉病相煩難渋ニ付、為養生最前ゟ之末、猶小浜入湯罷越、且長崎在留之蘭医相懸り度、日数百日之御暇願筋々差出候処、願済之事

1821 **明治元年十二月十八日　医師束髪免除、上下着用許可**

一御本家受役所ゟ之達帳差上有之、左之通
医師之儀、是迄僧官法体ニ候処、今般束髪被差免、俗体罷成候付而者、着服之儀、以来自余同様袴上下着用仕候様被仰付度、其筋より達出相成、物而当時於京

都表、諸藩之見合も有之趣ニ付、相達之通被仰付候事

辰十二月　　御仕組所

右之通、申上有之

束髪可為勝手次第旨被仰出候段、於京都奉承知、即ゟ頭髪相延シ為儀ニ御座候、右者致御届候様有之候旨、帰着之上、承知仕候処、忌中引入不能、其儀当節忌明ニ付御届仕候、已上

十二月十八日　　綾部新五郎

1822

明治元年十二月十九日　綾部新五郎家督相続の事

一綾部新五郎江亡父四郎太夫跡式無相違可被仰付哉、忌明ニ付、奉伺候事

1823

明治元年十二月二十七日　医師束髪免除、上下着用許可

一西丸ゟ来状申上有之廉々左之通

逸作

形左衛門様
甚九郎様

医師束髪被差免、上下袴着用被仰付候付而者、茶屋之義、如何相成可申哉、受役所承繕候処、右者勝手次第ニ為被仰付儀ニ候得共、是迄之服ニ而も上下袴着用ニ而も不苦旨、御吟味相成候由、野田平兵衛ゟ被申聞候条、右様御承知可被成候、此段為御懸合如是御座候、以上

十二月廿五日

猶々束髪不相整医師者、是迄之着服ニ而候哉之旨、席を以聞繕候様、御端右之趣致承知、是又承合候処、当今者都而束髪相成候様有之候由御座候、以上

蘭法稽古……182
蘭船……133,142,145
蘭筒頭……176
懸硯方……298,301
議定職……333
癪気……13,94
鷓胡蘭丸……81

陸軍所……309,310
陸軍御奉行……310,311
魚見岳…161,168,169,210,212,213,224,226,232,251,269,271,272,273,274,275,276,277,278,280,282,285,299,300,302,303,320
鹿島聞番……13,70,94,98,178,198,320
麻疹……252,254
備立方…229,269,283,284,286,290,297,298,309,332
寒熱……29,43,46,93,112,178,295
御仕組方……22,25,26,29,31,38,46,47,51,62,66,84,133,157,232,233,264
御番方……27,30,46,55,58,68,73,87,91,95,97,106,118,138,142,157,158,159,161,162,165,167,172,174,175,177,178,190,192,193,197,199,202,205,209,215,216,217,224,226,227,232,235,236,238,245,246,248,255,256,257,258,259,260,264,265,266,267,268,269,271,272,273,274,275,276,278,279,280,283,291,293,295,296,299,302,318,320,321,328
惣髪……71,72,74,116,117,315,335
朝鮮人……37,68
湯治…40,42,43,59,61,67,77,83,84,85,107,110,112,327
無量寺…267,270,271,273,274,275,278,302,303,305,306
痩病……315
痙攣……198
蓮池聞番……134,178,193,226
逼塞……69,277,284
暇願…12,23,24,27,35,40,41,42,43,48,50,52,53,59,67,68,70,71,74,77,78,81,82,85,88,93,107,108,110,119,127,128,131,146,152,160,166,170,174,178,194,203,209,221,239,284,298,308,312,313,314,317,318,321,322,323,324,327,330,339,341
溜池……310
溜池御屋敷……306,307,310
痾癩……203
痰咳……100
痳疾……152
腹痛……76,125
蒸気帆前船……336
蒸気船……140,141,172,177,330,336
遠見方……30,43,44,45,46,57,58,62,68,95
鉄砲…37,56,114,118,119,130,176,285,292,297,309,332
電流丸……176,253
慢驚風……242
榎津番匠……84
種痘……124,125,126,127,179,180,181,183,209,214,215,217,220,267,300
種痘方……209,214
銃錬……203
魯西亜船……141
横浜伝習方……309
熱症……47,83
瘧……15,16
請役所……14,40,69,127,129,135,148,163,167,176,177,184,185,191,200,201,207,208,212,227,230,239,242,270,278,297,301,323,330,336
調経湯……81
養育米……66
興譲館……21,101
薄荷円……81
薬売……67,80,97
薬料……15,47,50,54,160
薬種……12,13,14,15,16,17,67,69,80
霍乱……47,121
癇症……48,52
駿州興津駅……335
騎兵隊……309
蘭人伝習……157,158,163,164,175,257
蘭医……41,313,314,325,341
蘭学……27,254
蘭学稽古……254

肥児丸……81
英学……298,304,319,335
長崎…12,13,14,15,16,24,25,26,27,30,31,33,37,38,39,40,41,44,45,46,47,51,55,56,58,59,62,63,66,67,68,72,73,74,76,79,84,85,87,88,89,91,92,93,96,100,103,104,106,108,110,111,113,118,128,132,133,138,141,142,145,146,148,151,155,157,175,207,209,212,229,231,232,233,235,238,239,240,245,248,252,253,256,257,258,259,260,261,262,263,264,271,275,276,277,278,279,280,283,285,291,295,297,298,300,301,303,306,307,309,312,313,314,315,317,318,319,321,322,323,324,325,326,327,328,330,331,332,333,334,335,336,337,339,341
長崎御仕組……74
長崎御仕組方……106
長髪……72,74
阿蘭陀人……31,33,41,54,130,140
阿蘭陀船……67,68,95,96,97,130,140,142,190
阿蘭陀献上物……49
保中円……52,53
室町……27
指薬……81
施薬方……15,16,22,185,186,188
栄照庵的場……158,206
柴金錠……81
海軍伝習方……160
洋書調所……310
疫病……53,79,86
相続方……35,36
神埼……163
紅毛人……12,15,31,60,74,85,128
紅毛船……24,25,48,59,232
美玉屋……12
軍書……37,40,42,116,158,159
軍艦……240,255,278,307
軍艦取調子役……240
風邪……78,86,119,178
唐物……13,17
挽山見物……74
時疫……22,76
涼風丸……330
浦賀奉行……130
浜御茶屋……13,14,17,18,37
流行病…39,40,41,55,56,57,58,60,79,81,85,86,122,159,170,184,185,186,187,188,189,191,195,254
真田流…17,21,24,28,51,53,54,61,68,69,70,73,83,84,85,102,115,158,164,193,210,242,281,282,283,312
砲術稽古……13,17,19,21,28,51,54,56,61,68,72,73,81,114,227,283,312,317,318
速康散……81
郡方…12,15,37,40,41,54,59,60,67,70,74,79,82,83,85,88,100,103,106,108,124,133,138,172,176,183,187,208,239
骨疽……313,314
高島…12,21,22,23,24,29,30,31,43,44,46,57,58,60,62,66,68,73,78,86,87,88,89,91,92,93,95,96,97,106,114,119,122,123,127,192,259,264,265,266
捨子……90
異国人……37,41
異国船……26,30,79,96,242,307
異船……26,172,178,232,236,237,242,293,296,299,336,337,338,339
痔疾……89,93,104,110
眼科……93,152,153
眼病……43,58,159,329
笹湯……50
脚気……221,222,223,227,323
進物方…35,124,149,150,151,229,230,245,246,251,252,253,270,295
野戦銃……237,238,287,309

目洗薬……81
目薬……81
石火矢……57,68,69,70,95,106,118,124,125,126,127,131,133,138,147,149,152,160,170,176,181,182,185,189,192,193,200,206,208,209,211,218,219,221,222,231,235,239,240,242,251,254,280,281,282,293,297,298,302,308,313,327
石炭……171,172,177,183,187,220
伝習方……157,158,165
吐血……178
好生館…149,152,154,162,165,166,170,171,175,179,180,181,183,188,190,191,196,200,202,204,206,207,208,212,213,214,215,217,218,220,221,223,226,231,234,241,243,248,249,250,254,267,278,284,295,297,300,301,305,308
年行司……12,43,46,92,93
江戸…13,15,18,20,23,28,56,58,59,60,63,66,70,71,74,81,82,85,86,95,98,99,103,104,109,123,130,137,140,141,142,146,149,153,182,194,209,210,218,223,234,249,250,272,274,277,285,286,305,307,309,316,330
自然痘……179
臼砲……309
西丸…12,13,25,30,33,35,36,43,44,46,47,50,51,59,62,67,69,70,74,76,83,85,87,89,91,92,94,95,96,100,101,107,108,112,114,118,121,124,126,133,134,135,136,142,147,150,151,154,159,160,167,174,175,177,179,180,181,184,188,193,203,207,208,209,211,213,216,218,230,231,232,235,240,241,245,246,248,251,254,255,257,258,259,264,266,267,269,270,271,273,274,275,278,283,284,285,286,290,291,292,295,296,297,298,299,300,301,302,305,306,308,309,318,319,320,321,323,329,337,342
西洋形帆船……301,307
西洋流……147,187,283
亜米利加人……193
亜墨利加……211
佐賀便……14
佐嘉……163
兵庫……34,42,59,101,117,118
兵庫湊……330
吹出物……72,74
尾州……19
束髪……341,342
沖島……73,131,173,177,224
狂気……51,52,63,131
狂言……41
医学寮……134,146
医学稽古……13,18,19,23,28,41,71,73,123,234,312,328
医師手形……43,46,50,76,120,121,184,221,313,314,325,329
医業稽古……41,42,93,111
京坂騒動……330
京都……27,41,42,52,59,60,67,93,97,105,334,336,338,339,341,342
免札……134,135,136,146,206,207,208,212,223,226,241,284,308
呼子……36,107
和蘭万能膏……81
和蘭吸出膏……81
和蘭散シ膏……81
学校指南役……34
岡……90,91,92,154,193,195
忽微砲……309
武衛流……14,17,21,28,37,51,53,54,55,56,57,67,68,70,73,82,83,89,102,115,154,158,195,206,281
疝積……29,35,46,76,77,93,107,112,128
祈祷…22,39,50,53,56,58,79,80,81,86,123,170,184,187,188,189,195,270

<地名・事項索引>

イギリス……229
エンヒ（フィ）ールド銃……297,309
かひたん……59,67,130
コンシユル……279
トイツ学……312,315,341
トントル……237
ドンドル筒……269
フーテイ……237
メンエ銃……269
一代医……42,69,125,150,153,156,277
一本松御台場……259
一孤兵粮……18,20,59,60
八幡小路……124
十補円……81
上使屋……12,15,240
大久保台場…133,182,184,190,191,192,200
大木丸…303,305,306,307,311,315,316,321,323,327,329,330,336
大坂…12,13,15,19,23,28,60,69,80,86,94,98,99,110,204,218,249,316,329,330,339
大坂御屋敷……19,27,98
大里……28,249
大通詞……32,49
小瘡……40,48,52,110,116,170,174,180
井上流……54,82,83,102,115,158,206
五條ヶ里宿……75
五積散……81
介抱米……42,79
内治……19,152,153,154
太政官……332,333
天文方……130,145,157
引痘……124,179,180,181,183,184,188,211,212,213,214,215,217,218,220,221,226,267,270,271,273,274,275,276,278,297,300,301,302,303,305,306
引痘方…124,125,126,127,134,135,179,180,181,183,185,188,213,214,215,267,271,274,275,300,301,302,303,305,306
手明鑓……42,87,126,157,161,162,168,169,192,203,232,236,256,297
文学方……40
文武方…14,34,40,54,55,56,57,72,73,75,77,81,84,90,92,96,101,107,114,115,118,119,124,125,126,127,147,162,164,183,210,211,229
方円流……312
木香丸……81
火術方…133,138,147,151,155,156,157,159,160,161,162,163,164,170,175,176,178,185,189,191,192,197,199,201,203,207,208,215,216,217,224,225,226,227,228,231,235,236,240,241,266,267,272,273,276,280,281,283,293,296,298,302,308,309,311,312,319,320,327,332,335
牛津駅……12,15,33,37,41,85,257
代品取調方……140,141
出奔……43
外国事務局……333
外治……152,153
平原新射場……187
本道……93,153
正満寺……12
永蟄居……109,120
甘金……152
玉薬小屋……141
甲子丸……331,337,338,339
白帆……25,62,63,68,95,108,129,131,132,139,178,190
目付方……14,16,40,41,51,63

藤嶋竹之助……333,334,340
藤嶋利吉郎……141,144,287,292
藤嶋専人……210
藤嶋春斎……136
藤嶋益之允……47
藤嶋益助……212
藤蔵……189
藤瀬六左衛門……119
藤瀬孫太郎……177,202
瀬下豊蔵……32
瀬兵衛……202
瀧已之助……182,287
鐘ヶ江半五郎……292
鐘ヶ江次郎兵衛……269,279,318
鶴田次右衛門……328

横尾藤馬……288
横岳郷助……287,292
樫山萬太郎……46
樫山市五郎……46
監物……79,85,86,102,108,114,117,118,207
諸岡権太夫……280
諸泉太平次……86,88
諸隈徳一郎……141,144,196,289
諸隈市之允……233,234,250,290
調女……129
養哲……123
駒次郎……252
橋本平之丞……289
橋本和助……126
橋本唯之丞……233,234,250,255
橋本善右衛門……54,55,70,88,92,93,94,96,98,107,108
築貫万助……256
興平……189
簑田作左衛門……176
薫九郎……290
薬王寺九八郎……101
薬王寺久弥……137,142,143
薬王寺弼……260,263,287
諫豊前……69,108
鴨打大之進……21,34,101
鴨打利兵衛……171,212
鴨打馬次郎……316,340
鴨打勘左衛門……25
檀文逸……196,200,202,204,206,208
篠原千兵衛……256
篠原新左衛門……186,235
篠原市三郎……166,255
篠原市太郎……201
鍋十左衛門……34
鍋主水……24
鍋安房……252
鍋但馬……34
鍋島上総……271
鍋島山城……25,26
鍋島丹波守……93
鍋島内匠頭……219
鍋島四郎右衛門……112
鍋島甲斐守……283,295
鍋島志摩……150
鍋島紀伊守……25,35,53,97
鍋島隼人……48,93,96,252,279
鍋島啓之助……252
鍋島欽八郎……283,295,303,307,311
鍋島市太郎……170
鍋島市佑……51,96
鍋島刑部少輔……99
鍋島靱負……286
鍋島織部……93,94,95,98,99,286
藤山一……43,46,196,200
藤山九右衛門……263
藤山久太夫……171,207,222
藤山光衛……171
藤山利兵衛……165,201,272,274
藤山沢右衛門……179,210
藤山相右衛門……263
藤山善右衛門……288
藤川能登……338
藤井龍蔵……32
藤井銑太郎……219
藤戸八三郎……137,165,202,223,229
藤戸又右衛門……268,288,316,332
藤戸和三郎……337,340
藤本桓作……279,339
藤田徳一郎……286,291
藤島八左衛門……24
藤島文作……156
藤島守人……270
藤島良左衛門……154
藤島俊当……154
藤島俊斎……136,150,243,250
藤島清左衛門……29,82,109,110,120,123
藤島喜右衛門……260,310
藤島善之丞……164,165,255
藤嶋八左衛門……21,22
藤嶋吉之丞……199

嶋本良淳……61
嶋本龍嘯……71
嶋田平吾寿……339
嶋田芳橘……278
嶋田南嶺……179
徳広今朝右衛門……256
徳広伊助……300,328
徳本庄助……39
徳見伝助……56,72,87,248,252,326
徳見郡四郎……84,101
徳見逸作……287
徳島健之丞…172,187,211,214,248,257,260,270,307,310,337
徳富源六……292
槙春堂……252
槙春道……251,252
熊次郎……178,210,211,232
稲増平太夫…137,145,147,171,233,234,255,267,276,282,288
稲増弥三郎……142,144,223
種一郎……51,53
綾部大右衛門……266,268
綾部右衛門……326
綾部四郎太夫…34,129,139,141,146,248
綾部幸之進……145
綾部健一郎……171,212
綾部新五郎…211,264,297,298,300,301,304,321,322,332,334,335,341,342
綱五郎……51,52
緒方勝太夫……32
綿屋六蔵……84
與四右衛門……176,181,242
與平……305
蒲原又助……287,292
蒲原兵太夫……84
蒲原栄助……151
蒲原豊八……32
蓑田作左衛門……286
蓑田助之允……287
関与右衛門……34
関左伝次……101
関省之丞……196,199,255,268,287
関市之進……173,174,239,286,317,323
儀八……32,306
儀兵衛……65,189
嬉野……163
嬉野十助……254,255,288
嬉野又一郎……287,330,333,340
嬉野又三……337,340
嬉野又兵衛……20,21,24,27,28,253
嬉野三郎左衛門……197,258,289
嬉野小右衛門……14,55
嬉野六兵衛……113
嬉野末吉郎……322
嬉野多志摩……176,286,330,331
嬉野彦左衛門……15
嬉野重太郎……292,328,329
嬉野市左衛門……141,144,196,200,257,258,276,282,290,299,324,333,334,338
市左衛門……104,134,135,138,140,142,146,147,255,256,257
市浦柔助……38
樋渡雄七……185
横田三省……150
横田平右衛門……48,56,57
横田伊兵衛……262
横田揚湾……290
横田養庵……136,150,153,159
横尾久兵衛……304
横尾内蔵允……176,286
横尾内蔵助……55
横尾太郎左衛門…146,212,257,258,288
横尾文吾……185,190,191
横尾代蔵……217,277
横尾只七……36,289
横尾平作……174
横尾旧右衛門……45,99
横尾庄左衛門……161,166,223,229,268,276,282,290,331,340
横尾兵右衛門……145,255,326,332
横尾唯七……36

朝茅健次郎……158
朝倉徳太郎……114
森山源吾……246,248
森夘兵衛……142,144,251
森永仁左衛門……109
森永夘助……113
森舎人……52,53
森幸之進……223,229
森長太夫……256
森新助……64,65
欽八郎…272,274,283,284,291,293,295,296,301,307,310,311,333,335,339
渡瀬増太郎……17
塚本次兵衛……69
塚原久兵衛……209
塚原銀八郎……175,176
葉次郎右衛門……261,289
葉利左衛門……288
葉寿一郎……141,144
覚右衛門……87,235
道斎……69
遊仙……150,154
閑叟……251,258,270,293
雄助……239
飯田仁四郎……14,17,21,28,53,54,55
飯田貞一郎……281,288
飯盛忠右衛門……143,144
飯盛斧吉……277,278
園田丹下……173,174
園田主計……24,50
園田主殿……297,339
園田半十郎…59,63,69,84,99,100,107,113,173,212,215,216,217,260
園田玄蕃……203
園田善左衛門……42,84,85
圓実坊……189
愛吉郎…185,190,193,196,197,198,199,200,202,203,204,205,206,207,208,209,211,212,213,214,215,216,217,218,221,224,225,226,227,228,229,230,231
新七郎……204,225
新八郎……73,76
新治左衛門……119
新郷良右衛門……245,246
新　坊……189
楢村蒼寿……274
楢林……76
楢林栄斎……73
楠田貞兵衛……300,318,324
溝口一郎太……49
溝口八郎……260,287,292
溝口権之允……102
源兵衛……198
福山平蔵……50
福地良庵……43,46,136,150,153,233
福地松庵……244,306
福地林儒……312
福地亭元……150,153
福地道林……68,74,78,86
福岡右兵衛……198
福岡金吾……130
福島善蔵……158
福嶋方策……306
福嶋豊作……244,250
義天院……70,73
義兵衛……76
豊之助……170,174
豊前……283,285
豊蔵……49
遠田儀右衛門……235
遠岳神九郎……189,262,286,291
遠岳源内……21,23,45,102
鉄之助……58
鉄翁……247
鈴木哲之助……240
鈴木壽七……263
雅……242
塩田道円……271,275
塩沢彦次郎……245,247
増田忠八郎……229,231,247,252
増吉……198

逸作……319,320,342
進之允……117,177
野口十太夫……20,48,67,71,95
野口三左衛門……289
野口文礼……183
野口安之助…223,224,225,229,268,331,340
野口虎之進……141,144,212,256,268
野口健之進……287,292
野口袈裟一郎……139,140,255
野口進之允…176,177,203,281,299,300,312,316,317,328,339
野口新之允……128,151,206
野口新治左衛門……117,118,119
野口廣一……207,241
野口廣一郎……209
野田千之助……304
野田卯吉……256
野田平吉……256
野田平兵衛……342
野田光之助……170,229,269
野田安左衛門……17
野田新兵衛……21
野辺田副四郎……174
野副半九郎……287
野副伝……119
野副甚三郎……171,212,281,288
魚屋安右衛門……199
鹿伝右衛門……77
黒木又三郎……260,263,287
黒木又四郎……77,101,118
黒木六左衛門……82
黒木幽管……122
黒木恒一郎……322,328,329
黒木新左衛門……126,239,307,309,310
黒田甲斐守……96,100,103
黒田源左衛門……53
亀吉……305
備中守…272,275,283,284,291,293,294,295,334
勝十……285
勝右衛門……215
喜三郎……305,312
善右衛門……67,95,118,240
善左衛門……23,34,42,51,85,115,299,303,324
善福寺……58,263
堯仁坊……292
堤半次……277,278
堤平次……75
堤伊平次……75
堤形部左衛門……276
堤柳翠……71
堤原次郎……174
堤健之助……289
堤善作……263
堤養哲……134,136,150,153,171,186
堤宗元……243,249
富太郎……302,312,323
富岡九郎左衛門……123,218
富岡十蔵……310
富岡三太夫…14,141,144,164,189,203,208,225,227,228,287,308,309,327,328,331,332,334
富岡小兵衛……259,286
富岡夘三郎……322
富岡弥一右衛門……72,126,286
富岡弥一左衛門……14,15,53,54,55,77,81,82,89,90,91,101,102,113,116,118,119,122,125,126,127,129,148,184,186,188,202,203,205,211,228,229,260
富岡惣八……123
富岡寛之進……260
富岡壽治……105,106
御厨末吉……256
御厨兵左衛門……145
御厨長四郎……338
御厨儀七妹その……82
惣五郎……305
普門院……79,80,81,86,189
朝長田平……53

馬場清左衛門……286,314
馬場市弥太…138,165,202,220,221,234,250
馬渡三太郎……146
馬渡万九郎……263
馬渡仁庵……133,136,150,153,173,194,209,223,243,244,249,254,281,313,314
馬渡友四郎……197
馬渡伝治……233,234,250,255,272,274
馬渡利兵衛……64
馬渡寛四郎……55,84,88,331,340
馬渡市弥太……233
高木又兵衛……112,113
高木元堂……174
高木玄洞……303
高木亦四郎……212,221
高木作右衛門……91,100,104
高木忠右衛門……33
高木浪衛……262,287
高木健三郎……104
高木勘解由……218,222,223,286,291,314
高木権兵衛……62,63
高岸亘…145,146,165,201,239,241,255,276,282,288,322,332
高松力蔵……157,158
高畠新六郎……324,325
高間元策……137,244,250
高間玄策……154
高橋八右衛門……43
高橋伊予吉……141,144,196
高橋参郎……165
高橋忠兵衛……290
副島千右衛門……92,93
副島伸助……256
副島雲僻……306
勘助……159,160
執行五郎右衛門……49
執行玄蕃……38,47
崎川範之允……171,238,288
崎川範之丞……255
常円坊……122,263
常吉所……235
常富五百人……171
常富百人……203,207,241,276,282,288
張玄一……174
設楽完示……143,160
渋川文吉郎……142,144
渋川四郎次郎……286
渋川助左衛門……130,157
渋谷良次……302,305
淳一郎……174,203
深川定左衛門……80,81
深川弥平太……12,15
深川惣右衛門……114
深川瀬兵衛……202,208,322,323,329,337
深江友三郎……316
深江夘吉郎……137,299,303,324
深江平兵衛……182,234,243,244,248
深江助右衛門……207,230,277
深江杢之助……72,74
深江隼太……262,282,331
深江市之允……340
深江藤右衛門……139,140,196,200,254,289
深町治部右衛門……144
深町治部左衛門……142
清太郎……304
清記……91,118
淵田頼助……256
祭城二兵衛……256
斎藤玄仙……18
斎藤佐渡助……43
笹村源右衛門……334
船津元仲……137,153,244,250
船津政太郎……337,340
船津権太夫……213,258,276,282,289,319
菊池玄達……153,171,195
菊池宗垣……59,103,136,150,153,180,215,249,277,302,308
菊池宗庵……250,254,267,305,324
袈裟右衛門……36,186

倉之助……246,247,248
倉本夘十……17,21,68,69,71,72,74,75,102
倉本庄之進……117
倉永仁太夫……247,251
倉永仁右衛門……174
倉町左伝次……174
倉橋育之助……155
哲……108
夏秋三兵衛……298
夏秋作一郎……157
宮田十右衛門……46
宮田文六……43,46
宮田半八郎……137,166
宮田伝四郎……282,290,316,340
宮田角左衛門……289
宮田新五左衛門……133
宮田魯斉……270,302
宮地五左衛門……286,313
宮地健九郎……270,287,331,338
宮地鉄之丞……88,263
宮原常七……304
宮崎元立……153,243,249,272,274,277,284,310
宮崎元益……59,60,86,135,136,150,153,162,180,188,195,213,215,230,231,233,243,245,249,270,271,277,282,284,290,296,308,324
宮崎寿平……306
宮崎救民……36,39,59,60
宮崎壽斎……82
宮崎蘇庵……305,329,339
島山武太夫……49
峯幸一郎……171
峯清左衛門……212
悌操院……13
桑原隆朝……82
桂翁……59
根立助七郎……245,247
梅吉……72,73
梅崎与右衛門……289
梅崎六右衛門……145,172
梅崎源太郎……145,146,288
留守五郎右衛門……165,190,192,260
留守勘兵衛……84,101
留守嘉兵衛……34,48,51
留守権之助……100,118
益田安太郎……264
真乗坊……263
真常坊……189
納富万兵衛……287,292
納富五郎太夫……101,102,288
納富六郎左衛門……245,246,247,304
納富右膳……332,335
納富弥一郎……212
納富弥七郎……289
納富俊碩……271,275
納富度(タク)右衛門……99
納富儀左衛門……65,77,110
納富慶三……329
能勢大隅守……307
脇坂中務太夫……99
造酒……25,33,34,88,91,117,177
酒井喜右衛門……318
酒見太平太……94,98
針水伝八……166
釘本一郎左衛門……139
釘本伝八……182,184
釘本和兵衛……117
釘本市郎左衛門……140
陣内十太郎……287,292
陣内伊兵衛……256
陣内梅次郎……47
馬場又左衛門……337
馬場三郎……145
馬場大丞……162,167,187,192,211,245,248,261,262,307,310,314,315
馬場五郎兵衛……50
馬場元右衛門……280
馬場文八郎……20,105,106,152,260
馬場卯吉郎……251
馬場崎夘吉郎……165,196

137,150,153,171,180,194,213,223,226,234,243,244,245,249,260,271,281,302,308,318,335
相良柳庵……174
相良柳逸……153,171,243,249,305,317,318,323,325,326,328,329,335,338,341
相良寛斎……267,274,303
相良儀兵衛……289
相原万兵衛……52,84,233,277,286,307,309,310,314
相原四兵衛……22,23,50,58,59
相原治右衛門……131,261,266,267,268
相原雄庵……250
相浦邦太郎……260
神代与兵衛……84,102
神代太郎左衛門……263,286
神代右馬允……261,288
神代次兵衛……25,103
神代次郎兵衛……118
神代志一……201
神代官右衛門……147,260
神代宗三郎……288
神代彦龍……287,311
神代甚一……165
神代軍平……163,167,196,197,234
神代勝左衛門……289
神代善太夫……31
神代新九郎……141,144,165,182
神代源兵衛……74,75,85
神代市太郎……261
祐助……89
秋山養逸……196,200,202,204,206
秋沢貞次郎……303
秋野利右衛門……82,83
秋野勇六……163
秋野新八……261
紀伊守……20,24,28,29,35,51,58,59,67,83,92,93,96,98,106,112
荒井光太郎……143
荒木利兵衛……263
要七……49
要助……84
重松与次右衛門……264,286
重松四右衛門……184,288
重松清次……190
重松権兵衛……114
重蔵……66
音吉……305
香月七郎右衛門……84
香月小八郎……105,106
香月鉄次郎……289
香田文哉……194,219,244,250
香田半之允……158,195
香田伝左衛門……139,140,196,200,289,315,331,340
香田忠左衛門……262
香田俊道……295,309,310,311
香田新蔵……174
原口久兵衛……46
原口大三郎……45
原口宗与……33
原口宗益…13,15,16,17,19,20,33,55,60
原口宗與……18,53,54
原口弥左衛門……45
原口猪之助…145,146,171,213,261,303,324,331,340
原口養充……244
原口養和……302,308,321
原口養林……302
原口養虎…81,82,124,127,136,137,145,147,150,153,180,195,213,215,243,249,271
原口養碩……55,69,77,88,91,109,110,120,125,135,136,200,202
原口養虎娘……231
原田大右衛門……240,276
原田小四郎……295
原田元隆……181,185
原田猪之助……268
原祐平……106
原権之助……268

斉藤玄周……105,135,149,153,171,218,221,243,249
斉藤用之助……288
斉藤源蔵……145
前山清一郎……291
前田三省……27
前田元節……27,66
前田文啓……136,150,153,186,212,223,226,243,249,290
前田伝四郎……337
前田孫四郎……259,288
勇助……235
南里千之助……210
南里与兵衛……15,16
南里兵左衛門……84
南里俊八……261,289
南里政太郎……258
南里蔀……286
南里藤一郎……268,331,340
貞次郎……85
垣内良一郎……194
城戸助作……122,137,166,255,288
城本坊……170,189,195
城島又八郎……287
城島与四右衛門…159,160,161,162,163,164,165,167,171,172,174,175,178,187,188,190,191,192,193,201,239,240
城島分圭……249
城島分連……243
城島文敬……136
城島茂助……72,73,75,76,78,79,82,86,88,89,92,93,95,97,102,103,104,105,109,112,113,117,119,143,148,149,150,151,152,154,155,156,170
城満坊……56,58
彦次郎……248
後藤主馬……304
持永九郎太夫……220,259,260,261,262,264,286,326
持永伝一……29
持永伝弥……161,164,166
持永秀一郎…196,200,220,221,254,255,288
持永治兵衛…20,21,24,27,28,34,40,42,43,45,47,48,50,51,52,56,57,60,62,68,69,70,71,72,74,130,148,149,150,151,152,154,155,156,159,160,161,162,163,167,192,259,260,266,278,307,309,310,311
持永藤九郎……21,22
政助……210,211
春口寅次……304
春豊之助……304
星野九右衛門……260,263,282,286,291,307,310,314,315,316,317,337,338
星野二右衛門……34,63,98,99,100,107,125
星野善右衛門……203,339
星野善兵衛……128
星野猶人……127,128,129,130,176
栄三……189
柴田十左衛門……289,317
柴田作右衛門……261,289
柴田真一郎……158
柴田黙……245
柴田栞岡……247
柄崎……163
柳沢……323
柳逸……234,318,335
海老原伝次郎……145,157
洪助右衛門……51
浅井頼母……18,20,28
浅吉……305
津田三郎左衛門……260
津島女……16
甚九郎……336,337,342
甚五兵衛……308,309,318,319,320,330,336,337
相良十郎助……318,321
相良宗左衛門……291,338
相良柳沢……56,124,126,127,135,136,

松隈亨安……73,74
松隈甫安……74
松隈甫庵……73,78,93
松隈享安……73,78,79,85,93
松嶋玄栄……182
東又七郎……268,316,332
東与七……223,229
東元卜……71
東島五郎助……124,126,127
東島主馬之允……22,23
東島兵右衛門……76
東島栄太郎……262
東島逸馬……13,18,19,21,24,28,36,37,73,92,95,96,97
東島市之助……42
東島市太郎……166,233,258,268
東嶋十右衛門……290
東嶋主馬之允……23,24
東嶋栄太郎……281,287
東嶋逸馬……61,102,114,312
東嶋菅一郎……210
東嶋市太郎……234,250,299,303,324
東嶋市郎右衛門……45,46
東與七……289
板倉八右衛門……339
板倉主計……145
板倉伊賀守……326
林大学頭……310
林式部少輔……310
林長庵……254,306
林雄民……51,136,150,153,222,224,281
林　長庵……250
林　雄民……243,249
武井文平……49
武富鎌良……244,250
武藤小次郎……196
武藤太助……256
武藤弥一右衛門……104
武藤虎吉郎……255
武藤勘三郎……92,93
河野栄次郎……143
河鰭……38,53
治右衛門……145
治兵衛……67,134,135,138,140,142,146,147,255,256,257,260,266,275,310
牧多蔵……191
牧春堂……251,252
牧野長門守……56
牧瀬太兵衛……46,47
牧瀬彦之進……65
牧瀬勘蔵……160
牧瀬尉右衛門……64,143,144
牧瀬権内……261
岩田平作……130
岩松新三郎……339
岩松新太郎……340
岩松源之進……227,229,289
岩松鉄弥……210
岩島源八郎……130
岩瀬弥十郎……32
空閑平太夫……263
並木六郎右衛門……98,99
肥州…24,25,28,29,33,34,50,51,58,59,67,68,74,78,86,89,94,96,108,131,133,138,154,252,253,269,290,293,330,332,333,334,335
肥前守……25,26,99,279,303,307,311
芥次郎……245,246
茂古岐治郎……49
茂吉……305
茂助…87,95,114,118,134,135,138,140,142,146,147
長右衛門……54,57
長次郎……125
長局於瀧……100
長谷川兵蔵……304
長崎要人……260,286,339
長崎勤四郎……238
長森八郎左衛門……62,63,114
長瀬広祐……53
青木忠太夫……166,287,292
斉藤玄仙……136

弥一左衛門……54,202,322
弥右衛門……144
忠三……235
忠太夫……172,187
於保兵之助……289
於暉……108
於操……135,137,248
於篤……15,16
於瀧女……84
於艶……22
服部有喜……287,312
服部長門守……278
服部奥之丞…210,243,257,259,261,263,312
服部嘉右衛門……99,100,103,104
枝吉三郎左衛門……210,231,232
松山庄助……22,96,97
松井久次郎……105,106
松井小三治……223,228,251,255,287
松太郎……305
松平十郎右衛門……203,339
松平丹後守……38
松平主殿頭……203,326,339
松平出羽守……37
松平伊賀守……99
松平周防守……41,310,311
松平肥前守……99,100,303,310,311
松平阿波守……41
松平美濃守……58,96
松平勘解由……203,339
松平備前守……47,58
松平豊前守……310
松本三五左衛門……291
松本寿円……136
松本良順……143
松本弥左衛門……29,59,63
松本春円……149,150,153,158,243,249
松本春道……200,202,250,254,306
松本春碩……23
松本堂之助……197
松本源太郎……52,103,119
松永九平次……256
松永五左衛門……256
松永夘右衛門……202,216
松永治兵衛……186
松田千一郎……260
松田千兵衛……268,288
松田文八郎…171,212,268,299,303,324
松田伝蔵……304
松田次兵衛……84
松田助太郎……262,287,319,322
松田定…137,138,145,146,258,264,286
松田健三郎……107,109,167,319
松田源右衛門……141,144
松田権助……324
松尾平右衛門……256
松尾忠吾……183
松尾栄仙……219
松岡又六郎……336
松岡雲庵……199
松枝万太郎……137
松枝大助……39,40,289
松浦五右衛門……197
松浦肥前守……326
松崎七兵衛…148,149,150,151,152,154,155,156,158,159,160,161,162,164,165,170,171,172,174,175,178,185,188,190,191,192,193,194,195,197,198,204,205,218,219,220,222,234,243,244,248,251,252,253,254,259,260,269,291,295,298,306,332,334,335
松崎又左衛門……154
松崎小右衛門……112
松崎五右衛門……82,112,113,117,119,274,277
松崎平太郎……137,199,251
松崎牧太……129,130
松崎源太郎……165,260
松隈元甫……303
松隈玄洞……136,149,153,182,194,218,243,249,271,281,290

志波太郎右衛門……139,140,196,200
志波半蔵……64
志波辰之助……288,299,303,313,314,338
志波治吉郎……105,106
志波岩人……137,171,196,256,287
志波啓之助……172,262
志摩……99,228
杉野音人……108
村山休四郎……261
村山勘右衛門……17
村山龍蔵……16
村川八三……333,334,338
村川八右衛門……126,196,251
村川伝右衛門……272,273
村川幸三郎……316
村川彦之允……196,255,276,282
村川寛吉……23,24
村川藤右衛門……142,144
村井同雲……194
村田有山……200,202
村田有之……136,150,153,171,243,250,254,267,277,278
村田有心……135,136
村田有正……136
村田淳伯……14,52,53,54
村田道碩……149,153,180,181,195,213,215,243,245,249,271,281,296,302,308
村田道樹……54,56,57,60,61,76,86,91,94,103,136,162,200,202
村田順伯……16
村田蔵六……234
村岡半之允……15,16
村岡金太夫……256
村岡慶蔵……111,112
村岡権左衛門……219
村崎卜也……55
村崎六郎……137,261,277
杢佐……283
沢主水正……331,338
沢右衛門権輔……336
沢鉄太郎……160
秀島八右衛門……38
秀島八助……137,227
秀島大七……145,166,261,262
秀島吉右衛門……39
秀島隼人……255,276
秀島転……208
秀嶋八右衛門……64,91
秀嶋八助……138,287
秀嶋千右衛門……126
秀嶋大七……146,201,287,292
秀嶋隼人……222,282,289
秀嶋藤五郎……332
秀嶋藤太郎……316
良七……189
芦原清兵衛……256
赤松大三郎……145,163,164
足立左内……157
若狭……265,283,284,293,294
和田主一右衛門……193
和田主一左衛門……178
和助……126,210
国円坊……170
実相坊……292
宗節……235
宗賢……243,250
宝善坊……281
岡千兵衛……84
岡平蔵……262
岡本小平太……120
岡百助……65,77
岡初太郎……316,328
岡国助……256
岡宗右衛門……97
岡孫太……16,75,261
岸川定五郎……256
岸本惣次郎……145,157
岸清左衛門……288
岸　淡齢……250
幸十太夫……50
幸良斎……41

竹内五六……268
竹内玄道……123
竹内吾六……261
竹内良輔……219
竹内弥十郎……32
竹野又四郎……273
竹野次郎助……145,147,166,201,213
羽田勝蔵……219
羽室平左衛門……99
羽室雷助……257,295,306,330
羽根武左衛門……49
羽館久吉郎……268,317,332,333
羽館兵五郎……289
行乗坊……39,58,86,122,189
西川形左衛門……243,244,248,251,252,253,266,278,312,314,315,317,319,322,325,326,329,330
西川弥七右衛門……132
西川治三郎……263
西川隼之助……166,203,288
西川寛左衛門……53,63
西川徳三郎……179,258,268
西川熊次郎……261
西田郡助……245,287,292
西牟田菊太郎……49
西村四郎五郎……176,260,270
西村清兵衛……256
西村源蔵……126
西村権右衛門……12,43,45,46,101
西岡久之助……261,287,292,324
西岡虎次郎……120
西岡美濃丞……103
西岡権太夫……33
西原兵右衛門……46
西原強一……45
西原勝左衛門……320
西造酒……24,38,71,112,239,253,259
西造酒丞……125,126,128,138,147,161,163,172,175,177,197,203,207,212,213,239,240,254,257,263,272,273,276,277,282,283,285,286,291,295,314,317,318,322,324,326,327,328,339
西勝十……23
西隈閑斉……186
西隈順古……126
西繁吉……287
西　勝十……22
佐一右衛門……198
佐助……76
佐野一郎左衛門……137,287,292
佐野十郎兵衛……203
佐野久仲……271
佐野文仲……68,74,78,86,105,124,127,134,136,150,153,180,184,185,215,243,249,281,290,296,308,312,315,341
佐野安靖……312,313
佐野栄寿左衛門……304
佐野市郎左衛門……171,214,268
佐野賢亮……12,13,14,15,16,17,22
佐藤文平……310
佐藤末五郎……328,338
佐藤末吉郎……300
佐藤麟太郎……304
兵右衛門……120,121,123,127
兵動忠右衛門……132
兵動波門……287,292,319
兵動新太郎……171,212
兵藤清左衛門……256
利三郎……304
坂口忠兵衛……325,326
坂井千左衛門……84
坂井善太夫……256
坂田半九郎……25
坂部三十郎……38
尾本久作……155
弟子丸喜助……304
形右衛門……145
形左衛門……240,275,290,308,309,318,319,320,330,342
志田多内……137,248

成富八之助……287
成富十助……288
成富又之允……39,40
成富文七郎……78
成富多内……186
成富弥十……289
成富源吉……141,144,166,268,314,315,324,331,340
早田夘右衛門……122
早坂又一……321
有馬帯刀……248,249
次兵衛……187,224,229,279,305
江リ口久兵衛……256
江リ口夘太郎……273
江上文斎……273,275
江口十七蔵……304
江口文礼……60
江口平次……217,218,273,278
江口兵右衛門……100,101
江口城太夫……220
江口甚右衛門……196,200,251,262,288
江口勘兵衛……184
江口勝一郎……166,201,255
江口勝太郎……288
江川太郎左衛門……130
江里口夘太郎……274
江里口弥右衛門……84,134,149
江里口源兵衛……57
江里口藤七兵衛……254
江原甚之丞……196,256
江島伝左衛門……263
江島清八郎……41,42
江副兵部左衛門……291,331,340
江越礼太……290,298,317,322,327,341
江越吉太郎……210
江越吉兵衛……35,55
江越官助……66
江越寛助……301,304
江越愛吉郎…188,190,191,192,193,194,195,197,198,204,205,218,219,220,222
江頭定左衛門……65
江頭治右衛門……109
江頭源五左衛門……109,172,334
江頭増太郎……137,146,196,289
池上八太郎……251
池上善司……97
池上市九郎……52,55
池田大助……91
池田仁兵衛……263
池田光太郎……65
池田利右衛門……256
池田彦太郎……263
池田彦兵衛……218
池田森三郎……268
牟田二右衛門……164
牟田口半次……281
牟田口兵之允……143
牟田口英太夫……63,64,65,70,72,73
牟田友之助……268
牟田伊吉郎……268
牟田伊兵衛……337,338,340
牟田仲安……136
牟田有賢……171
牟田助四郎……110
牟田官之助……287,318
牟田官左衛門……51,52
牟田忠安……105,106,136,150,153,171,221,243,249
牟田武一郎……316
牟田甚安……218
牟田省賢……146,150,153,231,241,243,249,267,284
牟田素友……137
牟田清一……201
牟田清一郎……165,223,229,282
牟田進作……146,196,222,223,238,260,287,292
牟田善右衛門……263
牟田源太左衛門……288,324
牟田察淳……57
竹川龍之助……158

伊東八郎右衛門…255,256,266,268,287,292,313,322,325,326,327,331,333
伊東又右衛門……144,219,268
伊東小市……335,341
伊東外記……277,279
伊東玄朴……71,219
伊東伝蔵……82
伊東宅助……137,233,234,250,268,289
伊東次兵衛……191,240
伊東武兵衛……72
伊東茂兵衛……84,96,97,106,122
伊東孫兵衛……51
伊達主馬……203
伊達遠江守……203
仲貞……150
光野外左衛門……63
光野甚吾……137,145
吉井普三郎……58
吉本五六……215
吉本今朝助……322
吉本吾六……196
吉本弥三郎……268
吉本弾右衛門……104
吉田外三太……32
吉田次兵衛……289
吉田祐吾……316
吉田勘右衛門……40,42,43,45,47,49,50,52,85,86,91,92,95,97,103,106,108,109,110
吉田寛左衛門……89
吉田新吾……224
吉次文碩……261
吉尾献策……16
吉村鉄助……251
吉岡武右衛門……106
吉原文吾……105,120
吉原宗寿……150,153,243,249
吉原宗策……46,47
吉浦新右衛門……45
吉祥坊……189
吉崎要左衛門……139,140
吉富十郎……287,292
吉富助太夫……255,333,340
吉富新太郎……272,273,274
吉富市郎右衛門……117
吉嶋要左衛門……212,251
向井次郎作……302,308
向井勇三郎……145,160
合原操蔵……158
名越仙左衛門……100
多久嶋徳之丞……187
多久俊吉郎……252
多内……242
多美作……34
安川作之允……262
安左衛門……164,257
安本孫太郎……316
安本源之助…139,140,196,200,282,290,333,334
安本源太左衛門……71
安本蔵人……223,229,289
安住作左衛門……289
安住岩之助…139,140,165,202,223,229,319,337,340
安住清右衛門……290
安芸……283,285
安房……283,285
安靖……312,315,341
安藤伊勢……67
宇都宮牧太……50
宇都宮朔之助……176
寺川助一……137,166,234,250
寺嶋栄作……93
庄久右衛門…171,204,255,272,274,331,340
庄次郎太夫……96,97,120,122
庄兵衛……85,109
庄馬五郎……331,338
庄善五郎……66
庄嶋之助……120
庄藤兵衛……117,288
成松万兵衛……106

田沢次郎太夫……13
田島七太夫……30,31
田島七郎左衛門……87
田島久左衛門……137
田島主従……30
田崎太郎左衛門……233,234,250
田崎官左衛門……102,196,282,289
田崎順輔……165
田崎寛左衛門……276
田嶋七郎左衛門……78,88,89,92
田嶋久右衛門……154
田嶋順輔……145
田嶋養純……136,150,154,171,243,250
石丸十作……154,175,179
石丸吉十……66
石丸杢……58,60,87,102
石丸東朝……49
石丸竜吉……63,64,65
石川八太夫……197,281,288
石川形右衛門……251
石川寛左衛門……245,246,247,279,303
石井十郎……287,290,292
石井又左衛門……26
石井小介……332
石井小助……290,291,309
石井六郎右衛門……100
石井半九……195,287,292
石井半治……150,153
石井夘助……66
石井兵之進…142,144,196,233,234,250,290
石井官兵衛……174
石井武一……287,292,301,304
石井長庵……182
石井祐順……13
石井健蔵……333,334
石井喜右衛門……206
石井森三郎……137
石井雄左衛門……258,275
石井雲斎……199
石井献蔵……338
石井嘉右衛門……304
石井範治……136
石井蘇庵……250
石田与三右衛門……165,202
石田右八……223,229,268,314,315,319,331,340
石田伝次……69
石田貞之進……234,308,332
石田要策……244,250
石田常済……243
石田淳庵……306
石田善太夫……162,164
石田道済……136,150,153,250
石田順三郎……200,202
石動仁太郎……171,223,228,287
石動玄友……135,136,150,154,163,166,204,243,250,268
石動次郎兵衛……154,251
石動甚太郎……292
石動菅三郎……43
石橋惣右衛門……338
礼雲……267
立石庄兵衛……204
辻丸元吉……338
辻元策……134,136
辻元道……150,153
辻文之進……244,261,333
辻左馬之允……74
辻左馬之丞……72
辻左馬丞……72
辻利助……111
辻良栄……19,20,113
辻忠兵衛……256
辻善助……52,53
辻　元策……200,202
辻　元道……243,249
百武次郎兵衛……114
百武作右衛門……132,157
伊三郎……76
伊兵衛……66,189
伊豆……252

平野官吉……32
広木作太夫……165
本吉治部右衛門……224
本多美濃守……283
本多弾正少弼……26
本庄四郎左衛門……73,76,123,129,130,139,141,146,148,149,150,151,152,154,155,156,159,160,161,162,164,165,170,172,174,175,179,185,188,190,191,192,193,194,195,197,198,204,205,218,219,220,222,234,253,254
本村治兵衛……84
本村敬七……261
本村鉄助……335
本居治部右衛門……227
本嶋藤太夫……191
末永甚左衛門……32
末永清助……256
民部……198
永井角蔵……37
永田久吉郎……166,255,289
永田右源次……262
永石六郎……312,322
永石作右衛門……58,66,76
永見安兵衛……304
永松相五郎……322,332,337,341
永松要一郎……141,144
永松惣五郎……196,282,289
永沼千蔵……256
永渕形左衛門……261,290
永渕貞七……339
永渕嘉兵衛……191
永渕徳一……171
永渕藤次郎……263
永橋太兵衛……223,229,288
永橋助一……105,106,210,286
永橋重次郎…165,182,183,201,256,262,287,292,319
永橋敏一郎……262,337,341
永橋泰助……176
玄洞……19
甘木伝八……137,196,200,202
甘木甚右衛門……75
甘木新右衛門……259,273,278,280
生方半兵衛……277,278
生部作一……261
生野孫右衛門……172,187
甲斐守…148,177,178,232,236,265,267,272,274,283,284,291,293,296,299
甲斐次郎……247
田口伝之進……263,323
田中一太郎……261
田中一郎……341
田中九十九……102,261
田中八右衛門……29
田中久七……166,167
田中五郎左衛門……230,242
田中太三郎……289
田中太兵衛……233,234,250
田中礼太郎……239
田中安六……263,264,281,322,328
田中助太郎……196
田中杢佑……51
田中貞右衛門……89
田中梅吉……92,93
田中喜十郎……121
田中藤七……227
田中藤吾……321
田代……163
田代元庵……324
田代次郎右衛門……16
田代次郎助……154,277
田代希一……155,163,166,223,229,289,331,340
田代松齢……136,150,154,243,250,277,318
田代源二……273,289,315
田代源之助……161,166,201,316
田尻宮内……286,337
田尻監物…85,86,108,117,136,137,196
田村肥後守……310

犬塚愛之助……229
犬塚新七郎……155,164,214,225,228
犬塚與三右衛門……30
犬塚市之助親市右衛門……87
犬塚市右衛門……20,28
主一郎……67
主計……34,43,50
加賀守…122,134,148,177,178,196,230,231,232,236,241,247,267,310
加福新左衛門……49
加藤佐久助……32,49
加藤道助……268,288,321
北川四郎兵衛……234
北川弥一郎……212
北川弥吉郎……171
北川湊……251,255,288,333,334,340
北村七郎……188
北村三左衛門……122
北村次郎右衛門……75
北村菅三……198
北原半治……150
北原有右衛門……279
北原範治……136,154,243,250
北島天民……136,150,153,221
北島弥兵衛……262
北島勝右衛門……130
北御門八兵衛……334
北嶋三折……17
北嶋天民……218,243,249
北嶋文郁……57
半右衛門……120,121,123,127
夘十……36,117
夘之助……305
右近形五郎……287,292
右近形右衛門……131,212,217
右近形次郎……101
右近輪三……331,338
古川太左衛門……106
古川太平次……28
古川平八……231
古川助一……233
古川杢兵衛……84
古川新助……174
古川源一郎……255,288
古部久甫親久英……204
古部久英……47
古部休甫……122,262
古賀七右衛門……22,121
古賀小左衛門……259
古賀文左衛門……92,93,97
古賀平太郎……256
古賀貞右衛門……75
古賀為吉……304
古賀藤七……304
古館平兵衛……289
古館喜一……272,273,274
四良吉……305
四郎右衛門…34,48,69,72,74,102,111,112,117,118,181,229,230,231
四郎左衛門…120,121,123,134,135,138,140,142,146,147,176,179,180,183,184,190,193,196,197,198,199,200,202,203,204,205,206,207,208,209,211,212,213,214,215,216,217,218,221,224,225,226,227,228,239,240,241,242,255,256,257,259,266
左兵衛佐……333,335
左近……283
布上玄春……136,150,153,243,249
布上玄格……57,58,70,116,117
布上如斎……43
布上恕斎……18,19,27,85
平井周禎……18
平井海蔵……27
平方利兵衛……42
平田助太夫……230
平石忠太夫……105
平石常十郎…129,130,139,141,142,146,178,304
平兵衛……239,240,241,242
平野久右衛門……269,301,304
平野平作……256

今泉夘一郎……288
今泉左馬助……112
今泉兵之進……60,103
今泉兵五郎……166,201,258,286
今泉助三郎……257,258,287,292
今泉馬吾郎……261
今泉善内……289
今泉市之允……39
元仙……306
元立……277
元柳……150,154,243,250
元益……59,60,82,230
元橋清之丞……304
元〆方……123,124,280
内山栄三……304,329
六左衛門……126,283
六郎左衛門……245,246,247,248
友仙……136
太田又之允……171,212,289
太田又六郎……245
太田千之助……316
太田小源吾……34
太田半右衛門……113,126
太田左治馬……99,115
太田新吾……229
太田権兵衛……33,34
太田蔵人……211,219
太田儒江……316
少将……73,124,133,170,182
戸川播磨守……104
戸田昌之助……287,291
戸田孫兵衛……112
文六……46,189
文蔵……67,70,87,105,114
日出島二左衛門
……40,55,59,63,98,99,100,102,107
日出島源兵衛·128,178,211,245,248,260
木下与左衛門……122,132,286
木下文吉郎……251,319
木下文吾郎……268
木下伊兵衛……338
木下牧太……261,286
木下岩之允……47
木下岩之丞……122
木下退俊……47
木下盛平……303
木下與左衛門……176,260
木村十右衛門……196,197,289
木村宗次左衛門……32
木村重太郎……332
木村源右衛門……288
木村市太郎……306,322
木暮東之輔……163
毛利大膳……283,295
水田仁九郎……137,145,146,161,166
水田右兵衛……117
水田弥次右衛門……233,234,250,255
水尾小十郎……82,223,224,225,229
水尾寛弥……289
水町玄道……125,132,137
水町作之進……139,140
水町求馬……164,166,233,234,268,290,
331,340
水町舎人……122,125,339
水町忠蔵……123
水町惣五郎……165,201
水町蔵人……120,121,122,281,288
水野出羽守……38
水野舎人……203
片山長右衛門……17
片田江金左衛門……108
犬山万之允……83,187
犬山六右衛門……130
犬塚七郎右衛門……29,30,31,45,47
犬塚三郎兵衛……112
犬塚与三右衛門…12,13,35,36,48,50,51
犬塚与三左衛門……89,147,163,204,293
犬塚文十郎……174
犬塚志津馬……260,287,316
犬塚晋助……331,337
犬塚喜兵衛…266,267,268,288,309,318,
324

214,215,216,217,218,221,224,225,226,227,228,229,230,231,239,241
丈蔵……304
中山平四郎……174,337,338
中山政一郎……300
中山啓之助……256,259
中山慶之助……328
中山慶助……300
中川貫之允……245,256,280
中川貫之丞……174
中川市助……310
中牟田倉之助……247
中西新左衛門……129
中尾次郎右衛門……128,129,130,259
中尾神左衛門……165,201,223,229
中尾孫兵衛……14,55
中村永琢……106
中村佐五郎……38
中村求馬……97
中村幸七……256
中村彦之允……106,126
中林四郎兵衛……82
中林彦四郎……48,176,286,291
中貞……136
中原又左衛門……50
中原只右衛門……287,292
中原忠右衛門……23
中原忠蔵……21,29,82,182,189
中原善内……289
中将……97,230,238
中島与助……256
中島元隆……136
中島文蔵……55,56,57,60,70,71,72,73,74,75,76
中島半兵衛……39
中島四兵衛……69
中島兵之允……166,255
中島甚九郎……261
中島善兵衛……49
中島敬次郎……171
中島寛兵衛……33,37
中島源一郎……166,223,229,268,303
中島需安……61,124,127,135,136,148,150,153,180,195,213,215,243,245,249,260,271,281,302,308
中野元立……183,215
中野官蔵……148
中野昌左衛門……292
中野雲圭……275
中野数馬……240,276
中嶋文蔵……61,62,68,69,71,78,82,88,89,92,94,95,97,103,105,109,112,113,117,119,289,338
中嶋兵之允……201,289
中嶋茂左衛門……96,97
中嶋甚左衛門……141,144
中嶋神左衛門……288
中嶋馬五郎……105,106
中嶋寛兵衛……128
中嶋新之助……104
中嶋源一郎……288,299,303,324,331,337
中嶋需亭……306
中嶋需要……244
中願寺兵三……256
丹宗一郎左衛門……333
丹宗孫兵衛……262
丹宗市郎左衛門……316
井上丈左衛門……174,332,335
井上文輔……288
井上定左衛門……122
井上忠左衛門……120
井上河内守……307
井上孫之允……38,48
井内伝右衛門……39,40
五右衛門……114,319,320
五郎川八太夫……176,257,264,286
五郎川大四郎……102
五郎川徳兵衛……29
五郎川磋久磨……105,106
今村弥七右衛門……22
今泉内蔵助……261
今泉文吾郎……261

小原定蔵……26
小笠原佐渡守……315,324,325
小笠原静五郎……155
小笠原鐘次郎……155
小野田何馬……163,164,166,225,227,228
小野田源八……331,340
小野宅右衛門……285
小野助左衛門……97,102
小野源右衛門……14
小野繁三郎……285
山下三省……137,150,154,243,250
山口八郎右衛門……197
山口伴作……137,197
山口弥兵衛……131
山口健作……165
山口清兵衛……45,57,58
山口源之進……304
山口橋右衛門……70
山本与三兵衛……47
山本与四之助……322,332
山本与左衛門……255,289
山本伝左衛門……301,306,320
山本種市……212,251
山本與四之助……333
山本静……27,105
山本権市……139,140,272,274
山田三沢……150,153,244,250,305
山田元寿…86,87,103,135,136,149,153,159,162,195,243,245,249,271,281,306
山田文七……338
山田庄兵衛……256
山田武一……223,229,268,289
山田治兵衛……77
山田岩右衛門……111
山田甚右衛門……264,281,284
山田救安……18,19,20,27,28
山田清八……256
山崎左忠太……149,151,231,247
山領千兵衛……163,165,328,334
川久保俊台…15,16,54,55,57,60,77,78,83,86,94,119
川久保俊栄……21,22
川久保俊庵…136,150,153,194,233,234,249,251,271,290
川久保俊策……77
川原善左衛門……174
川島平五左衛門……15,16
川島宗瑞……257
川浪又三……233,234,250,340
川浪又三郎……268,337
川浪久太夫……316,325,326,333,334,340
川浪竹三郎……268
川浪兵太夫……104
川浪辰之助……145,147,289
川浪治一郎……261
川浪善右衛門……55,119
川浪徳一郎……171,212,262,287,292
川浪龍右衛門……141,144
川副七三郎……261,315
川副又右衛門……26,33,35,50,59,63,77,98,99,107,108,111,116
川副仙齢……136,150,153,171,243,249
川副安左衛門……134,158
川副定太夫……70
川副幸助……57
川副松一郎……288
川副増吉……167,206,211,219,260,270,286,298,301,304,316,337
川崎弥右衛門……147
川崎長左衛門……308
川崎源一……210
川頭形左衛門……141,144,166,273,282,288,299,300,303,324
川頭源八郎……268,288,328,338
川頭増太郎……145
川瀬孫之允……191,228,296
才悦……83
与右衛門……285
与四右衛門…179,180,183,184,190,193,196,197,198,199,200,202,203,204,205,206,207,208,209,211,212,213,

久本金右衛門……144
久本孫之允……134,183,201
久米次左衛門……139
久保又七……287,292
久保三左衛門……106
久保良助……256
久保彦左衛門……243,244,248,251,252,253
久留与平……301,304
千手弥三郎……171,261,289
千葉頼母……279
千々岩安兵衛……55,58
千々岩幸之進……272,274
千々岩政助……256
千々岩哲六……299,303,324,331,340
千々岩梅右衛門……74,75
土山文九郎……171,212,288
土井貞次郎……137,145,146,288
土井清左衛門……114,210,243,262,281,289,312
土肥香庵……313
大中春良……305
大木七兵衛…31,37,48,103,107,108,109
大木太蔵……288
大木主一……288
大木主計……106
大木百蔵……281
大木吉太郎……137,214
大木林太夫……261,262
大木門吉郎……105,106
大木清吾……259,287,292
大石又蔵……247
大石次郎左衛門……223,228,288
大石良英……244,251,252,270
大石善作……337,340
大石源蔵……165,201
大村丹後守……57,59,326
大村家……279
大坪七十郎……197
大坪九郎右衛門…121,179,180,181,211,228,266,278
大坪兵太郎……261
大坪弾右衛門……12,66
大炊助……283,284,293,294
大草能登守……38
大原左馬頭……336
大家甚右衛門……29
大島彦右衛門……141,261,268
大島覚左衛門……40
大庭雪斎……305,306
大塚登之助……224
大塚頼母……38,48
大園五郎右衛門……23
大園元吉郎……287,292
大嶋久蔵……63,65
大嶋文蔵……289
大嶋彦右衛門……144,196,288
大嶋彦次郎……14
大嶋勝蔵……338
大嶋覚右衛門……84,87,88,89
小山平五左衛門……58,59,96
小川要吉郎……32
小川善之允……32,49
小田……163
小田村大次郎……145
小田村国三郎……104
小田村源右衛門……154
小田村市左衛門…130,146,158,286,291,323,327
小田市左衛門……164
小石元瑞……59
小寺官助……263
小池夘七……22
小池利兵衛……261
小林又右衛門……289
小林利三郎……137,196,328
小林弥五右衛門……233,234,250
小林長謙……199
小林甚九郎……240
小柳孫右衛門……55,251,263
小柳隼平……137
小柳逸水……104,110,117

<人名索引>

※原則として漢字の音読による表音式五十音順に配列した。

いと……231
マンセル……341
みつ……125
むめ……83
七田仁三郎……166,268
七田次右衛門……330
七田利三……329
七田助右衛門……289
七田長兵衛……329
七兵衛……48,176,179,180,181,183,184,190,193,196,197,198,199,200,202,203,204,205,206,207,208,209,211,212,213,214,215,216,217,218,221,224,225,226,227,228,229,230,231,238,240,241,242,255,256,257,260,266,272,275,290,308,309,318,330,332,336,337
七郎左衛門……198
九郎右衛門……121,228,275
八十島五百人……256,276,282,288
八十嶋辰之助……105
八十嶋健八郎……212,251
八沢半左衛門……178
八頭司平兵衛……57,58
八頭司定右衛門……45,57,58
八頭司清右衛門……21
八頭司猶助……256,338
力石太郎……158
十太夫……16,26,27,33,43,46,51,55,66,67,95
又七……257
又右衛門……283,337
下川助之進……77,78,87,88
下川和三郎……262
下川甚五兵衛……312,314,315,316,317,319,322,325,326,329,330,332,335
下川堂九郎……233
下川惣右衛門……109,110
下川薫九郎……234
下村八郎右衛門……45,55
下村三郎左衛門……49
下村長四郎……257,287
下村彦一郎……101
下村犀吉……171,250
下館千兵衛……196
三上次兵衛……65
三井右太夫……203
三太夫……208
三平……56,57,78,83,85,91,96,111,117
三田道筑……183
三省……27,153,244,250
三原寿三……111
三浦右吉郎……104
三浦兵左衛門……171,288
三浦助之助……261
三浦斧柄……260,286
三浦勇一郎……165,202,223,229
三浦政一……145,147,261,289
三浦政次郎……132,147
三浦時之助……233,234,250,262,288
三浦敬治……244,250
三條前大納言……333
三笠勝太郎…137,144,145,146,262,287,292,308,316
三厨兵左衛門……137,147
上村俊庵……302
上滝太三……256
上総……207,283,285,293,294,305
万吉……305
万年恒次郎……175,176
万助……76
久之助……290
久太郎……38
久世伊勢守……89

『小城藩日記』にみる近世佐賀医学・洋学史料（後編）

平成二二年（二〇一〇）三月一〇日

編集　青木　歳幸・野口　朋隆

発行　佐賀大学地域学歴史文化研究センター
〒八四〇-八五〇二　佐賀市本庄一番地
電話　〇九五二-二八-八三七八

印刷　大同印刷株式会社
〒八四九-〇九〇二
佐賀市久保泉町大字上和泉一八四八-二〇
電話　〇九五二-七一-八五二〇㈹